カトリック

平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

年頭の願い

福岡教区司教
ペトロ　平田三郎

神のお恵みによって、新しい年を迎えるにあたり、教区内の司祭、修道者および信徒各位に新年の挨拶を送ります。今年も神の祝福が皆様一同の上に豊かにあり、心身ともに健康で真の喜びと希望に満ちた年であるよう祈ります。

さて新春を迎え、一九七〇年代も第二年目に入りますが、日本の経済は、すばらしい技術革新のもと、急速な成長をとげ人々は一見安定した幸福な生活を送り、神や宗教を必要としない、いわゆる世俗化された社会に安住しているように見えます。

しかし人々の心から神も宗教も死に絶えてしまったとは考えられません。経済優先の道を歩き、それ以上の価値にはあまり目を向けない現代人も、そこから生じた公害、人間の機械視、人間関係の断絶などの現象をまえにして、解決の糸口をやっきになって探しているのです。

わたしたちは金や機械にあやつられ、経済にふりまわされてよいのか。巨大な機械の部品のようになり、生産の単なる道具になり下っていてよいのか。真の生き甲斐はどこにあるのか、タテのつながりヨコのつながりの断絶をどのように回復すればよいのか。これら多くの根本的な諸問題を真剣に考えその解決を求めている人の数は、次第に増してきているのです。

たしかに現代は世俗化し、聖なるものへの観念はうすらいでいます。しかしだからと言って、人の心が神や宗教を完全に閉め出したと結論するのは早計です。

いまではもう宣教も使徒職も効果がないと言うのは、弱者のなげきにすぎません。現代人が心の中で何を求めているかを見定めるならば、わたしたちの活動範囲は依然として広大であることに気づくはずです。

聖霊は昔も今も、人々の心の中に働きつづけ、神との出合いの場を準備しておられます。その場をわたしたちは『時のしるし』としてしっかり見つめ、現代人と神との再会の機会を作ってやらねばならないのではないでしょうか。そのためには言葉や理論でなく、生活自体による「あかし」が必要です。個人や共同体にたいする正義と愛の実践によるあかしこそ、人々を神にみちびく力となるのではないでしょうか。

ことしこそは、教区内の司祭、修道者、信徒のみなさんが、こぞってこの新しい年を、あかしの年とされ、神の家族がますます大きくなっていくよう、全力を傾注なさることを希望してやみません。

一九七一年元日

教会一致を祈る

1月24日は大名町教会で

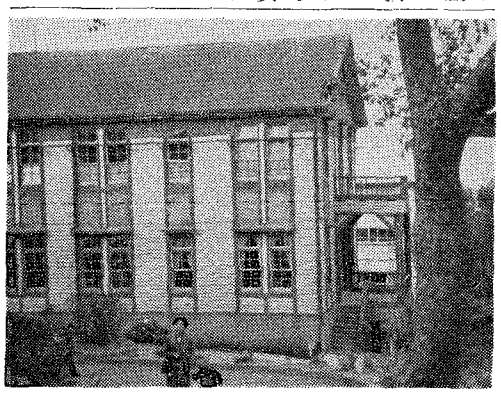
分裂しているキリスト教徒がキリストに在って現実に一つになるようにと祈る「教会一致祈祷週間」は、一月十八日から八日間、全国的に展開されるが、福岡でもスケジュールがほぼ決定し、ひろく諸教会と信徒によびかけることになった。とくに同週間中の二十四日曜日の行事は、大名町カトリック教会で午後三時半から平田司教司式でおこなわれるので、司祭、修道者、信徒の多数参加がのぞまれている。福岡での主要テーマは「聖霊による一致」となっているが日曜以外の日の集会は毎朝七時半から三十分間。場所は十八日が茶房「エルム」（土居町、住友銀行の北隣り）。十九日から二十三日までは新生館（中島服町、大丸デパート北側）、二十四日は大名町教会、最終日二十五日はふたたび新生館となっている。新約聖書を持参するとよい。

修道院めぐり

サン・モール修道院

福岡市御所ヶ谷

サン・モール修道会は北フランスのソットビルで創立された。創立者はミニム修道会のニコラ・バレー神父。当時のフランスは宗教戦争の余波で社会の秩序が乱れ、おびただしい孤児が巷に溢れていた。この孤児たちを救おうと起ちあがったバレー神父に、数人の女性が協力して『バレー神父の学校』を開いたが、バレー神父はこの女性たちに、祈りと教育事業を行なわせるためにサンモール修道会を作った。一六六六年のことだった。



日本に来たのは明治五年、横浜のプチジャン司教に招かれて、メール・マチルダと四人のシスターが日本の土を踏み、横浜に施療院と学校を開いた。福岡は昭和八年、市内の御所ケ谷に、福岡女子商業学校を開園、小学校、中学校を併設、いまはその全部をふくめて『聖葉学園』と呼んでいる。聖葉学園は生徒一、八〇〇人。教師八〇人。この学園は『宗教教育によって、愛と奉仕の精神で社会に対する責任を果たし、勤勉、忍耐、温和な母を作ること』を目的としているそうだ。

院長の加納美津子さんは＝写真＝静岡県袋谷の出身。静岡聖葉に入ったのが、そのはじまり。その後、幼稚園、小学校、中学校を開設、いまはかよっているうちに、シスターたちの神に仕える姿を目のあたりにみ、そのすばらしさに感激して、昭和二十四年、サン・モール会の修練院に入ったという。勤勉、忍耐、温和をそのまま引きうつしたような感じのシスター。『カトリックの信者も社会人の一人、社会を離れた生活は考えられません。積極的に社会の中に入っていき、そこで苦しんでいる人とともに苦しむべきではないでしょうか』と言っていた。

唐津の市民クリスマス

唐津の市民チャリティ・クリスマス（第3回）は、十二月十九日午後六時半から文化会館でひらかれた。唐津市のキリスト教連合会と同市社会福祉協議会が主催したもので、純益は貧困家庭におくられた。

サルビ神父によるキャンドル・サービス奏楽にはじまり、幼稚園児による聖誕劇、聖書朗読とメッセージのあと福岡女学院短大聖歌隊、市混成合唱団の合唱、岡本喜久子さん（小倉教会所属）のピアノ演奏がおこなわれた。唐津市のキリスト教連合会はカトリック一、プロテスタント三教会で結成されている。

1月

1日（金）　神の母聖マリア　元日

われわれは『神のおん独り子、聖霊によって処女マリアより生まれ』と信仰を宣言している。キリストはマリアを通して与えられた。キリストを兄とよぶわれわれは、マリアを「われらの母」とよぶことができる。

3日（日）　主の公現

神の光栄があらわれ、われわれはその輝やきの中を歩む。散っていた民は一つに集められて、キリストのみ国を形づくる。

平和祈願のミサ（大名町教会、午前九時、平田司教司式）

5日（火）　教区全司祭集会

10日（日）　主の洗礼

われわれの前に主としてあられたキリストは、聖霊の能力をおびておられるが、われわれに回心とへりくだりを教えるために、罪ぶかい民のかしらとして、ヨハネの洗礼をお受けになった。新しい神の民の誕生の第一歩である。

九州四司教会議（福岡大神学院で）

12日（火）―14日（木）東京で臨時全国司教会議

15日（金）　成人の日

新しく成人式をむかえた方々が神の国と社会の中堅として建設的なエネルギーを発揮するよう望む。

17日（日）　公現後第2主日

カナの婚宴の席は、キリストがはじめようとされる神の国の前表である。そこに欠けていたもの＝招待のぶどう酒＝がキリストによって与えられる。

18日（月）　キリスト教一致祈禱週間はじまる

最近、幸いにしてキリスト教一致の動きが、力づよく展開されている。キリストの望まれた一致が実現に向かいつつあることは喜ばしいことだ。しかしこれからはいっそう深い愛をもって相互理解に努力しなければならない。各自が自分の信仰を高め、生活態度を刷新してゆくことも大切な条件であろう。

24日（日）　公現後第3主日

旧約の民イスラエルは、律法によって生活した。キリストはこの律法を完成するために来られた。律法の完成は愛の実行である。注意すべきは、愛の要求するところを勝手にせばめないこと。

教会一致の祈禱会（平田司教司式、大名町教会、三時半から）

31日（日）　公現後第4主日

預言者とは、神からことばを預けられた者である。言うべきことは神から告げられ、しかも言うべきことは言わねばならない。われわれ信徒も実はみな預言者である。

児童福祉の献金日

聖体礼拝

第一日曜　サンモール修院
第二日曜　大名町教会
第三日曜　門司教会
第四日曜　大牟田教会

祈禱の使徒会

【一般意向】　信仰の一致
【布教意向】　布教国における社会問題

下級聖品叙階

十二月十二日、福岡大神学院で平田司教司式により叙階式が行われ、左の諸氏が下級聖品をうけた。

古川正行、三村猛、西田満、野中真、大山繁、田口孝志、（以上長崎教区）、石原広吉（大阪教区）。

ご挨拶

本誌『カトリック』は、今月号で創刊満十六年をむかえました。昭和三十年三月、福岡教区報として誕生、多くの方々のご協力と叱咤激励をいただきながら、ようやくここまで成長してまいりました。わずか四ページのタブロイド版新聞でも、取材から編集、校正までの仕事は、なかなか気骨のおれるものです。

本誌を教区にもっと役立つものとするため、これからもみなさまのご協力と暖かいご支援をお願いいたします。

カトリック編集部

スチールデスク、イス
会議用テーブル
折りたたみイス
ロッカー
フアイリニグキヤビット
物品棚
本棚
金庫
整理庫
学童用デスク・イス
ビジブルレコーダー
他全てがそろっています。

スチールデスク・椅子

新年おめでとうございます
今年もどうぞよろしく

シオタ事務機

福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役カシミロ　塩田五郎
TEL (092) 52 — 5327

事務機械・消耗品
卓上電子計算機
和文タイプライター
欧文タイプライター
謄写輪転機
トーシヤフアックス
リコー複写機
記録計算機
裁断器穿孔器他
感光紙・液
謄写インク・原紙
タイプリボン
記録紙
テープライター
フアイル用紙
アルバム
他全般

放送・音響装置　教会　幼稚園　学校

将来のリーダー養成の場
学生会の指導を強化せよ

現代の社会には、頽廃と絶望の気分が煙のように立ちこめている。原因は人間疎害や政治の貧困で、学生運動、あるいはベ平連をはじめとする社会運動は、そういうものから人間を解放するための果敢な戦いである。

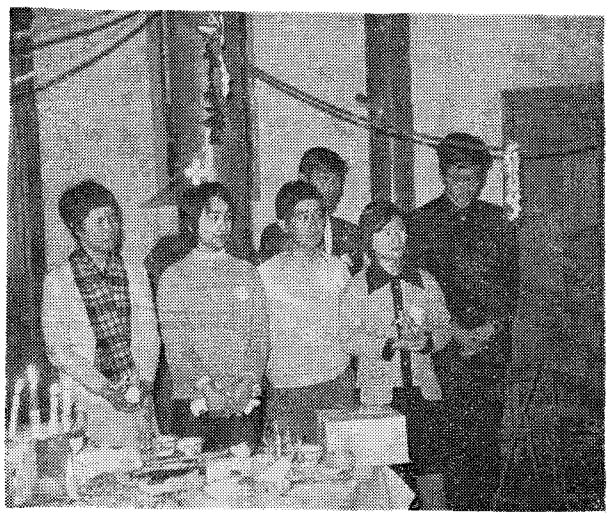
カトリックもようやくそのような社会に目を向けはじめ、教会のなかで社会参加が論議されるようになってきたが、さてカトリックのヤングパワーである大学生は、この事態をどう受け止め、何をしようとしているのであろうか。学生会のメンバーに意見を聞いてみた。

信仰本位の歩み

福岡カトリック学生会が結成されたのは昭和二十七年十二月。機関誌『永遠の木蔭に』4号の『学生会七年の歩み』は、

『福岡カトリック学生連盟の解散の後、二十七年四月医学部（九大）に進学した中沢がカトリックの学生の会をつくることを計画、当時大名町教会主任の伊東神父様、さらに九大の水波、工藤、桑原の諸先生に相談した。ついで洲戸（福女子大）、橋本、藤田（福大）、小野（西南）、菊池（九大医）が発起者に加わり、前記諸先生の積極的助言と協力が得られた。この間司教様は学生の熱意を認められ、熱心な指導と細かい点に至るまでの配慮を示され、約半年の準備を終えて十二月二十一日司教様によって福岡カトリック学生会が結成された』と誌している。

この会が発起者の熱意と、伊東神父、水波、工藤、桑原氏の協力を仰いだうえ、なお半年の準備期間を置き、慎重に結成されたものであることがわかる。



設立いらいの行事は、指導司祭を中心にした例会。この会ではロザリオを唱え、研究とディスカッションが行なわれた。募金。ビンセンシオの手伝い。レコードコンサート。ピクニック。講演会（会員を対象とした）。カトリック関係の展示会、クリスマスパーティー、バザーなど。このほか四季の黙想会は最も重要な行事で、それは『永遠の木蔭に』5号に深堀司教が寄稿した『記念号に寄せて』のなかの、『キリストの精神をつくるための根本条件は、はげしい時の流れのなかにあっても永遠をみつめる目をもち、刹那的に生き人の多いなかで絶対不動の御者（おんもの）を把握して、人生の目標を見失わず、静かに神を語り、祈りに専念する習慣をつけることであります』ということばに密着した、信仰本位の歩みでもあったようだ。

カトリック研究会、方針を逸脱

この学生会には、大学を拠点としたカトリック研究会が含まれている。現在、九大・十人。教育大・十人。中村学園大・十人といったところ。していることは研究会とディスカッションだが、驚いたことには、カトリック研究を目的とするこの会に、その指導をする司祭がいないのである。それについて九大のA君は、

『名前はカト研だが、大学のサークルという立場から、指導司祭はいない方がよい』

また教育大のB君も

『二年前とは雰囲気が変った。いまは未信者が二分の一をしめているので、宗教よりむしろ社会問題について話しあうことが多い。この段階では指導司祭の必要はない』という。

だが『永遠の木蔭』4号には、各大学カト研の活動が報告されていて、そのなかには『九大本学のカトリックの中心は箱崎教会と九大哲学講師であるベリヴォ神父様を囲む座談会の形で行なわれ、学内にはり出されるポスターと、信者の個人接触で、多数の未信者をこれに招く方針である』また九大カト研の成立にかんして『各大学のカトリック研究会は、専ら使徒職活動の意向をもって設立されている』と書いている。

初期のカト研には指導司祭がおり、会員は教会と連繋を保ちながら使徒職を行なっていたわけで、いまのカト研は、初期の方針から全く逸脱しているということになる。信者が主宰するカト研なら、指導司祭を中心に、教会と連繋をとりながら使徒職を行なうのが本筋で、単に大学のサークル的存在であれば、カトリック側からはほとんど存在理由がないのではあるまいか。

大学生の信仰

カトリックのなかで、はっきりと社会参加が打ち出された今日、学生の信仰にも当然変化が起こってよいわけだが、では学生会員の信仰とはどんなものであろうかまず入信の動機から聞いてみようC君は、

『聖人が求めた信仰を自分も求めることができる』と思ったという、女子学生のDさんは、

『教会に行くと神さまを感じ、心が休まる』という。またEさんは『私たちは郷土を離れて勉強し勉強が終ると郷土へ帰る。そこで自分を力づけ、郷土を生かすものとして、しっかりした宗教が必要だと思った』ともいう。

入信の動機というものには類形があって、だれでも似たようなことしかいわない。この程度につかんでいればよい方だろう。だが、さて信仰ということになるとどうか。

『神さまは私にとっては道しるべ、光のような気がする』（Fさん・女子）

『私は神の存在を完全に知りたい。そして生命を神が造ったものかどうか見ていきたい』（G君）

『神を信じることでは足りない。神がどう自分の行動を望むかということを考えなければならない』（H君）

毎週の例会で、聖書の研究をしているという大学生の口から、この程度の回答しか出てこないということは残念だ。自分のなかに、ほんとうに信仰が把握（はあく）されていれば、表現はまずくともいま少し的確な答が出てくるはずだが！。

キビシさの欠落

社会参加とは、積極的な信仰のなかから生まれるものだが右のような姿勢からはたして『社会参加』が出てくるだろうか。

女子学生のIさんはこう答える。

『学生会が社会参加をする必要はない。それより、神聖な教会に政治や社会問題を持ちこんでもらいたくはない』

これはいかにも女性らしい、しかしキリストの教えを無視した、センチメンタルな考え方だが、また一方には、

『教会の学生も社会問題のために働かねばならないと思う。しかしいまの教会は信者も神父さまも元気がなく、公害という問題があっても、それにどう対処してよいか教えてくれない』（K君）という学生もある。

Q神父によると、初期の学生会には『キリストに対して責任を引き受けよう。学生のことは学生にまかせよ』という気概があったそうだ。Q神父はそのことに触れ、

『そこから学生運動に参加する社会問題と取り組むなど、いろいろな活動が生まれてくるのではないか』という。だがいまの学生会には、その程度の考え方もなく、それが学生会の性格を、ひどくアイマイなものにしているようだ。

S神父の

『たとえば公害だが、これは神から与えられた、人間の権利を犯されているということだ。こんなことに対して、私たちは何もしないでよいのだろうか』という問いかけにも、それらしい答は出てこなかった。

反代々木系のある学生が、

『カトリックの学生は駄目だ。教会のぬるま湯のなかにいて、問題意識を把握することもできないでいる。彼らには、非人間的なもの、反人間的なものと対決し、思想と行動をもってこれに立ち向うという、現代ののヒューマニズムはとても理解できまい』と言っていたが、過激学生の放言と聞き流すにしても、そういうキビシさが欠落しているということは、カトリックの学生も否定できないのではあるまいか。

学生会の将来

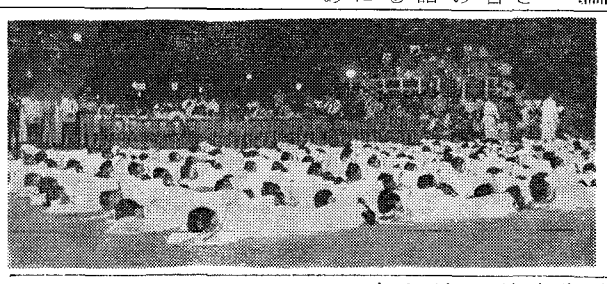
それでは学生会の将来はどうあるべきか。S神父はいう。

『学生会は、将来の教会リーダーを養成する場だ。現状のままにしておいてはならない。信仰の面でも使徒職の面でも、その専門を生かして、よきリーダーになるよう指導しなければならない。そうだ、研究、黙想、活動という輪が活発に回るようにする必要がある』。

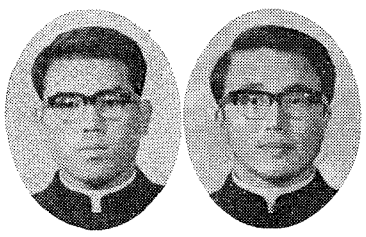
たしかに、大学生は将来の教会のリーダーになる大切な人たちだ。この人たちの教育がいまのような状態で放置されていていいとは考えられない。すぐれた神父が指導司祭となり、信者も積極的にこれに協力しなければなるまい。

（広報室）

教皇みづから叙階
山根、中両師 マニラで



『わたしたちは教皇さまのあのときの温顔を一生忘れることはないでしょう』。こう語るのは昨年十一月二十八日、フィリッピンの首都マニラ市のルネタ公園で教皇自らの手で司祭の位をうけたトマス山根克則（東京教区、三二歳、広島県出身、写真右）とペトロ中重広（琉球代牧区、二四歳、鹿児島県出身、写真左）の両司祭。



『午後五時に始まった叙階式には百万人が集まったそうですが、叙階されたのは地元の比国、日本台湾、南ベトナムなどアジア諸国から来た一八九名。前日朝マニラに飛来された教皇は、三時間にわたる聖式のあいだ、何とも言えないやさしいお顔を見せておられましたが、さすがに式の終りには疲労の極にあられたようです』。

両神父は、翌日市内の女子ドミニコ修道院聖堂で、日本司教団にかこまれて初ミサをささげたが、マニラでの一週間の滞在についてはこう話した。『いろいろの国の学生と起居を共にしたのですが、南ベトナムの学生が、帰国して最初のミサは死者のためですと話すのを聞いたときには、戦争に苦しむ民族の悲しみを肌で感じる思いでした。それだけにアジアの教会のわれわれが、もっと相互援助を実践する必要があるのではないかとくに日本の教会の責任を改めて感じさせられました』。

山根師は昭和十四年生まれ、広島県立忠海高校、上智大卒業、四十一年福岡大神学院入学。

中師は昭和十九年生まれ、長崎南山高校卒、三十七年福岡大神学院入学。

（写真上は叙階式の模様）

社員募集

男子　ちくわ、かまぼこ、塩干物販売　年令問わず、未経験者も可

女子　経理事務、簿記二級以上一名　多少経験ある者　三名　年令18才―30才

福岡市姪浜神功町一八三五ノ二
まるわ水産加工有限会社
社長　ペトロ　下田数信
TEL 88―1135～7

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊼2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL ㊺・4718

辞書は三省堂

住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話 ㊸4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

『平和を祈り求めよ』
教皇の『平和の日』メッセージ

平田三郎司教は、パウロ教皇のご意向にしたがい、正月元日または公現の祭日を『平和祈願の日』とし、世界平和のために各信者がこぞって祈りをささげるように要請した。福岡市大名町教会では、三日公現の祭日に平田司教司式のミサがおこなわれる。

○　○　○

正月元日を「平和の日」にという教皇パウロ六世のイニシアシーブはことしで第四回目だが同教皇はこの日のために善意あるすべての人びとにメッセージをおくり、変転におびやかされている現代世界にあっても、人びとの平和への願いは日々つよまっていると指摘された。

教皇はメッセージのなかで平和への協力をつぎように訴えておられる。『一人びとりがわたしたちの兄弟であるという確信を、次の世代にうえつけようとらに強調している。『人間同志の兄弟が、その根本において無視されているところでは、平和も同じく破壊されています。平和は、人間が兄弟であることを発見し、兄弟として生きることを決意した人びとの愛の賛美です』。

働いている人は誰でも、平和の世界をその根本から築いている人です。人類の兄弟愛という自覚を、世論のなかに積極的にもたらそうと努力している人は、世界によりよいあすを準備している人です。』

この兄弟愛について教皇はさらに強調している。教皇はまた『真の平和は、正義と人間の不可侵的尊厳、人間の平等、つまり、一人びとりが人間であるために、尊敬し愛し合うという、人類の兄弟愛の原理の上に基礎づけられねばなりません』とも述べている。

熊本市民クリスマスひらく
全キリスト者の協力で

昨年からはじまった熊本市民クリスマスの夕べは、ことしも十二月十八日午後六時半から県立図書館ホールで盛大におこなわれた。

市内にあるカトリック、プロテスタントの約三十の教会、信愛女学院、九州学院など諸学校、放送局や合唱団の協力があって、千名を越す参加者がホールを埋め、クリスマスを祝う喜びの賛美歌が熊本城の森にこだました。式のはじめに、この行事の委員長福田令寿氏が『平和の君キリストはおいでになった。わたしたちはそのしもべとなって平和な世界をつくろう』と力強くあいさつした。

つづいて男女高校生の出演で、安斉伸作「チロルの鐘」が上演されたが、出演者のまじめな努力が劇の内容とマッチして会衆にふかい印象を残した。休憩のあとアッセンブリー教会の大庭博茂牧師が「今日あなたのために」と題して講話をおこない、熊本アカデミー合唱団（指揮滝本泰三、伴奏宮原るみ子）が、賛美歌やフォークソングなどをひろうした。最後に参加者全員で会場から市内目抜き通りをローソクを手によろこびの行列をくりひろげ、花畑公園で十時すぎ解散した。

創立八十年 熊本天使園
新本館も落成

養護施設熊本天使園（シスター福永園長、熊本市大江町渡鹿、保育園を併設）では、創立八十周年を記念して建設した本館建物の祝別、落成式を十二月十二日おこなった。午前十一時平田司教が建物を祝したあと落成式にうつり、県知事代理、民生部長らの祝辞があった。熊本天使園は明治二十三年幼きイエズス修道会のボルジア童貞（仏人）が、市内上林町に創立したもので、昭和三十二年現在地に移転した。新本館は約七二四平方メートル、鉄筋二階で、一階は保育室のほかアフターケア室、作法室、食堂、会議室などで、とくに就職先きから帰省する卒園者を受け入れるためのもの。二階は聖堂兼講堂、指導員室、図書室、職員宿舎に使われる。養護施設の園児数は五〇人、職員は十六人。

使徒職群像
平田房刀氏（福岡市箱崎教会）
身体の続く限り働く

『社会参加ということが浮かびあがってきたので、ビンセンシオの活動の幅もグンと広くなった。こんごは社会に目をひらくとともに、活動の方法についても研究を重ねていきたい』

ビンセンシオの平田房刀さん。昭和三十五年十二月から四十四年三月まで、足かけ九年間、福岡中央理事会の会長を勤め、四十三年松島救済に乗り出したときは、松島問題対策実行委員会の中心となって救援活動を推進した。

『信仰が固まらないと、信徒使徒職に打ち込もうという気は起らない。そういう意味では信仰と使徒職は一体でなければならない』

福岡県三井郡太刀洗の出身で、十五歳のとき青年カトリック研究会に入会した。平田司教の令兄清登さん、故棚町神父など、先輩の会員にしごかれたが、そのとき教わったことがいまも信仰の支えになっている。

『長いあいだ指導的な立場に立ってきた。しかし自分の力を打ち出す段階にまでは至らなかった。ほんとうに力を発揮できるのはこれからではないか』

三菱商事の事務員から寮の管理者になった。カトリック的な人徳を認められたわけだ。この一月で定年を迎えるが、寮の管理は定年後も続けていく。クルシリヨの講師も勤め、あいきようのある話しぶりが人気の的。だが生来の負けず嫌いで、怒ると司祭にでも食いさがることがある。『身体の続く限り働』くというだけあって、教区の信徒使徒職中随一の活動家。現在福岡中央理事会副会長。五十八歳。

×　×　×

熱心に募金活動

クリスマスと年末の助け合い街頭募金は、ことしも教区内の各地で活発におこなわれた。

福岡地区では、一六〇万円を目標に福岡市近郊、久留米、大田各市で、十一月末から十二月二十三日まで、大学生や高校生らの全面的な協力で各教会信者が街頭に進出して道ゆく人々に喜捨をよびかけた。

熊本地区では、市民クリスマス開催と直結してカトリック、プロテスタント合同の街頭募金をおこなった。数年前からネパールで献身的奉仕をしている岩村医師夫妻の医療活動を援助するための募金。

北九州地区もプロテスタント諸教会と合同で、百万円を目標に募金活動を推進した。ことしはカネミ油症患者救済と地元の社会福祉施設援助をかかげて市民に訴え、予想以上の反響があった。戸畑明治学園では十二月二十日クリスマスの集いをひらき、参加者に身体障害者のための募金をよびかけた。

佐賀地区でもビンセンシオが重体となり、多数信徒が目抜き通りに出て『貧困者にあたたかいお正月を』とよびかけた。（写真は募金をよびかける信者）

福祉功労者表彰うく
玉名の坂田優子さん

熊本県玉名市在住の坂田優子さん（五四歳）は、昨年の全国社会福祉大会で、厚生省から福祉事業功労者表彰をうけた。

坂田さんは玉名カトリック教会草分けの信者で、東京の帝都教育会付属教員保母伝習所卒後、昭和七年から荒尾三井私立万田保育園につとめた。同十三年、高瀬町（現玉名市）立高瀬弥富幼稚園の創設とともに同園にうつり、いらい繁根木八幡宮裏の園舎で幼児たちを見守ってきた。万田時代を含めて三十八年間の保育ひとすじ、地域社会への奉仕のなかに、祈りと信仰が生かされている。

役員の親睦会
園の発展を喜んで

福岡市美野島教会付属の福岡カトリック幼稚園（ライル園長）では、十二月二日同園創立以来の全役員と現役員および保母先生ら四十三名の親睦会をひらいた。正午すぎ食事を共にしたあと、うたやゲームで楽しいひとときを過ごしながら、園児のしあわせと園の発展を喜んだ。

伊東師入院

伊東誠二師（浄水通教会主任、教区総代理）は、腰痛のため十一月下旬から、行橋市新田原病院に入院、安静をつづけている。

教会報を

みなさまの教会で週報や月報が発行されています。もしできましたら、一部ずつ本編集部にご寄贈ねがえませんでしょうか。

謹賀新年
福岡教区聖職者一同

平田　三郎司教
深堀仙右衛門司教

福岡邦人司祭地区
司教館　平田惣五郎
川口　康頼
大名町教会　平田　正喜
鵜野　泰年
浄水通教会　伊東　誠二
地行　教会　黒川　博
光ケ丘教会　ハー
山崎聡一郎
西新教会　平田　勇
美野島教会　ライル
高宮教会　ルカ
山東　龍雄
吉塚教会　シギスベルト
シュルツ
ピロー
茶山教会　畠山　七郎
箱崎教会　ベリボー
大楠教会　堤　要吉
東田島教会　オッカナー
ペドロ
古賀教会　乾　盛夫
デルター
二日市教会　浦口　均
久留米教会　三村　邦朗
浦　俊雄
西田　邦洋
大牟田教会　畑原　富雄
吉野教会　日置孝三郎
今村教会　糸永　一
糸永　武男
本郷教会　牧山　重光
小郡教会　岩永　義人

呼子教会　平田　敬
馬渡島教会　田川　清美
大神学院　高木　善行
ラベル
ツルデル
イエル
岩村　清太
山内　清海
小神学校　中浜　一男
平田　寛
泰星高校　深堀　敏
黙想の家　カール
ポール
聖パウロ小神学校　前田　俊郎
塚本　孝夫

北九州パリ会地区
門司港教会　ベルトラン
門司教会　モーゼ
小倉教会　青木　保
有安　宗治
牧山　勝美
湯川教会　グロージャン
戸畑教会　バスチ
ガイヤール
若松教会　デシャンブ
天神町教会　キニュー
黒崎教会　トクブフ
八王寺教会　ドルエ
ヴェイヨン
ボンカズ
ボネ
本城教会　パスカレル
水城教会　ベルトラン
直方教会　ドレル

飯塚教会　ベニヱ
行橋教会　青木　功
新田原教会　山川　辰幸
堤　敏雄
田川教会　牧山　藤房
門司天使の聖母修院付　ラグレブ
八幡援助修院付　ボア

佐賀ミラノ会地区
唐津教会　サルビ
多久教会　〃
伊万里教会　サルデイ
武雄教会　〃
鹿島教会　ルッチ
佐賀教会　ガザルディ
鳥栖教会　ベンツオ
聖母の騎士修院付　オジョルノ
トラピスチヌ修院付　ガブリエル

熊本コロンバン会地区
荒尾教会　キルケニー
玉名教会　〃
手取教会　ノーリス
オブライエン
ダウド
健軍教会　山田　成章
牧山　田一
帯山教会　マックグラス
島崎教会　ガラハ
菊池教会　リンチ
八代教会　マッグワイヤ
人吉教会　ディバイン
水俣教会　ドノフー
本渡教会　リンチ
崎津教会　マッコネル
大江教会　グリフイン
琵琶崎修院付　パチフィコ
少年の町付　ベラス

カトリック グラフ　新年号　12月20日 発売

家庭で出来る正月ゲーム9
カラー特集 ミケランジェロ
初公開 トラピストの曙
東名私設レッカ救助隊奮戦す
パウロ六世から本誌読者への親書
長寿聖職者三人の
新春いいたい放題
日本美を求めて
現代おにがわら考
□東パキスタンにもっと援助
■もうひとりのドコール
□長屋コンフィデンシャル
■今月のトピックス
カラー訪問 71年型公害に挑む男
カドミウム他の正体を暴く
カトリック人国記の連載始まる

大名町 英語 アカデミー
（福岡市大名2丁目カトリック教会内）
TEL 74—3687
教師　ハー神父　オカナー神父
ピロー神父　シュルツ神父
ライル神父　シスターモーリンその他数名
学生募集中
1971年前期 1月18日開講 4月5日まで（月曜と水曜）
ひる　10時― 11時15分
よる　6時― 7時15分
7時30分― 8時45分
授業料 5.500円

新年おめでとうございます

ヨーロッパ訪問

簑原　武

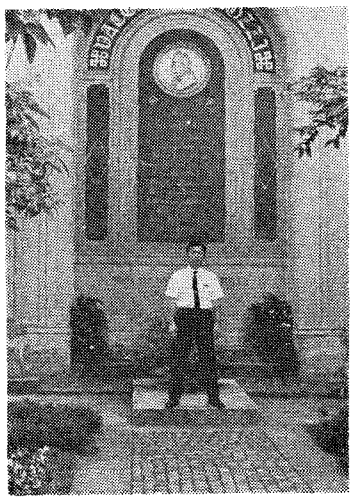
こんどの海外旅行は七月二十四日から八月十三日まで、二十一日間のヨーロッパ教育界視察旅行で全国の高校教諭二十九名で行なわれた。訪問した国はイタリー、スイス、ドイツ、オランダ、フランス、イギリスの六カ国。往路はマニラ、サイゴン、バンコク、カラチ、ボンベイ、ダハラン、ベイルートの各空港、帰路はモスクワ空港に二時間ずつ寄港し、国際線ロビーに案内されたので、十五カ国に足跡を印したことになっている。

ヨーロッパ六カ国で特に印象に残ったのはローマで、一日の余暇を得てアッシジを訪問したことだった。アッシジは私の霊名にも、高宮教会にもゆかりの深い、聖フランシスコの遺蹟なので、バチカンを訪ねたとき以上の感激を味わった。アッシジには、汽車の都合などで、二時間そこそこしかいることができなかったが、ここはイタリー人の心のふるさとと言われるところ。それだけに静かな丘陵のたたずまいは、十分に私の心を落ち着かせてくれた。六カ国を回ったなかでも、ここほど環境的にすぐれた処はなかった。

驚いたのはローマのカタコンベであった。それは地下四階、全長二キロにわたる迷路のような墓地で、十年前、米兵四十三人が、神父に案内されてなかに入り、三人が行方不明になり、あとで死体となって発見されたという話を、ガイド嬢から聞いたときも、いかにもカタコンベらしい事件という印象を受けた。ここは二千年前、キリスト教信者が、迫害をのがれて隠れた処で、ここに逃げこめば、生命だけは助かったという入口がいまも残っている。

私はこの旅行のあいだ、時間の許すかぎり、多くの教会に足を運び、ごミサにあずかったが、ロンドンでの最後の日、ホテル出発が午前六時ということで、四時に起きて教会を訪問した。どの教会も門をとざしており、三つの教会を回ったあと、帰り道が解らなくなって困ってしまった。ひやひやしながら、それでもどうやら時間ぎりぎりにホテルに帰りつき、ようやく同行者と一緒になることができたが、こんなに肝をひやしたことはなかった。

私は日本を出発するまで、未来学の権威といわれる、アメリカのハーマン・カーンの日本評価、つまり三十年したら日本はアメリカに追っつき、五十年したら世界一になるだろうということばを信じていたが、ヨーロッパの現状を見て帰ってからは、そのようなことばは全く信じることができなくなってしまった。私たちがヨーロッパを知らないのと同じに、ハーマンが日本を知らなすぎるということに気づいたのである。（みのはら・たけし＝博多女子高校教諭、高宮教会）



（スイス・チューリッヒ　ベスタロッチ墓碑前にて）

教養

聖書とミサ

四つの奉献文

叙唱は神のみわざの賛美

いまの新しいミサの典礼書には四つの奉献文がおさめられている。奉献文とは、ミサの最重要部分でとなえる祈りである。一般には、「感謝の祈り」とも言われるのであるが、ラテン語のカノンまたはアナフォラなどの用語を、日本の司教団が「奉献文」に統一決定したのである。

奉献文の要素

四つの奉献文には共通の要素が少なくない。ただその配置はそれぞれ非常に違っており、また長さも内容も相違している。まずその共通点からみていこう。

① いずれも司祭と会衆のやりとり（交唱）で始まる。つづいて叙唱につづく。

② 感謝の賛歌につづいてエピクレージスという願いの祈りがある。

③ 奉献文の中心は、かならず聖体制定のキリストのことばの再現と、記念を行えとのご命令のことば。

④ 教会とこれに属する人たちのための祈り。

⑤ 最後が三位一体の神への栄唱と会衆のアーメンの答え。

いまこれらのうちのいくつかの点を説明しよう。

叙唱

叙唱は、以前は序唱という字をあてていたので、緒言の意味にとられがちであった。典礼での叙唱は、実はそうごんな内容の式文、信仰の公けの宣言の意味をもつ。

奉献文に先だつこの部分で、われわれは「神のくすしきみわざ」を高らかに謳う。まさにミサ（感謝の祭儀）の中心部がここから始まるのだ。

聖パウロの書簡の各所にキリストにおける救いのわざの賛歌が見られる。もっとも代表的なのはエフェソ書の第一章のとくに最初の十数節である。コロサイ書の第一章もそうである。このような箇所は多少とも詩的な形をもち、韻をふくんでいる。

叙唱は「神の大業」の賛歌であるが、各叙唱は具体的な内容を表現する。公現祭や主たるキリストの叙唱では、キリストによる福音啓示をたたえるがキリストのご生涯のある場面を述べるものもある（降誕祭や復活祭のもの）。啓示された神の奥義をうたうものもある（三位一体のもの）われわれの特殊状況を通しての賛歌もある（四旬節、死者、結婚の叙唱）

新典礼発布以来、いくつかの新しい叙唱が加わったことはよろこばしい。たとえば待降節や聖体の叙唱など。

エピクレージス

いまの四つの奉献文には、エピクレージスとよばれる特別の祈りがふくまれている。一つは聖変化のまえ、パンとぶどう酒がキリストのお体とおん血に変えられるようにと祈るもの。「…父よ、いま聖霊によって、この供えものを、尊いものにしてください。わたしたちのために、主イエズス・キリストの御からだと御血になりますように」（第二奉献文より）。

もう一つは聖変化のあと、ミサに参加している者がキリストに一体になれるようにと祈るもの。『キリストの御からだと御血に、ともにあずかるわたしたちが、聖霊によって一つに結ばれますように」（第二奉献文より）。

いずれもキリストの御からだの神秘が、まず秘跡そのものなかで、つぎにキリストの枝であるもの、われわれのなかで完成するようにと、父なる神に祈るもので、すぐれてキリスト的な祈りと言うべきものである。

× × ×

布教献金

（10月18日）

大名町	一〇、六八〇
浄水通	三、七八八
地行	四、三五〇
光ケ丘	二、五〇〇
西新町	五、五〇〇
美野島	二、一〇〇
高宮	一一、六五〇
吉塚	四、〇〇〇
茶山	三、〇〇〇
箱崎	一、八〇七
大楠	二、九九五
東田島	二、五〇〇
古賀	二、六六〇
二日市	四、七二七
久留米	二〇、五五〇
大牟田	三、〇〇〇
今村	三、〇〇〇
吉野	三一、八〇〇
本郷	六、〇〇〇
小郡	一、二一〇
呼子	二、〇〇〇
馬渡島	四、〇〇〇
佐賀	五、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
伊万里	一、一五〇
鳥栖	二、六四〇
武雄	一、〇〇〇
鹿島	一、六八二
多久	三、五四五
門司	一、八二五
門司港	一八、七〇〇
小倉	五、五五九
湯川	一八、五五〇
若松	五、〇〇〇
戸畑	五、二八〇
天神	一五、〇〇〇
黒崎	六、〇五〇
八王寺	二、一一一
本城	二、七一六
水巻	二、〇〇〇
直方	二、五〇〇
飯塚	一、〇五〇
田川	二、七三一
行橋	一〇、五九〇
新田原	二、〇〇〇
熊本	二〇〇
荒尾	一〇、五〇〇
人吉	四、二〇〇
本渡	五、二〇五
健軍	一、七二二
帯山	五、一五〇
水俣	二、五〇〇
大江	三、二〇〇
崎津	一八、六〇〇
島崎	一、六〇五
玉名	三、〇〇〇
菊池	五、五〇〇
八代	三二、九二八円
計	

〔福岡カトリック社研報告〕

公害について

社研公開講座「公害について」は、十二月十三日午後二時から大名町教会でひらかれ、約二十名が参加した。

土田充義氏（九大工学部助手）は「都市と公害について語り、都市化が進めば害が増大するが、今日の公害対策は①都市の再開発②都市からの離散③規制措置などを打出しているが、後手の対策にすぎず、これからは被害者である一般市民の積極的な意見陳述が必要となることを強調した。

白水明代さん（九大医学生）は「水俣病」をとり上げ、医学的な立場からの定義、同病発生後の被害者と市民と会社の複雑なからみあいを明らかにし、われわれの公害問題への関わり方は、安易な同情ではなく「自分自身の…」という形であるべきことを強調した。

さいごに水波朗教授（九大法学部）は「公害について」と題し、公害対策基本法と、いわゆる公害罪が、その中に矛盾を蔵しておりザル法であることを指摘し、とくに公害罪については、悪くとれば、国民の目をごまかすものとも考えられると述べた。同教授はさらに、キリスト者にとって公害問題は決して無縁の出来事ではなく、むしろ聖書や自然法にもとづく隣人愛および人間の社会性という考えから、われわれは当然これを信仰的な立場からも積極的にとり上げるべきだと結論した。

つづいて意見の交換があり、公害問題にたいする意識の変革の必要がうきぼりにされた。

カトリック放送番組（1月）

心のともしび　RKB　午前6：40—45　RKK　午前10：10—15

日	作者	主題
1	相良惟一	人生の計画
2	徳川神父	なま放送
4	田中千禾夫	心について
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	〃
11	石沢秀二	若さについて
12	浜尾司教	親の生きがいが子に何かを与える
13	藤田圭雄	親孝行
14	名古屋市伊藤正規	木の上に立つ
15	小堀杏奴	親孝行
16	徳川神父	なま放送
18	矢代静一	親孝行
19	戸川エマ	〃
20	相良惟一	〃
21	静岡県大地一	私の過去
22	城夏子	親孝行
23	浜尾司教	お金、その価値と使い方
25	林謙一	親孝行
26	石沢秀二	〃
27	大原富枝	親孝行出来ずじまい
28	大阪府後藤ヒサヨ	ある少年の話
29	矢代静一	子供の小づかい
30	徳川神父	なま放送

内科・胃腸科・循環器科

吉川病院

院長　ルカ　吉川東陽

福岡市平尾四ツ角（山荘通）

電話　代表　㊷0568

昭和46年度　泰星高等学校生徒募集

1 募集人員　普通科　150名（男子のみ）

2 願書受付　昭和46年2月2日から8日まで

4 試験期日と科目

期日＼時刻	9.00 ～ 12.00			13.00 ～
2月12日（金）	国語	数学	英語	面接（父兄同伴）身体検査

810　福岡市山荘通3ノ111

泰星高等学校

TEL 53—0838～0839

カトリック

平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

理解と愛による一致へ

司教司式で祈禱会

福岡市内のカトリック・プロテスタント諸教会による教会一致祈祷週間行事（準備委員長森俊治牧師、実行委員長村上鉄弥牧師）は一月十八日から二十五日までおこなわれた。

『聖霊の交わり』をメンテーマに、二十四日日曜日をのぞく週日は毎朝七時半から、おもに中呉服町の新生館で三十分間、諸牧師の説教を中心に祈祷会をひらき、カトリック側からも毎朝十余名が出席した。

第七日目の二十四日は、午後三時半から大名町カトリック教会で平田司教の司式による祈祷会がおこなわれたが、プロテスタントの牧師らを招いて約三〇〇名が心を一つにして、聖霊のおめぐみを祈った。式の終りに村上牧師は『このようなはじめての集いが、将来さらに大きく発展することをのぞむ』と感謝のことばを述べた。

式中の平田司教の説教要旨はつぎのとおり。

『ご死去の前晩、主キリストが教会の一致をねがって〝かれらもみな一つになるように〟と御父にお祈りになったにもかかわらず、教会の一致はすでに四、五世紀の諸異端、十一世紀の東西教会の分離、十六世紀の宗教改革による大分裂によって破られた。平和と愛を説くキリストの教会のなかに憎しみと分裂のあることは、世の人々になんと大きなつまずきとなっていることか。キリストの福音の宣教はそのためにどれほど妨げられていることか。われわれは心に痛みを感じざるを得ない』。

『教会の分裂は一方だけが悪いときめつけることはできない。相互の無理解と誤解、そして憎しみがつみかさなった結果である。このつまずきをとりのぞき、キリストのお望みの一致を回復しようと乞いねがう人によって、具体的な一致運動が起こった。最初は六十年前、エジンバラにおいてである。第二次大戦後この運動は各地で進められてゆき、今日のようなものになった』。

『カトリック教会はバチカン公会議でこの運動をおし進めることそしてその実践の道を提示した。それによると、まず有識経験者の間での対話である。これは論争ではなく、共通点を認め、善意をもって相互の長所を学びとることである。つぎに社会の共通善や諸問題の解決に協力して取り組むこと。さらに各人、各派が自己刷新につとめること。それは外的面の刷新ばかりでなく、とくに内的改心こそ大切である。分裂の原因は、各人のうちにあるのであるから、赦す心をもつこと。『赦せ、そうすれば赦される』。これこそ相互愛の源であろう』。

大名町教会での教会一致祈禱会

平和のため祈る

教皇のご意向にしたがって

一月元日を「世界平和の日」として、カトリック教会全信徒が善意の人々と心を合せて平和を祈り求めることは、パウロ教皇の提唱によって、すでに六年前から行われているが、福岡教区でも平田司教の指示で、元日また三日、主の公現の主日に、諸教会、修道院などで平和のための祈りがささげられた。ある修道院では特別にその意向で聖時間をおこなったが、平田司教は三日朝午前九時、大名町教会でミサをささげ、平和について説教した。

司祭異動

福岡市高宮教会の山東龍雄師（フランシスコ会）は、長野県須坂教会主任に転出。

福岡県古賀教会助任デルター師（聖母献身会）は休みでベルギーに帰国。

納骨堂建設へ

福岡市内の諸教会では、合同の納骨堂の建設のため、昨年末から司祭と信徒有志で準備の話し合をおこなっている。現在土葬の許されている大橋墓地も、周囲の事情変化で近い将来には納骨堂形式をとらざるをえないだろうとの見通しによるもの。市内の光ケ丘や東田島教会などはすでに教会建物のなかに納骨堂を併設している。

2月

2日（火）　主の奉献

キリストは、全人類の初穂として自らを御父にささげられたもし神秘体のかしらであるキリストがささげられたのであれば肢体であるわれわれも。日頃の生活のなかで、奉献の心をもちつづけなければならない。

福岡地区司祭集会

3日（水）　神学校司教委員会の会合（福岡大神で）

6日（土）　日本二十六聖殉教者

一五九七年二月五日、長崎の西坂でキリストにたいする信仰を宣言した殉教者の群。かれらの英雄的行動が、どれほどわれわれの信仰心をふるい立たせたことか。

7日（日）　公現後第5主日

ペトロは不漁の夜を過ごした朝、キリストのおことばのままにあみを入れて大漁をえた。しかしよく考えてみると漁をなさったのはキリストであり、獲物はペトロであった。ペトロは、新しい漁を求めて世界の海に舟をこぎ出してゆく。

11日（木）　建国記念日

黒崎援助修道院で誓願式（司教司式）

14日（日）　公現後第6主日

聖書は『富は危険だ』という。物質的なゆたかさが、人間に真のしあわせを約束しないことを、われわれはいまよく知っている。富が人間らしさを失わせているのではないか。

21日（日）　公現後第7主日

ダヴィドが、自分のいのちをつけねらっていたサウロ王にたいして、つゆほども憎しみをいだかなかった話は有名である（本日の第一朗読）。キリストの愛の教えを、かれは文字通りに実行していたのだ。慈悲とはゆるしの心にある。

22日（月）　聖ペトロ使徒座記念日

はじめペトロは、アンチオキアに教座をおいて全教会を教導していたが、のちローマにうつり、この帝国の首都に教座をおくことにした。

24日（水）　灰の水曜日

神はくり返しわれわれに呼びかけられる。『心をあげて、私に立ちもどれ』。土から作られてまた土に帰えるはずのこの私が、究極的に頼りとするのは、神おひとりではないか。いまこそ立ち上って、父の家に帰る準備をしよう。

28日（日）　四旬節第1主日

『主の御名を呼び求める者は、すべて救われる』。放とう息子は荒れはてた生活のなかで、父親を呼び気になった。空しさと孤独。この四旬節中におこなわれる黙想会は、心から神を求める絶好のチャンスだ。

小郡教会で堅信

聖体礼拝

第1日曜　古賀教会
第2日曜　浄水通教会
第3日曜　小倉教会
第4日曜　健軍教会
大濠聖母訪問修道院

祈禱の使徒会

【一般意向】　こんにち形成されつつある新しい社会的条件が家庭生活の善に寄与するように

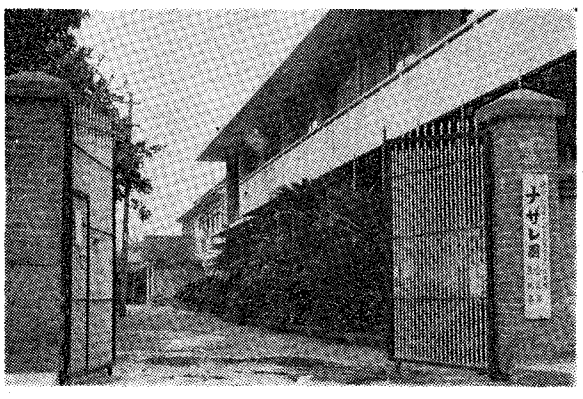
【布教意向】　東南アジアの教会のために

修道院めぐり

シャルトル・聖パウロ修道女会

熊本県八代市通町

十七世紀のフランスは、宮廷文化がサン然と開花した時代であるが、しかしその裏面では宮廷の奢侈（しゃし）、外征、貴族の濫費が民衆にはねかえり、労働者、農民の困窮と、精神の荒廃は目を覆うばかりであった。こういう時代環境の中で、ボース県の寒村ルヴェヴィールの司祭、ルイ・ショーヴェ師が、労働者、農民の救いのために設立した修道会が、『シャルトル聖パウロ修道女会』で、正式に承認されたのは一六九九年のことだった。



この修道女会が、コール神父の要請によって八代にきたのは、明治三十三年の五月十二日。院長のヴェル、スール・マリ・ジョゼフ（日本人、小磯エイ）の三人が二之町に用意された民家に着いたときは、家の中はクモの巣だらけ、家具はおろか一脚の椅子さえもなかった。踏み入った足もとを、一米に及ぶ蛇がよぎって姉妹たちを驚かせたという。

十二月、現在地に修院と平家の育舎が竣工し事業の第一歩を踏み出したが、三十八年には飢饉に遭遇、貧しい人たちを看病していた姉妹たちが、四十余人の医師団から罰金、投獄、閉鎖などの脅迫をこうむった。草創期の姉妹たちの労苦は、並みなみのことではなかったようだ。

スール・ウラリ・ドゥラ・クロア、スール・アンジェル・ドュ・カルメル、スール・マリ・ジョゼフ

現在この修道会は、白百合学園（高等学校、中学校、幼稚園）のほかに、乳児施設と養護施設を経営している。院長はスール・フランシスカ・河野セイさん＝円内写真。長崎の出身。叔父さんと叔母さんは、津和野の牢内で生まれたそうだが、『忍耐することがいちばんよいことだと思い、そのように努力しています』という、味わい深いことばも、そういうところにつながっているのだろう。

女子信徒のためクルシリヨ開催

申込みは早目に

女子信徒の練成会であるクルシリヨが、昨年九月につづいて来る三月中旬にひらかれる。教会の内外に積極的に活動する信徒を養成するための三日間の練成会である。信徒使徒職の実践が叫ばれているいま、この養成こそ緊急事であろう。希望者は主任司祭をとおして、クルシリヨ事務局に申込むこと。

とき＝3月20日（土）夕7時から23日（火）夕方まで
ところ＝福岡市黙想の家（片江一四八番地、電092－87－7108）
会費＝約3800円（食費、文房具費など）
資格＝20才以上の女子信徒、修道女
申込み先き＝福岡市浄水通39カトリック司教館内、クルシリヨ事務局（電092－53－5323）

☆　☆　☆

スチールデスク・イス
会議用テーブル
折りたたみイス
ロッカー
フアイリングキヤビット
物品棚
本棚
金庫
整理庫
学童用デスク・イス
ビシブルレコーダー
他全てがそろっています。

スチールデスク・椅子

シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役カシミロ　塩田五郎
TEL (092) 52－5327

事務機械・消耗品
卓上電子計算機
和文タイプライター
欧文タイプライター
謄写輪転機
トーシヤフアックス
リコー複写機
記録計算機
裁断器穿孔器他

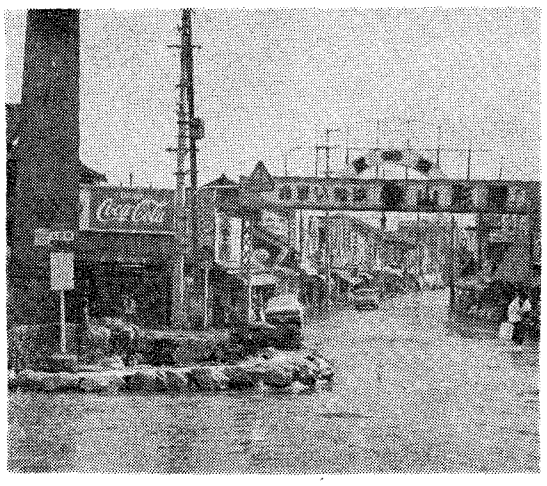
感光紙　液
謄写インク・原紙
タイプリボン
記録紙
テープライター
フアイル用紙
アルバム
他全般

放送・音響装置
教会
幼稚園
学校

ルポ・人吉教会

教会活動の中心はレジオ

自分たちの力で教会を盛りたてたい



人吉駅前の商店街

人吉市に行くことを思いついたのは昨年の十一月。熊本県の南部に在って、教区の中心福岡市からはほど遠い、いわば僻地(へきち)にある教会が、カトリックの現代化をどう受けとめ、どのような動き方をしているかを知りたいと思ったからだが、その時は動めている会社の都合で、教会に連絡までしておきながら、とうとう出かけることができなかった。私が八時二十一分のえびのに乗って博多駅を発ったのは一月の三日、小雨のパラつく薄ら寒い朝であった。

小都市『人吉』

家を出るときパラパラと頭を濡らした雨は、大牟田を過ぎるころから止んで、雲の間から青い空が見えはじめた。楠の大樹に囲まれた神社の境内の、正月の晴れ着をつけた娘さんたちの姿に目をとめあるいは赤く枯れた田の畦の草をながめながら八代に着いたのは十時三十五分。

八代を過ぎるころから、濃みどりの水をたたえた球磨川(くまがわ)が汽車の窓に見えはじめる。この川は、あるときは水際に迫った山の姿を映し、あるときは白い歯をむいて岩を噛みながら、峡谷を縫って一本の帯のように流れているのである。長塚節の歌集『鍼(はり)の如く』には、『球磨川の浅瀬をのぼる藁船(わらぶね)は燭奴(つけぎ)の如き帆をみなあげて』という歌が収めてあるが、もちろん、今日ではそういう情景は想像することさえもできない。

人吉着は十一時三十五分。山麓の小さな駅だが、汽車を下りるとつらねた、いかにも田舎の駅前らしい町並みが目に飛びこんでくる。

人吉市は、古くは相良氏の城下町。人吉盆地の南西部にある、人口四万六千の小都市。木材、薪炭、シイタケ、茶などの集産地で、製材、ラミー麻の繊維、綱、和紙、焼酎の生産がさかん。また市街を流れる球磨川の流域には温泉があって、最近は周辺山村との間を結ぶバス網もかなり発達しているそうだ。

創立当時の神父の苦労

人吉教会・ロザリオの聖母は、球磨川の対岸、人吉城跡から徒歩で五、六分の寺町にある。門を入るとすぐ前に聖堂があり、左側の横長い、やや古びた感じの二階建てが司祭館。

夕方訪問したこの教会の古老、むかし伝導師をしたこともあるという長浜庄七さん(74歳)は、薄暗い電灯の下で、この教会の歴史をつぎのように話してくれた。

『手取教会の司祭だったコール神父に派遣されて、有安神父と深堀(詮郎)神父が、教会創立の使命を帯びて人吉に来たのが明治三十一年。これが人吉教会のそもそものはじまりです』

この二人の神父は現在地に土地を購入すると、十二月には、教会建設を使命として赴任してきたブレンゲ神父と交替した。ブレンゲ師は赴任してくるとすぐに、熊本から、信者で、大工の棟領だった池田清八郎さんを呼んで聖堂の建設に着手したが、聖堂と司祭館が竣工したのはそれから五年め、明治三十六年のことだった。

この聖堂は、のちにグローガン神父によって建て直されたが、司祭館は当時のまま残っている。池田さんはよほど腕がよかったらしく、階段などいまでも狂いがないそうだ。

長浜さんは

『創立当時の神父さまがたは、ほんとうに苦労されました』と語るが、その苦労ということの理解には、つぎのような事情を斟酌(しんしゃく)しなければならないのである。

当時の人吉では『ヤソは生き肝をとる』ということが、大人にまで信じられていて、神父が散歩に出ると、まわりを取り囲こみ『生き肝とりがきた』といってはやし立てた。こういう絶望的な環境の中で、ことばの不自由な外人神父が、はずかしめに堪えながら、一人、二人と信者を獲得していったのだ。その勇気と努力に思いをめぐらしたとき、私は身うちが引きしまるような感動を味わった。

教会の悩み

いまの主任神父はコロンバン会のケヴン・デワイン師。二十六歳のときに日本に来て、十一年前にこの教会にいたことがある。その後休暇で帰国したが再び来日、天草の大江教会を経て、また人吉に舞い戻ったという、アイルランドの生まれで、ことし四十七歳。

そのデワイン師は、人吉についてこう語る。

『人吉は古い町です。それに僻地でもありますから、ほかの土地から移ってくる人はほとんどいません。古い習慣がそのまま残っているので、布教することは非常にむずかしいです』

教会の信者はざっと二百五十人若い人は数えるほどしかいない。進行過程にある過疎の影響を受けて、つぎつぎに都会へ出稼ぎにゆくからだ。何とかしなければと思っても、生活に直結した問題なので、いまのところ教会の力ではどうすることもできない。そしてこの人たちは、都会へ出ると、その大部分が教会から離れてゆく。

『熊本までは守ることができますが……』と、デワイン師はくやしがるが、この教会にはもっと大きな悩みがある。

デワイン師

それは教会の経済問題だ。デワイン師は『コロンバン会の援助にも限界があり、維持費をいまの倍に増額するか、信者をふやすかしなければとてもやってはゆけません』という。どちらをとるにしてもむずかしい問題だが、『いま、みんなが頑張ってくれていますから、これからよくなっていくでしょう』というデワイン師の希望は昨年の改選で若返ったという教会委員と、それいらい活発になってきたという信者の動きにかかっているようだった。

積極的なレジオの活動

願成寺町に、教会委員長の佐無田(さむた)斌(あきら)さんを訪問したのは、結婚問題の相談にきた若い婦人とデワイン師の話が終ってから、時計はすでに二十一時を少し回っていた。

佐無田さんは農業高校の先生。妹さんはサン・モール会福岡修道院のシスター、弟さんもしばらく修業学園におられたことがあるそうだ。佐無田さんは、

『ここは信者が少ないうえに、他の教区と接触する機会もあまりないので、これまで何ごとにも消極的でした。教会ができて七十年ぐらいになりますが、そういう歴史的な環境の中に納まって、活動ということに目が向かなかったのかも知れませんが――』と、教会の事情を説明する。

そういう信者が動きはじめたのはつい最近。教会委員が若い世代に変ってからで、その若い委員の年令は二十代から四十代まで、佐無田さんはいちばん年長で四十五歳という。

『委員の改選後いちばん伸びているのはレジオで、教会活動の中心になっています』という佐無田さんは、レジオの会長も兼任しているが、

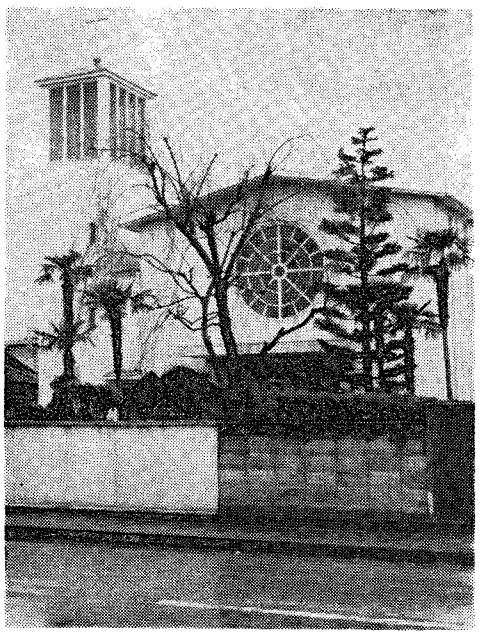
『レジオがいま積極的に推進しているのは、離教者対策、信者、未信者をふくめた家庭訪問。いちばん力を入れているのは病院訪問です。はじまりは〝教会からきました〟ということさえむずかしかったが、いまはみんなが自然に言えるようになりました。これは単に病人を慰問するということではなく、病人と対話し、身のまわりの世話をしてやるという行動のなかで、病人に神を教え、会員自身も鍛えられてゆくのです』という。

佐無田さんの話には、この教会のレジオの特徴が端的にとらえられているようだ。離教者対策、家庭訪問、病院訪問は、いまどこのレジオでも考えていることだが、違うのは、それを積極的に推進し行動をとおして自分を鍛えていくという姿勢である。

レジオ会員をバックアップしているのは、古い信者で、成尾光一というお爺さん。若いときは青年会の指導者だったが、その後レジオの会員になり、ジックリと若い信者を鍛えてくれた。今日まで、毎週の集会を一日も休んだことがないそうだ。

この人たちが何よりも願っているのは、やはり教会の財政を安定させること。

『一日も早く信者の組織を作り神父さまに頼らないで、自分たちの力で教会を盛りたてていきたい。そのためには信者の連帯感を強化し、教会財政維持の基礎を固めなければなりません。』と佐無田さんはいっていたが、それはまた、微妙なところで布教につながり、信者の活動をいっそう活発化することになるのではあるまいか。


← 人吉教会正面

人吉にも社会問題はある

翌朝は雨が降って寒むかった。顔を洗うとすぐ、この教会のよき協力者だという、隣りの『マリアの宣教者フランシスコ会人吉修道院』で、院長の俵あやこさんに会って話を聞いた。

朝食を終えると、八代に立ち寄る用件があるので、早めに教会を出た。人吉のことを書いた、地誌のようなものはないかと、町で本屋をさがしているうちに遅くなって、汽車に乗ったのは十三時四十九分。

私は、人吉の教会も、まだこれからが大変だと思い、そして社会参加の問題に触れなかったことを思い出した。デワイン師は『人吉は公害もなく、静かで住みよいところです』といっていたが、そのとき私は、この僻地にはさして問題もなく、社会参加などといっても、教会の人たちにはピンと来ないのではないかと思ったのだった。しかし、いま考えてみると、過疎が進行しているということも社会的な問題であり、また人々の生活の中に入ってゆけば、そこにはさまざまな問題が渦を巻いているに違いなかった。私は話だけでも、社会参加に触れておけばよかったと思った。

人吉を出るころから降りはじめた雪が、白石を過ぎるころからひどくなって、窓の外には、無数の線のように、ボタン雪が横に流れ、飛んでいるのがみえた。

(広報室・M記者)

人吉教会のあゆみ

パリ外国宣教会のコール神父によって開拓された人吉教会は、今月まで二十名近くの司祭が司牧してきた。戦前長くこの地で活躍したのは脇田神父(故人・のちの横浜司教)、大正七年から約十年間である。

戦後は昭和二十五年からコロンバン外国宣教会がこの地を受持った。最初に赴任したのはノーリス神父(現手取主任)。

ベトナム難民救援 3月に街頭募金

ビンセンシオ会(SVP)福岡中央理事会では、三月はじめから一カ月間、教会・学校の協力をえてベトナム難民救援のための街頭募金運動をおこなう。

ベトナム(南・北ベトコン)の戦傷者、子どもに医薬品を送るために、全国的には昨年九月からはじまっているが、一般市民の協力もあって、各地で啓蒙運動が進んでいる。

日赤とベトナムSVP、プロテスタント教会との連けいが確立しているので、送付される品物は有効に配布される。

募金に必要なポスターやパンフレットなどを希望する方は、左記に連絡するとよい。

福岡市光ケ丘町一―30(816)
光ケ丘カトリック教会内
ベトナム難民救援運動福岡支部

辞書は三省堂

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL ⑥⑤・4718

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ⑤⑦ 2673

社員募集
男子 ちくわ、かまぼこ、塩干物販売
女子 年令問わず、未経験者も可
経理事務、簿記二級以上一名
多少経験ある者 三名
年令18才―30才
福岡市姪浜神功町一八三五ノ二
まるわ水産加工有限会社
社長 ペトロ下田数信
TEL 88―1135～7

住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目 木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地 電話 ㊸4131
(支店) 北九州・熊本・佐賀

北九州地区信徒使徒職協議会発足へ

会長に白石鉄也氏を選出

北九州地区の十五教会では、昨年二月以来信徒使徒職協議会の結成めざして準備をすすめていたが去る一月十日の委員会で規約案を審議してこれを承認したあと、会長に湯川教会の白石鉄也氏を選出した。さらに十七日会長の指名で副会長、理事ら役員が決定し、協議会発足の準備が終わった。

同地区では昨年二月二十三日、各教会から信徒代表二名ずつが八王寺教会に集まり、第一回の準備委員会を開催して、地区信徒使徒職協議会結成にむかってスタートした。そのご回をかさねて準備を進めてきたが、昨年十二月六日の会合では、同会結成についての各教会からの意見の発表をおこなったところ、各教会に信徒会などをつくり、各信徒に使徒職にたいする認識をふかめさせて、活発な活動へと方向づけるために、しっかりした指導性と目標をもった協議会の結成が望ましいとの声が打ち出された。

一方地区の司祭団からは❶協議会の設立は早急におこなってほしい。❷同会設立によって各教会の組織固めをする。❸使徒職活動は地区全体の方針にもとづいて行なうなどの意見が出されていた。準備委員会では以上三つの側からの意見をもとに、規約案の作成をすすめたが、そこでつぎの諸点にとくに留意した。

❶小教区と地区全体との関連を明確にすること。

❷現段階では地区内で活動しているレジオ、ビンセンシオ、JOCの代表者各二名を代表者会議に加える。

❸協議会の発足を四六年三月とする。

地区協議会の役員は左の通り。

会長　白石鉄也（湯川）
副会長　松尾光敏（若松）
〃　頭島勇（八王寺）
理事　森田十郎（門司）
〃　馬込弥八（小倉）
〃　村松正俊（戸畑）
〃　古賀喬（天神町）
〃　熊野重幸（新田原）

白石鉄也氏

年末街頭募金報告

福岡、熊本、北九州の各地区でおこなわれた年末助け合い街頭募金の結果が下記のとおり、事務局から報告された。

福岡地区

協力団体：諸教会、泰星高校、福岡雙葉学園久留米信愛女学院、大牟田明光学園、福岡大神学校、同小神学校、カトリック高校生会

募金額　1,142,838円

諸教会	512,811
カトリック高校生会	112,677
泰星と神学校	130,440
雙葉学園	179,812
久留米信愛	84,521
大牟田明光	122,577

寄贈先

りんどう学園（大牟田）、和白青松園原病院（香椎）、一般家庭約140世帯に542,838円　カリタス・ジャパン（京都子羊の家建設費）に400,000円、東パキスタン救援（日赤経由）に200,000円

熊本地区

カトリック・プロテスタント合同で募金運動をおこない、645,405円を12月26日付で、日本キリスト教海外医療協力会を通じて、ネパールに送った。

北九州地区

北九州全キリスト教会連合で街頭募金を展開したが、各地区での募金状況は下記のとおり。

門司	79,222円
小倉	196,159
八幡	253,199
戸畑	78,452
若松	136,771
計	743,803

寄贈先

準備費を差引いた残額 679,000円は下記のとおり寄贈された。

カネミ油症患者の会	204,000円
あすなろ学園	271,000
北九州病院	68,000
光の子母子学級	34,000
泉の園	34,000
暁の鐘	34,000
聖小崎	34,000

熊本でも組織化準備すすむ

熊本地区でも信徒使徒職協議会の組織化がすすんでいるが、一月二十四日午後二時から熊本市手取教会で深堀司教はじめ司祭、信徒多数が集まり、合同ミサのあと信徒会館で各地の活動報告をおこなった。詳細は次号で。

今村出身修道女の集い

聖母訪問会

古い信者の集団部落で有名な福岡県三井郡大刀洗町の今村教会出身で、聖母訪問修道会（本部は神奈川県鎌倉市）のシスターになっている人たち十五名は、一月三日平田司教を招いて、出身教会で新年の集りを開いた。

午前十一時から司教ミサにあずかり、隣接の保育園ホールで中食をともにしたが、シスター達の父兄もおおぜい顔を見せ、本郷の平田忠大郎さんとシスター久次フイノが一同を代表してあいさつをのべた。この日集ったシスターは日本各地で教育、社会福祉の諸事業に献身している。

今村教会からは明治初期の創立からこんにちまでに司祭十三名のほか、五十名をこえる修道女が輩出している。

使徒職群像

鬼木保之氏（福岡市高宮教会）

社会参加にも明確な認識

福岡市、高宮教会の鬼木保之

『これからの信徒使徒職は、信者の一人ひとりが自覚して、与えられた場所でベストを尽さねばならない。それが布教につながり、社会参加の姿勢もそこから生まれるのではないか』

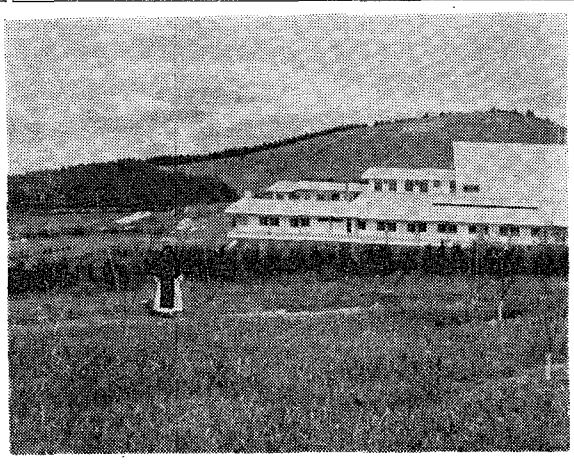
（やすゆき）さん。天満宮で知られた太宰府の生まれ。上智大学商学部卒で、現在は聖葉学園高校の主任教師。四十九歳。

レジオ歴二十五年。現在副会長はじめてセナートスの会長になったのは二十年前。その後何度も止めたりなったりしたので、よく覚えていないという。

『これまでレジオは、教会の手足となってすべての面で手助けをし、あわせて自己の聖化にも努力してきた。だがいまのレジオは、自己と規律にたいしてきびしさが足りない』。温健な人がらで、ひかえめなところもあるが、社会参加のような新しい動きにも、社会参加は教会が社会にたいして奉仕することで布教ではない、という明確な認識を持っている。

『いまのカトリックは、大きく揺れ動いているように見えても、実際には少しも動いていない。それは口さきだけで、実行がともなっていないからだ。大阪には公民館運動に参加して成功している教会があるが、社会参加、社会参加と念仏のようにとなえることはやめて、何でもいいから行動することだ』

教会でもヨゼフ会（父親の会）の副会長、教会委員などを勤め、いっぽうでは、教会報の編集もするという活動家。


増築を終えた伊万里大修道院

〝救いと反省の場に〟

伊万里大修道院増築

佐賀県伊万里市の南、腰岳の中腹にそびえる女子トラピスト大修道院（マリア・カリタス院長）では、昨年六月から増築工事にかかっていたが、去る一月七日正午から落成式をおこなった。式には平田司教、竹内市長のほか佐賀地区のミラノ会司祭ら来賓四十余名が参列した。

平田司教は祝辞のなかで市当局と市民の理解と協力に感謝をのべ『機械文明におされて人間の真の価値が見失われつつあるときに、修院がすべての人にとって救いと反省の場となるであろう』と述べた。今回の増築はおもに二階を加えたもので個室三五、病室一〇、炊事場、ボイラー室など延べ六六三五平方メートル、総工費五九八九万円。設計は福岡の菅種雄氏、施工は松尾組。

邦人司祭養成献金

（12月6日）

大名町	一〇、四二〇
浄水通	三、一五〇
地行	三、〇〇〇
光ケ丘	七、七五〇
西新	九、一〇〇
美野島	一、八三〇
高宮	一〇、〇〇〇
吉塚	八、〇〇〇
茶山	四、〇〇〇
箱崎	二、一四四
大楠	五、五七六
東田島	三、〇〇〇
古賀	三、四九〇
二日市	四、一六八
久留米	二〇、五五五
大牟田	四、六五〇
吉野	二、四二〇
今村	三三、一三〇
本郷	五、〇〇〇
小郡	一、二四五
呼子	二、七一三
馬渡島	一、二〇〇
佐賀	三、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
伊万里	二、三三〇
鳥栖	二、〇五〇
武雄	八〇〇
鹿島	五〇〇
多久	三八〇
門司	五、四〇〇
門司港	一、五〇〇
小倉	二四、八〇〇
湯川	七、四九〇
戸畑	一八、〇〇〇
若松	五、〇〇〇
天神町	五、五〇〇
黒崎	八、〇〇〇
八王寺	六、四五〇
本城	八一〇
水巻	三、〇〇〇
直方	一、五〇〇
飯塚	二、二五〇
田川	一、八五〇
行橋	六、六七九
新田原	一三、二一八
手取	一五、〇〇〇
荒尾	四二五
人吉	一一、三六〇
渡	四、〇〇〇
本軍	六、六六五
健帯	二、一九六
山水	四、一〇〇
俣江	二、二〇〇
大崎	二、八八〇
津島	一八、〇〇〇
崎玉	五七五
名菊	六、三九〇
池八	二三、〇〇〇
代計	三六三、八三九円

カトリック放送番組（2月）

テレビ　心のともしび

FBS　土　午前8：20—35　日　午前8：30—45

日	ききて	ゲスト	タイトル
6	三浦朱門	斉藤茂一	交通刑務所
7	矢代静一		
13	遠藤周作	矢代夫妻	夫と妻を結ぶもの
14	三浦朱門		

ラジオ　心のともしび（月～土）

RKB　午前6：40—45
RKK　午前10：10—15

日	作者	主題
1	霜山徳爾	「お金、その価値と使い方」
2	藤田圭雄	〃
3	城夏子	〃
4	岩手県沢田鎮子	「一杯のお茶」
5	相良惟一	「お金、その価値と使い方」
6	ハヤット神父	「楽観的な態度」
8	戸川エマ	「お隣りの国」
9	林謙一	「お金の価値」
10	山本健吉	「雪の詩」
11	八尾市勅使河原幸子	「お産に国保の適用を」
12	小堀杏奴	「お金、その価値と使い方」
13	徳川神父	なま録音
15	戸川エマ	「ぐちっぽい人」
16	大原富枝	「お金、その価値と使い方」
17	三浦朱門	「書」
18	東京都肥後洋子	「子供の教え」
19	曽野綾子	「作業中」
20	ハヤット神父	「忠告」
22	戸川エマ	「お金の使い方」
23	霜山徳爾	「生きる意味と目的」
24	田中澄江	「一つの言葉」
25	仙台市佐藤春子	「私の恩返し」
26	山本健吉	「赤ん坊の情操」
27	徳川神父	なま録音

お知らせ

『福岡カトリック社研報告』は休みます。同会2月例会は、14日日曜日午後2時大名町教会でおこないます。議題『無神論と教会』公開講座ですから、だれでも出席できます。

小神学校入学希望者

福岡小神学校に入学を希望する方は、三月十日までに、所属教会の主任司祭の推せん状をそえて左記に申し込んでください。

福岡市浄水通三八
福岡小神学校
中浜一男神父

カトリックグラフ　2月号 発売中

独占特報!!　パウロ六世アジアの7日間

カラー16ページを含めて，本誌特派員が現地に取材した大特集をお届け！

世界一忙しい豪州男の日本探訪記

国定忠治もびっくり　赤城山麓のヤソ鍛治三代記

巨人軍阿野捕手の「ことしこそやるぞ」　【ステンドグラス物語】希望のキリスト
【オラショ長崎】墓標荒涼　【ホームギャラリー】26聖人（長谷川路可）
【カトリック人国記】名古屋教区②　その他特集企画がいっぱい／掲載予定

大名町英語アカデミー

（福岡市大名2丁目カトリック教会内）
TEL 74—3687

教師　ハー神父　オカナー神父
ピロー神父　シュルツ神父
ライル神父　シスターモーリンその他数名

1971年前期　1月18日開講　4月5日まで（月曜と水曜）

ひる　10時—11時15分
1時30分—2時45分
よる　6時—7時15分
7時30分—8時45分

授業料　5,500円

ある田舎牧師のエキュメニズム観

佐藤俊男

昨年の夏、第三回キリスト者医科連盟総会が阿蘇で開かれた。キリスト者の医師（大学教授・開業医・勤務医）、看護婦、保健婦その他の医療担当者、医学生も含めて、二〇〇人を超える参加者であった。そこに柄にもなくわたしが主講師として招かれた。「一致と協力」というのが会の主題であった。このようなテーマはわたしの最もにがてとするところである。しかし話しがないわけではなかった。わたしはかねて共感をもって学んでいたテイヤール・ド・シャルダンのことを書いた「未来の座標」という視点を軸にして、わたし自身の日頃考えていることを率直に述べたのであった。それがどれだけアピールしたかは知らない。講演を終えて、ほっと一息ついていると一人の若い医師が、わたしのところへやって来た。

「わたしはカトリックなのですが、プロテスタントの先生が、カトリックのテイヤールの思想をそんなに受け取っておられるのを知って、ひじょうにうれしかったです」と言われた。そう言われてむろん悪い気はしなかった。しかしカトリックとかプロテスタントとかいう意識はわたしにはもともとないから、別にうれしがられることでもないのにとその時思った。

大変いいことには、このキリスト者医科連盟はカトリックもプロテスタントも、何派もない。総会の委員長はわたしの親しい無教会派の医学者であった。もともとその会は信仰の差異を神経質に論じ合うものではないからでもあるがおおらかで、おのずからそこに一致があるように思えた。むろんそこに問題がないわけではない。

さて、エキュメニズムということが戦後よく言われてきた。わたしのような名もなき田舎牧師は、国外はおろか国内でも、エキュメニカルな会合などには一度も出席したことがないので、残念ながら大きなことは何も言えないのである。ひがんでいるわけではないのだが、わたしはいわゆるエキュメニカル運動というのにはほとんど関心をよせたことがない。今も同じである。

わたしはだいたい、なにによらず、運動家・専従者を信用しないほうである。世界中をいい気になって飛び廻って、いろんな協議会に出て自分だけひとり満足して、国に帰ってエキュメニズム、エキュメニズムときわいでみても、どうしようもないし、それで内実的に何一つできるわけのものではないだろう。第一そのような音頭取りを誰も信用していないのである。だからできるのは、ひとにぎりの金ばかりくわれる かれらの「委員会エキュメニズム」にすぎない。

また教会が大同団結とまではいかなくても、一つの大きな連合体を作ったからといって、それをそのままキリスト教共同体とはわたしにはとうてい思えないのである。制度化され、組織化されたエキュメニズムなど、なんの力も存在意義もなかろう。

わたしは不思議か当然かは知らないが、同じ自分の宗派内の教職者や信徒に強い異和感を抱くことがある。いやいつも抱いている。近い者が遠く、遠い者が近く感じられることが多いのはどこの世界でもあることだろうが、教会の内と外という場合でもそれと同じことがいえる。

それはつまるところ、生そのもの、具体的には生活そのものの共同の基盤の認識、感じ取りの上で、いわば人類的な共通感覚がもてるか、もてないかの問題のように思われるそのためには、もっと視点と発想を新たにして、根源的と同時に宇宙的構想、あの未来の座標に立ったエキュメニズムでなければ、つまらん制度的なことに終ってしまうだろう。そのためにはさらにもう一つ深くというか、新らしくというか、根本的なキリスト教の再解釈が必要不可欠なことでないかという気もちがわたしにはしきりにするのである。

日本で生まれ、日本で育ったユダヤ人のイザヤ・ベンダサンは日本人でも余り読んでいない恩田木工の『日暮硯』や勝海舟の『氷川清話』を原文で愛読するごじんだがかれははっきり「日本にはキリスト教徒はいない、いるのは日本教徒キリスト派だけである」という。そういわれればそうかもしれない。禅とキリスト教、浄土真宗とキリスト教がうまく結びつくのも、そのせいかもしれぬ。しかしそれは果して悪いことであろうか、というのがわたしの久しい心境なのである。（さとう・としお・日本基督教団福岡社家町教会牧師）

聖変化のことば

全典礼の心臓

ミサの祈りのなかで、聖体制定の場面の再現は、最重要の部分である。これこそ聖体祭儀の、ひいては全典礼の心臓ともいうべきものであり、キリスト者の霊的生命の力の源泉である。

聖体制定の場面を書き残しているのは、マテオ、マルコ、ルカの三福音史家、使徒パウロの四人である。教会で使用されている四つのミサ奉献文の聖変化の部分は、以上四つの聖書個所からとられているが文字通りの引用ではなくむしろ要約である。

過越の食事で

イエススは、当時のユダヤ人の習慣のとおり、弟子たちと過越の食事をおこなった。これは儀式的なもので、パンの祝福と分配ではじまった。マルコはこう記している。「イエススはパンを取り、祝福して、これをさき、かれらに与えて仰せられた…」。ミサの奉献文でもほぼこれと同じことばが使われている。

パンのあと杯（さかづき）の祝福があり、これを全員つぎつぎ飲んで廻した。これは四回くり返さされた。「食事を終えて…」とルカが記しているのは、第四回目のことを指しているのであろうか。イエススはこのときに「この杯はあなたたちのために流される、私の血による新しい契約である」と仰せられた。ミサでは「食事の終わりに同じように杯をとり…」となっている。

このように聖体は、過越の食事のなかで制定されたので、初代教会のはじめには、「パンをさく式」は、ユダヤ的な食事の中でおこなわれていた。しかし長くたたないうちにこのアガペと呼ばれた食事と、感謝の祭儀である、ミサとはまったく分離されたようである。

このような分離はあったとしても、ミサはいつも「主の晩さん」とよばれている（コリ前11・20）この食事はイエススの血をもって行われた契約のいけにえの記念である。モイゼが人民を前にしてシナイ山で神ととり交わしたあの契約『これは、ヤーウェがすべてのことばに基いて、お前たちと結ばれた契約の血である』（出エジ24・8）といったこの古い契約にたいする新しい契約を、イエススはご自身の血をもって結ばれるのである』（9・11－15）。

契約の食事

旧約時代には、契約のいけにえのほかに、罪のゆるしを願ういけにえがあった。この二種類のいけにえは、キリストのいけにえでは一つになっている。それを教えるのはヘブレオ書である。『キリストは、将来のよいものの大司祭として来られ、ご自分の血をもってただ二度だけでいつまでも至聖所に入り、永遠のあがないをなしとげられた。永遠の霊によって、汚れのないご自分を神にささげられたキリストの御血が、われわれの良心を死の業から浄め、活きる神に奉仕させ得ないことがあろうかだからかれは新しい契約の仲介者である』（9・11－15）。

最後につけ加えると、『あなたたちのために与えられる私の体』というこの『与えられる』は、いけにえになるために、自らをさし出すという意味で、パウロはローマ書のなかでそれを使っている（8・32参照）。

罪のゆるしのため

聖書とミサ

昨日今日

友情の支え

河東野菊庵

正月早々、所用ができて旅に出た。帰りは四日になり、汽車の中は、帰省してまた都会へ帰ってゆく人で、立すいの余地もないほどの満員だった。腰を下ろしている人も、動けなくていかにも窮屈らしくみえたが、子どもを抱いた女の人は、その子どもを持てあましていて、見ているだけでも気の毒であった。

二時間近く立ちつづけていたので、腰に痛みを感じはじめ、鞄を置いて腰を下ろそうとしていると前にいた若い人が『あと幾つかで下りますから』と言って席を譲ってくれた。立ちあがったので気がついたが、オーバーの下の黒い服は学生服で、聞いてみると、工場で働きながら定時制に通っている高校生とのこと、正月の休みを故郷の自宅で過してきたのだと言っていた。

行きずりに、ふと人の労りを受けることほど嬉しいことはない。

年のせいか、ときどきそういうことに出遭い、そのたびに、まだ人情の地に落ちないことを実感として味わうのであるが、ひるがえって考えると、そういう行きずりの人ではないが、私の半生は、幾人かの友人の労りによって支えられてきたような気がする。

失業したときは仕事を見つけてくれる友人があり、失意のときには励まし、勇気づけてくれる友人があった。私は生まれつき粗暴な性格で、ケンカ早く、人とのつきあいも悪かったが、少数ながら不思議によい友人に恵まれた。十七・八歳のころ、手のつけられない不良だったのが、友人のすすめで歌を作りはじめ、歌の会に行くようになってから自分を取り戻した。この友人は酒屋の一人息子で中学生時代から、小説に特異な才能を見せていたが、大東亜戦争中インパールで戦死した。いま生きておれば、きっとひとかどの作家になっているにちがいない。

もう一人、私に詩を教え、美についての観念を植えつけてくれた友人がいる。神について知ったのも、この人にモーリアックを読むことをすすめられてからである。この友人は、いま近代文学史で有名になっているので、友人というより先生のような気がしているが精神生活では、この人の影響をちばん強く受けているのかも知れない。ものを書くときは、まずこの人の批評のことを思い、何か過失を犯したときは、この人に叱られているような気がする。私が大過なく今日まで過してこれたのは、この人のおかげと言わなければなるまい。

ロテスタントの立場を越えて、福音の精神のもとに、心を一つにした四人の講演を収録したもので、巻末に座談会の記録を添えている

現代人の多くは漠然とした不安と、得体の知れない危機を、心のどこかで感じながら生きている。この危機とはいったい何であろうか。四人の講師はこう訴えかけている。

『経済の高度成長によるひずみが人間軽視となり、人間の尊厳をゆすぶる。機械文明の輝かしい進歩が人間性を疎外する。今日ほど生き甲斐について問われているときもない。現代の危機、それは人間不信による人間関係の断絶だ。これを回復しなければ、問題を解決することはできない』

このような時代に、信仰者はどう生きたらよいのか。それは、『他者の痛みに敏感になるとともに、我々の内なる自己を変革することが必要だ』という。

最近、カトリックの社会参加ということがしきりに言われるが、この本は、その社会参加の意味を最もよく教えてくれるのではあるまいか。（ヴェリタス出版社・四〇〇円・福岡市大名二丁目、パウロ書院発売）

今月おすすめする本

『現代の危機はどこにあるか』

高橋三郎、森田宗一、浅野順一、ジ・ムルグ共著

本書は、現代の危機の真相を確かめカトリック・プ

幼きもの

村田利明

わづかなる罪だに悔いて告ぐるならむ告白台に跪（ひざまづ）く子よ

罪と言ふほどにもあらじ潔（いさぎよ）くありたき子らの小さきうしろ

いよいよに聖（きよ）からむとぞいとけなき者が己を告ぐる小さき声

祈禱書を手にし目もとを伏せつつし己を悔ゆる幼きものは

（作者はもと「アララギ」同人、「カトリック新聞」歌壇選者。歌集「晩餐」より転載）

内科・胃腸科・循環器科

吉川病院

院長ルカ吉川東陽

福岡市平尾四ツ角（山荘通）

電話代表 ㊷0568

昭和46年度　泰星高等学校生徒募集

1 募集人員　普通科 150名（男子のみ）

2 願書受付　昭和46年2月2日から8日まで

4 試験期日と科目

期日＼時刻	9.00 ～ 12.00			13.00 ～
2月12日(金)	国語	数学	英語	面接（父兄同伴）身体検査

810 福岡市山荘通3ノ111

泰星高等学校

TEL 53—0838～0839

カトリック

平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

司祭評議会決定

『老人の福祉』を目標に
四旬節愛の運動おこなう

二月二十三日午前十時半から教区司祭評議会がひらかれ、つぎの点について討議と決定があった。出席者は平田司教ほか十七名。

❶ 五月二日、復活第4の主日は『召出しの日』として、全世界で司祭・修道者の召出し推進をはかる日とするよう、ローマ聖座から達示がきているので、教区ではつぎのとおりにおこなう。

1、まず各地区に召出し推進を担当する司祭一名を任命する。

2、召出しの日行事は、地区別でおこなう。具体的なプログラムは修道会、信徒会と相談してきめる。

❷ 教区信徒使職会の結成大会を、11月21日、王たるキリストの祭日にひらく。

❸ 四旬節愛の運動は全国司教協議会の決定、カリタス・ジャパンの指示にもとづき、『老人の福祉』のために、各教会でおこなう。これは四旬節の償いのわざとして、またキリスト教的愛の証しとして実施する。

教区内で募金したものは、各教区の老人福祉のために配分することができるので、糸永一師（社会・福祉の教区担当者）を中心に各地区から司祭一名、信徒二名で配分委員会をつくり、配分を決定する。教区内のカトリック老人施設（五カ所）にたいする配分はプール制にする。

二月二十四日大名町教会で教会一致の祈禱会があり、つづいて茶話会がひらかれた。左から三番目　平田司教

平和への関心高めよう
高校生も運動に協力

ビンセンシオ会（SVP）では全国的に世界平和への啓蒙（けいもう）を目的として、ベトナム戦民救援のため、ひろく市民に呼びかける街頭募金実施を決定したが福岡地区では三月中にカトリック高校生会、朝倉東高および宇美商高の生徒会の協力をえて、募金をする。北九州地区ではプロテスタント諸教会の同意をえられれば合同で行う予定。

この運動は募金そのものが目的ではなく、平和への関心を高めるためのものであり、ベトナム戦争終結まで、いろいろの方法で運動をつづけてゆく。

SVP福岡中央理としては、全教区の信徒使徒職会の支援もつけて、もっと永続的な運動にもっていきたい意向である。

募金に必要なポスターやパンフレットを希望の方は、左記に連絡するとよい。

福岡市光ケ丘町一―30（八一六）
光ケ丘カトリック教会内
ベトナム難民救援運動
福岡支部

女子クルシリヨ開催
会場を変更

福岡教区の第2回女子クルシリヨは、3月20日（土）より7時から23日（火）夕方まで、開催されるが、最初会場に予定されていた福岡市の默想の家のかわりに、北九州市八幡区槻田のカトリック教会（パリ外宣会北九州本部）でおこなうことになった。

参加希望者は、福岡市浄水通39カトリック司教館内、クルシリヨ事務局に申込むこと。案内書などを郵送する。

会費は約三、八〇〇円（食費、文房具費など）。

資格は20歳以上の女子信徒と修道女、但し途中からの参加や退場はできない。

佐賀教会信徒会館完成

佐賀カトリック教会（中央本町主任ガツザルディ神父＝ミラノ外宣会）に、美しい信徒会館＝佐賀カトリック・センターが完成した。約四十坪の建物には、二十坪の集会室、図書、聖具販売コーナー、応接室、和室（八畳）、管理人室などあって、販売コーナーには通行人が気軽に出いりできるようになっている。工費七〇〇万円のうち三〇〇万を信徒が集めた。

佐賀教会は市内の目貫きの場所玉屋デパートから歩いて二分のところにある。詳細は次号で。

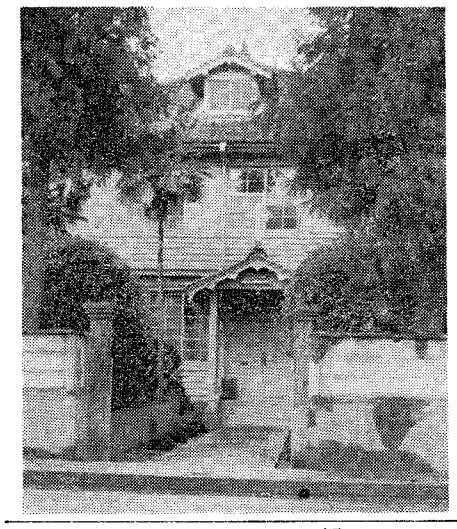
修道院めぐり

マリアの宣教者フランシスコ修道女会人吉修道院
熊本県人吉市寺町

熊本修道院のシスター五人が、球磨川を舟でさかのぼり、人吉にきたのは一九〇六年。人吉教会の聖堂と司祭館が竣工して四年めでシスターたちは診療所をつくり、球磨郡一帯の患者の施療に当たった。一時は診療所のほかに、老人ホーム、養護施設、幼稚園などがあったが、いまは『聖心老人ホーム』と『幼稚園』だけになっている。

この修道院で目だったこととして、教会との連繋がうまくいっている点をあげたいが、役員に加わり、またレジオ会員となって、教会を盛りたて、布教に活動しているシスターの姿には、いかにも今日の修道院らしい積極的なものが観取された。

現在シスターの数は十四人。院長は姫路出身のモニカ俵あや子さん＝円内写真。やさしい感じのシスターだ。『最近はプロテスタントの教会、お寺、神社で経営する、簡便な保育園がふえて、幼稚園にくる子どもが減ってきました。老人ホームの方も、封建的な土地がらで、親類や近所に気がねしてなかなか入ろうとはいたしません。いま私たちがいちばん欲しいのはバスです。それで園児を運び、地域社会との接触、布教にも使いたい…バスが一台あれば、も少し何とかなるのですが』といっていたが、修道院の経営にも環境、時代の変化の反映があり、院長の骨おりもなかなかだなと思った。



3月　四旬節

1日（月）　泰星高校卒業式
2日（火）　福岡地区司祭集会
7日（日）　四旬節第2主日

主キリストのご変容。人の姿をとり、人に似たものになられたキリストは、一瞬、弟子たちに栄光の輝きを見せた。では私たちが外に示しうる輝きは何であろうか。キリスト信者だけがもちうる輝きがあるのではなかろうか。

14日（日）　四旬節第3主日

本日のテーマは改心である。改心にはいく通りもある。神から離れた者が、神に立ちもどることも改心であるが、自分ひとりの救いしか考えないものが、他人のしあわせのために、力一杯に働きたいと決意することも改心である。

17日（木）　福岡大神学院で叙階式（平山司教司式）
久留米信愛短大卒業式（平田司教臨席）

19日（金）　聖ヨゼフの祭日

マリアの子イエスの養父ヨゼフは、全教会の保護者と仰がれるが、きょうは世のすべての父親のためにも、ヨゼフの取次ぎを求めたい。父親であることに、自信を失なうことのないように。

20日（土）　第2回女子クルシリヨ（23日まで）

21日（日）　四旬節第4主日

人間にとっていちばん恐ろしいのは孤独である。孤独と感じるとき人間は狂気になる。故とう息子のたとえはそれを物語っている。豚のエサにさえありつこうとしたかれのように、神から離れた人間も、だんだんと愚かなものを、必死になって求めるのではなかろうか。

小郡教会で堅信

25日（木）　マリアへの神のお告げの祝日

神の御子がこの世に入ってゆくために「道具」にえらまれたのは、ナザレトのひとりのおとめである。このとき神の母となったマリアは、新しい人類の母となった。

28日（日）　四旬節第5主日

キリストは、罪をおかして石殺しにされようとした女をゆるされた。キリストがこの世にこられたのは、人を罪に定めるためではなく、立ち上らせて、人間のまことの理想にむかって力強く歩ませるためである。

伊万里新聖堂と幼稚園の祝別式

聖体礼拝

第3日曜　地行教会
第4日曜　湯川教会
男子聖パウロ修院

祈禱の使徒会

【一般意向】一般信者の宗教教育を助成するための、研究と実際の努力のために
【布教意向】アラブ地域のキリスト教大学学生のために

しあわせな結婚めざして『結婚講座』

しあわせな結婚を準備させる結婚講座が、いよいよ5月下旬からひらかれる。これは近く結婚を考えている男女に、新生活への十分な理解と心構えをあたえるために周到に企画される講座で、東京地方では数年前から実行されて、大きな成果をあげている。こんど福岡でひらかれる講座計画はつぎのとおり。

とき＝5月27日から6月19日まで、毎週木曜と土曜、午後7時から9時まで。

ところ＝福岡市大名町カトリック教会旧聖堂。

会費＝一人1500円の予定。

講座には原則として婚約している男女二人、または結婚を考えて交際している男女二人が、いっしょに参加する。

講義をきくほかに、自由討議やリクリエーションなども組まれている。

申込み＝福岡市美野島2―5―29、カトリック教会内、ライル神父あて（電43―1419）

伊万里に幼稚園開設

佐賀県伊万里教会（主任サルデイ神父）は、市内連池町から約五〇〇メートルはなれた二里町に移転、これを機会に幼稚園を新設した。四月開園をめざして園児を募集中。落成式は三月二十八日におこなわれる。詳細は次号で。

スチールデスク・イス
会議用テーブル
折りたたみイス
ロッカー
フアイリニグキヤビット
物品棚
本棚
金庫
整理庫
学童用デスク・イス
ビシブルレコーダー
他全てがそろっています。

スチールデスク・椅子

シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役カシミロ　塩田五郎
TEL (092) 52―5327

事務機械・消耗品
卓上電子計算機
和文タイプライター
欧文タイプライター
謄写輪転機
トーシヤフアックス
リコー複写機
記録計算機
裁断器穿孔器他

感光紙　液
謄写インク・原紙
タイプリボン
記録紙
テープライター
フアイル用紙
アルバム
他全般

放送・音響装置　教会　幼稚園　学校

『社研』福岡支部の活動を見る

社会参加推進の原動力に

指導者は水波九大教授

第二バチカン公会議いらい〝社会への宣教〟あるいは〝社会に仕える教会〟など、カトリックと現代社会との通路を模索する動きが続いている。そして最近は〝社会参加〟ということがいわれはじめたが、しかしその実践らしい動きはまだ何もはじまってはいない。いうなら、それは〝社会〟ということばに、カトリック全体が振り回されている感じだ。

そういうカトリックのなかで、社会問題と取り組み地道な努力を積み重ねている人たちがいる。それはJ・ムルケ神父の『カトリック社会問題研究所』のメンバーであるが、こん回はその福岡支部にライトを当て、指導者の水波九州大学教授と会員に話を聞いてみよう。

エンプラ騒動を機に発足

Aさんはいう。

『エンプラのとき仲間三人で佐世保に行き、帰ってから反省会をひらきましたが、私たちはどうしてよいかわからず、最後に水波先生のところに相談に行きました』

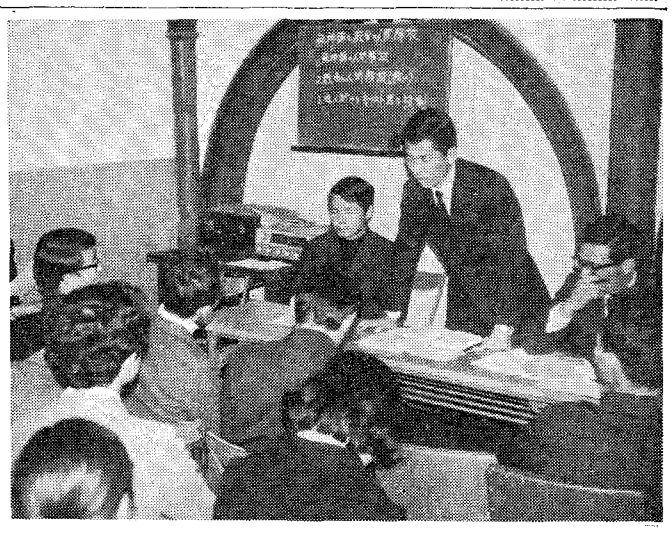
アメリカの原子力潜水艦、エンタープライズ号の寄港を阻止しようとして、三派系の学生が、佐世保の平瀬橋で警官隊と衝突した。一九六八年一月十七日のことで、世にこれをエンプラ騒動という。

Aさんたちは、この日動員されていた三千八百人の警官の壁に、三派系の学生八百人がどうぶつかったかを、つぶさに自分の目で見とどけてきた訳だ。カトリックの信者であるAさんたちが、どんなショックを受け、その純粋な思考をいかに揺さぶられたかは、話を聞くまでもなく容易に想像できることだが、それにしても『どうしてよいかわからず…』という表現は象徴的だ。

Aさんたちが『カトリック社会問題研究所』の全国委員でもある水波教授の家に集まり、読書会をひらくようになったのはそれから間もなく。カトリック全書の『国際道徳』（ドン・ボスコ社版）から読みはじめた。これが『カトリック社会問題研究所福岡支部』、略して『社研』のはじまりである。

『社研』が深堀司教のもとで正式に発足したのは九月。会則も会費もなく、メンバーとして常時集まるのは八、九人。ほとんどが大学生で、『カトリックの信者として、社会的にどのように行動すべきか、カトリックの伝統の中で発展してきた社会理論を、さらに現代社会と照らしあわせて押し進めよう』というのが、この人たちの目的である。

毎月の例会のほかに、随時〝公開例会〟をひらき、ここでは時宜に応じた問題をとらえ、あるときは討論にかけ、あるときは神父の講話を聞くことにしている。そしてこれが『社研』の外部に対する唯一のコミュニケーションで、幹事はそのつど数十通の案内状を発送するが、シスターと一部の神父、神学生が参加するだけで、教会の信者は顔を見せたことがないそうだ。



熱のこもった公開講座

水波教授の社会理論の根拠

水波教授

Bさんは

『東京の社研は、社会科学の専門家数人の指導によって動いていますが、福岡では、なにもかも水波先生一人に依存しています』という。

福岡支部のすべてが水波教授の肩にかかっている感じだが、この人は『社研』によって何をしようとしているのだろうか。

『私が社研でしたいことは、キリスト教的社会理論をふくんだ真理を社会に広めることです』という水波教授は、十五年前に、ヨハネス・メスナーの『自然法』を訳して、ドン・ボスコ社から出版した。いまは絶版になっていて、一冊七、八千円もするそうだが、メスナーは、聖職者でウィーン大学の教授だった。この人の自然法にかんする学問は、メスナー学派として知られているそうだが、教授は

『メスナーの〝自然法〟はすばらしい本です。私はメスナー学派を学ぶ者として、社会理論の根拠をこの自然法に求めています』という。

自然法とは何か。それを語ることはむずかしいが、水波教授はつぎのように語ってくれた。

『キリスト教的社会倫理学と思えばよいでしょう。聖書を持ち出しての超自然的な理論をいうのではなく、聖書を持ち出さない人間本来の自然法で、それは信者でない人にも直感的に解る良心の声です。自然法を認識すれば、宗教臭いことをいわなくても、キリスト教を正しく知ることができますので、そういう意味では、布教に際しても重要な役割を果たすものと信じています』

公開例会

生まぬるい教会と信者

『一生懸命やっていますのにどうして理解されないのでしょう』

〝公開例会〟に人が集まらないのを、Cさんはしきりにもどかしがる。十年前まで祈りに徹していたが、社会問題の回勤を続んでから社会に目を注ぐようになったというAさんは、

『現在の教会はぜんぜんサロン的です。信者同志が実体のない愛徳を楽しんでいるだけで、社会に対して何かしようという気はまったくありません』と、案内状を出しても反応のない教会を批判し、またBさんは

『いまの信者さんたちの信仰には生活がかかっていません。だから、自分の生きがいはここだという考え方がでてこないのです』という。

信者の生まぬるさが、『社研』の活動を受け入れないということだが、それは同時に、社会に対する奉仕とか社会参加を口にしながら、実践活動らしいものの生まれない原因、つまりカトリックの弱点なのではあるまいか。水波教授もまた

『たとえばジョックですが、その活動は社会参加にほかならず、その先駆者としての苦心と努力は称賛に価すると思いますが、これを助長しようという教会は少ない。

また、カトリック社会問題研究所は、フランスの信者の寄付で維持されています。フランスの信者のなかには〝経済大国である日本の問題に、われわれがどうして援助しなければならないか〟という声があるそうですが、日本の教会、信者は、社会的なことにはまるで関心を示しません。

これは、口では騒いでも、実際には社会参加を推進する姿勢がないということです』と指摘する。

社会との対話を出発点に

『社会参加』は、いまの教会が指向している大きな問題だが、『社研』の人たちはこの『社会参加』を、どのように理解し受けとめているのだろうか。水波教授はいう。

『たとえば、進歩派も保守派も人間尊重を主張しますが、どちらが正しいかということになると、にわかに判断することはできません』

これに対して、水波教授は

『この問題を解決するには、社会的な不正に対する、人間尊重の科学的な分析が必要です。

私たちは努力して理論を勉強し、それから社会参加の行動に移るべきです』という。

それはそうに違いないのだが、理論の勉強から行動に移るというやり方には、理論の勉強を離れることができず、いつまでも行動に移らないという危険がありはしないか。ある信者は、

『勉強してから行動に移るということでは、現在はもう間に合わないのではないでしょうか。ほんとうはいままでにその勉強ができていなくてはならないので、それができていないとすれば、勉強と行動をいっしょにするよう仕方がないと思います』といっていたが、これには多分、『行動をはじめるのに期限はない』という反論がでるであろう。だが、カトリックの中で、社会ということばだけが空転しているとすれば、勉強についても、行動についても、私たちはもっと考えなければならないのではあるまいか。

ときどき『社研』の集りに顔を出すというある神父は、

『いつまでも社会参加を称えるだけで何もしないなら、カトリックは社会の人に笑われますよ。社会参加についての多種多様な考え方を整理して、一日も早く実践に移らねばならないのではありませんか』といっていた。

社研のこんご

水波教授は『存在理由のある間は続くでしょう』といい、会員たちは『社研の将来は風まかせ』だという。だが何とかして、現代社会との通路をひらこうとしているカトリックにとって、『社研』の存在の意義は大きい。こんども『社会参加』が推進されるとすれば、『社研』は、その推進の原動力となるに違いないが、そういう意味で、教会も信者も、謙虚に『社研』の活動を受け入れ、その活動を援助しなければならないと思う。

『社研』の人たちはいま、活動の拡充をはかるために、学士会との連繋、メンバーが教会のアクション団体に入ること、などを研究しているが、さてこれに対する反応はどういうぐあいに現れるだろうか。

（広報室）

辞書は三省堂

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL ⑥⑤・4718

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ⑤⑦ 2673

社員募集
男子　ちくわ、かまぼこ、塩干物販売
女子　年令問わず、未経験者も可
経理事務、薄記二級以上一名
多少経験ある者　三名
年令18才—30才
福岡市姪浜神功町一八三五ノ二
まるわ水産加工有限会社
社長　ペトロ　下田数信
TEL 88—1135～7

住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話 ㊸ 4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

近くスタートラインへ
地区使徒職会の結成すすむ

教区内の福岡、北九州、佐賀、熊本の四地区で、信徒使徒職会の結成がすすみ、スタートラインに一せいに頭をそろえる時機が近くこようとしている。規約がまだ形の上で整っていない地区でも、実質的な活動に着手しようとしている。本紙前号で北九州地区の状況が報告されたので、他の三地区の動きを紹介しよう。

◇熊本地区◇
時間をかけて、じっくりと

熊本地区の信徒使徒職活動とその組織化を実現するための集会が一月二十四日午後二時から、手取教会でひらかれた。集ったのは聖職者と各教会代表者らのほか地元信徒ら百数十名で、まず深堀司教をかこんで合同ミサがささげられた。その説教のなかで深堀司教は『全世界のカトリック者は、総人口三十六億のうち六億にすぎない。私たちは信仰を自分のうちにとどめることなく、残り三十億の人に広めねばならない。信徒が中心になって行なう使徒職活動の実践にあたっても、小教区の司祭、指導司祭と十分に意志の疎通をはかりながら働いていただきたい』とのべた。

ミサ後、地区の指導司祭に任命された山田成章師（健軍主任）は『信徒使徒職会の組織化については、時間をかけてじっくりと検討したい。発足だけの線香花火で終らせたくないので、一月下旬に開催が予定されていた県下の協議会の発足会も延期させてもらった。聖職者も信徒も、今後お互いに信徒使徒職について研究をしなければならない。死んだ組織では成果は期待できない。この会は信徒が運営してゆくべきものであり、信徒全員が積極的に考え、また教会とも密接な関係を保ちつつ実施すべきだ。同会は指令機関ではなくお互いの実践をひれきし合って、実践の方法を学ぶためのものである。』と話した。

また信徒会館ホールでの懇談会では、いくつかの小教区での使徒職活動の報告があった。

島崎教会＝使徒職会の役員がきまったので、全信徒の承認をうる段階である。

手取教会＝壮年会有志で使徒職会結成の準備をはじめた。従来の巡回ロザリオ会をCLCのテキストなどを用いて、より効果的な会にしたい。五月に熊本で研修会をひらきたい。

八代教会＝交通事故被害者や一般病人のために献血運動をしたい。社会参加の一環として養老院の訪問、孤児の一日お父さん、パキスタン水害の救援募金をおこなった。

健軍教会＝使徒職について、四教会合同で研究会をひらきたい。

◇佐賀地区◇
まず高校生会対策を

一月三十一日午後一時から佐賀地区信徒使徒職協議会（塚原堅太郎会長）が新佐賀カトリック会館でひらかれ、各教会からの代表約五十名が出席して協議した。

1、高校生会対策としては、魅力ある教会づくりをめざし、かれらの自主的活動を全面的に助成してゆく。地区内の高校生会メンバーの実態をつかみ、年一、二回の研修会をひらく。

2、青年会対策としては、まず青年会の年間活動計画を作成する。定例集会は年一、二回とする。

3、布教費の徴集状況報告と費目の概要報告。いままではクリスマス行事への支出が大半を占めているが、信者の諸集会援助が多い。

4、布教費の増額。世帯毎に月百円とする。

5、本年度事業計画
男子黙想会（5月）女子黙想会（8月）一日錬成会（9月）。

◇福岡地区◇
三月はじめに規約決定

福岡地区では各教会から二名ずつ代表者が集まって、昨年十一月二十二日以来、信徒使徒職協議会結成の準備をすすめている。

信徒使徒職の目的や重要性、協議会設立の必要や性格などを討議しているが、十二月六日の会合でえらばれた七名の委員が会の規約草案の作成にあたった。同案は二月中にほぼ形がととのったので、来る三月七日の会合で、平田司教出席のもとに最終審議にかけられ、会長ら役員の互選もおこなわれる。

共通の問題を討議
司祭・牧師合同委員会で

北九州キリスト教教職者合同委員会主催の研修会が、去る二月十五日十時から八王寺カトリック教会でひらかれ、神父、牧師ら二十五名が参加した。これは年二、三回定期的に開かれるもので、今回のテーマは「地域社会における伝道」。

会のはじめに有安神父（小倉助任）の司式で聖書朗読、説教、共同祈願がおこなわれたあと、テーマの話し合いにうつったが、最近北九州で開催された日本基督教団主催の第七回都市産業伝道合同大会の内容を聖公会の飯田師が報告し、それをめぐって午後三時まで意見を交換した。

さらに十六日夜六時三十分からは信徒を交えての集会がおこなわれ、合同で実行する年間行事について討議した。

これまでに市民クリスマスや助け合い運動などが実施されたが、知名人を招いての講演会をひらいてはとの意見もあった。

なお一つ一つの活動がその場かぎりのものにならないために、永続的な組織活動とすべきではないかなどの考えも出された。

〈〉〈〉

使徒職群像

牧野利正氏（佐賀市 佐賀教会）
自己の聖化をもとに活動実践

『レジオが戦後ではなか』

日本ではじめてレジオを作った佐賀教会の牧野正利さん。レジオを日本に紹介したウォルシュ師の片腕として活躍、情熱をもやしたが、いまは佐賀大の電気工学科助教授。五十歳。祖父の代からの信者で延岡市生まれ。

「信者の一生のあいだには、教会の使徒職団体のなかで働けける時期もあるが、それができない時もあると思う。私はいまは大学という職場をとおして信仰の証しをするように努めている。充実した講義、同僚や学生との交わりのなかにりっぱな社会参加の道がある」

「佐賀教会にはすることが多いが、現在では主任司祭の意向で高校生ら学生と青年たちの活動を伸ばすことに重点をおいている」

親ゆずりの信仰と教養人らしい落着いた話しぶり。教会の現状にたいしてもするどい洞察を持っている。

「私たちはいま改革ということに振りまわされて、足もとを見ていない。また カトリック全体を見ると、ぜい肉が多すぎるという感じだ。信仰の本質につながらないものが出すぎて、教外者を戸惑わせている。形式的なものをもっと簡素化し、卒直な信仰表現を探してゆくべきではないか」

納骨堂建設へ
熊本四教会委

さきほど今年最初の熊本市内四教会合同委員会が手取教会でひらかれ、つぎの諸議題について話し合いがあった。

1、四十六年行事予定表の作成
2、合同委員会名簿の作成
3、各教会連絡担当者の名簿作成
4、合同会報編集委員の選出と年間発行計画の作成
5、納骨堂についての経過報告
6、成人式ミサについて
7、地区信徒使徒職会について。

このうち納骨堂については、つぎの説明があった。

はじめ菊池郡西合志町の少年の町の敷地内に建設予定であったが、周囲の反対があったので、市内黒髪町の龍田山の見ばらしのよい場所に九四五坪の矩形の土地を購入した。

納骨堂の使用料は、一桝（ます）（大理石の箱で四体入る）一万二千円で、大江墓地から発掘された方は一体につき三千円追加される。新納骨堂は早ければ今夏中に完成するが、一千桝をふくみ、総工費一千万円。大江墓地の一部の売却費と納骨堂使用申込者の前払い金でまかなう。

新聖堂建設に着工
熊本・島崎教会

熊本市の島崎教会（主任ガラハ神父）では、念願の新聖堂建設に近く着工する。福岡市の菅種雄氏設計によるこの聖堂は吸物茶碗型のもので、二二五余坪。階上が聖堂で、階下は種々の集会堂にあてられる。総工費三千万円。完成は九月十五日の予定。

宗教音楽研究
愛好者を募集

工業都市北九州にあって、オリジナルな形で宗教音楽を研究しているグループがある。『北九州聖楽研究会』がそれで、昭和四十二年十二月、北九州市民クリスマス開催のさいにカトリック、プロテスタント合同聖歌隊として発足、それ以来研究会として歩みをつづけているが、これまでにモツァルトのレクィエム、ヘンデルのメッサイア、バッハのヨハネ受難楽のほか昨年十一月にはヴェルディのレクィエムなどを発表した。現在はモツァルトの荘厳ミサK一三九を練習中。月に一度東京から指揮者浜田徳昭氏を招いて、指導をうけているが、会としてはこれからの発展のために音楽愛好者の入会を切望している。

練習は毎週月と木の二回、午後六時半から九時まで、戸畑明治学園の音楽室でおこなっている。

連絡先は、北九州市戸畑区西中原3－4－12、林優子、電093－87－8722。

〔福岡カトリック社研報告〕
無神論と教会

二月十四日午後二時から大名町教会で公開講座がひらかれ、参加者三十余名。テーマは無神論と教会。

無神論と教会というテーマを聞くと、一昔前の状況を知っている者であれば、それが途方もない問題であり、重苦しい対立を予想するであろう。ところが今回三人の神学生が着目し、提起したものは対立ではなくて対話へみちびく希望の課題であった。

とり上げられたのは❶無神論者の人間解放、❷キリストによる人間解放、❸キリスト者が世において果たす人間解放の役割の三点。

第一点では、実存主義的無神論が人間の解放の鍵をその自主性の確立に求め、共産主義的無神論はそれを社会経済機構の改革に、また科学的実証的無神論は科学と技術の進歩に求めたが、いずれも神を排除している点は共通している。そのため現代世界憲章はすべての人との対話を望みながらも、現代無神論にたいしては断固たる態度を示している。しかしわれわれは無神論批判で、一方的にかれらの誤りを指摘するばかりでなく、キリスト者自身が無神論発生にいくらかの責任があることを反省せねばならないと述べた。

第二点では、最近出版されたメツツの『世の神学』を手がかり に、世界の世俗化はキリストに反していないばかりか、キリストによって促されたものである。神の御子は自分と異った他者（人間性）を、そのままに受容された。キリストによる受容によって、この他者は自己本来のものを回復できるようになった。これこそ救いというべきもの。教会は恩恵の仲介者としてこの世を真に世たらしめる働きを果たすと説いた。

第三点では、キリストによってはじめられた人間の解放を、われわれキリスト者がどのように具体化し、完成にみちびいてゆくのか。公会議以来とくに強調される信徒の使命は、この点に結びつく。世俗の中に生きる信徒は、自分をとりかこむ被造物の価値と法則を認識し、尊重し、活用し、完成する任務をもっている。世は世として神に造られた。世の理想は世以外のものに化することでなく、世としての価値を十分に発揮することだ。本来あるべきものになることが、世の真の解放ではないかと強調した。

◇　◇　◇

社研の例会は、毎月第二日曜日午後2時から大名町教会旧聖堂でひらいています。社会問題に関心にある方は、どしどしご列席ください。

◎黙想の家短信

福岡市の黙想の家（御受難会修道院）は、カトリック信者の黙想会や研修会ばかりでなく、広く一般市民の文化活動の集会場としても、どしどし利用されています。

2月中にはYMCAの人たち50名の研修会や、バプチスト福岡地区の婦人大会などがあり、また3月にはまたバプチスト教会の信徒や主事の研修会、YMCAの聖書研究会も予定されています。書道や俳句の会も大いに歓迎します。

3月号は2月20日発売です

定価 150円（送料24円）

伝統の西陣織りに生命ささげて

豪華けんらんたる民俗芸術を編み出す手とこころをカラーで紹介

天才は子供麻雀教室で生まれる

日曜劇場「天国の父ちゃんこんにちわ」がウケる秘密

新企画東南アジア指導者との会見記①　【ステンドグラス物語】神田ニコライ堂

【オラショ長崎】　【ホームギャラリー】

【カトリック人国記】名古屋教区③　その他特集企画がいっぱい／掲載予定

大名町 英語 アカデミー

（福岡市大名2丁目カトリック教会内）

TEL 74－3687

教師　ハー神父　オカナー神父
ピロー神父　シュルツ神父
ライル神父　シスターモーリンその他数名

1971年中期　4月19日開講　7月7日まで（月曜と水曜）

ひる　10時－11時15分
1時30分－2時45分　授業科 5.500円

よる　6時－7時15分
7時30分－8時45分

画家ミレー

有隅善郎

ミレーが巴里のルーヴル美術館六室の大画廊（セーヌ河ぞいの部屋）へ、あたかも人生の願望が達成されるときのように、その大きな階段を駆け登って見たものは、彼の期待をじゅうぶんに満足させてくれた。この時代の画家たちはそれほど神聖な、また熱烈な美の印象をもって彼の心を引きつけたが、ミレーは後にそのときの印象を、

「これらの偉大なる伊太利人はその学理と構図の魅力によって私を引きつけた。とくにマンテーニャのあの『殉教者』という作品を眺めたとき、私は聖セバティアンの矢をもって、射貫かれ如くに感じた。何という比類のない力をこれらの大家たちは持っているのであろうか。何という抗し難い引力だろうか。彼らの歓喜や、悲哀の魅力を私に投げかけた。私はかかる作品をなし得た人たちは人類の一切の善と悪とを、一個の人物の中に現わし得るのだということを会得した。彼らのもっとも深い思想に触れ、私は一生の間にたびたび彼らの声を聞いた」と手記の中で語っている。

彼がマンテーニアの「殉教者」にとくに強く引きつけられた要因は、ミレーの生地の風土によるが家系の宗教的訓育が大いに関与していることも見のがせない事実だと思う。司祭であった大伯父のシャルルは、幼いミレーに祈祷の日課をさずけてくれたし、祖母のジュンは、敬けんな清教徒的な性格を作りあげてくれた。尊敬欣慕したアッシジの聖者フランシスコにあやかってフランソワと命名してくれた。純潔で信仰あつい勤勉な父、また温厚なすぐれた母も、宗教的な婦人であった。祖母は彼に与えた最後のことばで「お前の祖先の名誉を記憶しておくれ。お前が受けた洗礼の力によって、お前は必ず悪魔とその所業を避け、それに打勝つことができる。私が誓ったことを想起しておくれ。私の愛しい子供よ、私は神のみ心に背き、不信仰で成功したお前を見るよりも、いっそ屍となったお前を見ることを願うのだよ」ときびしく訓戒している。

子どものころのミレーは、家族が午睡している間に、よく田野を描いていた。みなは子どもの天職を悟ってはいなかった。家が貧しいために耕作に従事させなければならなかった。小さなフランソワは、よく服従して、利己的な野心をまったく持たない態度を、生涯示しつづけた。あの生来のストイシズムで、自分の趣味を、周囲の者への義務を果たすために犠牲とした。

画家としてのミレーは、糊口のためにいやでも売る絵を描かねばならなかった。単なる苦痛という生易しい状態ではなく、夜の灯油もなければ、ストーブに燃やす燃料にも事欠き、絵を描いた画布やデッサンの残片を火中に投じ、暖をとらねばならなかった。商人は食料の供給を中止すると脅迫し、ミレーは身心共に傷つき、ひどい頭痛、めまいに悩まされ、時ども発作も起こした。極限に立たされたミレーは、自殺の妄念につきまとわれ、友人サッシュの計らいで自殺の危難をのがれることはできたが、友人達の助力がなかったら自殺しないまでも、飢えて死んでしまったかもわからない。

ミレーをこの窮状から救出するために、あらゆる犠牲と滅私の友情、仁慈の心で救いの手を差しのべた画友、隣人など、善意の人たちが、彼の画業を達成させる努力を惜しまなかったことが、彼に幾多の傑出した作品を描かしめたのである。

ミレーの「種蒔く人」「木を接ぐ農夫」「羊飼の少女」「落穂拾い」「晩鐘」「春」その他数多くの作品は、苦難にうち勝ち、節を曲げず、非常な忍苦の中で制作したものである。彼の偉大さをたたえるとともに、ルーヴル美術館、その他に所蔵されている名画と、作者のミレーに、心から感謝を捧げたいと思う。（ありすみ・よしろう、洋画家）

ミレー油彩「羊飼の少女」1863作

聖書とミサ

取次ぎの祈りと神への賛歌

ミサの四つの奉献文は、いずれも取次ぎの祈りをふくんでいる。この取次ぎの祈りは共同祈願と重複するものではない。共同祈願はもともと旧約時代の遺産であり、一方、取次ぎの祈りはキリストの教会独特のもの。旧約のいけにえに取次ぎの祈りは見られない。

それに対し新約にはキリストによる取次ぎの祈りの好例がある。キリストは「自分を十字架につけようとする者のために、御父に赦しを願った。そして助祭ステハアノは、それにならって、石を投げつける者のために神に祈った（ルカ23・34、使7・59）。

だからわれわれもミサのなかで自分のため、また多くの人々のために、キリストと結ばれ、聖人らと一致して祈るのである。

教会のため

第一奉献文（ローマ典文）ではキリストと聖人と一致して、全教会のため、また各自の願いのために祈るという仕方が強く打出されている。

『わたしたちは、まず聖なる全教会のため、これをあなたにさげます』。もう少し先のほうでは『われわれの弱さを助けてください。キリストの母をはじめ多くの聖人を思い起こして、そのいさおしと祈りを顧みてくださるよう願う。聖変化のあとでは旧約の聖人らを思い出し、さらにすべての人が使徒や殉教者の群れに加えられるようにと願う。

聖霊によって

ほかの三つの奉献文でも第一と同じであるが、とくに目立つのは『われわれの弱さを助けてくださる聖霊』（ローマ8・26）である。聖霊によって、われわれは教会とその指導者、生者と死者、さらには散っているすべての神の子ら、神を心から求めているすべての人のために祈る。

栄唱

四つの奉献文はいずれも神の栄光を賛美する栄唱で終わる。これは御子をとおして、聖霊との交わりのなかで、父なる神にむけられる。

旧約時代にも神の栄光を祝する祈りが多い。『主よ、つくられたものはみな、あなたを賛え、忠実な者はあなたを祝する。かれらは御国の光栄を語る』（詩一四五・10―11）。

新約聖書では数えきれないほど多い。

『すべては神から、神によって神のために存在する、世々に光栄神にあれ。アメン』（ローマ11―36）。

『かれだけが不滅であり、近づけない光のうちに住んでおられる誰もかれを見たことはなく、また見ることもできない。かれには永遠のほまれと権力とがある。アメン』（チモ前6・16）。

黙示録にもその数は少なくない『われわれを愛し、その御血によって罪から洗いきよめ、父なる神のために、われわれを司祭の王国とされたお方に、世々に光栄と権能。アメン』（1・6）。

このほかにイエズス・キリストに直接にささげられるものもあり（チモ後4・18）、キリストをとおして御父にささげられるものもある（ロマ16・27）。

イエズスの聖心の祝日に朗読されていたエフェソ書の数節は、全部が父と子と聖霊にたいする見事な賛歌であるが、とくに聖霊のお働きが浮きぼりにされている（3・14―21）。

連載随筆

今日

まぼろしの世界

河東野菊庵

（2）

先日姪が結婚した。三十歳を過ぎて、きりょうもよい方ではないので、縁があるのかと危ぶんでいたが、思いがけない良縁に恵まれ安心するとともに、幸せはいつ、何処からやってくるか解らないものだと思った。

披露宴に呼ばれたついでに、最近はほとんど寄りついたこともないが、K市の生家のあった附近を一人でぶらぶらと歩いてみた。もちろん昔の面影は全くなく、会うのもなじみのない顔ばかりで、故郷を喪失したような淋しさを、あらためて味わったが、私の生まれた家のすぐ近くに、武家屋敷の並んだ横丁があり、その中に、座敷を礼拝に使っていた新教の教会があったことを、ふと思い出した。

小学校の一年生ぐらいだったと思うが、ひどいトラホームにかかっていながら、親にかまってもらえないでいた私を、その教会の初老の牧師さんが、医者につれて行き、薬までもらって、家に送りとどけてくれたことがあった。こども心にもその親切が嬉しく、それからは毎週、日曜学校に通うようになり、牧師さんに大そう可愛がられたことを覚えている。

私とキリスト教の、これがはじめてのかかわりあいで、その後キリスト教の神は、私のやや変化の多い半生に、形にそう影のように、絶えず隠顕することになるが神を意識に持つようになったのはまだずっと後のことである。

教会の門を入ると、玄関のすぐ左側に一本の椿の木があった。寒いときに、その赤い花を見た記憶があるから、寒椿のたぐいだったにちがいない。いまも寒中に咲く椿がすきで、詩に書いたこともあるが、私はそれを、この教会のイメージと、どこかでつながりあっているに違いないと思っている。

さて、このへんだったと足を止めた教会のあとには、私の全く知らない、旅の途上で見るような無表情な家が建っているだけで、幼年時代に、私がこの目で見、この身体で体験した喜びも感動もかけらさえ残ってはいず、ただ茫然とよみがえってくる記憶が、空しく心中を去来するだけだった。

人はそういう状態を、幻のようだということばで表現するのだろうが、最近はものごとの推移がはげしく、昨年そこにあった建物が今年はあとかたもなく、二、三日前に会った人が、もうきょうは鬼籍に入っているということが少くない。それを考えると、私の生きている世界が幻であり、あるいは生きているというそのことさえ、幻に過ぎないような気がしてくるのである。

病床にて

山本恵津子（大名町教会信者）

人の世につとめのあれば神のなお病みしわが身を守り給わむ
生きるやに苦悩たえぬと知りおれど病めるわが身はあわれなるかな
死線をば越えむと誓ふ言の葉のまことのまにま神にすがらむ
はらからの老いて病みたるわがために涙ながすを見れば切なし

今月おすすめする本

『イエスとの実存的出会い』

ラディスラウス・ボロシュ著
赤波江春海
ゲオルグ・エヴァス訳（中央出版社）

題名を見るといかにもむずかしい本のようだが、学生、一般社会人にも読めるし、黙想書としてもふさわしいものである。

もっとも本書の対象は、その序にあるように、いろいろの理由で「神から遠ざかった人」であるが、神を追求し、自己完成に到る道を模索し悩んでいる人にも、読み甲斐のある本である。

本書の目的とするところは、人格的実在的考察をもって、現代の生活経験を哲学的に考察しながら神へ至る道を切りひらこうとするものであるが、単なる頭の中の問答に終らず、行動への道案内といってもよい。著者は私たちの体験する愛、謙遜、話、あわれみ、疎外悔い改め、信仰、希望、誘惑、沈黙などを取り上げ、これを現象学的に分析し、その要素の解明を試みた後、聖書のなかのイエスが如何にそれを話し行ったかを生き生きと眼前に現わす。イエスがどれほど無私無欲に人を愛し、あわれみ、疎外され、苦しまれたかを改めて見直すと同時に私たちと同じ人間性を持ちながらも、人間の限界を越えた神の輝きをそこに見出すことができるのである。例えば私たちが簡単に口にする「愛」の実践がいかに険しい道であり、己を捨て神と隣人に奉仕することがどれほどむずかしいものであるかを経験によって知るが、キリストの一生で愛はすべての基礎でありすべては愛に支配され、一体となる。愛はイエスの実存的行為であった。本書はこのようなイエスの姿に私を導いてくれるのである。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊷0568

プロパンガス並びにガス・石油ストーブ
湯沸器・炊飲器・流し台各種
その他　溶接機械器具材料
（有）松尾溶材商会
北九州市若松区藤ノ木1924
（093）（77）3657～9番

カトリック

平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価一部　十五円

償いの精神で愛の実践を

四旬節教書で呼びかけ

平田司教は、四旬節教書で全教区民に、『身寄りのない困っている老人福祉のための愛の運動』に協力するよう要請した。

司教教書の大要は左のとおり。

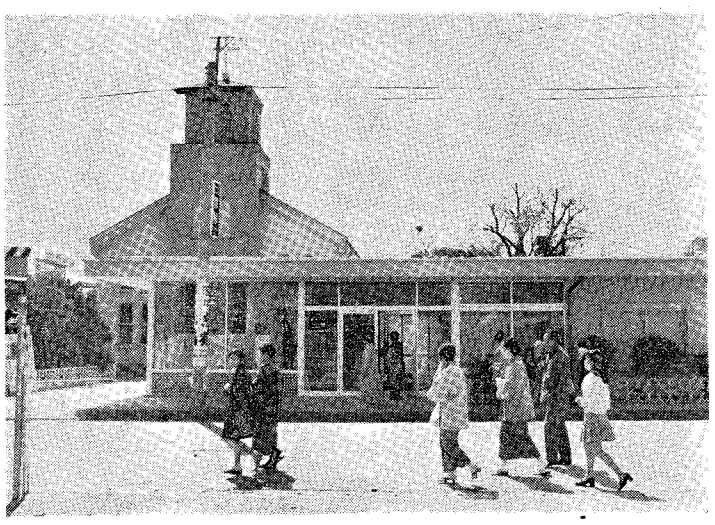
四旬節は、キリストの十字架をしのび、犠牲にはげむ時である。いまでは四旬節の償いは、上から定められるのでなく、各人の生活条件にしたがって、自発的に行うようになった。では償いの根本精神は何であろうか、またどのようなことを優先的に実行すべきであろうか。

教書はここで、愛の実践こそキリストの掟の最大のものであること、隣人にたいする愛はとりもなおさずキリストご自身にたいする愛の証明であることを、聖書のことばにもとづいて思い出させている。そして愛を実行しない教会は自分たちの宗教を「愛の宗教」と公言することができるだろうか、また他人にたいして無関心なものが完全なキリスト信者といえるだろうかと、つよく反省をうながしている。

教書がわれわれに償いを命じるのは、教会とその信者が、キリストの最高のご命令である愛を、十分に実行していないからである。もしこの点にふかい反省があるならば、主の裁きをうけるまえに、愛の意りをつぐなうよう真剣にはげむはずである。幸い日本の教会は全国的に愛の運動の実行をわれわれに提唱している。償いの一つの方法として教区をあげてこの運動に協力しようではないか。

佐賀教会信徒会館

このほど見事完成した佐賀教会の信徒会館＝佐賀カトリック・センターは、信徒のいろいろな集会や要理研究のほか、一般市民への窓口として、大きな役割を果たしている。四月十八日に祝別の予定。うしろは教会の塔。



聖週間聖式

聖木曜日

福岡市浄水通り教会で、あさ十時半から平田司教司式・聖香油のミサ、このミサで信徒も聖体拝領ができます。

最後の晩さんの記念ミサ、平田司教司式、大名町教会で午後七時から。

聖金曜日と聖土曜日

平田司教司式により大名町教会で、午後七時から。聖体拝領ができます。

召命の日行事

福岡では五月二日

来る五月二日、復活第四の主日は第八回「召命の日」として、教皇のご意向により司祭・修道者の召命促進をめざす特別の祈りと催しが、全世界でおこなわれる。ことし福岡教区では、去る二月十六日の司祭評議会の決定によって各地区毎に何らかの行事を行なうことになっている。

北九州地区では、四月二十五日の信徒大会にこの意向を盛りこむことにしている。福岡地区では、五月二日午後十二時三十分から福岡聖母学園講堂で、司教司式の合同熟行ミサのほか、神学生や修道者の召命体験発表を中心に催しをひらく。

副助祭四名

福岡大神で叙階式

福岡大神学院で三月十七日、平山・大分司教の司式によって叙階式がおこなわれ、左の諸師がそれぞれ聖位をうけた。（カッコ内は所属教区）

副助祭＝下口勲、高見三明（長崎）郡山健次郎、松森峯郎（鹿児島）

下級聖品＝三村猛、西口満、野中真、大山繁、田口孝志（長崎）石原広吉（大阪）

トンスラー＝小瀬良明（長崎）狩浦正義（名古屋）明石健次（大阪）

司祭異動

高宮主任ルカ師は長崎フランシスコ病院に入院、代理は藤田忠美師（札幌）。バイヨ師は八幡天神町主任に帰任。代理をつとめたキニュー師は黒崎助任に。もと田川主任ラバルタ師は八王寺教会に。

4月

3日（土）　ウルスラ福岡修道院で誓願式

4日（日）　受難の主日（枝の主日）

きょうから聖週間に入る。キリストのお心が、そのご生涯のうちもっとも高揚したときである。「私は苦しみをうける前に、あなた達といっしょに、この過越の食事をすることを切に望んでいた。」

われわれもそのお心を自分のものとしたい。

8日（木）　聖木曜日

主の晩さんの記念日。午前中司教は聖香油を祝別する。聖香油は、悪の力に打勝つ神の力の保証のしるし。それを塗られるものは、神の司祭、預言者、王としてこの世につかわされる。夕刻に主の晩さんを記念するミサがある。聖体の秘跡の制定を感謝する。

聖香油のミサ（浄水通り教会で、午前十時三十分）

9日（金）　聖金曜日

主の受難とご死去、神は人間を生きかえらせるために、最愛の御子を死に渡される。全く考えられない事実。われわれは神の御子の血によって、救われたのである。

10日（土）　聖土曜日

復活祭の聖なる徹夜祭。新しい火と洗礼水の祝別などの式のなかで、人間の新しい復活が祝われる。キリストはその初穂として、死から復活された。

11日（日）　主の復活の主日

キリストの復活は、死んだ者がものとどおり、生きかえるということではない。キリストは十字架上でのご死去のあと御父から永遠の栄光をさずけられたということである。われわれもこの栄光にあずかるように召されている。

大名町教会で司教ミサ（午前9時）

18日（日）　復活第2主日

弟子たちは復活した主を見たという。かれらにとって、主の復活はうたがうことのできない事実であった。教会の信仰も、この弟子たちの確認の上に立っている。

佐賀教会で堅信

25日（日）　復活後第3主日

ペトロは復活されたキリストに、心からの、いつわりなき愛を表明する。そこには数日前までの調子とはまったく違った、信頼と安らぎがあふれている。復活のキリストを見たかれ自身も、あたらしい人間に生まれ変ったのだ。

北九州地区信徒大会

祈禱の使徒会

【一般意向】　神学校の生活と研究が、司祭への召命の聖性に対応するように

【布教意向】　信者でない人々との対話が、望ましい進展をするように。

聖体礼拝

第二日曜　今村教会
第三日曜　黒崎教会
第四日曜　女子聖パウロ修院　八代教会

修道院めぐり

師イエズス修道女会

福岡市小笹町

福岡市小笹の修道院前でバスをおりると、師イエズス修道女会はもうそこに見えている。

キリストの時代に、聖母を中心とした婦人たちが、キリストに従い、キリストとその弟子たちに仕えていたことを現代に実現しようというこの修道会は、一九二四年に、ヤコボ・アルベリオーネ師によってイタリーのアルバ市で創立された。

パウロ会とは姉妹の関係にあるが、行動的なパウロ会とは異ほらに観想を主とした修道会。司祭、修道者、神学生のために、調理や被服の世話をすることが仕事だが典礼用具、祭服を研究製作する修道会としても知られている。

日本に来たのは小笹がはじめで、昭和二十五年に現在地に修道院が建設されている。いまの園長はシスター・シルバーナさん。イタリー南部のカラブリアで生まれた。日本にきて十五年めというがいかにも観想修道者らしい、ものしずかなシスターである。現在のシスターは十一人。ほとんどが長崎の出身。このなかの三人が、三月二十五日祝別式を行なった、司教館の分院で働くことになっているが、その仕事は事務と炊事の世話だそうだ。

この修道院には六人の中学生がいる。いずれも信者の娘さんで、将来のシスターとしてここで教えを学んでいるという。

新しい企画で『神学講座』

福岡の神学講座が、四月から新しい企画でひらかれる。毎週一回ひとりの講師が三時間受け持ち、修道者のほか一般信徒の来聴を歓迎。

ところ　福岡大名町教会旧聖堂

とき　4月13日から6月29日まで十二回。毎火曜日、午後3時30分から6時30分まで。

講師および講義　ラベル師（キリスト者の使命）岩村師（唯一・三位の神）日置師（聖書）山内師（無神論）宮川師（秘跡論）深堀師（日本キリシタン史概要）

会費　一回二〇〇円

申込み　福岡市片江神松寺一九〇〇、福岡大神学院内、ラベル神父

熊本でも月一回

熊本地区の司祭、修道者、信徒を対象に、二月から毎月一回、第四日曜日に神学講座がひらかれている。講師は岩村師（教会憲章）と日置師（聖書）。これは信徒使徒職会の充実した準備と練成のためにひらかれるもので、会場は手取教会の信徒会館。第二回は三月二十八日（この回にかぎり熊本信愛女学院で）。

結婚講座は五月二十七日から

カトリック信者にかぎらず、近く結婚を考えている男女に、しあわせな結婚を準備させる講座が、福岡市でひらかれる。

五月二十七日から六月十九日まで、毎週木曜と土曜の午後七時から九時まで。大名町教会の旧聖堂が会場にあてられる。講座には結婚を考えて交際している男女二人がいっしょに参加する。

申込みは、福岡市美野島2－5－29、カトリック教会内、ライル神父あて。

納骨堂完成

福岡市高宮教会の納骨堂が完成した。一三六併で、一併に九体収容できる。総工費は二百万円。

スチールデスク・イス
会議用テーブル
折りたたみイス
ロッカー
フアイリニグキヤビット
物品棚
本棚
金庫
整理庫
学童用デスク・イス
ビシブルレコーダー
他全てがそろっています。

スチールデスク・椅子

シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
TEL (092) 52－5327

事務機械・消耗品
卓上電子計算機
和文タイプライター
欧文タイプライター
謄写輪転機
トーシヤフアックス
リコー複写機
記録計算機
裁断器穿孔器他

感光紙　液
謄写インク・原紙
タイプリボン
記録紙
テープライター
フアイル用紙
アルバム
他全般

放送・音響装置　教会　幼稚園　学校

伸び悩む布教と現代社会

リバス神父の〝新しい布教〟を探る

去る二月二十五日午後七時、福岡市大名町教会の旧聖堂で、CLC日本連盟、イシドロ・リバス神父の講演会がひらかれた。集ったのは平田司教はじめ、神父、シスター、信者あわせて約三十人。講演のテーマは〝新しい布教〟。

リバス師のユーモアをまじえた話術は巧みで、三十人が手に汗をにぎる感じで話に聞き入った。

ではリバス師の〝新しい布教〟とは何か、はたしてカトリックの新戦力となり得るのか。現代社会、およびカトリックの現状とにらみ合わせながら、この問題を掘りさげてみよう。

新しい方法が必要

イシドロ・リバス神父、一九二九年スペイン・バルセロナの生まれ。一九五四年 司教師 として来日、上智大学神学部で学び、日本で神父となった。

リバス師が総指導司祭をつとめているCLC（クリスチャン・ライフ・コミュニティ）日本連盟が成立したのは昭和四十三年の六月だが、このCLCの前身は聖母会（コングレガチオ・マリアナ）という布教団体で、一九六七年十月ローマでひらいた国際大会で、活動組織の刷新を意図してCLCと改称、中央事務局をローマに置いている。

リバス師が、CLCの総指導司祭としていま力を注いでいるのは〝新しい布教〟を推進するための『信徒布教研修会』。

リバス師は

布教はいままでいろんな人が立派にやってきた。これまでの方法も必要だ!、それでもなお教会に来ない人がいる。この人たちを教会に受け入れるためには新しい方法が必要だ』というが、カトリックが布教の重要性を自覚したのは昨今のことではない。そして〝布教研修会〟という形でそれが前面に出て来た裏には、つぎのような深刻な現実が横たわっているのだ。

『日本の教会は今日まで熱心に布教してきたが、あまり目に見えた成果がなかった』

『ある布教者は、いまこそ間接布教の時代であると、社会事業や教育事業、文化・宣伝・情報などの仕事に没入、キリスト教精神と道徳を普及して、教会の認識と理解を得ようとはかってきた』

『それでも布教の成果は目に見えない。この12年間、一年ごとに大人の洗礼が減少し、求道者もへってゆき、今後回復する見込みはない』（以上『カトリック新聞』一月三十一日号『布教集団の結成進む』より）

第2回女子クルシリョが、3月20日から23日まで、北九州市八王寺教会でひらかれ、35名が教会活動の第一線に立つべく練成をうけた。

新しい布教と障害

〝信徒布教研修会〟はことし一月東京で開催された。とりあげたテーマは、虚しさ、対人関係、神の実感、愛情とセックス、希望、教会。参加者は、札幌、仙台、新潟、浦和、横浜、名古屋、京都、大阪、広島、福岡、長崎、それに地元東京を加えて百四十人。

一月二十四日付のカトリック新聞に掲載した〝参加者の声〟を読むと、つぎのような発言が目をひく。

〝布教が伸び悩んでいるいまどこかでそれを試みている勇気のある人から何かを学びたいと参加してみました。そして大きな布教の可能性と、われわれにとっても大きな成長を遂げていく道をはっきり見た気がします。（岐阜多治見教会、伊藤信吉神父）』

『話し合いのテーマを〝虚しさ〟〝人対関係〟〝愛情とセックス〟など、現代人に関心深くしかも切実なものを選んだことについて計画立案された実行委員の方々の構想に、敬意をおぼえるものであります』

『問題は教会ではなくわれわれなのだ。教会はいわば布教の本社であり、現場はわれわれ。大切なのは下からの仲間による布教ということに勇気づけられ、深く動かされた』

（郷山、高校教師・小林良夫）

リバス師の主張の中には〝下からの布教〟ということがあり、師は『我々がねらっていることは、信者が一人残らず布教をいっしょうけんめいやることです』と言っている。それはこれからは信者の一人一人が人々の中に入って布教しなければならないということで、リバス師は『現代の日本人の具体的な悩みや問題に対して、キリストはどういうふうにその具体的な問題や悩みを解決してくださるのか、言いかえればその人はどういうふうにキリストを必要としているのか、キリストはどういうふうにその人をお救いになりたいかということをとおして布教する』ことだといい、それが〝新しい布教〟だというのである。

〝研修会〟のテーマは、いうまでもなくこの考えに立脚したものであり、〝研修会〟とはこういう布教の実践を教えようとするものにほかならない。そして話だけを聞いているといかにも現代的な、時宜に適した布教方法のような気がするが、しかしこれは決して新しい方法ではない。扱う問題の内容は別として、カトリックはこんな考え方、方法の上に立って、いままでも多くの人の悩みを聞き、そして布教に努力してきたのではないか。強いて新しい点を求めるとすれば、信者が主体となって働くということであろうが、これには大きな障害がある。

リバス神父

ここ数年、使徒職、あるいは社会参加などということが繰り返し言われ、それを推進するための集会、団体の結成もしばしば報道された。そこだけを見ていると、いかにもカトリックは動いているという感じだが、小教区に行ってみると、活動家はひとにぎり。大部分はミサにあづかって帰るだけの信者。そしてまだ信徒使徒職を自覚して働いている人たちの目は、まだ教会の外がわには注がれていないのである。

問題はまだある。リバス師は

『自分の場所から出て話しあおう』

『未洗（信）者の一人一人と会って悩みを語りあおう』という。

しかし人間の悩みはじゃ種々雑多で、根が深く、深刻でやっかいなものはない。こういう問題と取り組むだけのものを、研修会程度のことで信者が身につけることができるであろうか。

リバス師はまた、

『自分の悩みと、それに対するキリスト教の教義などをならべておいて、その悩みを話せば、すべてのキリスト教の根本的な教義と教えを説くことができます』ともいうが、こういう安易な図式的な方法で成功するだろうか。たとえ教えを説くことができたとしても心の中にいちおうの警戒を持っているはずの未信者が、そのまま納得するとは考えられないことだ。

教会の目的は社会聖化

『教会の目的は社会を聖化することだ。そして信者が社会の中にいるのであれば、信者も社会問題と取り組まなければならない』

リバス師は講演のあと、質問に答えたなかでこう言っていたが、師は風川教会でした講演で、もっと詳しくこの問題に触れている。六月二十四日付のカトリック新聞に掲載された講演要旨から、いくつかのことばを拾いあげてみよう。

『今日の社会はめちゃくちゃです。貧困も富も戦争もある。憎みあいもある。若者からすれば革命がある。そして社会そのもの、制度それ自体が問われている。教会も学校も家庭もその存在自体が問われている』

『この社会に対してカトリックはどのように責任を持つべきか。とくに日本では——。第一にいうべきことは、こうした問題に顔をそむけてはカトリック者になることはできない』

『教会は社会のためにある。人間のためにある。教会は目的でなく手段です。教皇は何回も、カトリック教会は今日の社会問題の解決に努力するようにといわれた』

『信徒使徒職は公会議により三つの種類がある。一つはみことばの宣布に協力する。二番めの特徴は社会構造を改善する。キリスト教的秩序の社会を作る。三番めは社会福祉事業。このうち社会構造の改善は、信徒使徒職として公会議のいちばん特徴というか、新しいことです』

社会のカトリック観を是正せよ

このリバス師のことばの中にあるものは、教会に最も欠けているもので、いまの教会が最も熱心に考えねばならないことだが、私たちはさらに、このことばを裏づけるような考えが社会の中にあることを知らねばならない。

先日ある詩人の集まりに出て、カトリックの信者ということで激しい非難を受けて帰ってきた。その非難というのはつぎのようなことだ。

『あなたたちが信じている神、永遠、天国などということは、どれをとってみても科学的な客観性がないではないか。カトリックはそういう幻想的な観念の中に大衆を誘いこんで、現実の悲惨から自をそむけさせ、人間の苦しみや生活の不安がどこから来るのか、それを分析し考えて、現実を変革する戦いに参加することを忘れさせているのだ。これを別の面から言えば、支配体制の手前勝手な思想善導政策に、カトリックが協力しているということで、そういう意味ではカトリックは大衆の敵であり、犯罪的な存在といわれても仕方があるまい』

『現代は民衆のなやみ、社会の矛盾が深く大きい。われわれは何よりもまず現実社会の不安と、人間の不幸がどこから何を原因としておこってくるのかを考え、その原因に向って戦わなければならない。水俣病、沖縄、三里塚などの問題はその具体的な例だが、カトリックはいままで一度だってそういう戦いに参加したことはない。つまりカトリックの信者というのは、自分のために祈るだけで、社会のために何もしない人種なのだ』

この集りに参加したのは中年のサラリーマン。会社や学校で働きながらコツコツと詩を書いている人たちで、左翼的な立場に立っている人は一人もいなかった。私たちはこの人たちの発言を、現代知識人一般のカトリック観として受け止めてよいと思うが、それにしても、社会に広がっているこのようなカトリック観を是正しない限り、カトリックがどんなに布教しても、従来以上の成果をあげることは不可能で、それを是正することが今日のわれわれの使命ではなかろうか。

信者は使徒職を自覚せよ

リバス師の〝新しい布教〟は、未信者の一人一人に話しかける、解決を聖書のことばに求めるという点で、ジョックとレジオを混合したような印象を受けたが、そこにはまだ従来の布教の考え方が残っており、体験をとおさない弱さもあるようだ。社会問題というと驚くほど進歩的なリバス師が、この程度の布教方法で満足しているように見えるのは心外だが、今日あえて〝新しい布教〟というならもっと社会を反映した布教、社会一般のカトリック観を是正するようなものでなければなるまい。そしてここでも、やはりカトリック信者の一人一人が、信徒使徒職を自覚して、もっと積極的に働かねばならないということを強調したいし、それがなければこんごのカトリックの発展はあり得ないということを書きそえて読きたいのである。（広報室）

第七回男子クルシリョ

五月上旬にひらく

五月はじめの連休を利用して、男子第七回クルシリョ（信徒練成会）がひらかれる。教区内の各地区に信徒使徒職協議会が誕生して、宣教活動への熱が高まりつつあるこんにち、信徒の養成こそ、その必須前提条件である。とくに壮年男子信徒、教会の中核となるべき人たちの参加を強く望みたい。

記

とき　5月2日（日）よる7時から（時間厳守）5日よるまで

ところ　北九州市八幡区八王寺カトリック教会内

会費　三八〇〇円

申込み　福岡カトリック司教館気付、クルシリョ事務局あてできるだけ早目にお申込みください。

住まいづくりの店！
新築・増築・改装
なんでもご用命下さい
営業種目　木造住宅……ナショナル住宅
一般鉄筋コンクリート建築設計施工
郵政互助会指定、日本信販提携、ナショナル住宅代理店
旭工務店
吉弘七平
福岡市榊田町47番地　電話 ㊸ 4131
（支店）北九州・熊本・佐賀

社員募集
男子　ちくわ、かまぼこ、塩干物販売　年令問わず、未経験者も可
女子　経理事務、薄記二級以上一名　多少経験ある者　三名　年令18才—30才
福岡市姪浜神功町一八三五ノ二
まるわ水産加工有限会社
社長　ペトロ下田数信
TEL 88—1135～7

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊼ 2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL ㊺・4718

辞書は三省堂

福岡地区使徒職協議会誕生

会長に平田房刀氏

福岡地区の全信徒の使徒的活動とくに宣教活動の推進をはかる信徒使徒職協議会の規約決定と、役員選出が、三月七日大名町教会での会合でおこなわれた。集まったのは各教会の代表二名ずつで、規約草案の訂正や削除などを審議した結果、同協議会は地区の小教区の代表で構成され、四月一日から発足することになった。選出された役員は次のとおり（敬称略）

会　長＝平田房刀（箱崎）
副会長＝米湊潔（光カ丘）
平木直親（久留米）
書　記＝秋吉俊男（大名）
山田耕司（光カ丘）
会　計＝坂田三郎（高宮）
幹　事＝鬼木保之（〃）
石橋貴昭（東田島）
南　長（大牟田）

初の代表者会議ひらく

北九州信徒協

北九州信徒使徒職協議会の第一回代表者会議は、三月十四日八王寺教会でひらかれた。まず白石会長から本会が平田司教の認可をうけたこと、なお使徒職について全信徒への趣旨徹底、司祭・修道者生活への召出しの高揚を要望されたことの報告があり、討議にうつった。

❶使徒職について信徒に理解が浸透していないのではないか。その対策の一つとして各教会の婦人会の活動を推進すると同時に、その代表を協議会に加えるべきではないか。なお北九州地区の合同婦人会の結成を望みたい。

❷信徒養成の手段として、クルシリヨへの参加を呼びかけるが、三日間の練成会は時間的に無理なので、一日練成を計画して欲しい。

討議につづいて、四月二十五日平田司教をむかえて協議会発会と信徒大会をひらくこと、および老人福祉のための募金運動の件を決定した。

信徒布教研修会

5月上旬熊本市で

熊本市手取教会では、リバス神父の指導で五月はじめに、左記のとおり信徒布教研修会をひらく。

（この研修会については本紙第2頁参照）

❶〝仲間からの布教〟の方法に従って、布教の具体的方法およびプランを作成することをめざす。

❷対象は信徒および聖職者。

❸テーマは参加者の希望によってきまる。そのため参加者にあらかじめアンケートが送られ、「現代人が一番悩んでいること」などについて意見を集める。

❹会場は手取教会信徒会館

❺日時は五月一日午後七時から三日午後六時まで。

❻会費千五百円。

❼申込みは四月十八日までに、熊本市上通町三ノ三四、カトリック教会気付、信徒布教研修会へ。

放送番組の時間変更

カトリック放送　番組『心のともしび』の時間が4月から左のとおり変更される。

テレビ福岡放送4月および5月第1週まで。土曜午前8時30分～45分、日曜午前6時45分～7時。5月第2週以降。金曜午前10時30分～45分

土曜午前8時30分～45分

ラジオ熊本放送　月水金午前10時25分～30分

平田卯太郎氏逝去

平田司教、平田勇神父の厳父、マンショ平田卯太郎氏は、三月八日午前二時、福岡県三井郡北野町彼坪の自宅で老衰のため逝去。八十九歳。九日午後二時から今村教会で葬儀ミサ、平山大分司教、深堀前福岡司教のほか約五十名の司祭、信徒多数が故人の冥福を祈った。

卯太郎氏は明治十五年生まれ、キリシタン潜伏時代の余波のなかで、祖先の信仰をうけつぎ、三人の子息のうち二人を聖職にささげ自らも祈りと労働の生涯を送った。

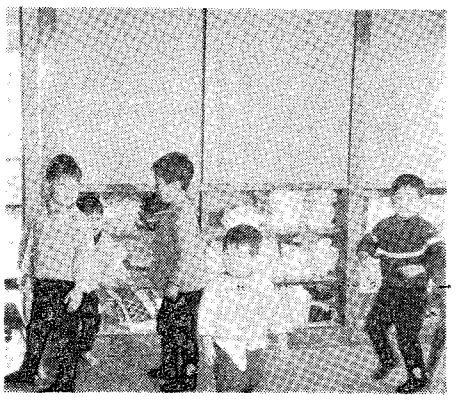
（写真は葬儀ミサ、右上平田卯太郎氏）

新築移転　清心慈愛園

福岡県三井郡大刀洗町大字山隈に移転新築した養護施設「清心慈愛園」（社会福祉法人・カトリック福岡教区、平田清正園長）の祝別と落成式が、三月十七日午前十時からおこなわれた。平田司教による祝別につづいて落成式が行なわれ、亀井福岡県知事や甚岩県会議員、地元町長の祝辞があり、工事関係者に感謝状が贈られた。

清心慈愛園は、昭和二十四年、聖フランシスコザベリオ渡来四百年を記念し、孤児や家庭環境にめぐまれない満一才までの乳児を収容する施設として、今村教会に近い大刀洗町上高橋に開かれたが、施設の老朽化と、周辺部の開発のため現在地に移転した。日本船舶振興会から一千九百七十六万円の補助金、また中央競馬社会福祉団から百六十三万円の助成金を受け、建物は鉄筋コンクリート陸屋根平家建一部二階建三棟、七六六平方メートル。木造瓦ぶき平家建一棟一六二平方メートル。総工費は約二千八百五〇万円。

定員八十名で現在七十三名を収容している。



新しい部屋で遊ぶ子どもたち

桑原教授講演

二月二十三日午後七時から熊本手取教会信徒会館で、九大教授桑原万寿太郎氏の『科学と宗教』と題する講演会がおこなわれた。

カテキスタ研究会

第二回北九州カテキスタ研究会は、三月十四日午前九時から、戸畑明治学園でひらかれた。「子どもを知る」をテーマに、実地に児童の宗教教育にあたっている人たち三十三名が研究討議したが、まずガイヤール神父（戸畑助任）の「絵の使い方」についての講演を中心に、グループ別討議、質疑応答があった。午後は家庭訪問記録にもとづいて「子供の環境調査」についての分科会があり、最後に将来の活動のあり方を検討、ミサにあづかって四時半散会した。

使徒職群像

馬込弥八氏（北九州市小倉教会）

眼鏡の奥に輝く闘志

『小教区の全信者がキリスト初代教会の在り方を学び、北九州はもちろん、教区全体が一丸となって使徒職に励まねばなりません』小倉教会の信徒使徒職協議会会長として、一騎当千のサムライたちをよくまとめている。長崎出身の旧信者。仕事の関係で、関東一円の教会を渡り歩いたこともあるそうだ。

『社会参加、おかしなことばです。意味がテイマイではないですか。それはともかく、私たちは社会の中にいるのですから、改めて社会参加を考える必要はありません。社会参加をしなければならないのは、むしろ聖職者ではないでしょうか』

近ごろしきりに言われる社会参加にたいしてもきびしい批判を持っている。そういうことをいう前に、自己を聖化することの方がさきだというのがこの人の考え方。

『教会は信者によって支えられねばなりません。信者の一人一人が自分の教会という考えに立ち、教会についても什事についても責任を持つことです』

小倉教会では、教会財政の安定と、信者の活動費用を確保するために、維持費を、家族単位ではなく、収入のある者のすべてがその二、五パーセントを納入することに改めた。余剰金は、信者の少ない教会と、信者の仕事のために使おうという計画である。

『いま私たちが望むのは司祭団の一致です。それがないと教会はこんごことも大きな仕事はできません』

いまカトリックはぐんぐん変りつつある。そういう中で布教、信徒使徒職を推進するには、まず何よりも司祭団の一致が必要だろう。さすがにこの人の目は情勢の動きをよく見つめているようだ。

職業は明治生命の営業員。四十八歳。

キリスト教のストラクチュア

〔福岡カトリック社研報告〕

社研三月例会は、三月十四日午後四時から大名町教会でひらかれムルグ神父の『キリスト教のストラクチュア』の四つの原則について話し合った。

第一原則。キリスト教から見た個人と共同体の関係。人間を考えるとき、共同体から離れた存在としてではなく、多くの人々と連帯性をもった人間を考える。もちろん共産主義のように個人を無視するのではなく、個人の救いをもとにして、共同体全体の救いをはかるというもの。従って自分の救いさえ考えればよいのでなく、常に隣人の救いに目を向けるべきである。ただしキリストの教えによる「隣人」とは、どういうひろがりをもっているのか、その点正確な認識が必要である。

第二原則。キリスト信者の義務は、人のために生きること。そのため自分の心からあらゆる利己主義を取りのぞき、共同体の向上をさまたげる障害物にたいして戦わねばならない。自分を犠牲にしなければ、他の人を生かすことはできない。

第三原則。われわれは神の絶対的な力を人間の物差しで測りがちであるが、本当の神の力と愛は、弱さとみじめさの中に隠れている。だから真の意味で社会のために働く人も、みじめさと困難に出会う。十字架の死のなかから、力強い生命が生れるのだ。

第四原則。神の恵みは、あり余るほどの豊かさをもって人々に与えられる。それだけに人間にたいする神の要求はきびしい。われわれは最低限の義務を果たすことに満足してはならない。平凡な目標でなく、天の御父の完全さをめざして努力するのである。

×　×　×

社研4月例会は、11日（日）午後3時から、大名町教会で、家裁調査官をかこんで少年問題を話し合う。一般来聴歓迎。

福岡で朝禱会の全国大会

福岡市のプロテスタントの人たちは、毎週月曜早朝七時半から、市民のために祈る集会をつづけている。朝食祈祷会とよばれるこの会は、東京、大阪はじめ全国各地で展開されているもので、ことし六月七日に福岡でこの会の全国大会がひらかれる。この大会にカトリック信者の参加がつよく望まれている。

会場は、市内草香江の日本聖公会九州教区センター、奨励者は、木村文太郎先生（西南学院教会牧師）。参加希望者は、カトリック編集部深堀神父あて。

久留米天使園に無記名で六万円を寄贈

二月二十一日、久留米市の『天使園』に、手紙と六万円の為替を入れた封書が配達され、手紙には『一年前〝カトリック〟紙上で〝社会福祉と教会〟の記事を読みそれから積み立てた金がこれだけになりました。何かのお役に立ててください』という意味のことが書かれていた。

天使園では、さっそく高校にはいることものために役立てることにしたが、シスターの一人は『私たちのことをこんなに考えてくださる方があるかと思うと、ほんとにうれし涙がこぼれます。名まえはわかりませんがこの方のために、心からお祈りしたいと思っています』と、感激の面もちで語っていた。

この研究会は年二回ひらく予定で、第一回は昨年九月「信仰教育における教会の役割」をテーマに話し合った。

カトリックグラフ　4月号は3月25日発売です
定価　150円（送料24円）

教会マンションついに完成す！

3階までが信者会館　屋上には大十字架が輝くという新アイデア

高砂族の踊りにかけた女の半生

召命特集　私にとて神の招きとは何か

新企画東南アジア指導者との会見記①【ステンドグラス物語】神田ニコライ堂
【オラショ長崎】野良に祈る　【ホームギャラリー】ガラシャ夫人
【カトリック人国記】　名古屋教区④　その他特集企画がいっぱい／掲載予定

大名町英語アカデミー

（福岡市大名2丁目カトリック教会内）
TEL 74－3687

教師　ハー神父　オカナー神父
ピロー神父　シュルツ神父
ライル神父　シスターモーリンその他数名

1971年中期　4月19日開講　7月7日まで（月曜と水曜）
ひる　10時－11時15分
1時30分－2時45分　授業科　5,500円
よる　6時－7時15分
7時30分－8時45分

追慕の詩人

俣野　衛

私が三好達治を知ったのは、昭和五年、第一書房という書店から処女詩集「測量船」がでたときである。まだ詩を書きはじめていなかった私は、三好が梶井基次郎の「青空」を経て、北川冬彦の「亜」や、百田宗治の「椎の木」などで活躍している秀才であることは知らなかった。たまたま立ち寄った書店の店頭で「測量船」をひもといた私は、巻頭の

春の岬旅のをはりの鷗どり
浮きつつ遠くなりにけるかも

という詩を見て驚いた。当時短歌を作っていたので、短歌の形式がそのまま詩に用いられているのを見て驚いたのであるが、また「乳母車」や「少年」などのみずみずしい、しかも親鮮な抒情に魅入られたのであった。

この「春の岬」は、三好達治全詩集の年譜「昭和二年（一九二七年）二十七才」の項に、『三月二十五日、伊豆湯ケ島に梶井を見舞う。川端康成を識る。十余日滞在。このときの作詩「街」は未完稿ながら梶井の絶讃を受け、「青空」に発表を約束する。四月上旬、湯ケ島を発ち、下田に出て、海路を沼津に廻り帰京した。後ちに詩集「測量船」の巻詩「春の頭岬」はこの海路旅中の作である』と記載されているので、昭和二年二十七才の作であることがわかる。

三好にはこの処女詩集のほかに「南窓集」「閨花集」「山果集」「草千里」「一點鐘」「捷報いたる」「寒析」「砂の砦」などの詩集があり、戦後にも「駱駝の瘤にまたがって」その他を刊行している。現代日本文学全集「三好達治集」の中村真一郎の解説に、立原道造から中村が聞いたこととして、『「測量船」の時代の三好達治は、日本の詩の近代的革命の戦列の選手であった。「詩と詩論」の編集者のひとりであった三好の、この処女詩集は、後年、三好自身が南北書園版のあとがきで自認しているように〝新しい詩歌の可能性を力をつくして模索しつづけた（略）〟』とあり、北園克衛、安西冬衛、北川冬彦、春山行夫など、当時の前衛詩人のグループに交っていた三好は、私どもの目にも当然そのようにうつっていたのであるが、しかし三好の詩は、おなじ中村の解説の『〝測量船〟は三好の否定的謙抑の言にもかかわらず、我国の前衛運動のなかでは、最も伝統的詩境や語法に親近性を示した』というようなものであり、「測量船」以後も、三好はその伝統的詩境や語法に、いよいよ親近性を深めていったようである。

そういう三好の姿勢は、一見伝統への後退のようにも見えるが、私見を述べると、三好は北川、春山たちのヨーロッパ直輸入の前衛詩運動のなかにあって、新しい抒情詩の創造をめざすとともに、それによって日本の伝統に結びつこうとしていたもので、それは、三好が口語詩に大胆放弃に俗語を駆使し、一方、見事に今様や漢詩を模した作品を書いたことから理解することができるのである。

三好は恐らく現代における最後の抒情詩人であるが、新しい日本詩を企図したその詩精神は、ヨーロッパ流の前衛よりもはるかに前衛的であったということができよう。

いま私には、この私の所説のよってくるところを明らかにしようという意志も、その用意もないが、私の詩の出発以来、たえず私の傍らにあった詩人として、三好達治という不世出の詩人と、豊かなその作品に限りない追慕の情を覚えるのである。（大名町教会・詩人）

教養

聖体拝領とおわりの祝福

聖書とミサ

主の祈り

ミサの典礼は聖体拝領で完結する。それに先立ってまずわれわれは、主が教えられた祈りを信頼とつつしみの心で唱える。われわれが信頼をこめて天の父に嘆願できるのは、キリストの霊がわれわれのうちに在すからである。

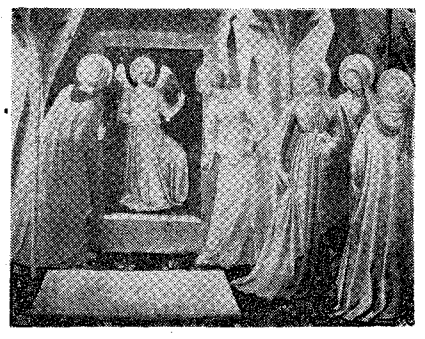
『あなた達が神の子である証拠は〝アッバ、父よ〟と叫ぶ子の霊を神がわれわれの心におくられたことである』（ガラチア4・6）。

主の祈りには、ミサの奉献文の中心をなしていたものが集約されている。たとえば神の栄光をたたえる（御名の尊まれんことを）、終りの日の希望（御国の来たらんことを）、必要な恵みを嘆願（今日われらに与え給え）。

いけにえになったキリストを取りかこんで、会衆が主の祈りを唱えるのは、キリストご自身のつぎの約束にもとづく。『あなた達の二人が、この地上で、心を一つにして何かの願いごとをするなら、天におられる私の父はそれをかなえて下さるだろう』（マテオ18・19）。

平和のための祈り

主の祈りのあと司祭がとなえる祈りのなかでは、罪と悪から解放されるよう、また教会に一致と平和を与え給うよう祈る。ここにいう平和とは「この世が与えるものでなく」、キリストがお与えになるもの。平和とは戦争がないだけでなく、人と人との和解、それに神と和睦すること、聖書が教える平和とはそういう平和である。



旧約時代には「平和のためのいけにえ」とか「親しみのいけにえ」とかよばれるものがあった。これは終りに全員での食事を伴うものであった。

旧約のいけにえには契約の更新、罪のあがない、一致の食事から成っていたが、これらは全部「世の罪をとり除く小羊」のいけにえのなかに集中されている。

主の食事

聖体拝領は、将来起こるべきこと、終りの日に現われるべきことを今日のものとし、〝記念する〟ものである。イエズスは弟子たちに約束している。

「あなた達は、私のかずかずの試練のとき、絶えずいっしょに踏みとどまった。それで私の父が私に王権を委ねて下さったように私もあなた達に私の王権を委ねる。あなた達は私の国で私の食卓について、飲食を共にするであろう』（ルカ22・28—30）。

この食卓にはだれでも招かれる。アブラハムの子孫でなくても「多くの人が、東、西から来て天国の寝席に入る」（マテオ8・11）。

この寝席には、遠くにいる人、すなわち招かれる資格がないと思われていた人も招かれる。王子のため婚宴のたとえはそれを教えている。招かれるべくして招かれた人が、招待をことわってしまったのに対し、ちまたにいた放浪者が寝席を満たすことになる。ただし礼服をつけるのを怠った者は追出される（マテオ22・1—13）。

拝領が終わると、沈黙のうちに主を仰ぎ見る。エリア預言者がホレブの山で主を仰ぎ見た時のように（列王前19・12）。

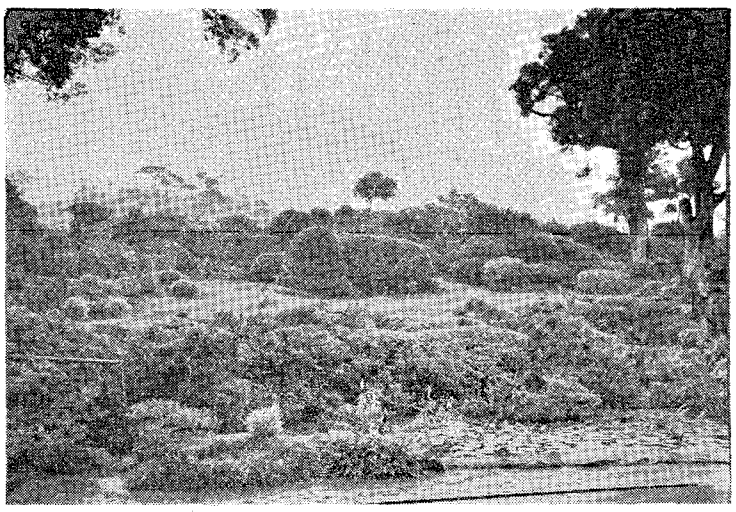
祝福

司祭は会衆を祝福する。祝福を与えるのは実は神につかわされた大司祭キリストである（使3・26）。この権能は司祭に委ねられる（ロマ15・19）。なおキリスト者は互いに祝福し合うものである（ペトロ前3・8—9）。だから司祭は使徒として、また兄弟のひとりとして会衆を祝福する。

連載随筆　昨日今日（3）

金龍寺の庭

河東野菊庵



五十歳の半ばを過ぎてからは、やりかけた読書を少しでも進めようという気持が強く、庭を見に行くほどの余裕を失ってしまったが、四、五年前までは、暇さえあれば福岡周辺の寺を訪ね、庭を見ることを楽しみとしていた。

いまも印象に残っているのは、糸島郡前原町にある金龍寺の庭である。ここでは歌会をひらいたことがあり、そのときアララギの歌人で、昨年故人となった大牟田の山木和夫さんに会い、評価のことで激しい論戦を交えたので、そういう意味からもこの寺の名はとくに忘れることができないようだ。

金龍寺は、室町から桃山時代にかけて栄えた糸島の豪族、原田氏の菩提寺で、庭は厘裡の座敷の前に、高祖山を背景にして大きく広がっている。

古代の日本人は自然を神と考えたから、神をまつるために池を設け、石組を行った。やがて神が後退し、自然が観賞の対象になり、そこで、はじめて芸術としての庭が生まれたが、禅宗に庭を持つ寺が多いのは、平安以後、仏教の思想を背景に、庭を作るようになったことにかかわりがありそうだ。

昨年、糸島の知人に会いに行ったので、ついでに金龍寺に足を運び、久しぶりに庭を見せてもらった。

その日はちょうど小雨のあとで、高祖山は雲に隠れて見えなかったが、座敷のすぐ前にある小さな池、そのさきのツツジ、松、梅などを具合よく植えこんだ築山が、しっとりとうるおっていた。もし天気がよければ、築山の向うに高祖山が見え、庭はいっそう奥深く、雄大な眺めを見せてくれたはずである。

座敷に座って、古くからあった池を中心にして、この庭を作った人、高祖山をおおっていた裏がうすれ、こんもりとした山の姿が、水墨画そのままに浮かびあがってきた。私たちは一瞬、その幻のような美しさに声をあげ、大自然の造型の妙を息を呑んで見守ったが、やがて山は、再び流れ漂う雲の中に、その姿を没していったのだった。（写真は金龍寺の庭）

という住職の、『平安時代の〝作庭記〟という本に〝乞はんに従う〟ということが書いてありますが、これは〝自然のこころを、謙虚に受け入れて庭を作れ〟ということですよ』という話を聞き、寺に残っている古文書などを見せてもらっている間に、思いがけなく、高祖山をおおっていた裏がうすれ、こんもりとした山の姿が、水墨画そのままに浮かびあがってきた。私たちは一瞬、その幻のような美しさに声をあげ、大自然の造型の妙を息を呑んで見守ったが、やがて山は、再び流れ漂う雲の中に、その姿を没していった。（写真は金龍寺の庭）

今月おすすめする本

「切支丹の里」

遠藤周作著
人文書院、二一三ページ
六八〇円

『切支丹の里』でおよそ拷問、死の恐怖、これらは、迫害のもとで命をかけて信仰を守りぬいた強者と拷問の恐ろしさに心ならずも棄教していった弱者の姿を描き出している。著者は、これら強者と弱者とを対比させながらキリスト教が本当に日本の風土に根をおろしているかを問おうとしているが、史実に基づいているので、ある意味では彼の小説よりおもしろい。

秀吉によるキリシタン禁令がでた一五八七年、日本全土にはなお三十万ものキリシタンがいたといわれる。その中には西坂の刑場で栄光への旅についた二十六聖人も交っている。迫害という試金石がおかれたとき、かれらは自らの信仰の真実性を問わねばならなくなった。おそろしい責苦、家族にまかせておよび拷問、死の恐怖、これらを前に信じる者の顔を踏んでいく。

著者は、これら転びの子孫であるかくれ切支丹をたずねて、長崎周辺から五島、生月へと歩きまわり、棄教した人々が、どこに救いを求めていったかを知ろうとした。かくれ切支丹の礼拝対象物である納戸神を見、負い目をもつかれらにとって、神はきびしい父としてしかとらえられなかったことを知る。そしてかれらが求めたのは、なんでもゆるしてくれる母、聖母マリアであったという。

著者は、キリスト教が父母的であり、新約聖書中に登場してくる人の多くが、転び者か、あるいはそれに類する弱い者であったことを指摘し、われわれの注意をうながしているが、著者がこの本でいいたいことは、これであったろうか。

桜

若生真佐江

花のもと
ひと立ち
ひと歩み
みなさりげなくありしかば
われもまた
花びら仰ぎ
陽に向い道を行きたり

（ドン・ボスコ社版、詩集「復活祭」より）

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話　代表　㊷0568

耳できく聖書
カトリック大全集
17巻
解説書つき／各巻¥1、900
第1回発売　3月25日
カセットテープで有名なポニーの「カトリック大全集」を書院、コーナーで、ご来店のかたに自由にお聞きいただいています。
教会、学校等にご利用ください。
大名町
聖パウロ書院
TEL 74—4588
岩田屋5階
セント・ポール・コーナー

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

広報の日

情報公害におぼれるな

神の多種多様な知恵に学ぼう

ことしの世界広報の日は5月23日（主の昇天の主日）です。日本の広報司教委員会では、この日の運動テーマとしてカトリック新聞、YBU（善き牧者の運動本部）のラジオ・テレビを「よもう・みよう・きこう」ということにきめられました。

ところで、みなさんもご承知のように、現在の世界は種々な情報がマスメディアを介してはんらんし、地球の上を縦横にとびまわっています。おかげでどんな地球の片隅で起こった出来事でもすぐ知ることができ、地球はおろか月の世界のことでもいながらにして見ることができる時代になりました。しかし、あまりにも情報が多すぎるため、どれが正しいのか、どれが本当かと判断しているいとまもないほどです。そしてこれらの雑多な情報が遠慮会釈もなく茶の間に侵入して、知らず知らずのうちに、情報の洪水におぼれ、うっかりすると癲癇（たいはい）のヘドロの中に沈んでニッチもサッチもならなくなってしまいます。なぜでしょうか。それはその情報を無批判に受け入れ、ただ興味本位に吸収するため、情報公害のあわれな犠牲者になり果ててしまうのです。こういう家庭ではカトリック新聞よりもドギツイ週刊誌の暴露記事を楽しみ、心のともしびや有益なテレビ番組よりも、よろめきメロドラマやあやしい深夜番組にうつつをぬかし、教会の重要な出来事よりもだれかさんとだれかさんが結婚したり離婚したりするほうがより重大な関心事であり、家族そろっての夕の祈りは洋画劇場であえなく消滅してしまいます。もちろん人間に娯楽が必要なことはいうまでもありませんが、まず信者としての義務を果たすことが第一であり、自分や家族の救霊に重大な影響を及ぼすものに対しては、断呼とした処置をとることが大切でありましょう。本末転倒、価値の転倒は家庭や個人の救霊を破壊するのです。

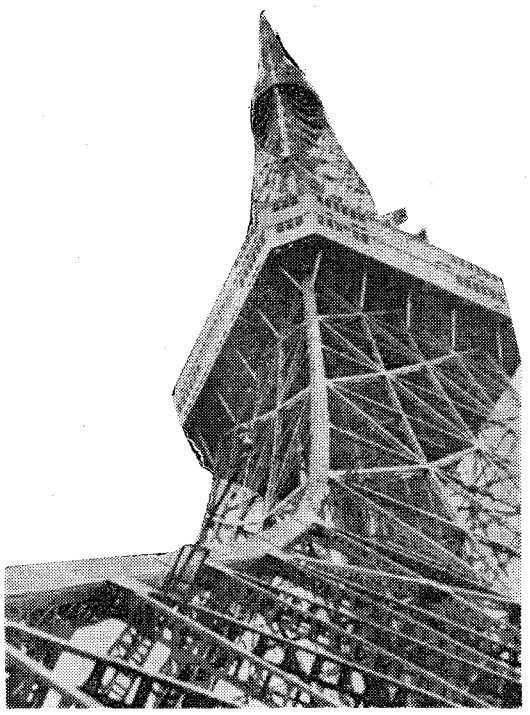
そこでいかにして批判力を養なうか、家庭や子供たちを台なしにしないためにはなにをすべきでしょうか。

聖アウグスチヌスは若いころ、頽廃的な生活をつづけ、母を苦しめていました。しかしその非を悟ったかれは一日、已が罪への悔恨にくれていたとき「取って読め」という子供の声を何度も耳にしました。かれはあふれる涙をふいて立ちあがり、これは聖書をひらいて私が最初に見る章を読めという神の命令に外ならないと考え、あの有名なロマ書十三章の「夜が更けて日が近づいた。だから闇におこなわれた業をすて光の甲（よろい）をつけよ……」の箇所を読み、ついに回心を得たのでした。

私たちもできるだけ、聖書やカトリック出版物に親しみ、心の糧といたしましょう。聖パウロはティモテオ後の手紙にこう言っています。「聖書は、キリスト・イエスによる信仰によって、あなたに救いの知恵をさずけるものである。聖書はみな神の霊感を受けたものであって、教えのために、いましめのために、矯め直すために正義を教えるために有益である。こうして神の人は完成し、すべての善をするために備えられる。（四―14～17）」

また、イエズスさまは種まきのたとえの中で、ユダヤ人に対し、「かれらは、見ても見ず、聞いても聞かず理解しようともしない」といわれ、弟子たちには、あなたたちの目は、見えるからしあわせであり、耳は聞えるからしあわせである」といわれました。わたしたちも心の目、心の耳をもって秘跡にあずかり、主のみことばを聞き、この新しい現代的手段であるマスメディアをよく利用して、神の多種多様の知恵が教会によって（エフニゾ三―10）多く人々に知られるように祈ると同時に、使徒職のさまざまな活動に際して、広報機関の活用に一致協力いたしましょう。広報はパウロ六世が言われたように「全人類とすべての人間への奉仕」（ポプロールム・プログレシオ）という目的をもっていることを銘記いたしましょう。

（広報室）



5月5日に『召命の日』

熊本地区では「召命の日」の行事を、五月五日こどもの日に、手取教会でひらく。青少年、父兄に司祭職、修道生活への関心を高めるためで、午前十一時から平田司教をかこんで県内司祭の共同ミサ昼食後、信徒会館ホールで司祭・修道者の体験談がひろうされ聖体降福式でおわることになっている。

テレビ　ラジオ　放送番組

カトリック放送番組『心のともしび』の放送時間はつぎの通り。

テレビ福岡放送。5月第1週までは土曜（前8・30～45）と日曜（前6・45～7）。第2週以降は金曜（前10・30～45）と土曜（8・30～45）

ラジオ福岡RKB。月～土曜、前6・40～45

ラジオ熊本RKK。月水金曜、前10・25～30

修道院めぐり

幼きイエズス修道会　福岡修道院

福岡市片江神松寺

ここは福岡市片江神松寺、サン・スルピス大神学校構内の一隅。明かるい木立の緑に映えて、小さい簡素な建て物がある。これが『幼きイエズス修道会福岡修道院』である。

院長は平野きみさん（円内写真）、三十九歳。ここにきて、ようやく一年経ったばかり。その前は奄美大島、名瀬の天使園にいた。幼稚園と乳児園あわせて十年間、とくにハンセン氏病の未感染乳児を収容している乳児園は忙がしかった。一人ひとりを、抱くようにして世話しなければならない乳児二十人に、シスターは十三人。祈りもミサも交替、黙想も落ちついてできなかった。

それにくらべると、福岡修道院は、大神学校のなかで炊事、洗濯など、神学生の身のまわりいっさいの世話をするのが仕事。活動的な世界から、地味な奉仕の場に移行したわけだ。当初はなにかと心配や悩みが多かったようだが、『一年たったいまでは心からこの仕事に誇りが持てるようになりました』と胸をはって語っていた。

幼きイエズス修道会がここに来たのは昭和三十二年。この修道会は、フランスの一小教区で創立され、日本に来たのは明治初年。本来は社会事業と教育事業を主として、福岡修道院のような仕事に従事することもあるという。

いまこの修道院で働いているシスターは五人。いずれも、仕事、祈りのすべてを神学生のために捧げて、日々に愛徳の行（ぎょう）を積み重ねている。だから神学生が司祭になり、はじめてミサを立てる姿を見るのが最大の喜び、また何かのおりに神学生から感謝のことばを聞くと、涙がこぼれるほど嬉しいともいうのである。

今日、修道会一般が使徒的な活動に向っているなかで、この人たちの仕事は、ややもすると時代に逆行するもののように受けとられがち。だが、そうであればなおのこと、司祭養成の蔭の力となっているその努力は貴重であり、高く評価されてよいのではあるまいか。

5月

1日（土）　聖ヨゼフ勤労者

メーデーは勤労者の祭典。われわれは奴れい根生でなく、人間的なよろこびを得られるような勤労を望みたい。

熊本地区で布教研修会（3日まで）

2日（日）　復活第4主日

よい羊飼である教会は、迷った羊を探して、全世界に、くまなく出かけてゆく。文明から見はなされた未開の地にまでも。一方、ビル街のうるおいのない仕事場でうえ、かわいている多くの人をオアシスにまでみちびくために。

きょうは第8回「世界召命祈願の日」。人々の救いのために生涯をささげる司祭、修道者が増加するよう祈る。

福岡地区召命の日の行事（12時半から雙葉学園で）

男子クルシリヨ開く（北九州市八王寺教会で、5日まで）

3日（月）　憲法記念日

5日（水）　こどもの日

こどもを交通災害から守る。それと同時に、こどもの心をむしばむあらゆる害毒から守るのは、おとなの義務だ。

熊本地区召命の日の行事（11時から手取教会で）

9日（日）　復活第5主日

「わたしは、すべてを新しくする。人間の社会を新しくするには、まず個人主義を捨てること、愛と奉仕にもとづく真の共同体を打ちたてること。それこそヨハネが幻のなかに見た「新しい天、新しい地」である。

大名町教会で堅信

16日（日）　復活第6主日

キリストと共に復活したものは、神がお住まいになる聖所である。これは神の栄光に照らされるところ、聖霊によってみちびかれる神殿である。

人吉教会で堅信

17日（月）～22日（土）　日本司教協議会の定例会議

23日（月）　主の昇天

昇天とは、キリストが御父から永遠の栄光をうけたことである。キリストによる世界支配と革新がはじまったことでもある。

広報の日

29日（土）　福岡大神学院でトンスラの式

30日（月）　聖霊降臨の主日

聖霊は息吹きである。死んだものに生命を吹きこむもの、冷えたものを暖め、汚れたものをきよめ、心をやわらげ、乱れを直すもの。われわれが天の神にむかって「神よ、父よ」と呼ぶことができるのは、聖霊のめぐみによる。

戸畑教会で堅信

31日（月）　元后聖母の記念日

聖体礼拝

第1日曜　久留米教会
第2日曜　天神町教会
第4日曜　熊本恵楓園
第5日曜　カノッサ修道院
熊本天使園修道院

祈禱の使徒会

【一般意向】　無神論にうち勝つ効果的な方法の発見のため。
【布教意向】　キリストの福音を説くことが、布教事業の中で主要な位置を占めるように。

スチールデスク・イス
会議用テーブル
折りたたみイス
ロッカー
フアイリニグキヤビット
物品棚
本棚
金庫
整理庫
学童用デスク・イス
ビシブルレコーダー
他全てがそろっています。

スチールデスク・椅子

シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
TEL (092) 52―5327

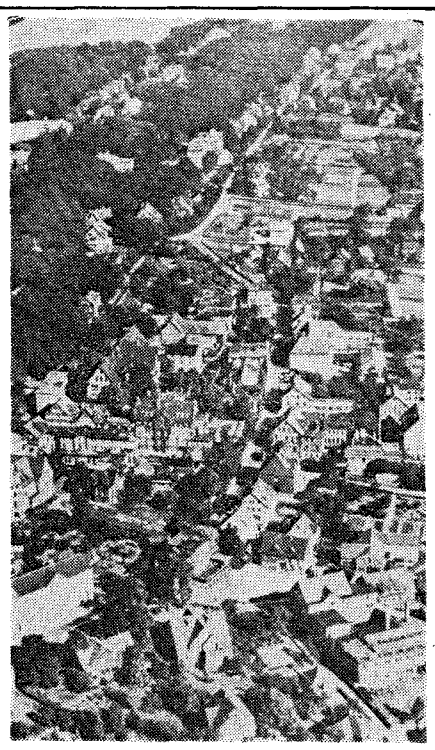
事務機械・消耗品
卓上電子計算機
和文タイプライター
欧文タイプライター
謄写輪転機
トーシヤフアックス
リコー複写機
記録計算機
裁断器穿孔器他
感光紙　液
謄写インク・原紙
タイプリボン
記録紙
テープライター
ファイル用紙
アルバム
他全般

放送・音響装置　教会　幼稚園　学校

生涯独身で心身障害者に尽くす婦人たち

ベーテルで見た施設と病院

遠城寺宗徳



ベーテルの一部

(一) 心身障害者の町

遠城寺　宗徳

四年ほど前の初夏のころであった。私は家内といっしょに、曽遊のドイツを一カ月間旅行した。ベーテルを訪れたのもこの時であった。

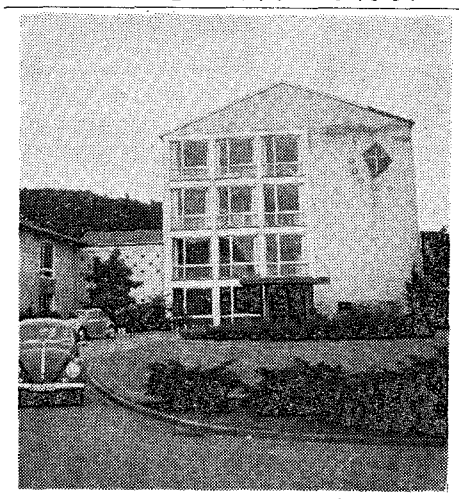
ベーテルは、てんかんと心身障害者の町で、正しく言えばボーデルシウングの施設といい、一〇〇年ほど前にビーレフェルドのある金持ちが、てんかんの子どもの不幸をみかねて、はじめは約一四人の患者を農家に収容したことからはじまったというはなしである。そして一八七二年からボーデルシウイングという牧師さんがこのあとを継ぎ、その後、息子や甥ごさんなどがあとを継いで現在に至っているが、世界的に有名な由緒の古い施設である。

町は約一二平方キロもあるという広範な丘陵地帯にひろがり、緑につつまれた一地区であるが、その中にこれらの障害児が、病気の種類別、障害別、年令別、男女別などで、点在している六〇ぐらいのハウスに収容されている。そのハウスにはハンス・マッター（家の母）といわれる婦人がいて、その下に何人かのシスター（看護助手）がおり、この人たちが家族的な暖いふんい気を作っている。

ここは退院のない施設で、これらの人々は一生をここで惜しみなく働き、そして幸福をかみしめながら生きていくのである。この町には、病院、教会、集会場などがあり、また庭師、鉄工、裁縫、製靴、洗濯などのほか、いろいろな種類の下請工場が散在している。商店街もあって、食料品店や雑貨屋、デパートなどがならび、町内には看護婦寄宿舎、老人ホームなども散在している。

ベーテルではこれらの障害の人たちを、年令にかかわらずすべて子ども（キンド）と呼んでいる。したがってここには七〇歳の子どももいるわけである。この人たちを世話するために四五七人のディアコニッセン（婦人）がいる。この婦人たちは結婚できない掟で、終生をこの仕事に打ちこみ、ここで働き、ここで死ぬので、この婦人たちの眠る墓地も設けられている。またディアコーネとよばれる男の人たちが一四二人いた。男の方は結婚してもよろしいが、奥さんはやはりここで働かねばならないのだそうである。

このほかに医師が八〇人、教師が八〇人、それから精神病看護者が三〇人、看護婦、いわゆるシスターとよばれる者が一三七人―このように、ベーテルには、てんかん、その他の心身障害児四〇〇〇人、それを世話する人たちが三〇〇〇人いて、あわせると七〇〇〇人の人口になる。



てんかん病院

(二) てんかん病院

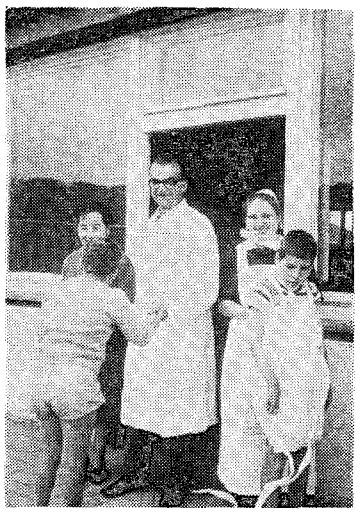
ここの費用はどうなっているのか。大体七割は国から、あとの三割は教会、その他一般の篤志家の寄捨によるものだそうである。

ドイツの家庭ではたいていベーテルのことを知っていて、子どもたちはクリスマスのときなど、ときどきに微細な献金をしたり、あるいは不用な学用品を送ったりすることを、むしろ誇りに思っている。また病気によっては、疾病保険や児童保護などの方からも支払われて、患家が自分から払う心配はないようだった。

ボーデルシウイング財団は、ベーテルのほかにも、ドイツ国内の他の土地に三カ所ほど同様の施設をもっているが、何といってもベーテルが発祥の地であり、この種事業のふるさとでもあるのだ。

まだ陽が高いので、私たちはレンクさんの案内で町を見学した。ここではドクター・キスリングという脳波の専門家が主任をしていて、院内を案内してくれた。この中にはいろいろな検査室、それから男女にわけた作業療法の設備が完備しており、特殊学校もあって、そこの先生と話し合ったが、ここの学校の教育は子どもを中学に入れるとか、高校にやるとか、また大学に進ませるとか、そういうことは全く望まない。それぞれの子どもの能力に応じて、それを伸ばしてゆくのが本旨であるという。まことに同感である。

ついでに各ハウスも回った。たいていい二〇人から六〇人ぐらいで一家をなし、そこにはハウス・ムッターがいて、何人かの婦人と世話をし、また作業の指導をしていた。名刺印刷、名刺の箱貼り、あるいは編球つくり、多少器用なものは編み物をやっている。男子のハウスには男のディアコーネがおり、奥さんと二人で子どもの世話をする。全く団らんの家庭のようである。庭には犬が日なたぼっこをし、にわとりが嬉々として歩きのどかな情景であった。ここでは病人も健康者も動物もみないっしょに、平和な生活を楽しんでいた。



写真はニュー・パトモス重身障害児病院の玄関。院長と患児たち

(三) 差別のない町

病人も健康者もみな人間であるというのが、ベーテルの精神である。病人も健康者も仲よく、賢い人、愚かな人など何の差異なく生きてゆくさまを見て、どの世の中もかくあるべしと考えた。

道行く人の顔は明るく、みな笑いかけているようである。脳性小児マヒの子どもが、ふつうの子どもと楽しくテニスやバレーをして遊んでいる。ベーテルではすべての人が同じレベルの町民として暮しているのである。こここそ人間生活の理想的環境ではないかとさえ思った。

デパートに入った。なかなか立派なものである。計算機のそばにいて金を扱う娘さんは健康者で、気の利いた、きびきびしたお嬢さんであった。またベーテルでは、外では通用しないこだけの紙幣が発行されている。それから警察や消防署、郵便局などもあって、一つの独立の町の機構をもっている。町はどこも掃除がゆきとどき清潔である。ところどころ造園もあって、きれいな花が咲いていた。造園研究所もあるそうである。道ばたで、障害の人が手ばさみで草を刈っている姿などもみうけられた。

私たちが泊めてもらったホスピッツは、見学者やここにいる人たちを尋ねてくる親類の人々のために設けられた簡素な宿舎で、部屋は粗末、サービスもほとんど人の気配さえないくらいであるが、寝具はきわめて清潔で気持がよい。夕食の時間になって、どこで食べるのかわからないので、いろいろと考えたあげく、事務所のある本館へ行ってみたらそこに食堂があった。食堂にはいくつかのテーブルがあって、青年男女が集って楽しく語り合いながらごはんを食べ、あるテーブルでは賛美歌をうたっているグループもあった。そのうちの一つに私たちは坐ったがどうしたらよいかわからないでいると、一人の青年がやってきて何を食べるかと聞いて、皿に食べものを盛ってきてくれた。ここではすべてがセルフサービスなのである。

(四) 患者の涙を拭く院長に感激

出発前に財団事務所にいって礼をのべ宿泊費をたずねたところ二人で二六・四マルクだという。あまり安いので私は相当額の寄付金を出したが、「ここではそんな多額の寄付はうけない、零細なお金をできるだけ多くの人々から寄付してもらいたいのだ」という。それでは五〇マルク出しておつりの残金だけを献金して帰った。

あくる日ラッシュケさんが運転してニューパトモスという重症心身障害児の病院に送ってくれた。そこではドクター・フロートという人が気持よく迎えてくれたが、この人は非常な日本びいきらしく部屋にはこけし、浮世絵、日本から来た客の名刺などがたくさんあって、それをいちいち私に見せるのであった。そして帰ったら近江学園の糸田氏によろしく言ってくれというようなことづけまでうけた。その後糸田氏が亡くなられたことを知り、このときのことを伝える機会がないままになったことを申しわけなく思っている。

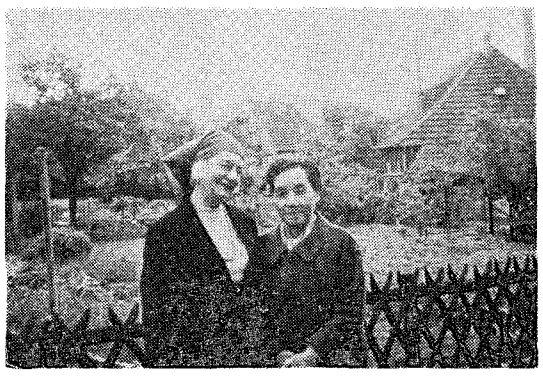
ニューパトモスは一九五八年に建築された新しい施設であった。院長ドクター・フロートは精神科の医者で、構内に住宅をもち、生活の全部をこの事業の運営にあてている熱心家である。ここには三歳から三〇歳までの子ども一〇〇人を収容し、主な病気はてんかん脳性マヒ、精薄、代謝障害、それから身体発育障害などである。

職員は医者が、院長のフロート氏一人で、そのほかに看護婦が三十五人いた。ここでは院長のほかにハウス・ムッターがいて、かいがいしく病院を差配していたが、これはちょうどわが国でいう看護婦長に相当するもののようであった。ここもやはり退院のない病院である。

この施設にいろいろな種類の子どもがいて、家内のハンドバッグをかすめとって、どうしてもはなさない子どもがいた。院長にとりかえしてもらったが、まだ院内を回っているあいだに、患者の涙を院長が自分のハンカチで拭いてやる情景を見て、私はこれだ、こんな施設の医者や看護婦には、この愛情がなければならないと強く感じたのであった。

施設にはことばのできない子どもを教育する学校がある。教育は一日に一時間ぐらい、また排泄の訓練というのがあって、二時間ごとに便器にしばりつけてエプロンのようなものを着せ、それにひもをつけてしばりつけていた。くすりを飲む人には食事の中に混ぜてやる。したがって調理室のなかに薬局があったが、これは感心できないことのように思った。

ここで感じたことのもう一つはゾンデで鼻から栄養物を入れて何年も生きている子どもが何人かいたこと。全く息をしているだけで口もきけない、動きもできないという患者である。いったいこれでよいのかという感じがしたが、院長は「母は一日でも長くとおもう感じが強いのだ」といっていた。考えさせられる問題である。



(五) 精薄老女の境地

ニューパトモスの見学を終えた私たちは、フロート院長の車に送られてビーレフェルドの駅からハンブルグ行きの汽車に乗った。

あるハウスを見学中、ピアノの音が聞こえるのでのぞいてみると、暗い部屋に六十歳ぐらいの精薄の老女がいて、ただひとりピアノをひいていた。だれかに聞かせるというのではなく、自分だけで楽しんでいるのである。このさまを見たとき、こういう老女にも自分自らの楽しみと境地があるということを感じたが、汽車に乗ってからも、私の頭からこのピアノをひく老女の姿はなかなか消えようとはしなかった。

（写真は遠城寺夫人と案内嬢）

（えんじょうじ・むねのり＝久留米大学学長、九州大学名誉教授）

聖心の使徒（昭和四十六年五月号）

マリア様の御紹介……井手雄太郎
五月の意向　無神論の方がまだしも…今田　健美
福音の説教（五月の布教の意向）……小林　一純
黙想　ロザリオの珠（十四）……河野　義祐
おたあジュリアの消息……H・チースリク
写真特集　神津島のジュリア祭……
神津島のジュリア祭……
ジュリア祭のいきさつ……田村　襄次
おたあジュリア顕彰会の発足について…松本一
奇　跡……桜井徳三郎
ジュリア祭への道……杉田栄次郎
ジュリア祭のためにはたらいて……梅田　勝海
神津島への巡礼……小山　泰三
神津島の子供たちが見たジュリア祭……
母の日に父を想うこと……池渕　鈴江
聖書案内……
ポスト……

購読料　一部〒共　一カ年　八七〇円

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 (57) 2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL (65)・4718

辞書は三省堂

幸福な結婚めざして

福岡で講座ひらく

これから結婚しようとしている人たちがりっぱな家庭、幸福な家庭をきずくための心構えを養うよう準備をする結婚講座が、福岡結婚講座センターの主催、西日本新聞社の後援でひらかれる。

期間は来る五月二十七日から六月十九日まで、毎週木曜と土曜、午後七時～九時まで。会場は福岡市大名町教会の旧聖堂内。参加できるのは婚約者、または結婚を前提として交際している人、結婚後一年ぐらいの人、原則として二人いっしょに参加することになっており、参加者の両親も出席できる。

講義内容と期日は左のとおり。「結婚準備とは」。「婚約時代」＝5月27日。「愛に生きる」、「新婚時代」＝5月29日。「夫たること、父たること」「妻たること母たること」＝6月3日。「よき人生の門出」＝5日。「円熟した人」「社会と家庭」10日。「よりよき子供を生むため」＝12日。「結婚の意義と価値」「家庭経済（女性の立場）」＝17日。「家庭経済（男性の立場）」＝19日。

申込みは5月26日までに、福岡市美野島2－5－29、電43－1419、または福岡市大名2－7－7、電74－3687、いずれもカトリック教会。

伊万里教会移転

幼稚園も新設

佐賀県伊万里市のカトリック教会（主任サルデイ神父、ミラノ会）はこれまでの運池町から約五百メートル離れた二里町に移転した聖堂（三八坪）司祭館（六九坪）は内外ともに新装したが、この機会に「伊万里カトリック幼稚園」も新設、この四月には定員八十名に近い園児があつまった。園は九十七坪、三教室で、教諭は園長以下四名（主任は小松あや子先生）

三月二十八日に聖堂祝別とミサ、平田司教がおこない、午後に市長ら来賓多数を招いて新幼稚園の落成式がひらかれた。（写真＝左がサルデイ神父）

信徒会館祝別

佐賀教会の信徒会館の祝別式は四月十八日、堅信式（二十八名受堅）につづいて平田司教によっておこなわれた。

神学講座盛況

福岡の大名町教会で、四月十三日から毎週火曜日、午後三時三十分から六時三十分まで、『神学講座』がひらかれているが、一般信徒約十数名のほか修者道約四十名が熱心に聴講している。六月二十九日までつづく。

使徒職群像

中野尚夫氏（熊本市手取教会）

個人接触が布教の根本

『熊本の人間はモッコスですよ、引っこみ思案で、新しいものにすぐとびつくことはしません。だからじっくり時間をかけて堅実にゆくのがいいでしょう』

頭のほうはすっかりうすいが、第一線の指揮官といった感じの中野尚夫さん。六十七歳。熊本人になりきっているが、生まれは新潟若いときはそうとう暴れん坊だったらしい。共産党に入って地下活動もやったが、三・一五でつかまって刑務所に二年。昭和のはじめのこと。

病気療養中、二十六歳でカトリックに入信。とことんまで神父と議論したあげくの受洗だった。

『東京では有名な戸塚文卿神父と同じ屋根の下に住んでいましたが叱られてばかりでした』と笑う五十九歳で不動産開業の試験をうけ、六十二歳で独立。いまでは九州土地株式会社の社長。ただし社員はひとり。『私は教会でひとりきりの信者だけが働くのには賛成しない。少しか働けない人もいるが、それをものまさずひろいあげるべきではないか』終戦後佐賀にいたときは、レジオの創立に参加して活躍した。

『私は商店に勤めている人たちを、週一回の休みの日に集めて、使徒職グループを作りたい。理髪屋、電気屋、肉屋の若い人たちでも、黙想会や練成会をかさねて、きたえてゆけば、周囲の人に働きかけるりっぱな使徒になります』

『信者全員が使徒になる』という理想、エリートの養成で終ってはならないのだ。五月はじめに、東京からリバス神父をよび、熊本で布教研修会をひらくことになったのも、中野さんのつよい提案があったから。『ばくぜんとしたムード作りでは布教はできない。個人との接触、これが布教の基本だ』

児童福祉の献金

児童福祉のために教会はじめ学校、幼稚園、保育園からの多大ご協力をいただき、総額は100万円を越えました。あつくお礼申しあげます。（教区会計）・（川口神父）

大名町	10,400円	門司港	2,500	玉名	2,400
浄水通	8,701	小倉	21,225	八代	6,000
光ケ丘	6,415	湯川	7,189	大神学院	4,200
西新	5,500	戸畑	19,500	雙葉学園	204,587
美野島	1,666	若松	6,000	久留米信愛学院	3,029
高宮	10,250	天神町	14,100	熊本 〃	50,000
吉塚	2,500	黒崎	10,000	大牟田明光学園	12,700
茶山	5,500	八王寺	9,780	八代白百合学園	9,500
箱崎	2,282	本城	2,075	小倉カトリック幼	43,000
大楠	2,201	水巻	3,500	宮尾 〃	31,680
東田島	1,950	直方	13,000	二日市 〃	35,461
古賀	6,156	飯塚	2,000	高宮 〃	13,512
二日市	3,254	田川	1,560	西新 〃	10,950
久留米	19,100	行橋	4,646	八王寺 〃	40,680
大牟田	4,300	新田原	12,711	田川 〃	28,100
吉野	3,190	手取	9,000	若松天使園	30,000
今村	16,200	荒尾	400	戸畑 〃	70,900
本郷	8,550	人吉	9,750	吉野天使幼稚園	7,262
小郡	1,275	本渡	6,830	水巻聖母 〃	5,000
呼子	2,947	健軍	4,000	久留米 〃 〃	46,994
馬島	2,900	帯山	2,500	人吉幼稚園	18,000
佐賀	3,000	水俣	1,900	光ケ丘 〃	26,000
鳥栖	1,500	大江	2,500	大濠 〃	8,500
多久	1,925	崎津	5,500	福岡海星マリア 〃	22,500
門司	5,103	島崎	22,500	カリタス聖クララ 〃	20,300
				健軍さゆり園	8,027
				福音の光保育園	7,902
				計	1,123,911円

〔福岡カトリック社研報告〕

少年問題

社研4月例会は11日、主の復活の主日午後3時から6時まで大名町教会で。テーマは小山家裁調査官を囲んで「少年問題。」

まず非行少年とよばれている者に社会が権威主義的な態度で対する一方、理解にもとづかぬセンチメンタルな対し方をしているのではないか。

ここで18歳の男子と20歳の女子の非行ケースをあげて、どこに原因があったと推察されるかを検討。原因の一つ、それは愛情をふくむきびしさの欠除があげられ第二に両親が子どもに安定を与えていると誤信して、その実子どもにとっては見せかけの安定にすぎなかったこと、かれらは両親の誤信にショックを与えようとして、非行に走るのではないか。

生活の安定とはもちろん、政治的経済的ゆたかさではなく、子どもに真の生きがいをつかませることではないか。

よくわれわれは「この子はいま反抗期だから」というが、そういう心理的解釈を下して子どもを判定するのは、百害あって一利なしであろう。大切なのは家庭内の人間関係の正常化ではないか母親はよく父親に愛想をつかした結果子どもに期待をかけすぎる教育ママ的行動をとるが、これも非行に追いやる原因ではなかろうか。

現代ッ子の通弊として、年の割に社会への責任感が育っていないで、すべてを社会に責任転嫁している。各人の自由意志の働きを忘れてはなるまい。

新小神学生

福岡小神学校（校長・中浜一男神父、福岡市浄水通三八）への新入生は四名。氏名、出身教会は左のとおり。いずれも中学一年生。

出浦修（小倉）徳富幸治（小倉）平田繁正（本郷）舞弓正（吉塚）

同じく男子聖パウロ小神学校への新入生は八名。

阿部真理（福島）大楠勝也（大名町）平本政利（紐差）山野道徳（紐差・松本信一（平戸）永田晴幸（平戸）豊島勉（佐世保）。以上中学一年生。松岡英治（東田島）中学二年生。

今村聖母園増築

養護老人ホーム「今村聖母園」（福岡県三井郡大刀洗町大字今、社会福祉法人・カトリック福岡教区）では、日本自転車振興会から助成金をうけて、居室、作業室、集会室、霊安室の増築（三八二・六九平方メートル）をおえ、四月五日平田司教をむかえて祝別式をおこなった。総工費は千六百九万七千円で、定員は七〇名（これまでは五〇名）。園長・糸永神父は「信仰的にもめぐまれた環境のなかに、これまでよりも多くの老人を収容できるようになってうれしい」と語っていた。

総会めざして準備

SVP福岡中央理

SVP聖ビンセンシオ会中央理事会合は、四月十八日、福岡市光ケ丘教会でひらかれ三十五名が出席。まず役員改選をおこない（全員留任。山田耕司会長、山田房刀石田幹雄副会長、山田耕三郎会計）、ついで各協議会の経験と今後のビジョンをテーブル・ディスカッションの形式で発表。さらに今夏八月京都でひらかれるSVP日本総会への発題内容を検討した。この総会は「愛と正義に生きる」をテーマに、大々的にひらかることになっている。

高校生黙想会

北九州カトリック高校生会では三月二十四日から三泊四日、古賀教会で黙想会をひらいた。男女学生五十名が「苦しみをへてよろこびへ」のテーマのもとに、高校生のあり方について考え、新学年への決意をかためた。指導は有安宗治、西田邦洋の両師。

カトリック グラフ 5月号は 4月25日発売です
定価 150円 （送料 30円）
<異色対談> 川上宗薫を裸にする
修道会の若手管区長といまをときめく失神作家が誌上対決
意識不明のまま出産！ あの奇跡の妻のその後
緊急特集 舟橋聖一の問題小説を斬る
新企画 東南アジア指導者との会見記①　ステンドグラス物語】長崎記念館
【オラショ長崎】 26聖人に祈る娘　【ホームギャラリー】女流作家①
【カトリック人国記】 大分教区①　その他特集企画がいっぱい／掲載予定

大名町英語アカデミー
（福岡市大名2丁目カトリック教会内）
TEL 74－3687
教師　ハー神父　オカナー神父
ピロー神父　シュルツ神父
ライル神父　シスターモーリンその他数名
1971年中期 4月19日開講 7月7日まで（月曜と水曜）
ひる　10時－11時15分
1時30分－2時45分　授業料 5.500円
よる　6時－7時15分
7時30分－8時45分

想い出の復活節

片瀬博子

五年前エルサレムで迎えた復活節を忘れる事はできない。イスラエル戦争が起る前年、旧エルサレムはまだヨルダン領でキリスト者だけが短期間復活節に旅行することが許されていた。

あの時出会ったマリー、あなたはいまでもオリブ山上のベネディクト修道院に健在なのだろうか、「小鳥のように少食」な日本の女を想い出す事があるだろうか、手首のたくましい老女だったあなたつぎはぎだらけの黒衣、いつも驚いたようにつり上っている眉、曲った長い鼻、笑っている灰色の瞳あの修道院の部屋というよりはすきまといった方が好い小さな部屋での、簡素で平和な饗応を忘れることはできない。アルコールランプでわかしたお茶とパンの固まりとリンゴとレモン一片、、窓から見える露に数千年の樹令をもつといわれるゲッセマネの園のオリブの樹々が銀色の炎のよう。

ケデロンの谷をはさんでいま通ってきたステパノの門、古い城壁の向こうにエルサレムが陽を浴びている。あの明かりとりから数条の光りが黙示的にさし入っているエルサレム城壁内は、汚穢にみちたアラブの市場で埋められていた原始的なアラビヤ音楽、旅行者やイスラム巡礼や、兵士やもの乞いする跣足の少年達でごった返しをしている道は、迷路のようにいりくんで糞尿に汚れ唾に光っている地図を片手に行き戻りつしても、めざす聖所のあたりにはけばけばしい布や金ぴかの装飾品の店が並び、どうしても分らない。わたしは哀しかった。これはわたし自身の霊魂の状態ではなかったろうか。十字架の道も、ゴルゴタの丘もその所在すら分らなくしている欲望と貪しさと流神の迷路…そのとき、路傍で尼僧が三人明かるく談笑しているのに気がついた。たづねてみるとフランス人で、その中の一人がいまからオリブ山上に帰るというマリーだったのだ。彼女はわたしを抱えるようにして人込みの中から連れ出した。

マリーは修道院の庭のオリブといちじくの樹の根元に小鳥のためのパン屑をまき、真紅のポピイが咲き乱れている目なたの石の上にいま洗った小さな鍋や、スプンやコップをうつむけておいた。

「わたしは幸せだ。夜空は星が綺麗でエルサレムがいつもすぐ傍らにみえる」何枚かの皿には、いつも眠る前に画くという聖母子像がたどたどしい筆跡をみせていた。

それからわたし達は、籠の中にパンや腸づめや果物をつめて、オリブ山から丘伝いにベタニヤの村に出かけた。乳呑み子が餓死したばかりだというアラブ難民の家を訪ねて。観光バスも通らないその道こそ、聖書に、主の最後のエルサレム入りに仕えた驢馬をつないだと書いてあるベトハゲの村やホザナと人々がお迎えした棕梠教会が、路傍に立っている古い径だったのである。ふり返れば旧エルサレムに接してイスラエル領の高層建築がばら色に輝いている。

「イスラエル人はえらい。沙漠を緑にして泉を掘った。でも追い出されたアラブ人はどうなる?」

マリーは肩をすくめ歎息した「彼らも貧しい。わたしも貧しい」、サボテンが埃りにまみれている路傍に、ぽつりぽつり立っている汚れた箱のようなアラブの家。野に黒い羊が群れ、丘のかげ、東に遠く死海が青い幻のよう。その向うはモアブの山々だ。この道はベトレヘムに通じている。わたし達が喋る英語の片言と、フランス語の片言は、あたりで囀っている鳥の音や陽を指し、わたしを指し、自分を指していったC'est la vie わたし達は目を輝やかして見合った。まるで、遠い昔親しかった誰かに出会って名前が想い出せないように、わたしはその灰色の髪、額のしわをみた。明日も同じように、太陽が照らす白い道に影をひきながら一人で籠を提げてゆくのだろうか。

わたし達は絲杉の木立ちにさしかかった。そこを過ぎるとベタニヤの村だ。古い絲杉は世界のすべての死者の耳を集め、しんとそばだてているようだ。「ラザロよ、出てきなさい」二千年前、墓の中で腐っていたベタニヤの男に向って、この道を歩いてゆかれた方の御声をきいているかのように。

（かたせ・ひろこ＝詩人）

教養

主の復活の福音 ①

説教の中心テーマ

キリストの復活は、四福音書とも記している。しかしその出来事の周辺を明らかにすることはできない。四福音書の叙述はうまく調和できないのだ。

もともと福音書は死んで復活したキリストを信じた第二代の信者（キリストからじかに教えをうけた人を第一代信者とよぶならば）にあてられた、古い要理集から生まれたものである。だから読者にキリストの復活の事実を証明するというよりも（その考えがまったくなかったとはいえないが）むしろ新しく生まれたばかりの教会に、主の復活にふくまれた、生命のゆたかなあふれを見せようとしたのである。

主の復活は、初代教会の初期説教の中心テーマであった。使徒行録やコリント前書の十五章をよめば、その重要性が納得できる。いっぽう、四福音書の叙述にひじょうな違いがあるにしてもつぎの点は根本的に合致する。

①弟子たちは、師イエズスの姿が見えなくなったこと、とくに墓がからになっているのを知って、ショックをうけた。

②キリストは弟子たちに現れ、言葉をかわした。

③キリストを確認できた。

④弟子たちに使命がさずけられた。

神の栄光を見る目

見ないで信じる信仰

ヨハネ20・1～10

からの墓

「週の第一日、朝はやく、マリア・マグダレナ（ひとり、または他の婦人と）が墓にくる。石がころがしてあった。ひとりの若者（ひとりの天使、ふたりの人、ふたりの天使）に会う。使徒に知らせにゆけと命じられる」。以上の点をのぞくと、復活の出来事の叙述はいちじるしく相違している。

ヨハネ福音書には、三人の人物が登場する。マリア・マグダレナ、ペトロ、もう一人の弟子。

マリアは、からの墓を発見したがなかに入らず、使徒に知らせにゆき、ペトロが去ったあと身をかがめてなかをのぞいた。石がころがしてあるのを見て、体が取り去られたと思いこんだ、またかの女はキリストが復活したとはいわずただ墓がからだと告げたにすぎない。

ペトロは知らせをうけて墓に走り、からになっているのと、布がたたんであるのを発見。びっくりしたであろうが、もう一人の弟子ヨハネはそれを見て、キリストが生きていると確信した。

見るとは事実の目撃者になること。しかし肉眼で見ることに限られるのではない。同一のことでも多数の者が目撃すれば、その反応はいろいろ違うものである。

マリアは墓石がころがしてあるのを見て、体が取り去られたと判断した。ペトロは墓の中がきちんとしているのを見て、体が取られたとは考えなかったようだ。ふたりとも主の復活にまで思い及ばなかった。ヨハネだけは「見て、信じた」。からの墓という現象（しるし）から復活の神秘をとらえた。もちろんしるしがあっても信仰に達するとは限らない。

ヨハネが見るというのは、キリストのなかに現われた神の栄光を見ることである。「私たちはその栄光を見た」（1・14）。見て、そして信仰に至る道がある。さらには信仰のおかげでより深いものを見ることもできる。「信じるならば、神の栄光を見るだろう」（11・40）

もう一つ。見なくても信じることはできる。トマに言われたのはそれである。ヨハネは信者たちにそれを強調したかったのではなかろうか。

連載随筆　昨日今日 (4)

ある教訓

河東野菊庵

たまたま会った人に、私が詩を書いていることを話すと、たいていの人がいぶかしそうな顔をするさらに同人雑誌に参加していると いうと露骨に驚きの色を顔に現わす。それは五十歳の半ばを過ぎて詩を作り、しかも若い人にまじって同人雑誌に参加している稚なさに対する驚きで、この人たちは心の中で『よい歳をして、まだ詩などをもて遊んでいるのか』と笑っているに違いないのである。

いまの私は詩を好きだとは思っていない。しかし十七、八歳から書きつづけてきた詩は、着物のように身について、もはや脱ぎすてることのできないものになっているのだ。そこで、また人はこの歳になっても無名詩人でいる私を笑うに違いないが、だがあえていうなら、私がきょうまで詩を書いてきたのは、自分の教養を高めるのが目的で、そういう意味でなら、一応の目的は達したと思っている。

小学校を出て、家業の手伝いをしながら、下手な詩を書いていた私に、詩を教養として学ぶことを教えてくれたのは、青木勇という詩人であった。この人は当時の最も新しい詩とその精神を久留米にもたらした人で、この人の周囲からは、『久留派』と呼ばれ、全国に知られた詩人の集団が生まれている。

久留米市の日吉町（いまのカトリック教会附近）に、青木又三郎商店と書いた看板をあげた大きな酒屋があって、勇さんはそこの長男であった。青木家は大刀洗今村出身のカトリック教徒で、勇さんの書斎にラファエロの聖画がかかっていたことをいまも覚えているが、ある時、勇さんはこの書斎でつぎのような話を私にしてくれた。

『君は熱心に詩を書いてくるが詩は結局は才能の問題で、だれでもが詩人になれるわけではない。ここでもう一つ考えられることは詩を教養として学ぶことだ。君は小学校しか出ていないのだから、こんご自分の教養を高めるという意味で、この方向を選んだらどうだろう』

私は自分の書くものが、仲間の太学生にくらべて、知性の点でいちじるしく劣っていることに悩んでいたので、この勇さんの話にすぐ飛びついたのだった。そして勇さんの教訓は、その後ずっと私の中で生きつづけてきたのだが、そういう姿勢で詩に対してきたということは、私の生涯を通じて、何よりも幸せなことではなかったかと思うのである。

短歌　神を頼む日

吉村涼子

鮮（あたら）しき詩にふくらみしクロッカス風に揺れをりまだ寒き朝

まずしきを心せよといふ福音の声身に泌（み）みる朝の聖堂に

ひたすらに神を頼みて過ぎし日のなかにも苦しかりし日々あり

主の神の大いなる愛頼みつつわれは十字架の重さに耐へむ

はすかひに影をおとしゐるマリア像樹々の若芽の中に清（すが）しき

（大名町教会）

福岡で朝禱会の全国大会

福岡市のプロテスタントの人たちは、毎週月曜早朝七時半から、市民のために祈る集会をつづけている。朝食祈祷会とよばれるこの会は、東京、大阪はじめ全国各地で展開されているもので、ことし六月七日に福岡でこの会の全国大会がひらかれる。この大会にカトリック信者の参加がつよく望まれている。

会場は、市内草香江の日本聖公会九州教区センター、奨励者は、木村文太郎先生（西南学院教会牧師）。参加希望者は、カトリック編集部深堀神父あて。

今月おすすめする本

◇『現代カトリシズムの思想』

岩波新書・稲垣良典著＝本書は現代のカトリック思想を、神学的な背景、あるいは人間論をとおして位置づけしようと試みた本。

著者は『あとがき』で現代カトリック思想の、内部における多様性、日本文化と力トリシズムの問題、またカトリック作家についてもふれることができなかった、と言っているが、理論の追求に終始し、またやや護教的になっているという感じを受けないでもない。しかしそれはいわば瑕瑾（かきん）にすぎないもので、こんにち自らの思想を形成しようとするとき無視することのできないカトリシズムの入門書として、信徒にも一般読者にも一読をすすめたい。著者は佐賀県出身で、南山大学文学部の教授。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ　吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊷0568

耳できく聖書
カトリック大全集 17巻
解説書つき／各巻¥1,900
第1回発売　3月25日
カセットテープで有名なポニーの「カトリック大全集」を書院、コーナーで、ご来店のかたに自由にお聞きいただいています。
教会、学校等にご利用ください。
大名町
聖パウロ書院
TEL 74—4588
岩田屋5階
セント・ポール・コーナー

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

神に召された喜びをひれき

福岡・熊本で召命の日行事

人々の救いに生涯をささげる司祭、修道者の増加を祈る『世界召命祈祷の日』の行事は、五月二日午後から、福岡市御所ケ谷の雙葉学園で行われた。

この日、おりからの快晴の中を福岡地区の信者、神学生、修道者司祭が三三五集ってきて、十二時半の開会には、講堂がほとんど埋まるほどの盛会だった。

聖歌『呼ばれています』をせい唱するなかで共同ミサがはじまったが、平田司教は、

『唯物的になった今日では、身も心も神と人に捧げつくすことのすばらしさが理解されなくなった。いま大神学院の五十八人の学生の中に、福岡教区の出身者は六人しかいない。しかもその人たちが司祭になるまでは七年間待たねばならない。私たちは教皇のご要望に答えているかどうかを反省し、多くの教会と修道院で献身する人がふえるように祈らねばならない』と説教した。

ミサのあと小神学生、大神学生男女修道者の召命体験発表があり神に召されて生きる者の大きな喜びが、率直にひれきされて、参会者の胸に強く訴えた。発表にまじって明るいコーラスなどもひろうされたが、信徒を代表して鳥宮教会の坂田三郎氏は『召命の道はいばらの道であろうが、雄々しく頑張ってください。私達信徒はみなさまのために精神的・経済的援助を惜しみません』と激励のことばをおくった。

なお入口にはこの日のため、神学生と女子パウロ会のシスター、信者らが協力して作った、美しいパネルがずらりと並べられ、人目を引いていた。

【熊本地区】　熊本地区の召命の日行事は、五月五日午前十一時から、熊本市手取教会でおこなわれた。まず平田司教司式の共同ミサがあり、全員手持の弁当で楽しい食事をとったあと小郡教会の岩永神父、大神の渡辺神学生、県内八つの修道会の代表者がそれぞれの召命の体験を発表、平田司教もユーモア豊かに感銘ぶかい体験を話され、さいごに聖体降福式で三時すぎ散会した。なお各修道会苦心の展示も参加者の目をひいた。

（写真は福岡地区の修道女のコーラス）

（召命体験発表）悲しみをのりこえて

秋月弘法

去年の十二月二十七日の朝でした。前日ぼくは修道院でクリスマスをすませ、なつかしいわが家に帰ってきました。夕食のあと早めに風呂に入ってねましたが、あくる朝の六時ごろでした。近所のおばさんが、あわてた様子で母が車にひかれたことを知らせにきました。父と兄が、驚いてすぐ現場へとんでゆきました。

親類の人や近所の人たちがぞくぞく集ってきましたが、母が車にひかれたというだけで、くわしいことは何もわかりません。昼ごろ兄が病院から帰ってきました。兄はふきげんに『母さんは死ぬかもれ知ない』といって、母の衣類を持ってまた出てゆきました。

ぼくは、母がいなくなったらどうなるだろうかと思いました。そして、母に心配をかけたことを心からくやみました。母は、ぼくたち七人の兄弟をやしなうために、どんなに苦労したことでしょう。この朝も、新聞配達をするために家を出たのでした。

十三時間たちましたが、まだ母の様子はわかりません。電報で呼びよせた兄や姉の帰りを待ちながら夜をむかえました。ねどこに入って、ぼくはまた母のことを思いました。ぼくが聖パウロ会に入ったとき、いちばん喜んでくれたのは母でした。『弘法やりっぱな神父様になってね』母はそういました。そしていつも『お母さんはどんなに苦労してもよいから、いっしょうけんめい勉強しておくれ』とはげましてくれました。雨の日も、風の日も、武雄の教会へまかないとして通っていた母の、そのとき、そのときの姿が、つぎつぎに思い出され、涙があふれて枕の上に流れおちましたが、そのうち疲れて、いつのまにかねむってしまいました。

よく朝、ここをはなれてから、ぼくは、冷たくなった母の遺体を見ました。だめだったのかと思っても、母がほんとうに死んだとはどうしても信じられませんでした。昼すぎに、就職先から、姉や兄が帰ってきました。姉は母のいたいにとりすがって泣き、兄はくちびるをかんで、じっと悲しみをこらえていました。父が兄のそばに立って泣いていました。

ぼくは、ぼくが神父になることを祈ってくれた母、そして今日までぼくを育ててくれた母のことを考えると、泣いてばかりいてはならないと思いました。この悲しみをのりこえて、どんなことがあっても、母の願いをむだにしないようにと心から祈りました。

『お母さん、天国でやすらかに眠ってください。そしてぼくの召し出しが、最後までつづくようお守りください』（聖パウロ小神学校中学二年生）

6月

1日（火）　福岡地区司祭集会

6日（日）　三位一体の主日

三位一体の奥義のなかに、完全な愛である神の生命を見たい。父はすべてを子に与え、子はすべてを返えす。ご自分を無にして、人間の救いのため、つくされた御子キリストの生き方のなかに、この永遠の奥義が示されている。何と偉大な愛の奥義。

小倉教会で堅信

12日（木）　九州地区カトリック学校長会議（カトリック教育協議会主催、福岡黙想の家で）

13日（日）　キリストの聖体

聖体の秘跡を、礼拝の対象とすることは正しい。しかしわれわれ旅する者にとって、欠くことのできない糧（かて）であることも、見逃してはならない。私のうちに入り、神に似たものとし、神の愛に生きるものとするため、キリストは聖体の秘跡のなかに待機しておられる。

新田原教会で堅信

18日（金）　イエズスの聖心

御父の限りない愛を、もっとも人間的な姿であらわすものがイエズスの聖心である。手のとどかない高すぎる模範でなく、われわれの手をとって全心全霊、愛することを教える聖心である。

20日（日）　聖霊降臨後第3主日

「わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救う」。キリストのために、キリストの生き方のために、自分のすべてをささげた者だけが、もっとも充実した、価値ある生き方をつかむことができる。

古賀教会で堅信

27日（日）　聖霊降臨後第4主日

「枕するところもない」とおおせられるイエズス。安住することをきけて、常に旅する者の不自由をしのび、人々の必要に応じようとしておられるイエズス。仕える者の姿である。

聖ペトロの献金日

教区修道女連盟発会式

28日（月）　福岡大神で助祭叙階式

29日（火）　聖ペトロと聖パウロ両使徒

教会はこのふたりを教会最大の使徒として尊敬する。教会の使徒としてはたらくよう召された者―聖職者も信徒も―のかがみ。平田司教ご霊名の祝日

30日（水）　パウロ六世教皇戴冠の記念日

聖体礼拝

第1日曜　馬渡島教会
第2日曜　戸畑教会
第3日曜　人吉教会
第4日曜　美野島教会
戸畑ノートルダム修院

祈禱の使徒会

【一般意向】　告解の秘跡の尊重
【布教意向】　キリスト信者の布教への強い関心

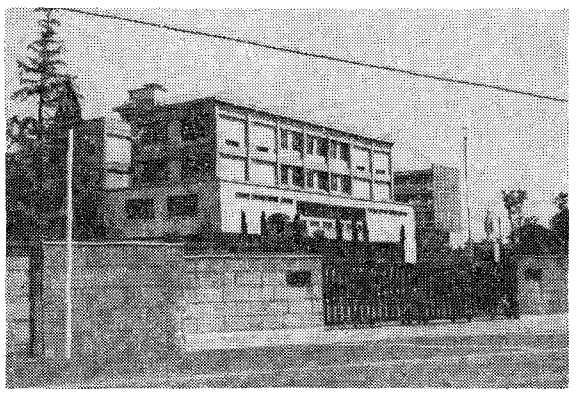
修道院めぐり　幼きイエズス会　久留米信愛修道院

久留米市御井町

『幼きイエズス修道会、久留米信愛修道院』は、久留米市御井町の『久留米信愛女学院』の中にある。

門を入るとほぼ正面に、三階建てのみごとな校舎があり、そのすぐ右横、舗装された校道の向うに白い寄宿舎の建物が見える。ここには修道院はなく、シスターたちが寝とまりするこの寄宿の二階が形だけ修道院を兼ねているのだという。

訪問した日はおり悪しく、院長をはじめ全員不在。この学院の草分けで、短大、高校、幼稚園の学長、校長、園長を兼任していると、シスターの松永キクさんが高校の受付に、一人ぽつんと座っていた。



『幼きイエズス会』は、教育社会事業に献身する修道会で、一八五九年にフランスで創立された。

この信愛修道院には、十六人のシスターがいて、女学院の先生や事務などの仕事にいそしんでいる。

この久留米信愛女学院が創立されたのは昭和三十六年。現在、短大―一七〇人、高校八〇〇人、幼稚園一七〇人の生徒と幼児が学んでいるが、松永さんは『十年の間によくここまで発展したと思います』と語っていた。

修道院にも時代の波は押し寄せ修道服がミニになるなど、大きな変化が起こっているが、ここでは内容は時代に沿って新しくなっているが、修道服は従来のとおり。これは院長や松永さんの見識なのであろう。

この修道院でも、多忙な仕事の間に、教会の公教要理や、病院や貧困者の家庭訪問が励行されているということと、文化部、園芸部、典礼部、布教部などのグループがあり、それぞれに活動していることを特記しておこう。

院長はシスター田川シゲ子さん（円内写真）長崎出身の旧信者。

リーダー黙想会

佐賀地区の25名

佐賀地区の男子信徒リーダーの黙想会が、五月二十二、二十三の両日、武教雄会でひらかれた。それぞれの教会で司祭と信徒団のあいだに立つ人たちが、共同体としての小教区を作り上げるにはどうすべきかを考えながら祈り、意見をのべ合った。指導司祭は福岡小神の中浜一男神父、参加者二十五名。

スチールデスク・イス
会議用テーブル
折りたたみイス
ロッカー
フアイリングキャビネット
物品棚
本棚
金庫
整理庫
学童用デスク・イス
ビシブルレコーダー
其の他全てがそろっています。

スチールデスク・椅子

シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
TEL (092) 52－5327

事務機械・消耗品
卓上電子計算機
和文タイプライター
欧文タイプライター
謄写輪転機
トーシヤフアックス
リコー複写機
記録計算機
裁断器穿孔器他
感光紙　液
謄写インク・原紙
タイプリボン
記録紙
テープライター
フアイル用紙
アルバム
他全般

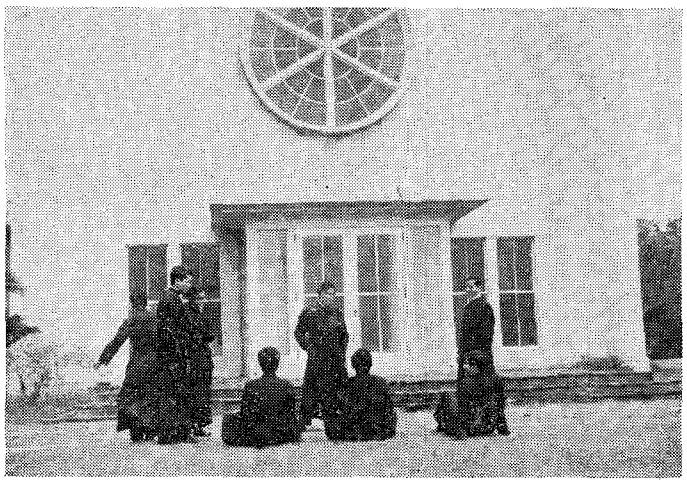
放送・音響装置
教会
幼稚園
学校

前進するサン・スルピス大神学院

公会議精神の実現を目ざして努力

福岡市の都心から約四キロの片江神松寺。その一隅に、二万坪の広大な敷地に囲まれた、三階建てのシャープな学舎がそびえている。

これがサン・スルピス大神学院だが、この神学院が司祭を養成するカトリックの大学であることは知っていても、その内容や、神学生の生活を知っている人は信者のなかにもきわめて少い。そこでこん回は、神学生の生活と、その生活をとおして、神学院の今日の姿を紹介してみることにした。



ここにも新しい時代の波がおしよせている

懸案の建設案が具体化

神学院の創立を記す前に、教区最初の神学校のことに触れておこう。

最初の神学校は昭和十一年大牟田でひらかれた。ブルトン司教によって、パリ外国宣教会・ボンカズ師が建設した新しい建てものが校舎に選ばれ、神学生としては、小神学校の中学五年を終了した五人の学生が入学した。この人たちは、ここで、東京の神学校に入学する準備として、ラテン語、哲学入門を学び、また熱心に修徳の生活に励んだといわれているが、この中には後の牧山藤房、糸永武男の二司祭がまじっていた。

サン・スルピス大神学院が、創立されたのは昭和二十三年。三十二年、サン・スルピス会日本創立二十五周年を記念して発行されたパンフレットには、つぎのように記載されている。

終戦直後より日本のカトリック教会は急速な発展をとげた。当時は大群衆の改宗も可能であると思われていた。この楽天的な大望をもって、九州の司教閣下等はその司牧教区の要求に沿うことのできる大神学校を建設しなければならないと考えた。昭和七年四月以来懸案の地方神学校や建設案が具体化すべき時がついにきた。計画書がローマに送られ承認された。そして新大神学校は一〇年このかた福岡の哲学科神学校を経営してきたスルピス会に委ねられた。

大神学校の設置書類は、昭和二十三年七月二十八日の日付になっているが、この新しい事業は、二十三年四月、新学年の開始から、哲学科神学校ではじめられた。神学・ラテン科生四十二人。別に二十六人の哲学・ラテン科生を収容し、四年制の神学予備課程が設けられた。

校長にはロビヤール師が就任し神学科をプレボ、ツルデル、オーブリ、平田の諸師が、また哲学をラブレック師、中国文学の講義を伊東氏が担当した。

現在地に大神学院が竣工し、移転が行なわれたのは二十五年の三月。新しい教室で新学年がはじまり、五月には聖堂、調理場、洗濯場の奉仕のため、モントリオールの聖ヨゼフ女子修道会が到着、さらに九月には、聖会法修士ジャン・ポール・ラベル師が教授陣に加わった。

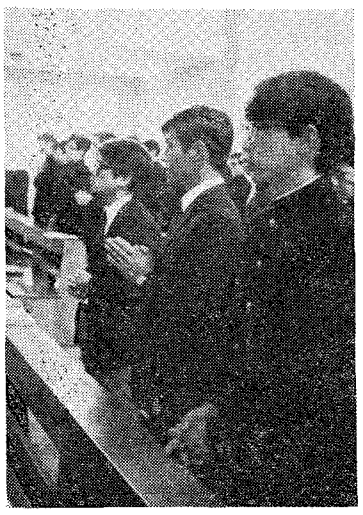
きびしい学習と日常生活

東の空にうっすらと暁光が漂いはじめる午前五時、学舎に起床のベルが鳴りひびくと、窓々の灯がいっせいにともり、やがて廊下を上靴の音がせせらぎのように走りぬけて行く。神学生の一日はこうしてはじまる訳だ。

黙想とミサ聖祭のあと、午前中の三時間が講義、午後は個人の学習と霊的修業。昼食と夕食のあとに一時間の休憩があり、午後四時は、学生同志の対話のために、お茶の時間も設けられている。ある神学生は『どんな生活の中にも苦しみはありますよ』と言っていたが、ビッシリと組み込まれた日課には、かなりきびしいものがあるようだ。

『将来の司祭を養成するのだから、きびしいのが当たりまえ…』と言えばそれまでだが、この日課のきびしさは、当然のことながら、この学校の八カ年の学習内容とからみ合っている。それでは、その学習内容とはどんなものであろうか。

入学してはじめの二年間がラテン語、あとの二年間は哲学。この四年間に、慶応大学の通信教育によって一般教養をあわせ学び、大学課程を終了する。司祭職を果たすために必要な、専門神学を学ぶのは大学院での四年間。ここでは定理・倫理神学、聖書、教会史、典礼、司牧神学、修徳神秘神学といったむずかしい学問をミッチリと仕込まれる。司祭を目ざす神学生の学習、日常生活のきびしさが想像できよう。



神学生は神と人々の期待にこたえる司祭像をめざしている

神学校の刷新

司祭の独身性の問題が、カトリック新聞の紙面を賑わしたのは昨年のこと。それは司祭の私生活、司牧、布教などについて、今日における司祭の在り方を問いなおすとともに、司祭召命の減少、神学校の刷新の問題にまでエスカレートした。

大神学校の若村清太教授は『聖心の使徒』四月号に『なかでも大きな影響を受けたのは神学生であり、また神学校であったと思います。神学生とは司祭になることだけを目ざしている青年であり、神学校とは将来の司祭を養成するところだからです。その意味で司祭についての諸問題は将来の司祭を養成する神学校にとって、刷新をせまる重大な〝時のしるし〟となりました』と書き、また刷新について、『刷新とはむしろ、本質に帰り出なおすことだといえます。神学校刷新の〝時のしるし〟である司祭についての諸問題も根本的には司祭とはどんな人か、つまり司祭職の本質について、またそれをどのように生き、人々に及ぼすかという司祭生活の在り方を問いなおしているのです。したがって神学校刷新のためには、まず司祭の本質を正しく身につけることからはじめなくてはなりません』と言っている。

神学校の刷新は、ほんとうは独身性問題の余波の中から出てきたものではない。第二バチカン公会議の『司祭の養成に関する教令』は、はっきりと『神学校の刷新』を要請しており、そういう意味では、公会議後の改革の波が、ようやく神学校に及んできたということではあるまいか。

現在ここで学んでいるのは、大学課程三十八人、大学院二十人。いずれも退廃的な現代に、神の模(くさび)を打ち込もうと志している、果敢な若者たちである。

工場で働く神学生

院長の高木誓司師は『現代の日本人に真のキリストのメッセージを伝えることのできる司祭の養成』が、大神学院の目的だという。その目的の上に立って、大神学院はいま、公会議の精神を実現しようと、懸命の努力をつづけているが、それは神学生の生活にも、大きな変化をもたらしつつある。

高木院長

神学生が教会のミサに加わり、司祭を助けるようになったのはそのひとつ。五月二日、北九州市でひらかれたクルシリヨにも、数人の神学生が参加した。これは神学生を信者に接触させ、教会の雰囲気になじませようということだが数年前までは、神学生が教会の行事に参加することはほとんどなかった。

ある神父は、

『私たちのころは、神学校は修道院と学校をいっしょにしたようなもので、定められた日のほかに校外に出ることは許されなかった。その点、いまの神学生はグッと自由になり、神学生自身も非常に積極的になってきました』というが、もうひとつの大きな変化は神学生が工場や会社に働きに行くようになったことだ。

来年が卒業というAさんは、その経験を、

『工場や会社で働くことは、社会を知るという意味で非常に勉強になりました。夏休みだけの、いわばアルバイトで、ほんとうに労働者の気持の中まで入ってゆくことはできませんが、将来大きな力になるだろうと思っています』

Bさんも、

『三菱の下請け工場で四十日間働きましたが、工場の生活は、私たちが考えていたように甘いものではありませんでした。こういう工場の仕事は単純作業の繰り返しで、仕事中も職制が監視していてそこには自由という感じは全くありません。考えさせられました』と語っていた。

神学生の社会意識は、案外こういうところから実りはじめるのではあるまいか。Cさんはこういうことを言っていた。

『カトリックは、あまりにも社会のことに無関心すぎるのではないでしょうか。三里塚の問題にしても、カネミ油の問題にしても、当事者たちの置かれた環境、事情、またその人たちの心の中にあるものをもっとよく理解し、カトリックの立場から、何らかの援助をすべきではなかったでしょうか』

神学生のこのような発言は、神学生の進歩を示すものであり、またカトリックにとっても、公会議精神の実現に対する、前進の証しとなるものではなかろうか。

新しいタイプの司祭を養成せよ

司祭召命の減少は、物質文明に毒された社会が、宗教への関心を失いつつあるということと、カトリックに、社会を引きつける魅力が欠落しているということの証拠であろう。それは、利潤のためには平気で人を殺す企業や、祈りの雰囲気に酔っているような、教会の姿を見ればわかることだ。

だが社会の中には、物質文明に疎外された人たちの、埋めることのできない空虚な心があり、物質中心から生まれる社会悪が横行している。この空虚を埋め、社会の悪に戦いをいどむ者こそ、人と神に奉仕するカトリックでなければなるまい。

そういう意味では、公会議の精神を踏まえ、祈りの雰囲気に酔っている教会の目を覚ます、新しい司祭、積極的な司祭が、今日ほど要望される時はあるまい。司祭職には独身性という問題があるが、Aさんがいうように『結婚は司祭の堕落』に通じるものであろうし人と神のために働くという真剣の場にあっては、自ずと解決される問題ではないのか。

人のために働こうという若者、地に爪跡を残というそう若者は、進んで司祭召命に応(こたえ)えるべきであろう。信者のAさんは『これからの司祭は、教会の中で教えを説くだけであってはならない。社会の中に入って、幅広く活動する、新しいタイプの司祭がぜひ必要だ。神学校では、そういう司祭を養成してもらいたいものだ』と言っていた。

(広報室・M記者)

カール師再任

福岡御受難修道院長

福岡市油山のふもとで黙想の家をひらいている御受難修道会の日本準管区総会議が、四月はじめ兵庫県宝塚市でひらかれたが、この会議でレオナルド師が準管区長に新任され、福岡修道院長にはカール師が再任された。

名簿を発行

移住委員会から

日本移住司教委員会秘書局から昨年の『長崎大司教区出身修道女名簿―出身小教区別』につづいて、最近『長崎大司教区出身司祭・修道者名簿―出身小教区別』が発行された。

第12号　カテケジス

〔特集〕新しい要理『カトリック入門』

○新しい要理の基礎概念　里脇大司教
○「カトリック入門」と聖書　B・シュナイダー
○われらのうちに生きるキリスト　P・ネメシェギ
○キリスト者の道徳生活　J・P・ラベル
○キリスト者とわたしたち　シスター・景山
○社会におけるキリスト者　野間重信
○人々のなかにあって　P・フィステル
○終末のカテケジス　小平卓保
○洗礼について―考察点(1)―　シスター・エステル
○新しい要理の基本方針　専門委員会

一部一二〇円　〒35円　予約　年三回　四六五円

中央出版社発行

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電(57)2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL(65)・4718

辞書は三省堂

豊漁を確信して網おろせ

平田司教、北九州信徒協を激励

北九州地区の信徒使徒職協議会発会式は、四月二十五日午前十時から平田司教をむかえ、戸畑明治学園講堂でひらかれた。司教をかこんで二十名の司祭が共同ミサをささげ、約千名の信徒が使徒職の発展を祈ったが、司教は説教でペトロのふしぎな漁を引用して、「北九州という大海にあみをおろし、豊漁を確信して働くべき時がきた」と一同を激励した。

つづいて発会式があり、まず松尾氏が会設立までの経過を報告、バスチ、青木保、トクブフの三指導司祭と白石会長以下全役員の紹介があったが、バスチ師は『司祭は信徒に使徒職のための援助を求めるのではなく、信徒の使徒職を助ける者です』と語り、また白石会長も「神の民の上に与えられる神の恵みは、使徒職活動を行うためであり、私達はいまから組織をどのように生かしてゆくかを考えたい。また司祭・修道者の召命増加をはかるつもりだ」とあいさつした。

最後に司教は「組織やその代表者にだけ頼らず、信徒全員が会と密接に結ばれるよう。また神のお召しに応じる青少年の数が増加することを切に願う」とのべた。

北九州信徒協の新役員紹介

六月に喜寿のお祝い

お元気な深堀司教

深堀司教は来る六月十三日で七十七歳、喜寿をおむかえになる。昨年はじめから熊本市島崎町のマリアの宣教者フランシスコ修道院のひろい屋敷の一隅で、ご引退後もお元気でお過しである。最近は修道女の黙想会、宮崎県日南教会の信者の黙想会の指導にも出かけておられる。

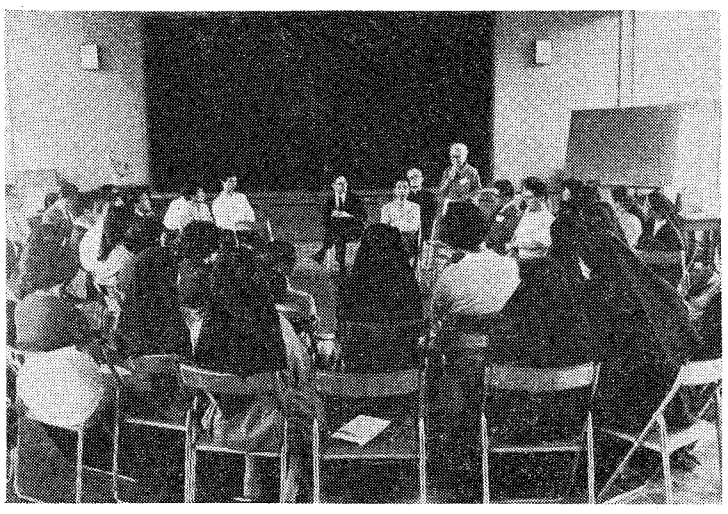
第七回男子クルシリヨ ひらく

教区第七回男子クルシリヨ（信徒練成会）は、五月二日夜から五日まで、北九州市八幡区八王寺のパリ外国宣教会本部でおこなわれ二十一名が信徒リーダーとしての練成をうけた。うち五名は福岡大神生、一名は浸難会修道士。

このたびも全国各地から激励の霊的花束がとどき、参加者一同の奮起をもり上げた。

新しい具体的方法をさがす

熊本で信徒布教研修会



現代人が悩んでいる身近かな諸問題にたいし、どのように福音的な解決を与えればよいかを、話し合いのなかで探ろうとする『信徒布教研修会』が、五月一日から三日間、熊本市手取教会でひらかれた。指導にあたったのは、この会の日本における推進者インドロ・リバス神父（イエズス会）で、地元はじめ同県下、福岡、久留米、大分から信徒五十六名、シスター二十名、司祭五名が参加した。

使徒職群像

平木直親さん（久留米教会）

復活祭ミサに感じて入信

久留米教会の信者でクルシリスタ。多忙な業務のかたわらレジオ会長、財務委員など、信徒使徒職の実践に努力してきたが、その努力と温健な人柄が買われて先日発足した〝信徒使徒職協議会〟では副会長に登用された。

『いまの信者には背のびするより、もっと手前の教会内部を固めることの方が大切。社会参加の必要なことは解るが、いまのように信者の一致がない中では、どんなに社会参加を口にしても、どうすることもできませんよ』カトリックの新しい動きの中で、浮き足だっている信者への警告である。

受洗したのは昭和三十五年の六月。当時の家族五人のうち、奥さんの姉さん一人が信者で、はじまりはその姉さんの信仰に何とない反発を感じていた。復活祭の夜、姉さんを教会に送っていって、ミサ聖祭の壮厳さに打たれ、はじめて入信しようという気になった。

『神父さん達には社会に対する理解がない。神学校を出ると、社会をみる暇もなく神父になるのだから無理もないが、も少しは社会のことを勉強してもらいたい。いまのように布教や社会参加が叫ばれているときには、神父さんが社会に目をひらき、信者をリードしなければ、何も知らない信者はどうすることもできない』

商事会社で十五年間働き、その後ネーム刺繍（ししゅう）業に転向した。社会の辛酸をなめているだけに、神父の在り方にもきびしい批判を持っている。

今日のカトリックには布教、召命、社会参加など問題が多いが、その問題を、教会の中からコツコツと解決してゆこうというのが、この人の考え方。

久留米市梅満町の生まれで、ことし四十八歳。これから、仕事にも、信仰にも油がのろうというところだ。

JOC指導司祭会議

運動推進にパンフレット発行

ジョックの新しい発展をめざす〝全国地区責任指導司祭会議〟は、四月二十六日から三日間北九州市八幡区天神町教会で開催された。

この会議には白柳東京大司教のほか、北海道二人、東京二人、京都一人、名古屋一人、神戸二人と、地元からバイヨ、キニウ、浦、端野の四人計十二人の司祭が参加した。

会議は二十八日まで続行され、各司祭の青年労働者の現状についての報告のあと、❶ジョックは青年労働者の生活を変えるとともにその生き方を変えるように呼びかけられている。共同的活動を彼らに提供しなければならない。❷ジョックの運動は、労働者を彼らの持っている希望と一緒に見、一緒に感じて、その希望の中に美と善、さらに神聖なものを発見する。それこそが青年労働者の中に生きているキリストの証明であるなど、数項目について話し合い、❶全国の労働者が地区は違っていても、同じ苦しみの中にあること❷ジョックの活動を運動にまで高めねばならないことを確認し、運動推進のためのパンフレットを出すことを決めて、盛会のうちに散会した。

全員合宿の特訓で、あらかじめ参加希望者にアンケートしてきめた❶むなしさ、❷神の実感、❸人間関係の三点について、テーブル毎に討議し発表があった。会は中野尚夫氏の非常な努力と熱意によって開催されたが、これからも定期的に研修会をつづけ、布教活動の具体的な方法をさぐっていくことになった。（写真は発表に耳をかたむける参加者）

展示会と創立記念式

福岡の東田島教会

福岡市の東田島教会（主任オッカナー神父）では、四月二十九日天皇誕生日の午後、周辺の人たちを招いて教会の姿を知ってもらう展示会をひらいた。はじめて訪れる人たちに教会の内部や聖理の大要を説明するほか、めずらしい聖地エルサレムの写真の展示もあった。

同教会ではまた、五月十六日創立十周年の祝典をひらいた。新興団地として発展しはじめていたこの地に、アウグスチノ修道会の司祭が教会と幼稚園を創設して以来のあとをしのびながら、午後四時からミサがあり、東京・長崎からかつての主任・助任司祭らも姿を見せ、食事と余興で楽しいひと時をすごした。現在信者数は三五〇人。

津和野に巡礼

毎年五月三日に、島根県津和野町の乙女峠で行われる殉教祭には西日本各地から多数の巡礼者が集まるが、ことしは熊本市内から高木寛、白木紀至氏ら四十五名が、貸切バスを利用して参加した。津和野には明治初年、長崎市浦上のかくれキリシタンが流されたが、高木仙右衛門、守山甚三郎らがきびしい責苦にめげず、信仰を守りとおしたことで有名。ことしはとくに少年祐次郎の殉教百周年にあたり、聖母行列と野外ミサが盛大にとり行われた。

緑に映える聖母子像

日華ゴム会長が寄贈

久留米市御井町矢取の養護施設「天使園」（幼きイエズス修道女会）の庭に、立ち木のあざやかな緑を背にして、大理石の輝くような聖母子像が立っている。

これは日華ゴムの会長倉田米蔵さんが、夫人スヤさんの昇天のかたみに寄贈したもので、倉田さんの家族、知人、それに信愛女学院のシスターが加わりうちうちだけのつつましい除幕式が行われたのは昨年の九月のこと。

ご像は等身大、管区長がローマで直接製作者に会って注文したというだけに、顔の表情、姿にも崇高な感じが溢れ、訪問者はかならずこの前にたたずんで、礼拝してゆくそうだ。

《福岡カトリック社研報告》

福岡カトリック社会問題研究会は東京においてムルグ神父が主宰している「カトリック社会問題研究所」の地方的な下部組織の一つであるが、四月十七日および十八日の両日にわたって、この会の全国各地での活動家を集めた中央理事会が開催された。

議事は、この一カ年間の社研活動の総括ならびに今年度の活動方針や、その具体化についてであった。その間に十七日の六時から九時までは、白柳東京大司教のご臨席をえて、懇談会もひらかれ、社会問題をめぐっての司教協議会声明を出すことなどにつき、率直な意見の交換があったが、この会にたいする大司教の積極的な支持のお気持は「自分が大司教になってやった最初の仕事は、『社会関係と人間』（註＝社研の機関紙）を、すべての司祭によむようにすすめたことであった」と語られた言葉にもあらわれていた。

この一カ年間の総括としては、「社会関係と人間」の発行部数が順調に伸びていること、九州ことに福岡や宮崎での、活発な活動が注目されたし今後の活動としては、八月末開催予定の「社研セミナー」のテーマを「富める社会とキリスト」とすることが決められた。

なお講師には梶東大教授、生態目向学院助教授、ムルグ神父が決定。またムルグ神父の論文集「昨日は今日」（ヴェリタス書院）を手はじめに、出版の計画がたてられた。そのほか研究所の危機的な財政を救うために、篤志家をさがすことが相談された。（水波）

今年度活動方針

人国記

田中喜利さん（カルメル会司祭）

田中輝義神父の厳父）。五月二十二日午前一時二十分、福岡県糸島郡二丈町石崎の自宅で、神経ガンのため死去。七十五歳。昨年七月ローマで研学中の田中神父が帰国して洗礼をさずけた。葬儀は二十四日自宅でいとなまれた。

児童福祉献金（追加分）

伊万里教会　一、四〇〇円
門司聖母幼稚園　三七、八二五円

カトリック　グラフ　6月号は5月20日発売です
定　価　150円（送料30円）
新開校・東洋医大教育事始め
わが国に初めて生まれたカトリック医大のすべてを公開！
無医村にこの夫婦あればこそ
中仙道にある昔風の信仰の村
新企画東南アジア指導者との会見記①　〔ステンドグラス物語〕中山手教会
〔オラショ長崎〕いろりばたの祈　〔ホームギヤラリー〕カトリック作家③
〔カトリック人国記〕大分教区②　その他特集企画がいっぱい/掲載予定

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販　売　と　修　理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田1162—29
TEL 87—3099

教養

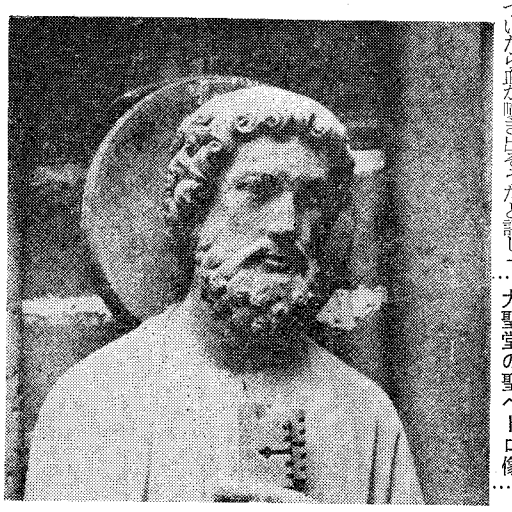
ある愛のてんまつ

和久本美沙子

信仰を持つ人にいわせれば、私は神とどんな意味でも一度も接触を持ったことがない人間の部類に属するだろう。ただ一つ私が神ということばを口に出して言うときそれはリルケの『神さまの話』が好きだということである。しかしこの物語にまつわって起ったできごとは私をいっそう神から離れさせた。それはアクシデントとしかいいようのないほど私にとって避けることのできないできごとだった。

この物語はそもそも彼女――当時私の親友であり、生きていればいまお私の親友であったろう――が教えてくれた本であった。

私はまだ二十歳にも手が届かない少女期にあった。肉体的にはおくてだったが、感受性は人並みはずれて鋭く、そんな私を人は針でついたら血が噴き出そうだと評した。いっぽう私はひどくごう慢でアンチゴーヌのように人に頭をたれることを知らなかった。同性からは敬遠されたろうが、私は男に訴える自分の魅力を十分知っていた。だから何人もの崇拝者がいることを当然のように思い、そのなかで同じ年ごろの青年と愛し合っていた。〝かれ〟は私の崇拝者の一人にしか過ぎなかった。しかし私はかれを好きではなかった。彼女はそのかれを私の知らぬ間に愛し始めたのだ。いつ二人は出会ったのだろう。私には三四郎池で三人が偶然顔を合わせたとき以外考えられない。そのとき私はかれを彼女に紹介した。そしてすぐ私たちは別々になった。いま考えてみればそのときから何もかも始まったのだ。



パリ・ノートルダム大聖堂の聖ペトロ像

どうしてお互いの住所をさぐり出したのか、彼女はまもなくかれに会ったことを告げた。またそれからまもなく、彼女はかれと会うために、深夜、寮の塀をよじ登るのだと楽しげに話した。私は孤につままれたような気持ちで、急速に発展していく愛の物語を聞いたのだった。

しばらく経つとこんどは彼女はこの夏からかれといっしょに生活することにしたと打ち明けた。しかしどうとう彼女はかれとともに生活することはなかった。事態は思わぬ方向に転回してしまったのだ。彼女はある日授業が終るのを待ち伏せして話したいことがあると言った。彼女は泣きはらした目をしていた。そしてこう言ったのだ。「あなたはかれに好きだと言ってあげられないの。かれはあなたを愛してるそうよ」と。私は「好きでもない人にそんなことをいえない」とあっさりこの申し出を断った。「あなたがうらやましい」と彼女はしゃくりあげるように泣くと、それ以来授業にも姿を見せなくなった。訪ねていくと泣きはらした大きな目で部屋の隅からじっと私を見つめた。酒びんとタバコの吸いがらが部屋を満たしていた。

夏が過ぎ、秋も過ぎて、あくる年の二月私は突然彼女が危篤だと知らされた。名古屋の街が一望に見渡せるガラス張りの病院で彼女は三日後には死ぬ人だったのだ。黒くふくれあがった顔に、元気なころの彼女は見る影もなかった。うかつだった。私はごう慢さゆえに彼女の心を読めなかったのだ。細い手が私の手を握りしめると、「生きていたい」と言った。そしてまた「私が死んだらあの人に伝えてほしい」とも。私は神に祈った。「私の生命を半分にしても彼女を生かして下さい」と。しかし彼女は死んだ。私は打ちのめされた。

私はしばらく虚脱状態を過ごした後、とうとうある日決心してかれに会った。かれは驚きの眼を見張って「胸の中に鉛が沈んだような気持ちだ」と言った。そして彼女と自分とはあまりに似すぎていたのだと熱っぽく語った。用件はすんだ。私は立ちあがろうとしたとき、かれは前よりもいっそう苦しげに顔をゆがめると私に向かって「愛している」と言ったのだ。それはいま聞いてはいけないことばだった。私は反射的に立ち上がると物も言わず店を出て走り出した。かれは私の名を呼びながら上野の雑踏の中を追いかけてきた。私は走り続けた。やがて遠くに「愛しているんだ」そう叫びながら崩れ折れるかれの姿がみえた。

その日以来私のなかでなにかがこわれ、いかなる神も私の中にもう二度も住むことはなかった。

（西日本新聞記者）

主の復活の福音 ②

復活のキリストとの交わり

愛に基く独特の霊的体験

エンマウスの弟子（ルカ24・13―35）

二種類の出現

復活したキリストのご出現を二つに分けることができる。一つは個人的な性格のもの　他は使徒団への公けの出現である。コリント前の十五章に列挙されたものからもわかるように、第二のものが初代教会では信仰の規範とされたが、もちろんキリストの出現を個人的にうけた特定の人たちの霊的体験をも軽視するわけにはゆかない。マリア・マグダラへのものとエンマウスのふたりの弟子へのものは個人的性格のものと考えられる。

マグダラのマリアへ（ヨハネ20・11―18）

この箇所ではふたりの白衣の人が出てくるが、これは何ら重要な役割はもたない。またマリアの体験はユニークなすばらしいものである。「かの女の体験は決して子どもっぽいものではなく、心のもっとも深いところからでた、きわめてデリケートな神との接近である。福音書中にこれに匹敵するものはなく、古代文学中にもこれを凌駕するものはない」と言った人がいる。

師にたいするマリアの深い愛情のほどが容易にうかがわれる。かの女の悲しみがわれわれの心をゆすぶる。「かの女はイエススへの愛情のゆえに泣いていたのだ。遺骸が見えなくなったのだから」。目は涙に曇り、心はありし日の追憶にすっかりおおわれていたのである。

かの女はイエススの新しいお姿を見分けることができなかった。イエススを園丁と見誤ったのも、かえってかの女のイエススへの愛着を証拠だてる。

名前を呼ばれてかの女は我に帰る。「よい牧者は羊を名ざして呼ぶ」（ヨハネ10・3）とあるとおりである。突然、思いもかけず自分の前に、あれほどおしたいしていたお方が立っておられる。かの女はこれまでと同じように主の足もとに平伏する、その方がまったく新しいお方になっておられるのに気付かないで。「私にふれてはいけない」とイエススは仰せられる。

主はやがて御父のもとに上り聖霊のたまものと教会の秘跡をとおしてもどってくる。主が兄弟たちと親しく一致するとき、神の救いのご計画が成就する。いまはまだ未完成の時であるが、遠い先きのことではない。「私は、私の父、またあなた達の父、私の神、またあなた達の神のもとに上る」。

これこそマリアが使徒たち（キリストはかれらをこのとき兄弟たちと呼んでいる）に伝えるべき復活の福音である。

文学的にもすぐれたこの有名な箇所の内容は何をめざしているのか。それはたしかに護教的なものでなく、むしろ復活のキリストと弟子たちとのあいだに生じるはずの、愛の結びつきをクローズアップしようとしたものである。

「われわれはここでイエススにたいする非常にやさしい、人間的な愛情を見出して心打たれる。これこそ初代教会の人々の敬神の情を見事に映し出している」。

この叙述の頂点は、弟子ふたりがイエススを見分けたあの劇的な瞬間である。それはマリア・マグダレナの場合とまったく同じである。

そのとき主はパンを弟子たちの前でさかれた。一家の主人のようなやり方で。それが聖体の秘跡であったとは考えられないが、ルカが復活のイエススは聖体の秘跡をとおしてご自分をお示しになるのだと教えていることは確実である。もう一つ指摘できるのは、聖体の秘跡をとおして復活のキリストを見分けるには、まえもって神のことばに耳をかたむける必要があるという点である。聖書は生けるキリストにわれわれを導く。聖書はキリストの復活を証明し、聖体はこのキリストを現存させるのである。

連載随筆　明日の今日 (5)

白秋詩碑の前で

河東野菊庵

柳川で電車を降りると、三柱神社に向って歩きはじめた。神社の入口、旅館『松月』の前に、北原白秋の詩碑があるはずで、私はその詩碑を見ようと思い、わざわざ福岡から出向いてきたのである。

その詩碑は松月の玄関のわきに、ところを得たように、旦立たずしかもちょうどよい具合に建っていた。碑面には詩集『思ひ出』の中の、『柳川』という詩が刻まれている。

蔦の生えたその家は……
その家は
旧いむかしの遊女屋。
人も住はぬ遊女屋。
裏のBANKOにいる人は…
あれは隣の継娘。
この一節に目をひかれたのは、ここに歌われている『遊女屋』がいまの旅館、松月だからで、そのことについては、作家の原田種夫さんが、碑文につぎのように記している。

『この詩にうたわれた遊女屋というのは、あきらかに懐月楼を指している。懐月楼は、明治二十九年師走に建てられた、三階建ての大きな遊女屋であった。その三階建ての軒には赤い提灯がともり、濃い脂粉の匂ひが漂い、なまめかしい嬌声がひびいたことであろう。明治三十年頃には伝習館中学の生徒であったTONKAJOHN白秋は、その遊女屋の情調に、ひそかに、官能のときめきを覚えたかもわからない。その後、代は変ったが、今のこの『松月』を指したものである。（以下略）』

今日の松月には、もちろん当時の面影はない。そして私が歩いてきた柳川の町は、いかにも現代風に粧われた商店街だったが、表通りから一歩外れると、そこには傾きかかった民家があり、垂れさがった柳の枝の下には、溝渠の水が無気力によどんでいる。それは『廃市』のイメージそのままに、もはや白秋とも、白秋の詩ともかかわりのない、全くの別天地にすぎなかった。

私はしばらく詩碑の前にたたずんでいたが、すでに亡んでしまった白秋の詩に思いを致し、ふたたび帰らないその世界に、郷愁に似た切ないものを感じ、胸につかえた哀しみをどうすることもできなかった。

今月おすすめする本

病床詠

山本恵津子

主の神の招きにあへば従はむしか思ひつつなほも生きたし
見まゝ入あれば身に泌み思ほゆる人の情にいつ報ひむと
生と死のあはひの闇にかすかにも耳に届くは母の呼び声

懐月楼は、明治二十九年師走に建てられた、三階建ての大きな遊女屋であった。その三階建ての軒には赤い提灯がともり、濃い脂粉の匂ひが漂い、なまめかしい嬌声がひびいたことであろう。明治三十年頃には伝習館中学の生徒であったTONKAJOHN白秋は、その遊女屋の情調に、ひそかに、官能のときめきを覚えたかもわからない。その後、代は変ったが、今のこの『松月』を指したものである。（以下略）』

『イエスス』―救い主に注ぐ単純なまなざし―

ゼノン・イエル師校閲、福岡女子カルメル会訳

本書は、主イエススのみをテーマとした黙想書。すでに八カ国語にほん訳されていて普遍的といってもよいほどの広がりを持つ本である。

著者の名はあきらかではない。しかし読者は、深い内的沈黙の中で、ひたすらにイエススのみを、求め続けていった行者の姿を、たやすく見つけだすに違いない。また著者は実際に第一次大戦後、東方教会の一修道士として、神の探求に専念した人なのである。

つねに、絶えずイエススと出会い、イエススを顧、イエススを呼吸した、この一人の人間の神との交りは、ごく単純で、気安く、自然なものとしてうけとめられる。

本書のいたるところ、神との親しい語らいをとおして与えられる珠玉のようなことば、活きた神の力あることばが結集している。

著者は、イエススとの実存的出会いを求めて、考察から祈りへ、祈りから観想へと導かれていくが同時にわれわれも、福音の中に生きておられるイエススとの、親密な出会いに招かれてゆく。イエススこのみ名の中にこそ、「人類救済の諸興義が、ことごとく要求され、働きかけながら、含まれている」のである。

神のみ前に、幼児ようにすなおな著者。その魂の澄みきったさわやかさが、この書をひもとく多くの人にも伝わっていくことと思う。これからの黙想書として、ぜひお勧めしたい。（一七九ページ三五〇円、中央出版社）。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話　代表　㊷0568

カセットテープできくバイブル
カトリック大全集　新約編
全15巻　別巻2巻
第一回発売
第4巻　荒野の試練
第6巻　しあわせな人　山上の説教
第9巻　迷える羊
カセットテープ　1巻／解説書付き／ブック式ケース入り　定価　各巻　1,900円
発売　大名町　聖パウロ書院
岩田屋　5階セント・ポール・コーナー

カトリック

平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価一部　十五円

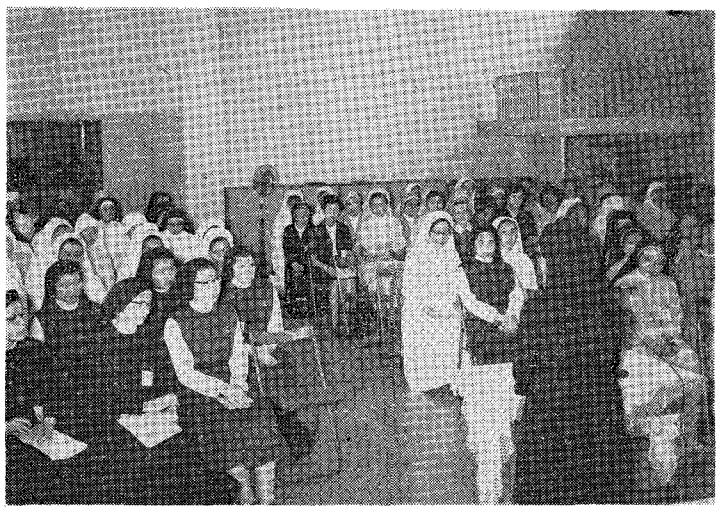
司祭評議会と並ぶ組織

福岡教区修道女連盟

福岡教区内の修道女全員が司教のもとで一致協力し、教会への奉仕をめざして結成された「福岡教区修道女連盟」（委員長シスター・ネリア村田）の第一回総会は、六月二十七日午前十時すぎから福岡雙葉学園でひらかれ、百三十名が出席した。

ミサのあと一同から平田司教に霊名のお祝いをのべたが、司教は教区の諸組織をひれきしたあと「教会の司牧活動のすべてにわたって、みなさんも司祭や信徒といっしょに尽力してほしい」と協力を要請した。午後は国井健宏神父（東京御茶ノ水聖ニコライ神学校）が、最近公刊された修道誓願式と、その典礼文のなかに盛られた現代修道生活の特徴、とくに神と教会への奉仕、共同生活の重要さ、専門の仕事と修道との調和について講演した。

連盟は、司祭団と司祭評議会、信徒使徒職協議会また近く結成される司牧協議会などと並んで、教区の重要な組織となるもの。修道者は、自分の生活そのもので神の国を立証するほか、従事しているいろいろな事業をとおして人々に献身する。（写真は修道女連盟の総会）



活動分野を展望

福岡信徒協役員会

去る四月発足した福岡地区信徒使徒職協議会の初の役員会が、五月三十日午後一時から大名町教会でひらかれた。平田房刀会長以下六名の役員と平田正喜指導司祭でこれからの活動分野の全体を展望した結果、つぎの諸点を順次実行にうつしていくことになった。

❶連合婦人会の発足　❷教会の相互訪問、❸布教についての講演会　❹教会学校の先生募集よびかけ　❺年末街頭募金のやり方の反省　❻信徒使徒職教区大会の準備　❼広報活動の統一行動（カトリック新聞全員購入運動など）　❽アクション団体への加入運動　❾司祭と信徒の対話促進　❿離教者への対策　⓫召命促進運動　⓬クリスマス運動、教会一致運動の強化

なお同規約五百部を印刷して分配すること、各教会から会費として信徒一人あたり年間十円を集めることになった。

四百余人が参加

朝禱会全国大会

「聖霊による一致を祈ろう」をテーマに、六月七日朝七時から、福岡市草ケ江町の日本聖公会九州教区センターで、朝食祈禱会の第十回全国大会がひらかれた。プロテスタント諸派はじめカトリックの二十人を加え四百余人が出席。五十嵐丈夫氏（白洋舎社長）の立証、尾崎主一牧師（もと福岡西南大学神学部長）の奨励、仙台、静岡、名古屋、東京の各朝禱会代表の祈禱があったが、東京代表には麻生カトリック教会の福川正三氏が立った。

朝禱会は全国に六十五カ所、九州には北九州、福岡、別府、熊本にあり、佐賀が六月三日に発足した。各朝禱会では週一回、三十分から一時間、きまった場所で、超教派的に有志がいろいろの意向のもとに祈禱をおこなっており、福岡の場合、十年前から市内士居町の茶房エルムに毎月曜日、約三十五人が集っており、来る九月六日にはカトリック教会のために祈ることになっている。

助祭ら叙階

福岡大神で

六月二十八日、福岡大神学校で平田司教により叙階式がおこなわれ、左の諸師が聖品をさずかった。（カッコ内は所属教区名）

助祭＝高見三明、下口勲（以上長崎）、郡山健次郎（鹿児島）の各師。

副助祭＝谷川政美師（長崎）

下級聖品＝田口孝志、小瀬良明（以上長崎）、明石健次（大阪）、狩浦正義（名古屋）の各氏。

修道院めぐり

福音の光福岡修道院

福岡市光ケ丘町二丁目

四十五年前、函館にいたベルリオーズ司教は、「日本人に福音を伝えるため、日本の伝統的精神を生かした修道会の創立が望ましい」との、ピオ十一世教皇のご意向を、長田シゲさん（現在別府日菊寮園長）に伝えた。この夢は戦後数年たって、はからずも福岡の地で実現した。「福音の光修道会」である。

歴史の浅いこの会は会員数三十二名、総長シスター佐藤は広島県甘日市町の修院に在住。福岡、広島、大阪などで教育、社会事業のほか、布教の援助、病人や保護家庭への奉仕などに献身している。

会の理想は、聖体のうちに示されたイエスの聖心の愛に生きながら、社会のなかで『すべての人にすべてになる』こと。『私たちはこのような根本的な修道精神に真に日本的なすぐれた精神文化の伝統を加味していきたいと思います。それで茶道や華道やお琴などを身につける一方、日本婦人のよさをさらに高めて、日本独特の修道生活の一つの姿を作り出すのが念願です』と、堀院長＝写真＝は語っている。

第二バチカン公会議以後、教会は典礼、宣教などの分野で各民族のすぐれた文化を生かすことを強調しているが、この方針はすでに数十年前から、胚胎していたのだ。

福岡修道院は、光ケ丘教会と道をへだて、保育園と幼稚園を経営しているが、終戦後に建って古くなった保育園の一部改築が今秋おわるそうだ。堀院長は東京の出身五十三歳。おとなしそうだが、周囲の反対をおし切って修院に入ったというから、シンには強いものを持っているに違いない。

司祭異動

帰国中であったデイキン師（本渡）とコール師（崎津）は帰任。人吉主任デバイン師は休暇帰国。崎津臨時主任マッコーネル師は人吉主任。本渡臨時主任リンチ師は菊池主任。荒尾主任キルケニー師は千葉県へ。聖母訪問会本部付フィネルチー師は荒尾主任（玉名兼任）

伊万里トラピスチヌ大修院付矢口浩師（西の宮同会修道院付）

聖体行列

熊本市島崎教会では、六月六日三位一体の祝日に、恒例の聖体行列を聖書崎修道院でおこなった。幼稚園運動場の第一祭壇から出発した行列は、約二百名の信徒らに守られて侍男院前に進み、老人ホーム前で賛美をうけ、修院玄関横の聖母の祭壇で最後の祈がささげられた。この日は前夜までの大雨が快晴にかわり、聖体賛歌が新緑の森にひびいた。

『カトリック入門』を研究しょう

新しく発行された要理書「カトリック入門」の研究会をつぎのとおり開きます。多数来聴歓迎。

場所　福岡市黙想の家

日時　七月十七、十八両日（開始時刻は未定）

参加費　六〇〇円

講師　門脇輝夫神父、野間重信神父、ラベル神父その他。

申込み　福岡市片江神松寺一九〇〇、サンスピス大神学院、ラベル神父あて。

平和を祈る集い

北九州市のキリスト教諸派合同の『平和を祈る集い』が、長崎原爆記念日の八月九日、戸畑文化ホールでおこなわれる。実行委員長は小倉カトリック教会の大石透氏

社会問題セミナー

カトリック社会問題研究所主催のセミナーは、八月二十日から三日間、横浜市中区山手町の雙葉学園でひらかれる。ことしの主題は「富める社会とキリスト」。参加希望者は八月十日までに。

7月

4日（日）　聖霊降臨後第5主日
神の国が近づいたとは、われわれが新しい人間に生まれ変って、新しい生き方をする時が来たという意味。われわれは「イエズスの焼き印をつけられて」イエズスのものとして生きるのだ。
門司教会で堅信

11日（日）　聖霊降臨後第6主日
キリストは新しい人類のかしらである。このキリストと一体となるよう召された者には、唯一つの掟がある。すべての人に、進んで近づくことである。

18日（日）　聖霊降臨後第7主日
聖書は客の接待を大切なつとめの一つに数えている。アブラハムは三人の旅人を天幕に招じ入れ、マルタはイエズスを歓待する。そして神の御子は旅人であるわれわれを天国に招き永遠のうたげに坐らせてくださる。

25日（日）　聖霊降臨後第8主日
ひとのしあわせを願って神に祈るのは、気高い行為であるアブラハムは罰をこうむるべき人に代ってあわれみを祈る。キリストはさらに自らをいけにえとして献げて、全人類の救いをこん願された。

8月

1日（日）　聖霊降臨後第9主日
神の国に生きる新しい人は、福音にもとづく価値観をもつ。自分にとって、もっとも大切なものは何か。それにむかって最善の努力をしているか。この反省がその生活の道標である。

6日（金）　主の変容の祝日

8日（日）　聖霊降臨後第10主日
今日の福音では、御国を与えようと望んでおられる神と、自分の持物を売って施しをするように勧められている私が、対比されている。神の国を得るためには、自分のものを与えるのが先決であろう。

15日（日）　聖母被昇天の祭日
聖母マリアは、人類の初穂として復活されたキリストにつづいて、最初に復活のめぐみをうけられた。かの女は真の意味で「キリストのもの」であられたから。

22日（日）　聖霊降臨後第12主日
神の国で生きる者は、試練を覚悟せねばならない。神の教育法は甘やかしではなく、「狭い門から入る努力」をいつも要求する。

29日（日）　聖霊降臨後第13主日
福音によるけんそんとは何であろうか。それは、神の国での祝宴にあずかる資格がないのに、あわれみによって招かれたとの意識による、深い慎しみの態度ではなかろうか。

お礼

老人福祉のための募金運動に、ご協力をおよせくださいました教会、学校、市民のみなさまに、老人および施設にはたらく職員の方々に代って厚くお礼申しあげます。

カリタス・ジャパン教区担当
司祭　糸永　一

機械部……文具スチール部

オリンピアタイプライター
オリンピア計・加算機
オリンピア卓上電子計算機
シャープ卓上計算機・日本タイプ
湿式・電子複写機・輪転謄写機他

コクヨスチール製品
トーホー・ライオン紙・文具

（全国銀行の70%がオリンピアです）

福岡県総代理店
（卸）（小売）シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号　筑紫女子短大前
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
（092）52－5327

カトリック読書論

カトリックの信者は本を読まないと言われる。第二バチカン公会議による改革が、掛け声ばかりで推進されないことの原因を、そこに求めようとする人があるほどだが、信者の読書が、カトリックのこんどに大きな影響を持っていることは、否定できない事実だろう。

こん回は読書の目標、方法、本などについて、福岡市内教会の識者、神父、シスターの声を聞いてみた。

衣服と同じ読書の流行

最近の出版物の氾濫はすさまじい。月々に刊行される本――娯楽、教養、専門書は、書店の棚を埋め尽しただけでは足らず、店頭にも山のように積みあげられている。

またいっぽうでは、巧妙な宣伝によってつぎつぎにベスト・セラーズを生み出し、読書の流行が衣服の流行と同じように、大衆の購買欲をあおり立てゆく。これが読書界の現状で、『読書はインフォメイションである』と言われるゆえんでもある。

そして現代人は、好むと好まざるとにかかわらず、このインフォメイションを受け入れなければならない状態にあるのだが、カトリックのなかでは、読書も、読書にたいする姿勢も、まだそこまでは立されていないことによるが、何よりも、信者が読書の目標を持たないということに大きな原因があるようだ。

読書の目標

スイスの哲学者で、『幸福論』や『眠られぬ夜のために』の著者として知られているヒルティ（一八三三―一九〇九）は、その『読書論』につぎのように書いている。

『各個人の完全なる精神独立と自己意識と、これにもとづく個人的にして、絶えず進歩する自己完成の可能性とは、印刷術の発明とそれいらい、より一般的になった読書によって、真にはじめて成立したのである』

ヒルティは読書の目標を『自己完成の可能性』すなわち『教養』に見出したわけだが、このヒルティの考え方は、昭和の日本でも、安倍能成や谷川徹三氏らの『読書論』の基本になっていると言われている。

目標を教養に置くことは、読書の基本として大切なことにちがいないが、カトリック信者のばあい、教養といっても、一般の読書とは、その内容に違いがあるのは当然のこと。では信者の読書の目標とは何であろうか。F神父は

『カトリックの読書も、結局は教養のためということになりましょうが、カトリックが宗教である以上、そこにはやはり一般の読書とはちがったものが要求されます。私たちのばあいは信者としての教養で、それは信仰の柱を自分の中に確立することだと思います。霊的読書ということばは、そのへんの事情を、よく語っているのではないでしょうか』という。

オーソドックスなF神父の考え方を、もう一歩進めようというのはH神父。

『カール・バルトは、聖書と新聞を読んで説教に臨んだと言われています。日々のできごとは時のしるしで、カトリックの信者にとって、それを知ることは、今いちばん大切なことではないでしょうか』

つまり、社会を知るための読書が必要だというのである。

読書室もない教会

まとまった読書をするようになれば、誰もが読書についての見識を持つようになる。読書の方針や方向も決まり、読書知識も豊富になってゆく。だがしかし、読まない人に読書知識を与えることはできない。また読んでいる人であっても、読書についての認識や努力がじゅうぶんでなければ、読書知識があるということはできない。

本紙が四十四年に特集した『私がすいせんする本』のなかに、『講義ふうに短く区切ってあるのが読みやすく、いっきに半分ぐらい読んでしまったが、あとは霊的読書として一日に一節ずつ読むことにした』と書いた人がいた。

ここには『霊的読書』の誤解があるばかりでなく、読書の基本姿勢さえ欠除していて、カトリック信者の読書が、いかに生まぬるいものであるかを知ることができるが、また読書指導をしないというカトリックの弱点がはっきりと露呈されているようだ。

いまの教区には、信者の読書のために計画的に本をそろえ、読書室を持っている教会は皆無といってよい。教会に図書のそなえつけ、読書室がないのは、神父に読書に対する関心がないということ。そんな教会に読書の気風が育つはずはあるまい。もとプロテスタントの信者だったというGさんは、そんな現状を『神父さまに〝信者は本など読む必要はない。カトリックのことは俺たちにまかせておけ〟という意識があるのではないでしょうか』というが、ある新聞社で嘱託をしているHさんも、

『読書は、信者が信仰を深めるために非常に大切なもので、神父は信者の読書を奨励しなければならない立場にあると思います。その神父が読書に無関心というのは見かたによっては怠慢のそしりを免れないでしょう』と批判していた。

部門別の読書会を

F神父は

『教会に読書指導の機関をもつけ、信者に読書の必要、本の読み方から教えなければ、信者の読書は一歩も進みません』と、読書指導の必要を力説するが、具体的にはどんな方法があるのだろうか。

パウロ会のシスターは、

『共同で本を読むのがよくはありませんか』という。だがここで考えられるのは、結局一小グループに終りはしないかということ。指導者はだれか、本を選ぶのはだれかということも問題になるにちがいない。

アメリカには『読書学』という学問がある。それは心理学、社会学、教育学の各部門の総合に立つ読書の研究で、わが国でも戦後、一部の学者によって研究が進められているが、まだ学問として独立するまでには至っていない。その『読書学』のなかには『読書媒介学』という部門があり、そのなかに読書指導に属する読書技術指導、読書による生活指導、読書実践にかんする助言、あっせんなどの研究がふくまれている。

いま一々その内容に触れる暇はない。ただ読書が単に本を読むだけではないということと、読書指導が個人の読書経験の申し送りではないということを知ってもらうために、『読書学』というものがあることを紹介しておく。そしてつぎのHさんの発言は、いくらか読書学的な背景を持った、建設的な意見ではあるまいか。

『教会で、読書指導をするというばあい、すぐ考えつくのは研究会ですが、これは悪くすると小グループに終る恐れがあります。そこで少しでも人を殖やすという意味で、たとえば信仰関係、社会問題、文学など、部門別のグループを作り、読書会をひらくということはどうでしょうか。また地区別に、信者の家でひらくのも、近所の人をさそえば、布教を兼ねることができて、一挙両得ではないでしょうか。教会に図書をそなえ、読書室をもうけて、指導者が相談相手になるのも一案。これは個人単位で、いちばんやりやすい方法です。

いずれのばあいにも問題になるのは指導者ですが、それは信者から必要に応じて候補者を選び、図書館などの指導を受けたがよいと思います。指導者の養成は、教会にとっては大変なことだと思いますが、カトリックの読書をさかんにし、それを正しい方向に向けるためには、これはぜひやらねばならないことです。

ついでに言えば、県、せめて教区単位にカトリックの図書館がほしいですね。カトリックともあろうものが、図書館も持たないというのは、社会にたいしても、他の宗教にたいしても恥かしいことではないでしょうか』

無方針の出版界

もうひとつ問題になるのは、出版される本とその内容だが、それは出版しさえすればよい、読ませればよいですむことではない。

カトリックでも、信者の読書人口にくらべてはるかに多量、多種の本が出版されているが、信者に奨められるような本があるだろうか。Eさんは、

『カトリックの本は、固くて読みづらいですね』と遠慮がちだが、Hさんは、

『カトリックには、信者の心に直接語りかけるような本はありません。著者が自分の考えを勝手に書いた、読ませようという工夫も、解らせようという努力も認められない本がほとんど。読者を無視した独善的な態度が目だちますね』ときびしい。

Gさんの『誰にでも解る本を出版して欲しい』という願いは、そのへんに根ざしているわけだが、そういう本が多量に、しかも反省もなく出版される責任はどこにあるのか。

『もちろん出版社ですよ。月々発行される本を見ていると、持ち込まれた原稿を、そのまま本にしているのではないかという感じがします。そこには信者の希望に応えようという姿勢も、信者を指導しようという姿勢もなく、出版の方針さえ持たないのではないかと疑われます』

ずばりと指摘するのはQさんだが、そう言えば、『カトリック新聞』の広告を見ても、出版に一本、シンがとおっていないような気がする。『社会参加』ということが言われても、その社会参加について書いた本がない。これほど社会問題のやかましい時代に、カトリックの立ち場から社会問題を扱った本がない。そうかと思うと精神修養に似た、くだらない本が何冊も出ている。

F神父も、

『バチカン公会議で打ち出されたものを推進しようというときに、誰でも手軽に答える教令の解説書さえないのですからね。無方針と言われても仕方ありませんよ』と苦笑していた。

教会がいかに読書を奨励しようとしても、信者に推薦される本、信者が興味を持ち、共鳴する本がなければどうすることもできない。在京出版社の反省をうながしたいと思う。

わが国の読書は三千年の歴史を持つといわれている。読書論にも、貝原益軒、本居宣長、近くは福沢諭吉、安倍能成、谷川徹三らのすぐれた業績をみることができる。

カトリックにもそれなりの読書の歴史があるに違いないが、私たちも読書の歴史に目をそそぎ、読書の意味、読書の必要を再認識して読書の進歩をはからねばなるまい。信者が正しい読書を身につけ、それを押し進めるとき、そこからカトリックの真の前進がはじまるのではあるまいか。（広報・M記者）

教会に読書指導の機関を
出版者に望まれる方針

研究会もまた楽し

今村教会を紹介 NHK総合テレビ

福岡県三井郡の今村教会のミサや信者生活が、七月十二日（月）朝七時二十分からNHK総合テレビ『素顔の九州』で、紹介される。

おことわり

三面の連載「使徒職群像」は、今月は休みます。

麺類製造のパイオニア
栄光食品
中本義尚
北九州市小倉区高田町二丁目
電 ㊼ 2673

祭壇・教会用具・事務用
学校用家具・室内外装飾一般塗装
暁の星製作所
福岡市箱崎原田一の五
TEL ㊺・4718

辞書は三省堂

フリーマン式視度測定法
べつ甲製品及び修理専門店
学生様一割引
メガネの
べつこうや
福岡市山荘通り1丁目30
平尾サニー側四ツ角
TEL ㊷ 0943

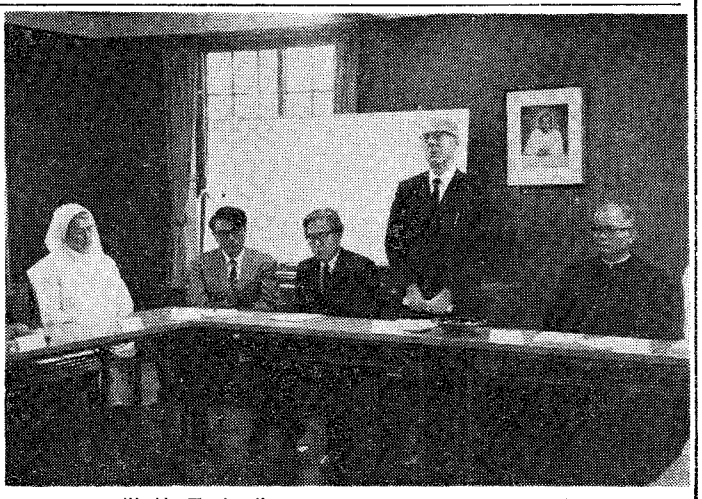
若者の期待にそう教育を

九州地区 カトリック学校長会議

カトリック教育協議会主催『九州地区カトリック学校長会議』が、六月十二、十三の両日、福岡市黙想の家でつぎのようにひらかれた。

第一日は平田司教のあいさつのあとヘルヴェック師が現代の学校経営、社会教育の必要、若者の期待にそう教育などについて述べ、また村上寅次郎氏（小倉西南学院短大部長）は「こんごのミッションスクールの行方」と題して講演をおこなった。氏はそのなかで「国家からの学校助成金が増していることはうれしいが、過去のにがい経験を思うと、上からの学校干渉の心配がある。国家の視点からだけの教育でなく、もっと高い所をめざす国民教育を施す努力をしなければならない」と指摘した。またマツサ師（宮崎日向学院長）の「学校と両親のつながり」についての具体的な体験と紹介は出席者に益するところが多かった。

第二日は沢妙子校長（戸畑明治学園）が「魅力ある教師の理想像」について約一時間、示唆に富んだ講演をおこない、とくに教師が自己に対してもっときびしくあるべきではないかと強調した点に共感が集った。



学校長会議で語るヘルヴェック師

無意識の信仰を知る

深堀司教の近況

深堀司教が福岡教区の司教を引退して、熊本のマリアの宣教者フランシスコ修道院に居を移されたのは昨年の二月。あれから早くも一年半が過ぎてしまった。

記者がF神父と修道院に司教を訪ねたのは六月六日の日曜日。近況を聞くためだったが、この日は聖体行列が行なわれる予定で、祭壇作りや、飾りつけの準備にいそがしい人たちの姿が目だち、修道院の中には、何となくあわただしさが漂っていた。

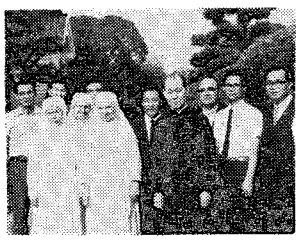
昨夜までドシャ降りだったという雨は、あとかたもなく晴れあがって、夏めいてきた日射しのなかで、厳かに聖体行列が始った。司教も、司祭やシスターとともにこの行列に加わり、幼稚園から病院待労院をへて修道院の前まで広い院内を一巡されたが、その顔にはいささかの疲れも見えなかった。

福岡時代に比べるとずっと元気で、皮膚の色にツヤがあり、動作にもきびきびしたものが感じられる。F神父はそんな司教を『教区司教の責任から解放されて、気持に余裕がおできになったのでしょう』と言っていた。

聖体行列のあと、すまいの入口で、ツツジの花にかがみ込んで、『ここにも神の摂理がありますよ』と花びらを指された。それは花びらの斑点が、上になった部分だけにあって、下側には全くないことを言われたのだが、いかにもこの人らしく思われ、強い印象を受けた。

修道院での司教の生活は、静かな関目月のように思われがちだが実はそうではない。

身の回りの世話をしている杉山さんによると、朝六時起床、七時ミサ、午前中読書と書きもの。午後も読書と書きもの。午前中読書と書きもの。午後も読書と書きものがつづき、就寝は十時。ほかに月一回修道院で講話。しかしこれは原則で、ほとんど毎日来客があり、その応待が大変だという。来客は司祭、シスター、信者。なかには、切支丹史について、司教の意見を聞きに来る人たちもいるそうだ。



つい先日も、津和野から郷土史家が訪ねてきた。津和野で、守山甚三郎さんを拷問した役人の一人が、のちに改宗して信者になり、甚三郎さんにぜひ津和野に来てくれという手紙を寄せた事実があるが、この人はその手紙のことを調べに来たのであった。

司教は『ここに来て、無意識の信仰ということを知りました』と言われる。それはこういうことだ。

『養老院の老婆を見ているうちに感じたことですが、この人たちは死ぬまぎわに、聖体を授けようとすると、もう意識がないのに自分で口をひらき、信仰を形に現わします。それほど信仰が身についているわけですが、信仰は理屈や学問ではありません。キリストが言ったから信ずる。キリストにつながるということです。そういう信仰でないと、ここの老婆のように、無意識のなかで信仰を形に現わすということは、できないのではないでしょうか』

司教はこの六月十三日、七十七歳の喜寿を迎えられたが、修道院の生活はこの人に健康をもたらしまた日々の思索は、いよいよその信仰に厚みを加えてきたようだ。

（写真は喜寿のお祝いの日の深堀司教＝中央）

家庭作りを指導

第一回結婚講座

若い人たちにしあわせな結婚を準備させようと、ライル神父（福岡市美野島教会主任）と信徒有志が開いた第一回結婚講座＝愛の学校が、六月十九日夜、さかんな修了式で幕をとじた。

五月二十七日から週二回、大名町旧聖堂でひらかれた講座にあづかったのは新婚夫婦や婚約中のカップル二十六人。吉川信雄、亨子夫妻が「婚約時代」、白浜雪義、さと子夫妻が「新婚時代」、また井上輝正氏が「夫たること、父たること、母たること」などのテーマで、自分の体験や意見を発表。その内容を中心に参加者が話し合っていく、という方法で行なわれた。

このほかに小児科医松本寿通氏の「よりよき子供を生むため」田中幹子さんの「家庭経済」などの話しもあったが、出席者のひとりは「私ははじめイヤだったが、あとでは私のほうが積極的になった。ほんとうにいい勉強でした」と語っていた。またこの講座の責任者ライル神父は、

『たしかにいまの日本では離婚率が年々高くなっていますが、それは若い人たちに家庭をつくること、夫たること妻たることについて指導してやる機関がないからでしょう。お互いがもっと知り合い理解し合って、真剣な気持ちで結婚に入れば失敗はなくなるのではないか。家庭は愛の場で、思いやりと相手のしあわせを願う心こそ大切です」と強調していた。なお第二回講座は来秋九月十六日からひらかれる。（講座に参加した人たち）

熊本合同運動会

熊本市内四教会、菊池、八代教会合同運動会は、雨で延期のあと五月三十日聖霊降臨の祝日に、少年の町運動場でおこなわれた。朝九時野外ミサのあと、教会対抗競技など、興奮と爆笑のうちにつぎつぎと熱戦がくりひろげられたが優勝の栄冠は島崎教会にかがやいた。

上位に入賞

六月十九日、熊本市でおこなわれた英語スピーチコンテスト（熊本県日米文化センター主催）で、八代白百合学園高校三年の矢住哲子さんが一位、村田光子さんが三位に入賞した。

愛の運動募金を分配

「四旬節愛の運動」で、身寄りのない老人の福祉のために集められた募金は、福岡教区では百二万二千円に達した。この募金の分配が糸永一神父（カリタス・ジャパン教区担当司祭）、地区信徒代表ら立ち合いのもと行われた。

話し合いの結果、カリタス・ジャパン本部費の五万円と雑費二千円を差引いた残りを、北九州、福岡、佐賀地区に十九万二千円ずつ、熊本地区に三十八万四千円を配分した。各地区では養老施設と老人福祉のために使用するが、募金に他の宗教団体の協力をうけた地区では、それに属する施設にも分配する。援助をうけた カトリックの養老施設は、聖ヨゼフの園（北九州市八幡区）今村聖母園（福岡県三井郡）ロザリオの園（佐賀県佐賀郡）琵琶崎聖母老人ホーム（熊本市）聖心老人ホーム（八吉市）。

広報のための献金

（5月23日）

大名町	10,500	佐賀	3,000
浄水通	5,410	唐津	2,000
光ケ丘	6,100	伊万里	2,150
西新	5,271	鳥栖	1,000
美野島	1,217	武雄	1,000
茶山	4,000	鹿島	200
箱崎	2,211	多久	490
大楠	3,576	門司港	2,260
東田島	2,100	小倉	23,740
古賀	2,000	湯川	10,220
二日市	2,404	戸畑	15,000
久留米	14,900	若松	6,000
大牟田	3,000	天神町	6,300
吉野	2,886	黒崎	11,400
今村	16,500	八王寺	5,500
本郷	11,000	本城	1,211
小郡	2,895	水巻	5,100
呼子	2,350	直方	2,000
馬渡島	5,000	飯塚	1,500
行橋	4,323	田川	1,975
新田原	14,541		
手取	12,000		
荒尾	180		
人吉	8,200		
本渡	4,750		
健軍	3,400		
帯山	4,000		
水俣	2,250		
大江	3,000		
崎津	5,300		
島崎	24,200		
玉名	920		
八代	4,600		
計	297,030		

【福岡カトリック社研報告】

飢えている人に

去る六月六日、九大賽第一日目の日曜日、カトリック研究会は、「人はパンのみにて生きるにあらず」という主題のもとに、ゼミナールを開催した。今村、大谷両教授、大神学生らを交えての討論会であった。

討論資料として、「神学ダイジェスト」8号の論文『キリスト教的価値と世俗的価値』を用い、各章を検討したのち討論に移った。

世界の三分の二の人々が飢えているという今日、テーマとして掲げたこのキリストのみ言葉を、どのように受けとめ、実践してゆけばよいのか。

「事実、私は直接には何もできない」という謙虚な反省に始まり「それでも『汝の近きより愛せよ』という言葉のように、私たち の周囲にまずキリストを伝え、愛の実践を行なうべきだ」「自分の義務を果たし、おかれた立場でキリストの愛を証してゆかなければならない」など、率直な意見が聞かれた。

こんにち、飢えているのに食べさせず、喝いているのに飲ませてやることができない人々が、「最も小さい人々の一人」としてではなく、地球的規模での現実として、私たちの目前に投げかけられている。飢えている人、喝いている人は、誰にもまして「近い隣人」ではないだろうか。

現実の認識から具体的・積極的実践に至るまでの困難な道のりに、その努力を求められているのである。自ら永遠のパンを喝き求めながら、パンに飢えている人々にパンを与えつつ、祈り求めた永遠のパンをも与えてゆくことが、今日のキリスト者の生きる姿であろう。

カトリックグラフ　7月号は 6月20日発売 定価150円（送料30円）
特集／現代医師道　ここに健在
① 無医島にこの韓国人夫妻ありて
② 未亡人が語る〝水俣の良心〟の素顔
カラー特集　天主堂をうたう
カメラがとらえた古い聖堂の光と影
クール・ファイブ　前川清クン奮戦中
修道女公務員誕生す　新潟市に採用された大西さんの月給袋の中味
≪座談会≫　慶応大生90人がバチカンを訪ねたとき

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田1162—29
TEL 87—3099

「カトリック入門」を読んで

前田俊郎

待望の新しい要理書「カトリック入門」ができて、これをすでに読まれ、またすでに使っておられる方もあろうと思う。要理編纂委員の三年にわたる苦心の作である本書についてはいろいろの意見や批判もあろうと思われるが、先づは委員の方々のご苦労に感謝し、本書を有効に使用したいものである。

さて、従来の要理テキストと較べてみると種々の点で大きな相異がある。以下若干列挙してみると（一）内容が、あるいは文体が少々難しく従来の問答形式から叙述形式へ。（二）今までの要理書のようにはっきりした定義が少く、なにか少しもの足りない。（三）聖書の引用がきわめて多い。（四）従来のテキストの中にあった神学用語（例えば天使、地獄、成聖、助力の聖寵、罪源、聖霊の七つの賜）や公教会の六つの掟などが見当らぬ。（五）公害、労働、社会福祉などの社会問題がとり上げられているなど。他にもあると思うが、なぜこうなったか、その理由については雑誌『カテケシス』三、十一、十二号をお読みになれば、編集者の意向、基本方針がわかり、納得いかれるのではないか。大体まとめてみると、

（一）文体、内容が少々難しいのは、本書の対象が一般教養を備えた大人の求道者であること。叙述形式をとったのは以前に行われたアンケートの結果、問答式は避けた方がよいという意見が圧倒的に多かったこと。

（二）人によってはそのものズバリの定義をのみこんだ方がよいと思われるかも知れぬが、信仰が定義の暗記で事足れりとするのは信仰生活にとって不十分であり暗記したものはテスト（例えば洗礼、堅信前の）がすめばケロリと忘れてしまう。そのため、新しい要理にある「要点」は暗記させるためのものではなく、本文のポイントをよくつかみ、理解させるためのものである。

（三）聖書がよく引用されているのは、第二ヴァチカン公会議において聖書が重要視され、本書の企画作成においても聖書が中心思想であり、聖書、を第一のよりどころとしていること。従ってカテキスタ（教理教授者すべてを含む）は求道者の質問に対し、聖書の深い研究と默想が必要である。（この点についてすこし心配しておられる方もいる。求道者に誤った聖書解釈をするのではないかと）

（四）今まで親しんできた天使、成聖の聖寵、罪源などの言葉がないので多少さみしいのではないかと思うが、そのような神学用語の中には、あまりにも抽象的であり誤解を招くおそれがあるか教義的にも説明困難とみられるものがあった。また時代によっては捉も変るのでそれらの用語はできるだけ避けていること。（アンケートによる）

（五）とかくカトリック信者は冷たいとか社会問題に関心がうすいといわれ勝であった。新しい要理は現代社会に生きるキリスト者のあるべき姿を説いている。信者は神の民であり教会共同体の一員であると同時に社会の一員でもある。従って信者は現代社会においていかに生くべきか、またいかにして父から与えられた不朽のよろこびと幸せを人々に分ち与うべきかを考えねばならぬのである。それには人間理解の根本問題にまでたち至らねばならぬであろう。

以上簡単に従来の要理テキストと大へん趣きを異にする新しい要理書の特徴についてのべたが、編纂者の意向にもあるように、本書が神学的諸定義を解説する従来の要理書やまた新しい神学案内書ではなく、聖書に記されている救いの歴史をたどりながら福音を浮き彫りにし、かつ現代における人間の諸問題に関連づけて説き明し、神と人間に対する愛の実践を日々の生活の中にいかに適応させていくかを示すものであることを忘れてはならぬ。またその意向を十分理解した上で本書による適切な教理指導を行うべきではないかと思うのである。（まえだ・としろう、男子聖パウロ会司祭）

教養

主の復活の福音 ③

復活のキリストに派遣されて

再生の喜びを世の人々に

復活体の現実

復活の日のよる、キリストが使徒たちに出現されたことについてルカ（24・36—49）とヨハネ（20・19—23）が記している。

(1) この二つの記述で中心になっているのは、「イエズスがかれらの中に立った」ことである。それは確かにナザレトのイエズスであるがすでにこの世の秩序と法則に服従する方ではない。ところがイエズスを見たかれらの心には疑いの雲がかかる。「幽霊をみているのではないか」。すぐイエズスはご自分のお体の現実を明らかになさる。「私の手と足を見よ、私だ、私にさわって確めよ」。さらにいっそう確信させるために、かれらの見ているところで食事をとり「お体が腐敗を知らなかった」ことを示された。

イエズスはこのとき手と脇腹の傷を示して、十字架につけられたあのイエズスであることを証明された。かれらは主を見ることができて喜ぶ。この喜びはイエズスが御父のもとにお帰りになったことまたこれから決してイエズスが自分たちから離れることがないと知ったからである。

ヨハネもルカもキリストの復活体の現実を強調しているのは、もともと復活を信じ難いとしているギリシャ人を、納得させようとしているからである。

復活の意味を悟る

(2) キリストの復活を事実として認めるだけでは十分でなく、さらに進んでその深い意味を理解すべきである。だからキリストは聖書に基いてこれを説明なさる。

「聖書を悟らせるために、かれらの心を開かれた」（ルカ）。このことはすでに「私があなた達と一緒にいた時に」（ヨハネ）予告しておいたことなのだ。しかし使徒たちは「意味を悟ることができなかった」（ルカ18・34）。しかし復活のキリストを認めたいま、心が開けて、イエズスこそ待望されたメシアであるとわかった。

使徒の派遣

(3) キリストの復活と使徒たちの派けんとは密接な関係がある。主が使徒たちを派けんするのは人々をまことの改心に招くため、であり、この福音はエルザレムを手始めに、あらゆる国民に告げられる。そのためにかれらは「上からの力」すなわち聖霊の力を着せられねばならない（使1・5—8）。これでイエズスの業は終り、聖霊に生かされる教会の時が始まる。教会はしかし復活したキリストと固く結ばれていない限り、自分の使命を果たすことはできない。「御父が私をつかわされたように私もあなた達をつかわす」（ヨハネ20・21）。キリストを離れたら教会は何の価値もなく、その使命を果たすことはできない。御子が御父から離れることができなかったのと同じである。

再生の霊

(4) イエズスは使徒たちによって告げられる罪のゆるしの福音によって、人類がいわば新しく生まれかわることを明らかにするために、使徒たちに聖霊の息吹きを与えられた（ヨハネ20・22—23）。聖霊によって人が生まれかわるということは、創世記に見られる聖霊のお働きを想起させる。神は「息を吹きかけて」人を生けるものとされたのである。

「神ヤーウェは、土のちりで人を形造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生者となった」（創2・7）。

「私はいう、水と霊によって生まれない人は、天の国には入れない。肉から生まれた人は肉で、霊から生まれた人は霊である。上から生まれねばならないといっても驚いてはいけない。風は思いのままに吹く」（ヨハネ3・5—8）。

幻想的画風が話題に

横尾龍彦個展

洋画家横尾龍彦氏の個展が、六月十四日から二十日まで、福岡市天神二丁目のフォルム画廊でひらかれた。

横尾氏はカトリック信者。一九二八年福岡生まれ、東京芸大卒業後、二科、新制作派、日本版画院などに作品を発表してきたが、こん回は十一回めの個展。

超現実派ふうの幻想的な画風が話題を呼んだが、モチーフはカトリックにつながるものばかり。

『私の絵は理念にはなく、無意識的幻覚によっています。不可解の形態の中に霊性の無限の隠諭を読みとろうとしているわけです』と語っていた。

（写真上は横尾作「呪縛」

連載随筆 明日今日 (6)

江口隼人さんのこと

河東野菊庵

野田宇太郎さんの『混沌の季節』という本が出版された。これは昭和十五年夏から二十三年秋まで野田さんが編集した『芸林間歩』という雑誌にかかわる記録である。

ページを繰っているうちに『濁流の中に』という文章に目をひかれた。それは江口隼人という詩人の死に触れた文章で、江口氏は昭和初期から二十年代まで活躍した詩人だった。昭和の初期といえば私がようやく詩を書きはじめた時期だが、江口氏と夫人の考（たか）子さんの名は、そのころから野田さんに聞いて知っていた。

終戦の翌年、漢口から引きあげてきた私は、その足で仕事を見つけるために上京した。そのときお世話になった野田さんの家の前が江口氏の住まいで、野田さんにつれられて挨拶に行ったことがあった。村夫子然とした江口さんの風貌（ふうぼう）と、竹を割ったような夫人の印象は私のイメージから遠かったが、そのとき庭で肩車に乗せてやった子供さんたちのことと共に、いまも私の記憶に残っている。

野田さんの文章によると、江口氏は肺結核のため三月三十日に病院に入院し、四月六日にはもう亡くなっている。たぶん昭和二十三年であろうから、私が東京から帰ってまだ半年も経っていない。夫人の考子さんも、四人の子供をつれて長崎の修道会経営の療養所に入り、そこで間もなく死亡した。野田さんは『この二人の死は濁流の中にいつの間にか姿を消した二輪の花をわたくしに思わせる。濁流でなかったら、その姿をみとめる人もまだいたに違いない。そう思いながら傍観者のようにしか振舞えなかったあの頃の自分の立場が、くやしくてならぬ』と書いている。私のばあいは、江口さん夫妻の記憶に止まったかどうかわからぬ通りすがりの人間にすぎなかった。それでも、この二人の名は奇妙に強く私の心に刻まれている。

江口氏と考子さんの死は、終戦間もなくのあのどさくさのなかだっただけに、いっそう暗く痛ましい。二人ともいまだったら死なずにすんだかも知れない。私と私の妻が、同じ病気にかかりながら助かっているので、なおのことそう思うのである。

広報の日報告

去る五月二十三日、世界広報の日に、福岡市内とその周辺のあわせて十の教会で、カトリック出版物の予約、展示、即売などを行った。

大名町教会では、前もって準備した二種類のチラシを、信徒ひとりひとりに配り、カトリック新聞のアッピールにつとめた。

その日は朝早くから「この新聞が、もみ消されるかもしれない」という、いささかショッキングなことばで埋めた掲示板が人目をひいた。「どうしてもみ消されるのか」とけげんそうに首をかしげる人も二、三あった。しかしこちらが予期していた反応は返ってこなかった。

カトリック新聞といえば、カトリック者のための新聞である。カトリック者が見向きもしなければ消えてゆく他はない。毎日曜日、三百人余りの信徒が出入りする教会で、読まれるのが二部という信じ難いほど情けないのが現状だ。

「かたい」「つまらない」「おもしろくない」「布教に用いたくても、内容があわない」。いろいろ批判はあろう。それはいちいちもっともなことである。しかし少くとも、わたしたちのために出されているのだ、という自覚と関心だけは持ちたいものである。そこから生まれる批判が、単なる批判で終ってはならない。それは建設的な意見として、必ず紙面に反映されるに違いない。

カトリックの出版物を盛り上げるために、いま、確かに要求されているのは、こうした信徒ひとりひとりの自覚と協力だと思う。そしてそれがカトリック新聞、雑誌の生死をにぎる大きな力であるとは言えないだろうか。（女子聖パウロ修道会）

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ 吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話 代表 ㊷0568

ご存じですか
耳で聞く聖書 カセットテープ
ポニーのカセットテープによる
カトリック大全集
大名町 聖パウロ書院
岩田屋5階 セントポールコーナー

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

使徒職大会を開催

第四回司祭評議会で決定

七月十三日、福岡司教館で第四回司祭評議会がひらかれた。出席者十六人。

❶ 今秋ローマでひらかれるシノドス（世界代表司教会議）で取扱われる「司祭職について」の草案にたいする司祭たちの意見が述べられた。この意見のまとめは平田司教より田口大司教に伝達される。

❷ 司牧評議会の設立について司教から意向が示された。

❸ 司祭評議会規約案が提出され教区内四地区の司祭集会にはかったあとで改案をつくり決定する。

❹ 今秋十一月二十二日、王たるキリストの祭日に、使徒職大会を開く。そのため各地区の役員を主体として、できるだけ教区組織にまとめ、全信徒の大会として信徒役員に企画を依頼するとともに、各小教区および司祭たちの協力をお願いする。

❺ 去る七月十二日に起った八代のナザレ園の火災にたいして、各教会、修道会に義援金を呼びかける。また放送事業を行っている『心のともしび』京都本部からの援助要請にたいし、必要経費の二十パーセント程度を援助できるよう努力する（詳納別項）。

信徒協の教区組織へ

地区代表役員で審議

八月八日午後一時から、福岡市大名町教会に、福岡、北九州、佐賀各地区の信徒使徒職協議会の役員七人が集まり、同会の教区組織の結成と信徒大会の開催について話しあった。福岡信徒協の米湊氏が「教区組織の結成は平田司教のつよい要望にもとづくもので、十一月二十二日に発会式をするという線も出ているので、それまでにぜひ準備をすすめたい」と述べたあと、具体的にどうするか、当日のプログラムなどを検討したが、十一月の発会式と信徒大会開催の成功に最善をつくすことを決めて散会した。

なお福岡と北九州両地区で具体案と規約草案を作成、九月に集まって検討、十月に総仕上げの打ち合わせをする予定。

争いと怨を捨てて

戸畑で『平和を祈る集い』

北九州市内キリスト教合同による「平和を祈る集い」は、八月九日長崎原爆記念日に、戸畑文化ホールで午後七時からおこなわれた。バスチード神父（戸畑主任）のあいさつ、実行委員長・大石透氏（小倉教会）の聖書朗読につづいて、トクベフ神父（黒崎主任）がいのりをささげ、カネミ油症患者の紙野柳蔵氏が「怨の旗印のもとに闘争をしようとか、慰謝料はできるだけ取ろうというような気持では、人間の世界にまことの平和は生まれない。しかし一方キリスト者は公害にたいしても積極的に取組むべきだ」と語った。

また原爆を体験した橋本栄一氏（広島YMCA総主事）は、小頭症患者の会のある母子の例をとり上げ、戦争に無関係の原爆二世の苦しみの状況をつぶさに述べた。

さいごに教職会の山本繁夫会長が「キリスト教会諸派が合同して一般市民の前で、平和を神に祈ったということは、あらゆる運動にまして意義ある行事であったと思う」とあいさつした。

参加者は三二〇名、席上での献金は二万余円であった。

ナザレ園と「心のともしび」に援助金を

このうちの約二十パーセントを教区から負担できないかという相談を京都本部からうけているので、これまでにまして教会、修道会から援助を願いたい。なお広報献金で集めた二十九万は、同放送料の一部にあてられた。

㈡ 熊本県八代市の養護施設ナザレ園（シャルトルの聖パウロ女子修道会経営）が、七月十二日火災にあい、木造二階建四四八平方メートルを半焼、内部施設を全焼したので、義援金をおくりたい。八月末日までに司教館でまとめる。

平田司教は、第四回司祭評議会の決定にもとづき、つぎの二項にたいし教会と修道会の協力を求めた。

㈠ 「心のともしび」は、ラジオとテレビを通じて布教上大きな役割を果たしているが、福岡教区の放送料は今年度は六百六十余万円になっている。

司祭異動

休暇帰国のオッカナー師（東田島主任）に代り長崎市城山助任のドワイヤー師が着任。

同じく休暇帰国するベラス師（熊本少年の町園長）に代り一年間グリン師（神奈川県藤沢主任）が園長をつとめる。

八月十二日、長崎市本原教会で司祭に叙階された鳥山助雄師（マリア会）は、秦星高校に着任。

募金抽せん券発売

福岡教区でも協力

わが国のカトリック社会・福祉の総元締めともいうべき「カリタス・ジャパン」では、国の内外でおこる災害に際し、緊急の援助を災害地に送ることができるように基金を準備するための募金抽せん券を発売している。これは司教協議会で承認されたもので、福岡教区でもできるだけ協力するよう、平田司教から各教会、修道院、学校などに呼びかけがあった。

発売期間は八月と九月

目標額は一千万円

抽せん券一枚五十円

当選発表は十月三日、東京都渋谷区広尾、聖心インターナショナル・スクールでおこなわれ、当選番号はカトリック新聞の十月十七日号にも発表される。

修道院めぐり

天使の聖母門司修道院

北九州市門司区光町

国鉄門司駅から西に車で五分、門司港に通じる有料道路に近い光町に天使の聖母門司修道院がある。台風十九号が爪あとを残して玄海灘にぬけた翌日、時おりにわか雨のくる空模様を気にしながら修道院を訪れた。応待に出て来た前院長のシスター・テレーズに話を聞く。

「カナダのケベック州で聖心のマリアというシスターが創立したものですが、近ごろ創立六十周年を祝ったばかりです。布教地で働くシスターの会ですが、創立者はとくに中国をめざしていました。いまでは南米のペルー、ブラジル、アフリカのコンゴ、タンザニア、そして香港と日本で、おもに社会・教育事業をとおして社会のなかに入っています」

笑みをたたえて語るシスターの言葉には、きたえぬかれた精神の一端がうかがわれる。

同会が四名のカナダ人シスターを日本に送ったのは昭和二十四年。小田原、静岡につづいて二十八年に門司に天使育児園が建てられた。

いまあづかっているのは女児ばかり四十六人。手不足で大変といいながら門司教会の幼稚園にも加勢している。

この五月に院長になったばかりのシスター小野寺は（写真円内）「九名のシスターがこどもたちを見ていますが、仕事に忙殺されます。しかし修道者の本道を見失ってはいけないと心をひきしめています」と語っていた。宮城県気仙沼の出身、四十一歳。

第二回結婚講座

9月16日から

第二回結婚講座（愛の学校）が九月十六日から十月九日まで大名町教会で開かれる。主催するのは福岡結婚講座センター（責任者ライル神父）、西日本新聞社とRKB毎日放送が後援する。

近く結婚する人たち、新婚者らに正しい結婚の意味やあり方を示すものであるが、専門家や経験者を交えて話し合うという形式のもの、参加者は原則として二人一緒。くわしいことを知りたい方は、福岡市美野島教会か大名町教会に問合せるとよい。

熊本にも「カナの会」

カトリック信者の結婚縁組を助け合う「カナの会」は、教区各地で結成されているが、熊本地区でも白木紀至氏の尽力で一応の組織づくりを終った。参加したのは手取、島崎、健軍、帯山、八代の五教会で、七月に委員編成がきまりこれからは毎月第一日曜に委員会をひらく。規約、案内、入会者のしおりの草案の審議もおわり、印刷準備にかかっている。

福岡のカナの会は昨年四月発足して一年間は足固めの期間であったが、高宮教会に第一号が発生した（五月九日挙式）。委員会ではカナの会をもっと活用することを希望している。

ガラシヤ夫人墓前祭

キリシタン女性の鑑とあおがれている細川ガラシヤ夫人の墓前祭が、ことしも七月十一日熊本市泰勝寺であった。武蔵会とカトリック教会の主催で、参加したのは夫人の妹の系図をひく河北氏、里子熊本市長夫人ら約百二十名で、墓前での祈りのあと寺内でミサがささげられ、島田マサ市議の講演があった。

故ルリエ神父の記念碑

昨年亡くなった、もと本城教会主任、聖心崎育児園長ルリエ神父の記念碑が、信者や卒園者たちの協力で建立され、一周忌の七月二十八日、平田、深堀両司教や関係者多数あつまって除幕式をおこなった。

大賑いの盆おどり

福岡市吉塚教会（主任シュルツ神父）では、八月八日夜七時から、ルルド洞くつ前で平和を求めるミサをささげ、引きつづき盆おどりをしたが約八百人の見物人が集まり、大にぎわいだった。

スペイン語講習も

今秋から大名町教会で

福岡市大名町教会の英語アカデミーに、今秋からスペイン語講習も加わる。講師は吉塚の三位一体の聖体宣教会修道院のシスター・ニエヴェス（メキシコ人）。時間割は未定。

9月のことよみ

5日（日）　聖霊降臨後第14主日
「すべてを捨てなければ、キリストの弟子になれない」。これは信者のなかの特別にえらばれた人にだけ言われたのではない。キリストのためにはすべてを捨てる「覚悟」は、誰にでも要求される。それが福音のきびしさだ。

8日（水）　聖マリアの誕生の祝日

10日（金）　日本の二〇五福者殉教者の記念日

12日（日）　聖霊降臨後第15主日
かたくなな心は神を拒絶し、愛を受け入れることはできない。聖書はいつも「へりくだった心」をもつようにすすめる。これが神のあわれみを呼ぶ第一の、そしてただ一つの条件である。

移住のための献金日

14日（火）　十字架称賛の祝日

15日（水）　悲しみの聖母記念日、敬老の日

19日（日）　聖霊降臨後第16主日
人の心は富にまどわされやすい。戦後だた物質的ゆたかさだけを追って生きてきたのが、ドル・ショックで一大痛棒をうけた。われわれはお金の使用に誠実でなかったのだ。

21日（火）　聖マタイ使徒福音史家の祝日

23日（木）　秋分の日

26日（日）　聖霊降臨後第17主日
本日のテーマも富におごる人への神の戒めである。富のどれいになった者には、精神の高貴さがわからなくなる。そして当然のことながら、偉大な絶対者を忘れてしまう。

29日（水）　聖ミカエル、ガブリエル、ラファエル大天使の祝日

機械部
オリンピアタイプライター
オリンピア計・加算機
オリンピア卓上電子計算機
シャープ卓上計算機・日本タイプ
湿式・電子複写機・輪転謄写機他
文具スチール部
コクヨスチール製品
トーホー・ライオン紙・文具
（全国銀行の70%がオリンピアです）
福岡県総代理店
（卸）（小売）シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号　筑紫女子短大前
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
（092）52－5327

『社会参加』を行動にまで

高めよ ＝信徒が司祭に望むもの＝

第二バチカン公会議後、日本のカトリックにも大きな胎動が起こり、それは福岡教区にも波のように押し寄せてきた。

そういう新しい動きに社会に対する布教ということがあり、その中から社会参加ということばが生まれてきた。しかし現時点では、社会参加はことば、あるいは声にとどまり、まだほんとうの実践、行動にまでは高まっていない。

またその新しい動きの中で、司祭に対する控えめな批判があり、司祭の責任を問うような発言も繰り返されてきた。

こん回は、バチカン公会議によるカトリックの現代化を前提に置き、『司祭の姿勢』を、社会参加の問題を振り返りながら、神父と信者の声の中に探ってみることにした。

消極的な司祭

カトリックの中に『社会参加』ということばが浮かびあがったのは昨年。福岡教区でも十一月十五日、鱒巣学園でひらかれたクルシリスタの第二回ウルトレア総会で『信徒の社会参加』という形でとりあげられたが、それは一時教会の話題を賑わしただけで、その後もそれらしい動きは出ていない。

だが『社会参加』ということが忘れられているわけではない。いまも折にふれて話題にのぼるし、数は少いが『社会参加』の必要を説く人もいるのである。それがどうして盛りあがらないのか。大名町教会のAさんは、

『司祭に内部を固めてからという意識が強いからですよ。そう言っていると内部固めに追われて、社会参加に躊み切る日は来ないのではないですか』といって微笑する。同じ大名町教会のBさんも、

『司祭は社会と失敗が恐いのですよ。だから信者をその方に向けないし、信者が何かしようとすれば押さえるのです』という。

二人とも司祭の消極的な姿勢を指摘しているわけだが、本紙昭和四十四年七月号『信徒使徒職・問題と突破口』をひらくと、

『いまのところ神父さま自体が消極的で、信徒使徒職を外部の布教に向けようと考えている人は少いのではないですか』という信者の発言がある。この発言の司祭と A、Bさんの発言に出てくる司祭との間に、どれだけの距りがあるだろうか。恐らく全く同じであろう。とすると司祭の姿勢には、ほぼ三年の間、何の変化もなかったことになるのだが、私たち信者はこういう司祭の姿をどう理解すればよいのであろうか。

司祭の指導を望む

司祭のなかには『信者になにをせよと言ってはならない』ということを、『信者を指導してはならない』と理解している人がいる。それが司祭が信者を指導しようとしない原因だが、この人たちの考えは『いままで、信者は惰性的に司祭によりかかってきた。だがこれからは、信者は自分たちの考えで動かねばならない』つまり司祭に頼らず、司牧以外の仕事は信者の手でかたづけよということだがそんな司祭の考え方を、

『〝信者になにをせよと言ってはならない〟というのは、司祭が命令者になってはならないということですよ。これは信者を命令で動かしていた時代に対する反省でそれをただちに指導に結びつけるのは誤りではありませんか。命令と指導は違いますからね』このことについては浄水通教会のCさんのように、

『信者に自分たちの考えで動けといっても、どうしてよいか迷うのではないでしょうか』という人も少くなかった。

信者のなかに、司祭の指導を要望する声が強くなったのはそう古いことではない。いまの教会では司祭より信者の方に積極的な姿勢があって、その人たちは社会に働きかけようと思いながら、その方法を発見できないために、司祭の指導を要望するのだが、司祭にはその要望に答える気持も、積極性もないようだ。

小倉教会Dさんが、

『司祭には、教理中心の教育から抜け出て信者を社会活動へ導くように努力してもらいたいですねいまのカトリックは、社会に向って門を開くとともに、理解してもらわねばならない、いちばん大切な時機に立っているのではないですか』というのは、消極的な司祭へ、社会参加と指導を求める、半ばあきらめ気味の、そして切実な願いなのである。

カトリックの泣きどころ

このように、司祭に信者を指導する姿勢のないことが、公会議後の教会の進歩をさまたげていることはだれの目にも明らかだが、そしてなお、これをどうすることもできないところに、今日のカトリックの泣きどころがあるのである。

『司祭が信者を指導しないのは今日ではすでに怠慢だ。教会がこれまでやったことのない、社会への働きかけをしようというとき、司祭が先頭に立たないで、どうして信者が動くでしょうか』（E神父）

司祭の怠慢を指摘する発言は、これまでもしばしばあった。そしてそれを何よりもよく知っているのは、恐らく司祭自身のはずだ。では、それでもなお指導をしようとしない頑固さは、いったい何によるのであろうか。

司祭は、話が社会参加に及ぶと『私たち神父は教会を守ることが任務ですから』と言って沈黙する。Bさんはそれを、

『あれは司祭の逃げ口上ですよ』というが、ここで注意しなければならないことは、それが逃げ口上であることよりも、司祭が社会参加をなぜ回避するかということだ。Aさんはつぎのようにいう。

『司祭はじっとしておれば、教会の頭として納まっていることができるのですよ。だからこの人たちの頭の中にあるのは、社会参加などではなく、いまさら騒きたてて教会に波風を起こしたくない。大切な経歴に傷をつけたくないということではないでしょうか』

ややうがちすぎていて、にわかには信用できないが、司祭が人間であってみれば、多勢の中には、生活と将来に結びついた、そんな事なかれ主義者が、一人ぐらいあるかも知れないという気がしないでもない。それを否定するように

『司祭が社会参加を回避する原因は、信仰的立ち場、社会に対する知識の欠除などというものではないでしょうか。ほかにあるなら自分の考えに対する自信、感情的な何かが考えられますね』というのはCさんである。

信者側の問題

しかし、信者の側に問題がないわけではない。司教館のF神父は

『教会のリーダーや信者は、もっと自主性を尊重すべきだと思います。その自主性を尊重しながら助言を与えるというのが、司祭の指導というものではないでしょうか』というが、これはいまの時点では、教会内部の問題には通用しても、社会の問題になると通用しない。なぜなら、教会のリーダーに、社会に何をするかという、はっきりした態度を持った人がいないからだ。

ここにも、司祭の消極性にならんで、信者側に、社会問題にタッチできるリーダーがいないという障害が、姿を現わすのだが、F神父は、その辺の事情を踏まえてつぎのようにいう。

『いまの信者には、社会参加といっても何をしてよいのか解りませんよ。社会参加を理解し、一般の信者を引っぱって行けるリーダーを、早急に養成する必要があると思いますが、そのためには小教区ごとに、司祭もふくめて、社会問題を考える機関を作る必要がありますね』

重要な社会参加

『社会関係と人間』46号に、J・ムルク師は、『もし教会が、人間の個人的および集団的なすべての現実の中で、正義と兄弟愛と真理を奨励しようと努めなければ、どうして、愛なる創造主の証しであり、社会のパンダネであり得ようか』『社会の罪や人間の欠陥を神のみ言葉に基づいて異議を申立て、すなわち、社会に積極的な指導を与える機能こそ、確かに、神の民たるキリスト者共同体が引き受けるべきものである』と書いているが、これはまぎれもなく、カトリックの社会参加を暗示するものではなかろうか。

Bさんはまた、

『カトリックが、外がわの社会から問われているのは教義ではなく、〝カトリックは社会のために何をしているか〟ということですその問に答えることができないなら、社会はカトリックを受け入れてくれませんよ。そういう意味で社会参加を実践することは、いま最も大切で、重要なことではないでしょうか』という。

この『社会参加』ということばは、その指向する意味が不明瞭なために、いろいろに解釈されてきて、『われわれは社会の中にいるのだから、いまさら社会参加をする必要はない。社会参加が必要なのは、教会にいる神父さまだ』という、素朴な意見まで飛び出したものだった。だが『社会参加』とあらためていう以上、それは社会の悪徳を批判し、これと戦い、人間の個人、集団、すべての現実に正義と兄弟愛と真理を奨励すること、すなわちカトリックの名をもって、社会問題の中に入って働くことでなければならない。

では『社会参加』とは、具体的にはどうすることかと聞かれると、その解答はむずかしい。まず必要なのは、現代の社会に何が行なわれ、何が起こっているかを知ることが必要だ。そしてその中から、正しい判断によって問題をひろいあげたとき、はじめて何をしなければならないかが解るのである。

社会意識の欠落

われわれはこの価値判断、あるいは感得の様式を社会意識と呼ぶのだが、Bさんはいまのカトリックに欠けているのが、この『社会意識』だといい、また、

『カトリックの人たちは、社会に目を向けても、そこで行なわれていることを、社会意識によって判断することができないのですから、社会参加を口にしても、それを実践することができないのです』と社会意識を持つことの必要を力説する。

司祭の中には、社会に足を踏み入れることを恐れ嫌う人が多い。それは教理中心の考え方があり、政治にタッチすることを恐れる心情があるからだが、教会の外がわには、ヒューマンな気持だけで、社会問題の中に立って戦い、それに命をかけている人がいる。神を語り、神の愛を口にしながら、社会悪のひずみの中で、悲惨な運命に泣いている人たちを傍観している、カトリックの司祭は、恥じて死なければならないのではあるまいか。

ながながと、社会参加を軸にしながら、司祭の、それも悪い面ばかりをえぐり出してきたが、筆者の意図は、決して司祭を攻撃することに在るのではない。この文章によって司祭の在り方、あるいは社会参加ということが顧りみられ福岡教区に、バチカン改革を積極的に推進する教会が興ることを、心から願うばかりである。

なおペンを置くに先だち、『社会関係と人間』46号に、J・ムルク神父が引用している、Karl Barth師の文章を掲げる。社会参加を考えるうえに、大きな示唆をふくんでいると思うからだ。

『疑いなく、教会自身の役割は政治を行なうことでも、国家の支配をのぞむことでもない。しかし教会は万民と各国の指導者の前に政治というものは神に対する奉仕であり、また正義や自由などは神の賜物であることを証明すべきものであり、またそうせねばならないのである。国家のかげが薄くなったり、権力を押し出しすぎる傾きがあるたびに、国が正義を、自由を侵害する傾向を持ったびに、そして国家が神の至上権や人権、その両方とも侵害しようとするたびに、教会は卒直に、そして愛をこめて問いかけ、呼びかけ、勧告し、警告することができるし、またそうせねばならない。キリスト者共同体は、この意味で国家のすることと、あるいは国家がなすべきを怠ることに対して、責任を負つべきものである。』

カトリックグラフ
9月号は
8月20日発売
定価150円（送料30円）
終戦記念日特集
誌上紙版画展 ＜カルペンチール作品集＞
35年間をこの赤帽に託して
竜馬の子孫が作つた養護施設
〔オラショ長崎〕ほら貝が知らせるミサ時間〔ステンドグラス物語〕前橋教会
〔カトリック人国記〕新潟教区②〔ホームギャラリー〕カトリック画伯
その他特集企画がいつぱい

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162—29
TEL 87—3099

福岡教区信者状況

（昭和46年6月30日現在）

教会		洗礼 臨終外 子供	洗礼 臨終外 大人	洗礼 臨終時 子供	洗礼 臨終時 大人	求道者	結婚 信者間	結婚 混宗	信者数 今年度	信者数 昨年度
邦人司祭地区	山町	11	4	0	0	3	1	4	492	466
	名日	27	27	0	2	36	7	26	982	975
	茶市	5	1	0	0	1	0	1	225	200
	大崎	1	1	0	0	5	0	0	106	110
	二島	8	4	0	0	18	1	0	234	189
	箱丘	14	5	0	0	10	1	6	419	407
	東郷	7	1	0	0	4	0	2	671	678
	光村	20	1	0	3	0	5	5	1,246	1,260
	本行	10	1	0	0	11	0	3	241	281
	今通	4	4	0	3	20	1	2	199	206
	賀	1	3	0	0	23	1	2	218	206
	水	18	10	0	3	32	2	9	747	1,156
	留	12	1	0	0	1	1	0	453	462
	渡野	2	2	0	0	0	2	0	146	172
	久島	9	6	0	4	9	1	2	479	474
	馬島	8	1	0	0	2	0	1	201	183
	美郡	5	1	0	0	7	2	2	188	144
	西	3	6	0	1	11	1	7	244	299
	小牟	8	15	0	0	9	4	6	580	557
	大田	7	0	0	0	0	2	0	429	437
	大宮	0	1	0	0	11	0	0	43	43
	高子	9	7	0	1	23	2	2	365	359
ミラノ会地区	里	5	0	0	0	0	0	3	152	148
	津	3	0	0	0	7	2	3	233	212
	島	0	4	0	0	0	0	0	75	90
	賀	2	0	0	16	26	2	4	473	455
	雄	1	9	0	0	0	1	0	81	76
	久	1	1	0	0	0	1	2	86	86
	栖	1	0	0	0	1	0	2	148	148
パリー会地区	万	7	7	0	0	2	3	2	290	310
	寺	0	0	0	0	0	0	1	115	200
	城	2	1	0	0	0	2	0	161	178
	塚	43	19	0	0	19	6	12	2,424	2,208
	倉	22	18	0	0	15	3	13	962	1,029
	崎	5	2	0	0	8	0	3	415	337
	巻	6	3	0	0	6	0	3	423	426
	王	3	1	0	1	1	0	2	164	151
	司	2	1	0	0	2	0	0	178	185
	港	43	3	1	8	5	11	2	1,403	1,344
	田	7	1	0	0	4	1	2	137	121
	方	7	1	0	1	10	1	6	400	424
	原	13	73	0	1	45	2	9	1,169	1,176
	神	5	5	0	0	8	3	4	370	378
	川	13	2	0	0	7	1	5	655	648
	町	12	3	0	0	8	5	3	400	379
コロンバン会地区	畑	1	1	0	0	2	1	0	53	51
	松	5	14	0	3	5	1	0	236	234
	若	7	8	0	1	13	0	2	197	169
	戸	6	3	0	1	18	0	3	352	394
	湯	0	12	0	3	9	1	3	354	350
	川	2	6	0	0	5	0	1	179	178
	倉	5	1	0	2	8	3	1	242	264
	崎	10	0	0	0	4	0	2	549	565
	巻	10	4	0	0	2	0	1	335	321
	司	8	20	4	17	16	1	4	482	473
	港	0	1	0	0	1	0	1	70	65
	田	11	12	0	6	25	5	18	786	835
	方	4	6	1	2	6	0	4	286	277
	合計	461	346	6	79	524	91	204	23,761	24,151
						減少数			390	

教区年度統計発表

福岡教区の昭和四十五年度統計（四十六年六月末日現在）が、司教館から発表された。それによると、聖職者修道者、神学生を除く信徒の総数は二万三千七百六十一名で、昨年の同じ時期にくらべ三百九十名の減。大人、子供の臨終外の受洗者数もことしは八百七名で昨年より七十名の減。なお他教区への転出が八百四十三名で、昨年より百三十名も多くなっている。神学生、修道者数も減少が横ばい状態で、アクション団体の会員も増加していないのは、信徒使徒職運動が叫ばれている時に憂慮すべき事であろう。

信徒の総数		23,761名
地区別信徒数		
邦人司祭地区		8,908
ミラノ会地区		1,248
パリ会地区		9,484
コロンバン会地区		4,121
小教区数		58
巡回教会		10
信徒の増加		
臨終外の洗礼		807
教区外からの転入		540
他理由による		79
信徒の減少		
死者		156
他教区への転出		843
他理由による		673
臨終時の洗礼		85
聖職者		
司教		2
邦人司祭	教区司祭	38
	修道司祭	6
外人司祭		59
神学生		
大神学生		6
小神学生		29

修道士		
邦人		2
外人		5
修道女		
邦人		399
外人		34
修練者ら		51
カテキスタ		
男子		4
女子		22
学校		
大神学校	1	48
小神学校	2	60
短期大学	1	167
高等学校	9	5,773
中学校	7	2,324
小学校	3	1,357
各種学校	5	629
幼稚園 保育園	58	10,652
日曜学校	41	3,424
病院	3	
ベット数		215
老人施設	5	329
養護施設	11	553
信徒使徒職団体		
JOC（F）	8	85
レジオ支部	21	201
学生会	3	61
SVP会	9	54
ボーイスカウト	5	150
医師会	3	12

使徒職群像

塚原堅太郎さん（佐賀教会）

信徒使徒職はキリストの兵士

大正十四年生まれ四十六歳。洗礼は、昭和二十五年に佐賀教会で受けた。その直接の動機は、英会話を習ったニュージランド神父の導きだが、江田島海軍兵学校にいたことがあり、そこで会った伊東神父の兄さんに、すごく人間的な魅力を感じたことや、戦争中の兵学校で、死について深く考えたことが、信仰に結びつく原因になったのではないかという。

現在、地区信徒使徒協の会長。ビンセンシオの会長も十年勤めたというから、信者としては相当の古強者。

『信徒使徒職はキリストの兵士です。大衆の中に飛び込み、カトリックが特別のものでないことを知らせなければなりません』

いま考えていることは、日曜信者をなくして、信徒全部を使徒職にし、個性に応じた活動をさせようということ。

はじめにこの人に会おうとしたのは六月、熊本に深堀司教を訪ねた帰りで、そのときは会えなかった。染色会社の経営者と聞いたので、デップリした中年の紳士を想像したが、実際に会ってみると、小柄のガッシリした体格で、浅黒い顔はいかにも海軍あがりといった感じだった。

自動車事故で死亡

パウロ会のシスター・大山

八月十六日午前八時二十五分ごろ、佐賀県三養基郡基山町小倉の国道3号線で、福岡市赤坂の聖パウロ女子修道院のライトバンが横転してころがって畑に落ち、運転していたシスター大山よしえが頭などをはげしく打って間もなく近くの病院で死亡。またシスター筏津あつ子とシスター山野恵子は重傷を負った。この日渡辺院長以下六名が熊本市健軍教会にゆく途中であった。

亡くなったシスター大山の葬儀は十七日午後一時、大名町教会で平田司教の司式、平山大分司教ほか司祭十名の共同ミサによって挙げられた。

同修道女は三重県多気郡出身、三十四歳。一九五九年同会に入り六八年に終生誓願を立てた。七月二十二日からほかの三人のシスターと大分県下の小都市を布教して廻り、八月十三日に帰福したばかりだった。

聖ペトロの献金

（6月27日）

大名町	一一、一〇〇円
浄水通	五、三八五
地行	三、七七五
西新	四、九〇〇
美野島	
高宮	七、〇〇〇
吉塚	三、五〇〇
茶山	五、〇〇〇
大楠	三、二九〇
箱崎	二、八〇六
東田島	二、〇七一
光ケ丘	六、四〇〇
二日市	四、五一四
小郡	一、四一〇
久留米	一五、二〇〇
今村	二一、〇〇〇
本郷	七、九〇〇
吉野	二、二〇〇
大牟田	五、〇〇〇
呼子	三、〇八七
馬渡島	二、五〇〇
佐賀	三、〇〇〇
唐津	二、五〇〇
伊万里	一、六五〇
武雄	三〇〇
多久	五五〇
鳥栖	一、〇〇〇
門司港	一、五一六
門司	五、三七二
小倉	一六、二二五
湯川	二三、六一八
戸畑	六、四四五
若松	六、〇〇〇
天神町	七、〇〇〇
黒崎	九、〇〇〇
八王寺	八、〇〇〇
水巻	五、〇〇〇
直方	一、五〇〇
飯塚	二、五〇〇
田川	一、四〇〇
行橋	五、〇六七
新田原	一二、九六四
手取	九、〇〇〇
健軍	四、五〇〇
帯山	五、〇〇〇
島崎	一四、〇〇〇
荒尾	四〇〇
玉名	二、一六〇
菊地	五、〇五〇
八代	五、〇〇〇
人吉	七、四五〇
水俣	二、六〇〇
本渡	七、四七〇
大江	三、四〇〇
崎津	三、二〇〇
計	三〇二、二五三

大学生は黙想

高校生は全九州大会へ

福岡地区のカトリック大学生会は、八月二十三日から三泊四日、古賀カトリック教会で黙想会をおこなった。参加者十五名、指導は福岡大神教授山内清海神父。

また カトリック高校生の全九州大会が八月四日から、鹿児島市のラサール高校でひらかれ、福岡教区からは学生百名以上、指導司祭六名が参加。

「神話と歴史教育」をテーマに集会

日本クリスチャン・アカデミー（福岡集会事務局は日本聖公会九州教区センター内）は、福岡黙想の家で、九月十四、十五の両日、集会をひらく。今回の主題は神話と歴史教育。山田哲生氏（歴史教育者協議会事務局長）の話しを中心に語り合う。定員四十名、カトリック側からすでに数名の参加がきまっているが、希望者は申込むことができる。会費千五百円（一泊三食代を含む）。

辞書は三省堂

大名町英語アカデミー
後期学生募集中
開講　9月20日　終講　12月15日
日時　毎週月曜・水曜
昼の部　10時—11時15分・13時30分—14時45分
夜の部　18時—19時30分・19時30分—20時45分
授業料　5,500円（入学金とテキストは無料）
教師　シユルツ神父ら外入教師数名
申込先　福岡市大名2丁目　カトリック教会
（西鉄グランド・ホテル前）　TEL74—3687

フリーマン式視度測定法
べつ甲製品及び修理専門店
学生様一割引
メガネの
べつこうや
公私立眼科御指定
福岡市山荘通り一丁目30
平尾サニー側四ツ角
TEL ㊷ 0943

教養

信仰によって生きる
生命の充実をめざして

安斎　伸

優れた先輩を先祖にもつ九州の信徒のイメージは、私にとっては現在の福岡教区の先輩、知人の人柄と重なり合って、気骨があって血の気が多く、人情豊かで、からっとして、信仰を貫いてゆく信徒像として、私の胸に描き出されるのですが、このイメージは間違っていないだろうと思っております。

現在は御承知のように社会と教会も変動期にあり、その激動の世紀を乗り切って、教会が世の光、地の塩として、ペトロの盤石の上に、世直しの大運動を展開してゆくためには、口先だけのへなへなした信徒ではだめであって、根性がすわって熱のある、そして、人間的な暖か味に溢れた信徒の協力が不可欠であります。

この点からして、私は胸に描いた九州人信徒に期待するところが大であって、口先だけの弱々しい私などは、皆様の前に恥死すべきであろうとさえ考えております。

すでに御存知のように、バチカン公会議を機として、教会は「皆でやってゆこうとする教会」になってきました。

皆でやってゆく教会ですから神父さんだけにまかせて、信徒が逃げたり、傍観していたりはできないわけで、この春にローマで教皇様にお目にかかった折、教皇様は私たち信徒の方に身を乗り出して「教会は信徒の外側にあるのではなく、皆さんが教会そのものなのです。しっかり頼みます」とおっしゃったのも、このことを訴えるためでした。

私の好きな最近のテレビのコマーシャルで「ガンバラナクーチャ…」というのがありますが、真面目な話、私たち信徒は今こそ振い立って、がんばらねばならないのであります。

それでは、いったい、何をがんばらねばならないのでしょう。私は次のように考えます。つまり私たちが神様と両親からいただいた生命を日々信仰によって自他のうちに充実させてゆくために、がんばらねばと思うのです。

神父さまがたには、この私たちの生命を霊的に鼓舞してくださるように、説教、講話、典礼司式、秘跡授与、助言、激励、慰めなどによって、がんばっていただきたいと思います。正直のところ、神父さまがたには一般社会の中で社会を相手にして働かれることより教会の中で、私たちや道を求める個人を相手にして、宣教、司牧の専門家としてがんばっていただきたいものです。それが、本質的な司祭の道であると思います。

私たち信徒の道は、聖霊と司祭に鼓舞されて、社会の中で、家族友人知人、隣人を相手にして、人びとの生命の充実とたかまりのために、家庭で職場で学校でがんばることでありましょう。

私たちが聖堂にゆき、ミサに参加し、聖体を拝領し、教を守り、研究するのは、日々の活動の霊的な原動力を得るためであって、ミサを守り、秘跡を受け、信心業を行っていけばそれでよいというものでないことは、信仰と人間味に溢れた皆様は自明のこととして受取られることでありましょう。

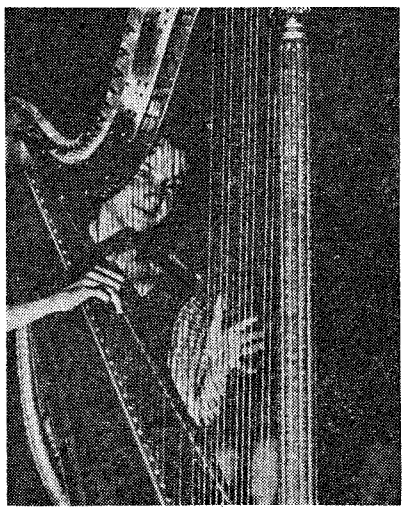
このようにして司祭と信徒の内外交流の協力によって、教会はは じめて社会における教会として円滑な活動を展開してゆけるものと思います。

神があってこそ生命ではないか。生命を考えるより、まず神を考え、神を述べようという布教論も出て参りましょう。たしかに神あっての生命であります。しかし、生命の充実のないところに、言葉だけの神が唐突に出てきては、神の生命は伝わりません。

神人一如の生命をまず日々の生活に充実させ、生命の響きを伝えこれに言葉が加わるとき、神と福音の宣教も生命を帯びて、相手の胸に響いてゆくのであります。

私たちが毎日の生活において、生命の充実を目指して、生きた信仰と情熱によって生きる努力を傾けるとき、聖霊は生命を帯びて人々を神と教会と信仰の道に導いてくれることでしょう。

私はこのような生命の高まりが福岡教区から湧き出るのを期待したいのであります。（あんざい・しん、上智大学教授、バチカン信徒評議会評議員）



歓喜の歌をうたって神をたたえよう

世界は神に造られた

要理教育のなかで ①

創造は現在の出来事
神の作品を尊敬しよう

要理教育にたずさわった人ならば経験したことであるが、創世記のはじめの数章を説明するときには、特別に慎重にならざるをえない。

こどものときから教理を学んで、世界創造に関する聖書のことばになじんだ者でも、かなりの誤解や不明を免かれてはいない。聖書はなにを教えようとしているのか、それをはっきりとうかませ、信仰を固めるのが、要理教育に当る者の大切なつとめであろう。

聖書は、いわゆる自然科学的知識にとって代るものではなく、信仰を養い、神の姿を見せ、信仰者として神にどんな態度をとるべきかを教えるものである。世界創造のお働き、過去の一つの出来事とみなしてしまうかたむきがあるが、これがいろいろな誤解の因になっているのではないか。

世界が創造されたというのは、全世界とそこにあるすべてのものは神から存在させられた、はじめにそうであったばかりでなく、いまもいつも存在を神からうけているということなのだ。創造は現在の神のお働きに他ならない。

このことがよく納得できた信仰者は、自分の存在の与え主である神に感謝と賛美をささげ、神の作品である世界に、尊敬をはらうことができる。

では創世紀第一章をとり上げて教える場合に注目すべき諸点を考えて見よう。

創世記第一章

第一章の叙述の中心点はつぎのことばに表われている。

神は「……」と言われた。するとそのとおりになった。神はそれを見て、よいとされた。まさに神の全能力を表わしている。もちろん神が水や陸や鳥、花をつくられるとき、聖霊は生命を帯びて人々を神と教会と信仰の道に導いてくれることでしょう。

一つ一つ造っていったというのではない。神のことばがそのご意志を表わし、そのご意志のままに世界が造られたということである。ヨハネ福音書も冒頭にそれを述べる。「はじめにことばがあった。万物はことばによって造られた」

なお創造されたものがよいものであったことも強調される。形あるもの、物質が悪いという観念は聖書にはない。神はむしろわれわれが、この世界を見て楽しむようにと招いておられる。

光と闇。生命と不毛。この二つの対立観念も第一章で重要なポイントになっている。闇は虚無のシンボル。神は闇の代りに光と輝きを、不毛の淵の代りに生命を与えた。

生命の霊。創造のはじめから神の霊が現われる。それは神の力、神の生命を与える方である。新約ではキリスト、そして使徒らの上に下る。

生命あるものは生長と完成にむかう。神の造ったものは、すべて繁殖し地に満ちてゆく。

人間の創造。人間が最後に造られた。世界が美しく飾られ、場所が整ったあとである。人間はこれらを支配する。男と女が造られたが、男女は平等である。一体となって相助ける。人間は神の似姿である。この表現以上に神と人との親しい関係を示すものはない。人はこの地上で神の代理者となる。だから隣人愛は神への愛に通じる。人は自然を治めその美を賞でる。七日目の休憩、それは幸福の象徴である。人間はこの幸福に呼ばれている。

連載随筆　明日今日　(7)

老境

河東野菊庵

洗礼を受けて、まだ四、五年にしかならないのに、最近はカトリックに失望を感じることが多くなった。

教会に来る学生を見ると、去勢されたように活気がなく、そうでない者は変にニヤけて部屋の中で女と戯れている。

大人の信者は、教会でいつも顔を合わせているのに、空々しい表情で、目の前を通り過ぎて行く。この人たちは、どこで神を信じるのだろうと疑われるほどである。

神父さまにも、私の心をとらえるほどの人は見当たらない。この人たちに私が感じるのは、何となくよそよそしさであり、大学教授のような知識人の印象である。

私はいつか、福岡市内の禅寺で、十歳あまりの雛僧が、老師にお経を教わっているさまを見たことがあるが、そのときの老師の、手をとるようにして教える姿には、親の愛情以上のものが溢れていた。私は、仏教の慈悲とはこんなものかと思いながら、涙をためた目で、長い間師弟の姿を眺めていた。

またある歌会で会った老師の、飾り気のない、しかし暖かみに満ちた立居を、まだ心の中にしまっている。若かった私は、日の光りのように、肌に伝わる老師の暖かさを、目をみはって眺めたものだった。

カトリックの聖職者に、こんな人のいないのは、何の理由によるのだろうか。カトリックの中に、愛徳という言葉はあっても、私はまだ、その愛徳に出会ったこともないのである。

私も、老人と言われて、おかしくない年ごろになった。心境にも著しい変化があって、近ごろは一つの事、ものに、執着を感じないようになった。しかし、人の心の暖かさには、まだ惹かれるものがあって、カトリックの中にそれがないことに、何となく淋しさと、疑問を捨て得ないのである。

思想の世界では、それが自分を充たさないものであれば、急にほかの思想に転向することが赦される。カトリックも、広い意味では思想なのだから、転向しても差し仕えはあるまいと思うことがあるが、カトリックには棄教といういやなことばがあって、それが私をさまざまるのである。

修道女を悼む

吉村　涼子

今朝ともにミサにあづかりし修道女の帰天の報せひとときの後
神の前に祈りて行きし修道女の車の事故に遭ひて帰らず
己がすべてを神に捧げて来し君の今やすらひてみ手に帰りぬ

詩　位置

高橋文樹

言葉はそのひびきを得た時から
すでに言葉ではない
愛はその姿勢を定めた時から
もはや愛そのものではない
人間の歴史が
極めてひそかに形作られてゆく時
人間は歴史の中に埋もれ
そのまま色あせてゆく
ぼくたちは探す
ひびきのような言葉を
消えた炎の姿を
遠のいた人間の歴史を
そして
ぼくたちも見ることがある
沈黙の中に
かすかに光る言葉を
憎しみの中に
ひそかに生きる愛を
歴史の中に
かさなり合う人間の影を

（詩人・RKB毎日資料課長）

今月おすすめする本

日本の切支丹を紹介する文献は多いけれども、彼等の信仰の内面を浮彫りにする種類のものはまれである。歴史の流れの中における犠牲者、あるいはパライソの至福をのみ念じて死につく狂信者の集団位の印象しか与え得ない。

パン種のように歴史のねり粉の中で働く福音が、大航海時代と呼ばれるこの時期に、東洋のはての一国でどのように人の心の中に作用して行ったかを知るために、大名の政治的位置や商人達の現世的野望などの外面から見た要因だけではとても切支丹は理解出来ない。キリスト者は宣教師も、土着の信徒も内面より鍛えあげられて当時の世相にどの様に行動したかを見る事によって、少しは切支丹を理解出来るのではないだろうか。

淡々とつづられる数少ない代表人物の行動の中に、近年、とみに問題にされるキリスト教の土着化の問題の核心がふくまれているように思われた。

あえて一読をおすすめするゆえんである。（浄水通教会　伊東）

『世界を歩いた切支丹』フーベルト・チースリク著

学問的な書でも完璧な研究でもないと著者はことわっておられるが、確実な史料をもとにつづられた信仰の勇者たちの史実こそありがたい。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川　東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話　代表　52 0568

ご存じですか
耳で聞く聖書　カセットテープ
ポニーのカセットテープによる
カトリック大全集
大名町　聖パウロ書院
岩田屋5階　セントポールコーナー

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

11月21日に使徒職大会
全信徒に参加をよびかけ
具体的活動の実践へ

信徒使徒職協議会の教区組織結成を準備する第二回役員会は、九月十二日午後一時から四地区の代表ら九名、伊東、平田両指導司祭が出席して、大名町教会でひらかれた。平田司教も姿を見せて信徒の積極的な協力に感謝することばをのべたが、四時間にわたって教区協議会の会則案と十一月二十一日の信徒使徒職大会の具体的なプログラムについて討議した。

その結果、この大会が、線香花火的なかけ声におわることのないように、できるだけ全信徒に参加を呼びかけ、さらにわかりやすいスローガンをかかげて、ただちに実行できる使徒活動の道を示すよう、準備委員会で急ぎ検討することになった。会場は福岡大神学院構内。この日のプログラムは、正午から共同ミサ（中食はすませて参加）、教区協議会の発会宣言、役員の紹介のあと「どのように信徒使徒職を実践するか」をテーマに特別講演と信徒代表数名の発表。四時散会予定。

教区組織が出来あがった場合での、役員メンバーをつぎのように内定した。（敬称略）

理事＝白石鉄也、松尾光敏、頭島勇（以上北九州）、平田房刀、米湊潔、平木直親（福岡）、塚原堅太郎、牧野利正、北島治慶（佐賀）、熊本地区代表は未定

会長＝米湊潔、副会長＝松尾光敏、塚原堅太郎、会計＝平田房刀、書記＝山田耕司。

シノドス成功を祈ろう

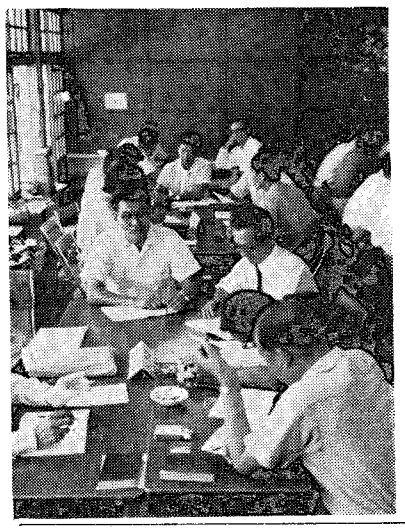
九月三十日からローマで、シノドス（世界代表司教会議）がひらかれる。これは第二バチカン公会議の一つの延長として、刻々に変化する世界の動きに正しく応じるため、教会の方針を審議するもので、全世界の司教の代表数百名が参加する。日本からは田口大阪大司教と白柳東京大司教が出席する。

こんかい取扱われるのは、司祭の聖務と世界の正義の問題。

この会議が聖霊のみちびきのもと、十分の成果をあげることができるよう、パウロ教皇は全世界の信者に祈りを求めておられる。

平田司教は九月二十一日付で教会、修道院に書簡を送り会議期間中、日曜日のミサでとなえる共同祈願のサンプル（ローマで作成されたもの）を添えて、教区民の協力を要請した。

活動に足並そろう
北九州で一日研修会



「関門大橋の建設も急ピッチですすみ、新幹線も延びてこようとしているとき、教会はいつまでもののろのろ歩きしていてよいのだろうか」。現状維持と閉鎖的な考えから脱けでて、一日も早く使徒的活動への足並みをそろえようと、昨年八月につづき、二回目の北九州地区信徒リーダーの研修会が九月十二日朝十時から夕方までおこなわれた。参加希望者は八十人をこえたが、会場の八幡八王寺教会が収容しきれないため、実際にあつかれたのは六十二人（男子三十六人、女子二十六人）。

指導にあたった野原清神父（長崎県南田平教会主任）は、午前と午後の二回、信徒使徒職の教令をもとに、その具体的な実践と現代社会の把握について、こんせつに説明し、研修者は八つのグループに分れて、講師の話しを深めた。

ある信者は『使徒活動について進んだ考えをもつ人と、理解の不足していた人がこの研修でどうやら一線に並ぶことができたのではないか。その意味でとても役に立った』と語っていた。

野原神父の講演内容はつぎのとおり。『使徒職は、環境や職業の違いを問わず、全信者に課せられた使命で、われわれは両手の自由を奪われたキリストに、自分たちの手を提供するものである。この活動はキリストの全共同体のもので、各小教区の主任司祭と連けいを保って進めるのが望ましい。

使徒職活動の根本はまず、信徒の司祭職の実践である。生活の模範をもって人々に福音の真意を教え、日々の汗と涙を神に献げること。わが国の宣教のゆきづまりが問題になっているが、その一つの原因は、福音を具体的に見せる人がいないからではないか。多くの日本人は「福音に生きる人」を待っている。われわれは教会の共同体のなかで、また家庭、青年層、仕事や趣味の仲間のなかで、さらに政治の場で使徒になる。』

神学講座
神学講座（46年度第2学期）が

九月十四日から大名町教会旧聖堂ではじまっている。十二月十四日まで計十三回で、毎火曜、三時三十分から六時三十分まで。会費は二千六百円。科目と担当講師は左のとおり。

秘跡一般、四回、岩村師。堅信、一回、宮川師。キリスト者の生活、三回、ラベル師。聖書、三回、日置師。日本キリシタン史概要、一回、深堀師。マリア論、一回、高木師。

〝もっと大衆の声を〟
カトリック新聞に要望

九月十二日午後一後から、大名町教会で、東京のカトリック新聞編集長山口神父をかこんで、「カトリック新聞をもっとよくするためにどうしたらよいか」についての座談会がひらかれた。集まったのは教区広報室関係者らのほか十数名の信徒で、山口編集長はまず同紙の編集、営業態勢、発行部数と経理状況などを発表したあと、読者側からの批判、希望などを聴取した。

これにたいし、説教くさい、教皇のことばをもっと簡潔に、中央にかたよりすぎている、歴民的でないなどの意見がのべられ、またむつかしいという批判についてはもっと大衆の声を引き出すようにするとか、解説記事をふやすようにとかの要望があった。

おわりに山口神父から「カトリック新聞友の会」結成の趣旨が説明され、参加者一同は新聞へのよりいっそうの協力を決意して散会した。

北九州カテケジス研究会

「画を通して子供を知る」第三回北九州カテキスタ研究会は、九月二十四日午前九時から戸畑区の戸畑天使園であった。グループ別研究テーマは「日曜日」で、宗教教育研究所のロジェ師が「カナダ北部のカテケジスをみる」と題して講演をおこなった。

スペイン語講座

大名町英語アカデミーの新しい企画として、九月二十一日からスペイン語講座がはじまった。毎週火曜と木曜の午後六時、七時半の二回、講師はシスター・ニヨヴェス（メキシコ人）。

ごあいさつ

この度の自動車事故につきましては、ひとかたならぬお世話をいただき、会員一同心から感謝申し上げております。みなさまのご厚情に励まされて、入院中のシスター筏津は日ごとに快方にむかい、またシスター山野も九月四日に退院、修道院で療養を続けております。突然の出来事のため十分な感謝も申し上げないまま失礼いたしましたことを深くお詫びいたします。

聖パウロ女子修道会
会員一同

司祭異動
（カッコ内前任地）

久留米助任に牧山勝美師（小倉助任）
小倉助任に西田邦洋師（久留米助任）
大名町助任に平田實師（福岡小神学校付）

修道院めぐり
カノッサ大牟田修道院
福岡県大牟田市倉永

西鉄大牟田線倉永駅で下車すると、すぐ前の高台に十字架をかかげた校舎が見える。これが明光学園。校門をくぐり石段をのぼると突き当たりに学園を経営する『カノッサ会大牟田修道院』がある。

このカノッサ会の創設は一八〇八年。イタリア貴族出身のマグダレナ・カノッサがその創立者。伝記をひもとくと、十八世紀末の社会混乱の中で、貧しい人たちのために働くカノッサの姿が刻明に描かれている。

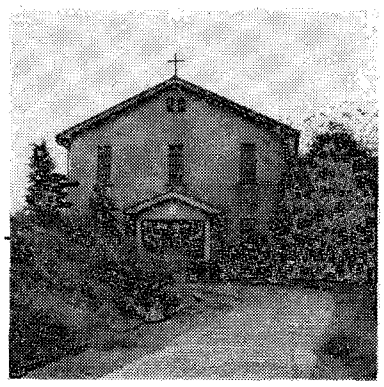
福岡に来たのは昭和二十五年。香港（ほんこん）から来たシスターM・ピッコリほか三人の修道女が、福岡市大名町に落ちつき、深堀司教の尽力でカナダ、ホリネーム修道会の所有地だった現在地を譲りうけた。ここに修道院ができたのは二十六年。明光学園は翌二十七年に建設された。

当時校長と修道女一人だった明光学園は、現在では中学、高校あわせて一、〇四四人の大世帯にふくれあがり、通学者も地元のほか、久留米、三潴郡、玉名郡（熊本県）の広域にわたっている。

校長の山崎トミヨさんは、東京で生まれ東京で育ったという人。『責任感と、愛と奉仕の精神を養うことに力を入れています』と語ってくれた。

修道院長はルイジャ・カツツァニ力さん。（写真上）ミラノから車で一時間、レスモという小都市の出身（写真上）イタリア、香港、フィリピンを経て日本に来たそうだが、その日本もこの五月で満八年になったという。

小柄な優しい感じの人だった。



10月のこよみ

3日（日）　聖霊降臨後第18主日
奇跡を行うほどの強い信仰を、私たちは神に願う。その奇跡とは「自分に言われたことを完全に行う」誠実であろう。これこそ生きた信仰のしるし。

唐津教会で堅信
5日（火）　エクメニズム担当者全国会議のため平田司教上京
7日（木）　ロザリオの聖母
10日（日）　聖霊降臨後第19主日
神のなさったふしぎなみわざが、私たちを神にめざめさせる。しかし神の働きかけに気づかないことも多い。十人のうちただひとりがキリストへの信仰に達している。

体育の日
17日（日）　聖霊降臨後第20主日
神は正しいさばきを下し、えらばれた人を不当な境遇から救い出される。しかし私たちはこの世の不正に目をとめ、よわい者を助け、正義が行われるよう努めているか。

帯山教会で堅信
18日（月）—23日（土）教区邦人司祭の年の黙想会
24日（日）　聖霊降臨後第21主日
本日は「布教の日」である。布教とは神のみことばをこの世に伝えること、キリストの福音の精神が人々の心にしみこむよう働くこと。使徒職活動とはまさにそれである。外にむかって伸ばさない教会は、すでに動脈硬化にかかっている。

伊万里教会で堅信
28日（日）　聖シモンとユダ両使徒

31日（日）　聖霊降臨後第22主日
キリストは、道徳的にかんばしくない生活をしていたザアカイのうちに、お泊りになった。そのとき、一言もかれを非難なさらなかったが、ザアカイはどうしても自分を裁かないでおれなくなった。自分で改心へのチャンスをつかませること、キリストの裁きとはこのようなものか。

福岡大神学院で九州地区四司教会議

機械部
オリンピアタイプライター
オリンピア計・加算機
オリンピア卓上電子計算機
シャープ卓上計算機・日本タイプ
湿式・電子複写機・輪転謄写機他
文具スチール部
コクヨスチール製品
トーホー・ライオン紙・文具
（全国銀行の70%がオリンピアです）
福岡県総代理店
（卸）（小売）シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号　筑紫女子短大前
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
（092）52—5327

現代の中の信仰

過去の踏襲では疎外される
内外から変革を迫まる声

◇　◇
◆
◇　◇

カトリックの信者は、日曜日に教会に来て、ミサが終るとそのまま、後ろも見ずに帰って行くような人が大半を占めている。この人たちの信仰には、自分の幸せのほかには何もないように見えるが、それでよいのであろうか。

『社会関係と人間』46号、『フランス・カトリックにおける〝造反〟』は、

『教会は崩壊しつつあるとりでだ』

『好むと好まざるにかかわらず、教会はもう死んだ』

『信仰の暗殺者は教会の中にいる』

という神父のことばを記している。いずれも現代社会という怪物に直面した神父の、偽りのない苦悶の叫びだ。

戦争、公害など、多くの問題をぶら下げた社会。神父にこういう叫びをあげさせる社会の中で、われわれの信仰はどうあるべきか。例によって、神父・信者・学生の声の中にその問題を探ってみた。

これまでの個人的信仰から、社会にあかしする信仰、人間社会を高めるための信仰に変るきざしは、もうあらわれているだろうか。

長くはげしい迫害の影響

わが国のカトリックの信仰には、二五〇年にわたる迫害の歴史がある。それは幕府という封建体制が行なった弾圧で、おびただしい殉教者の血によって彩られている。

最後の弾圧は一八六五年二月、大浦天主堂が完成し、三月キリシタンの復活が行なわれたあと、浦上村山里の一村総流罪という形でやってくる。これがいわゆる『浦上四番崩れ』で、六六〇人の信者が流罪地で死亡した。

カトリックの迫害は遠い歴史ではない。まだ私たちの前に、余燼（よじん）がいぶるように横たわっているのだが、この迫害の歴史は、現代のカトリックに、どのような影を投げているのであろうか。

カトリック社会問題研究所のメンバーで、大学教授のAさんはこう語る。

『迫害につながるものとして、私たちは熊本・長崎の島々に散らばっている、いわゆるキリシタン部落を思い浮かべます。迫害の影響で離島にたどりついた信者たちは、貧しい生活の中で信仰を守り、また教会も自分たちのものとして守ってきました。だからそこにはキリシタンらしい堅固な信仰はありますが、それは社会から孤立した、自分たちだけの信仰です』

トリエント公会議の教え

教会の中では、新信者に比べて、たしかに旧信者の消極性は目立つけれど、それは第三者からみると程度の問題。おしなべて『カトリックの信者は消極的』というのが一般の見方で、信者のCさんはそれを、

『カトリック信者の消極性は、やはり迫害の影響によるものです。その消極性が旧信者、あるいは旧信者出身の神父をとおして、今日では、すでにカトリックの体質にまでなっているのではないでしょうか』という。

社会への働きかけはまだ始まっていない

また同じ社研の学生Bさんはいう。

『私たちは過去の信仰を直接は知りませんが、旧信者の消極的、防禦的な姿勢をみていると、はっきりと迫害の影響が残っていると感じます』

旧信者の消極性は、事あるごとに指摘され、それはまた必ず迫害に結びつけられる。だがつぎのようなエピソードがあることを見落してはなるまい。

明治六年二月二十四日、キリシタンの禁制が解かれ、浦上四番崩れで十九藩に流されていた信者たちが浦上に帰ってきた。翌七年、台風が長崎を襲う。家が倒れ、作物が全滅し、赤痢が蔓延する。

このとき、ド・ロ神父を助けて、特志看護婦として起ちあがったのは岩上マキ、守山マツ、片岡ワイ、深堀ワサの四人。いずれも苦難に耐えぬいて、流罪から帰ったばかりの乙女だった。この人たちはド・ロ神父とともに患家を回り、患者の世話、汚物の処理などに立ち働いたが、最悪の条件の中で罹患二一〇人、死者八人におよんだのは、今くその献身的な活動のおかげであった。（片岡弥吉『長崎の殉教者』）

これはいまでいうなら立派な社会参加。ここには消極的、防禦的という姿勢は、そのカケラも見ることはできないのである。

現代の〝よい信者〟とは

だが最近配布された『愛の実行運動』は、カトリック信者の消極性を、トリエント公会議の結果としてつぎのように書いている。

『トリエント公会議は教理を明りょうにし、これをカトリック要理としてまとめ、信者の教理研究を強調した。また、真の信仰生活はミサや秘跡なしには成り立たないし、償いと苦業をしないならば信仰生活を深められないとして、そのために主日のミサと秘跡についての規定を設けたり、大斉、小斉の厳しいおきてを定めたのである。そして教会法をもって信仰生活についての種々の規則を定め、禁書目録を作って信仰の危険となる本を特別の許可なしには読まないように固く禁じ、更に多くの信心会を起こし、信仰生活を高めさせようと努めた。また、信者が教会の手伝いをするように励まし、それによって司牧と宣教をしようとしたのである。それ以来、『よい信者』のイメージは、教理をよく学び、主日のミサに忠実に出席し、度々秘跡を受け、教会法を正しく守り、信心会に参加し、力に応じて教会の手伝いをする人、というのであった。たしかに、それらはすべてよいことであったが、信者は次第に教会から子供あつかいにされ、社会では責任のある信者も教会のことになると、おとなしい消極的な自発心のない子供のようになるに到った』

D神父は『迫害の影響は否定することはできませんよ』と言っていたが、このトリエント公会議の教えは、もっと本質的に信者の信仰を消極性の中にとじ込めたのではあるまいか。

私たちは、ここに書かれていることが、今日もなお、そのまま多くの信者に当てはまり、こういう考えから抜けきれない神父が、いまも多数いることに注目する必要があるようだ。

第二バチカン公会議が、このようなカトリックの信仰にもたらしたものは何であろうか。F神父は『公会議は、これまでの個人的な信仰を、社会に証（あか）しする信仰、人間社会を高めるための信仰に変えました』という。

それはトリエント公会議で教えられた、消極的な、教会の中だけの信仰から、社会に働きかける積極的な信仰に変ったということだが、プロテスタントのF牧師は、

『プロテスタントは、激動する社会と対話しているが、カトリックはまだ働きかけようとしているだけではありませんか』

カトリックは、まだ社会に働きかけてはいないという。そしてこの点については、社研のGさんも懐疑的だ。

『バチカン公会議後、いまもカトリックの信仰が変ったとは思えません。実際には、信者が何をしなければと考える前に、公会議によって、新しい方向を押しつけられた形で、信者はまだ、社会に働きかけるということを、実感としてはあくできないでいるのではありませんか』

ここ数年、公会議後の方向を示唆するようなことばが、つぎつぎに現われ、また最近は全国で、信徒使徒職協議会が発足している。だがカトリックの目は、いぜんとして外を見ないがごとくであり、社会に働きかけることの実践は、F牧師がいうように、またはじまってはいないのである。

信者のGさんは、そんな状態を嘆いていう。『カトリックでは、社会参加と言っても、そこから実践は生まれては来ません。信徒も信徒協も、していることは教会内部のことばかり。これは信仰を、人間の生き方――思想としてはあくしていないからではないでしょうか。』

現代信仰の焦点

さて現代の中で、私たちの信仰はどうあるべきであろうか。信者のGさんはこう語る。

『いつかある新聞の老記者に、〝カトリックは社会にたいして何をしたか〟〝カトリックは過去にしたこと、いましていることについて、自己反省をしないでよいか〟と詰め寄られたことがあります。私たちはこういう声の中にあるものが何であるかをよく考え、この声をしっかり受け止めて、それに答えなければならないのではないでしょうか』

そしてGさんは、そこから信仰の変革をはじめなければならないというのだが、これは『現代の危機と信仰』（角田信三郎編・エンデルレ書店発行）の序文中にある、つぎの文章につながるものがありそうだ。

『人間と自然との力関係が逆転して人間が優位に立ち、人間が自力で地上に未来を建設しようとしている現代世界は、もはや中世の延長ではなく、社会的にも文化的にも変質したといわれる。

公会議はこれを〝時のしるし〟として受けとめた上で、〝現時点の世界の中の教会〟（現代世界憲章）のあり方を検討したのであった。人や物についての考え方や世界のあり方自体がちがってきた現代では、宗教生活も今までの考え方やあり方そのままの踏襲では疎外されるばかりである』

Gさんに詰め寄ったという老記者の意見は、外部からカトリックに変革を迫る声であり、『現代の危機と信仰の序文』は、変質した社会にたいして自己変革しようとしているカトリック自身の声ではあるまいか。そして二つの声をこうして並べてみると、現代の信仰が、どこに焦点を合わせなければならないか、おおよその見当がつくのではなかろうか。

ところで、いま私たちがしなければならないのは議論ではない。それよりも、このような考え、意見を信仰、あるいは信仰生活のなかにどう実践するかということだ。

不完全ながら、現代の信仰についてペンを進めてきたが、視野を広げたばあい、最後に残るのは信仰は現代を救い得るか』という問題である。しかしいまは解答を出すほどの材料を持ち合わせていない。ただ、考えられることは、それが信仰を現代の中にどう位置づけするかにかかわり、キリスト者が自己の弱さからどう脱出するかにかかわるのではないかということなどである。

この問題については、機会があれば稿を改めて触れることにしよう。（広報室・M記者）

「心のともしび運動」に協力を

テレビとラジオの「心のともしび運動」をすすめているハヤット神父は、九月二十六日、大名町教会のミサで、同運動の目的や状況をのべ、巨額の経費をまかなうため、信徒の協力をねがった。寄付は月毎に、最低一口、百円となっている。

アパートが聖堂に
北九州市黒崎で

北九州市八幡区の黒崎教会（主任トクベフ神父）では、人々のドーナツ現象で、信者が郊外に移っているが、こんど個人アパートがかり聖堂に生まれ変り、付近の信者の集会、子どもの教理勉強もおこなわれている。建物を寄付したのは、町上津役に住む信者の清水工務店、いまは二階にまだ四世帯住んでいるが、近く全部を聖堂に改造する。九月二十六日午後二時から階下の一部で、平田司教のミサがあり、子どもたち多勢が参加した。

辞書は三省堂

プロパンガス並びにガス・石油ストーブ
湯沸器・炊飯器・流し台各種
その他　溶接機械器具材料
（有）松尾溶材商会
北九州市若松区藤ノ木1924
(093)(77)3657～9番

フリーマン式視度測定法
べつ甲製品及び修理専門店
学生様一割引
メガネの
べつこうや
公私立眼科御指定
福岡市山荘通り一丁目30
平尾サニー側四ツ角
TEL ㊷0943

正しい人間観で幼児教育

湯の町で親睦と研修

幼稚園・保育園につとめる先生たちの研修会は、八月二十四日午後三時から二泊三日、湯の町別府市の白雲山荘でおこなわれた。カトリック福岡司教区幼児教育連盟の主催のこの会も、ことしで第七回、参加者も三百四十人を数えた。

定刻からややおくれての開会式で、青木保会長が「中央教育審議会の答申で、幼児教育の新しい行き方がクローズアップされているこんにち、研修をとおしてカトリック幼児教育の独自性をさらに強めることを真剣に考えてゆきたい」とあいさつ。また平田司教も「教育者は偉大な芸術家であるといわれているとおり、みなさんは子供たちの心の目をひらき、真の幸福を示しながら、人間形成を助けるものとなってほしい」と、激励のことばを贈った。

第一日よるの講演では、森田宗一氏（東京家裁判事）が「育つ心・育てる心」と題して、こどもの可能性をどのように、伸ばしてやるかについて語った。（別項）。また山川まさ子氏（福岡中央児童体育会館主事）は、幼児体育の指導法を実技をもって説明。このほか「社会・言語」「健康・自然」「絵画製作・音楽リズム」について、それぞれの分科会があったが、年一回の親睦をかねた研修会は、熱心な事務局の努力で年々、盛況になっている。

森田宗一氏講演要旨

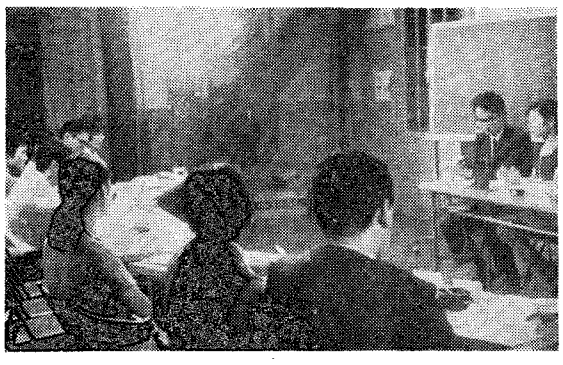
育つ心と育てる心のふれあいは家庭、とくに母の横顔、うしろ姿からつけるふれあいから始まる。こどもの生理発達学を基礎にしてかれらが宿している可能性を十分に伸ばすよう、助手的働きを教育者はつとめる。それを忘れると人間疎外の教育となり、いわゆる教育ママの弊害におちいる。風雪にたえる体験をしていないために、ひよわで挫折感が大きく、自閉症や心身の虚弱児、社会に適応できない子が多くなっている。恵まれた家庭、整った幼稚園のこどもにそれが多い。無抵抗でただ従順なこどもを育てるのが教育の理想と思ってはならない。固定化した人間観をさけて、新しい人間形成の道をさぐらねばならない。

研修会でミサにあずかる先生たち

気楽なふんいきで

第二回結婚講座

第二回結婚講座（愛の学校）が九月十六日から大名町教会でひらかれている。参加者は第一回のときよりもふえて十五組と数人の個人。ライル神父の「結婚準備とは」の話を皮切りに、毎週木と土の二日、夜七時から明るいふんいきの中で進められている。こんかいから講師陣は地元の人ばかり。会社員、主婦、学校教師、医師らがそれぞれの経験を若いカップルに話し、それについてみなで意見を交換するが、「気楽に話し会えてよい」となかなかの好評。



人間交流をどうするかを同窓会で話し合う

第一の結婚講座にあずかった人たちの「同窓会」が、九月五日午前十一時半からあった。講師をまじえて約二十五名が、中食を共にしながら「家庭生活の生きがいとむなしさ」をテーマに、体験をのべ合った。新婚家庭をいとなむなかで、ほかの家庭との交わりが思うようにいかないため、孤立感にとらわれてノイローゼにかかる者が少なくない、団地居住地が全人口の一割を占める現状で、こういう悩みはますますふえていくのではないか。これにたいしてどのように人間交流の幅をひろげていけばよいか、などについて意見が集中した。

（写真は講座風景）

山下神父を招いて聖歌研究

福岡教区修道女連盟は、九月十九日午前十時から、長崎市聖母の駒十修道院の山下種繁神父を招いて、福岡黙想の家で、聖歌の研修会をひらいた。参加者五十名。

午前中は、聖歌が神にささげられるよい祈りとなるためには、どのような心をもってよろうたらべきかについての話しがあり、そのなかでとくに「和声と心の一致」の必要が強調された。午後は四時まで、グレゴリオ聖歌や最近の日本語典礼聖歌のいくつかを材料に実技指導があった。

アカデミー集会ひらく

神話教育を討議

人間同志の出会いと話し合いをめざす「クリスチャン・アカデミー」の主催で、福岡でのはじめての集会が、九月十四、十五の両日、福岡黙想の家であった。福岡近郊のカトリック、プロテスタント諸教会の信徒ら二十五名が集まり「神話と歴史教育」をテーマに話し合った。講師に招かれた山田哲生氏（歴史教育者協議会事務局長）は、戦前における神話教育の実態とそれが果たした役割、戦後における神話教育の移りかわりとその背景について、くわしく説明した。

このあと小学校六年社会科のカリキュラムと神話、歴史教育観、神話と歴史と教育の三の分科会でテーマを掘り下げていった。カトリックからは北島治慶（中学校教師）と山田耕司（小学校教師）の両氏ほか教名が参加した。

使徒職群像

白石鉄也さん（湯川教会）

地区協議会のまとめ役

『地区全体の活動のための組織が必要だということで、若松教会の松尾さんとはかり各教会に呼びかけましたが足並がそろいませんでした。そのうちに〝信徒使徒職協議会設立〟が浮びあがってきたのです。』

『昨年八月、東京の杉田神父を迎え、信徒代表を集めてひらいた研修会で盛りあがりました』

白石さんは、ことし一月創立された北九州信徒使徒職協議会の会長。

二十八年小倉教会で洗礼を受けた。おだやかな性格で『群雄割拠の北九州では、まとめ役として最適任』と評価する人もいる。朝鮮羅南の生まれで学生時代語学を習った先生が宗教に深い関心を持っていたこと、軍隊の同年兵に、倉田百三夫人と親しい人がいたことなどが、この人を自然にカトリックへ導いたようだ。

『信徒使徒職とは、洗礼の恵みによって得た責任をいかに果たすかということです。具体的には、信仰を深めながら、家庭、あるいは職場の人間関係の中で布教を進めていくということでしょう』

現住所は、小倉区東水町。住友金属に勤め、湯川教会の信者。ヴィンセンシオの会長も勤めている。四十七歳。

絵はがき『イエスキリストの聖地』販布

国際文化福祉協会（福岡市大名一丁目九番三号）では、同協会で作った絵はがき『イエス・キリストの聖地』（カラー、十五枚組）を販布している。

国際文化福祉協会はアジアの貧困、餓死、また公害の紛争の中にある人間の問題を調査解決しようとしている団体で、この絵はがきの利益も、アジアの貧しい人たちを救うために使われることになっている。

絵葉書の製作者で総事務長の杉山龍丸さんは、こういう運動を、ガンジーの弟子たちと協力しながら十六年も続けたという人だが、

『私たちの生きている今日の世界は、いっぽうでは戦争のために多くの人が死に、いっぽうには公害によって多くの人が病み倒れています。これはローマ帝国の征服下にあったイスラエルと、本質的には何の変りもありません。キリストの死と復活、キリストが何を祈り、何をしようとしたかを、今日の私たちの生き方に結びつけて考えることも、決して無意味ではないと思います』と語っていた。

なお絵はがきは一組三五〇円。団体申込みには割引があり、希望者のために大型の写真も用意している。くわしくは同協会あてて問い合わせのこと。

レジオ黙想会

レジオ・マリエ熊本クリアの会員四十名は、熊本市手取教会で黙想会をおこなった。ことしはレジオの創立五十周年にあたり、指導した伊東誠二神父は「レジオの原点に帰って考える」をテーマに、会員に使徒としての自覚をうながした。なお役員の改選があり、新会長に人吉の佐無田氏がえらばれた。指導司祭は八代のマグワイヤー神父。

堤エツさん

（新田原教会助任堤敏雄神父の母）。九月六日老衰のため唐津市の病院で逝去、八十歳、マグダレナ。葬儀は八日午前八時から馬渡島教会で平田司教ほか数名の司祭の共同ミサでおこなわれた。助産婦の仕事のかたわら結婚する人たちの要理勉強を指導していた。

神学校後援会経過報告

昭和44年9月からはじまった神学校後援会の教会別献金表が司教館から発表された。44年度は44年9月から45年8月まで。45年度は今年8月まで。

教会名	44年度	45年度
大名町	70,000	211,860
浄水通	16,500	37,850
西新	63,350	35,130
美野島	9,050	1,800
高宮	71,450	57,100
吉塚	15,000	
茶山	14,620	
箱崎	28,700	32,380
大楠	21,650	
古賀	9,365	
二日市	86,550	
久留米	99,050	94,500
大牟田	84,530	65,480
吉野	26,200	
今村	177,780	351,526
本郷	150,515	36,960
小郡	27,800	39,400
呼子	3,305	10,000
馬島	4,035	6,100
門渡港	15,000	15,000
門司	53,600	48,850
小倉	240,000	200,000
湯川	60,000	78,150
戸畑	106,008	160,837
若松	60,005	60,000
天神町	54,000	60,000
黒崎	96,000	80,000
八王寺	31,104	28,600
本城	6,484	15,000
水巻	40,100	51,300
直方	25,000	28,000
行橋	38,400	50,800
新田原	110,000	120,000
田川	15,000	10,700
唐津	21,800	35,400
多久	10,400	7,850
伊万里	10,000	37,650
武雄	13,720	5,100
佐賀	36,045	55,000
鳥栖	22,850	12,000
玉名	9,200	
手取	70,000	70,000
健軍	7,500	
帯山		12,000
島崎	88,100	112,000
菊池		6,300
八代	10,000	10,000
人吉		55,175
水俣		8,750
本渡	24,000	13,400
崎津	27,000	70,350
大江	16,000	20,000
合計	2,296.766	2,518,298

カトリックグラフ
10月号は
9月20日発売
定価150円（送料30円）
本誌特派員の長期現地取材をベトナム問題大詰めのこの期に発売開始
これが新聞に載らないベトナムの裏側だ
名作「沈黙」の映画化に賭ける男
デモ激化が予想される秋 反対意志表現法を考える
〔オラショ長崎〕ほら貝が知らせるミサ時間〔ステンドグラス物語〕ベトナムの教会
〔カトリック人国記〕新潟教区　〔ホームギャラリー〕野辺のマリア観音
その他特集企画がいっぱい掲載予定

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の 河野電気
ミカエル 河野三千夫
福岡市田 1162—29
TEL 87—3099

〃ひとりごと〃

伊東誠二

秋の虫の声が美しい。

二三年前までは、ついぞ聴かれなかった雑草の中の秋の音である。家の前の土堤はまだコンクリートの洗礼を受けていないので、毎晩この土堤にかかる自然の大コーラスは圧巻である。

日本脳炎の撲滅を期して都会地でもDDTがさかんに使われた。お目当ての蚊はさすがに少なくはなったが、蚊の少い夏をよろこんでいる間に、秋の虫の声はひとの生活から遠のいてしまっていた。

公害源としてこの薬物使用が真面目に加減されはじめたとたんに、自然は根気強くわたしたちの足もとに還って来たのである。いや還って来ていた。ほほえましい新鮮さである。

いかにも新しいおどろきであるが、それにしても臨場感を持たないひとにとっては、そんな事は理の当然であって、はじめから解りきった現象、陳腐な感情とうつるかも知れない。おおよそ、人の印象というものは、それぞれ人の心のあり方如何によって異った作用を人の生活にひびかせて行くので、人間関係に厄介な事をひきおこすこともある。

壊古趣味だ、新奇好みだと言っている間は他愛ない、ほほえましくもあろうが、各人の強い印象が意識の中に凝結してしまったら主張となってあらわれ、こと人間の理想に関係するときには、互いの疎外感となってしまう。対話の必要が叫ばれる。善意だけは百%持ちよって対話の席に坐るが、それも主張の出し合いに終って、前進の意気をかえってそがれてしまったように感ずる。虚無感が支配する。革命が必要なのだと叫びたくなる。革命家の心境とはこんなものではないだろうか。

意識が一定方向に凝結して彼に君臨する。その言動が予言者的で、大衆は一応彼に同感を覚えるが、御本人程集中的に印象づけられていないために、消極的である。革命家は歯ぎしりして大衆の愚を責め、一層使命感に心をたぎらせる。

大衆が引き込まれるのは、彼等の主張に同感を覚える何かがあるからではあろうが、消極的なのは（期待した程責極的でないのは）案外に他の大切な事を見失っていないからではないだろうか。

少くとも、この時点でものを考えるとすると、自分の主義なり主張なりが狙っている事だけは正しいという事は許されるにしても、片手落の結果など自分には責任がないと言いたげな革命家は、民衆からそっぽをむかれることを覚悟しなければなるまい。

人間の事柄だけに限るなら、革命も結構と思う。ぜひ必要なあとに来るものの中に人類の向上が活きる場合、旧い考えをすてて新しい立場を打出して行くことも、特定の時期には必要でさえあろう。

教会が近年、公会議で目指した刷新もこんな意味では一つの革命と言ってよいかも知らない。まだすがすがしさは感じ取れないにしても、新しい事がすい分大胆に取りあげられた。

その公文書の中には、いたるところに広い人類的ビジョンが見られてたのもしい。救い主御自身が教会に与えられた使命を云いつくして、晴れやかな終末を、一目で見る事が出来る気がする。その中では、教会は自分の使命を人間的地盤の調整にだけ限っては居ない。

「英知のひらめきによって、ひとが整えたものを聖化し、ご光栄のために奉献する。」

結局、教会が目指すのは刷新であって革命ではなさそうである。

刷新とは初めの生命体の流れにかえることであり、途中から時代に沿った新しい生命体をつくり出す事ではない。

毒麦さえ生えている教会は、その生命によって活かされ、花もあり実もあるキリストの共同体の実現を目指さねばならない。

聖霊が働かれるための場所を整えることから、洗者ヨハネの使命がはじめられたが、それは教会の仕事の全部ではない。神の子が建てられる新しい生命体の出現の条件でしかなかった。毒麦を全部ぬき取ってしまって、近代流の理想に私たちが変りさえすれば、あとはフルオートマチックに、世界の救いがもたらされるかのように考えたら、とんでもない誤りだろう。教会の生命は聖霊の息吹によってはじまり、これは神ご自身が置かれ、保たれ、導かれる超自然的な実体である。

この自覚に基いて旧い体制のDDT作戦を止めるか加減するかによって、人々の心が求めてやまない新鮮な被造物の大合唱が、雑草の中からもきこえてくるかも知れない。

とにかく、秋の虫の声は美しい。

（いとう・せいじ、福岡市浄水通教会主任司祭）

教養

聖母子像

世界は神に造られた ②

人は自然を従わせる

倫理的決断こそその特性

創世記第二章

創世記の最初の二章は世界の創造を述べているが、資料としては第二章の方が古いと言わる。第一章では全体として宇宙のことを述べるのに対し、第二章では人祖のことを物語っている。はじめにこの地には一本の草木もなく、水が地をうるおしていた。神は土で人をつくり、息を吹きこんだ。人間はエデンの園におかれ、そこに生命の木と善悪の知識の木があった。四つの流れがあり、人間に一つの禁制が与えられた。神は人のために獣と鳥をつくり、ふさわしい助手としてあばら骨から女をつくった。

自然のなかの人間

ここで人間は自然界と密接な関わりをもつものとして画かれている。自然界は人間のためにつくられたが、すでに出来上ったものとしてではなく、人間の働きかけを待っている。たとえば土地は人の働きで耕やされ、エデンの園を設けたのは神であるが、それを耕してゆくのは人間である。木々は人の食物となり、また目を楽しませる。

獣は人の前に並んで名前をつけてもらう。人は万物の霊長であるけれども、土のチリから出たものであり、自然界に属する。

人間の優越

人間が自然にたいして優越性をもつことは、四つの点から浮びてくる。

❶「地に満ちよ、地を従わせ」（1・28）という表現以上に、二章全体は人間の自然にたいする優越をあらわしている。それは力づくで得た支配権ではなく、生れながらの能力である。たとえば人は動物に名をつけることができるが、これははじめは所有権のしるしであったけれども、それよりまず知識を前提としたものである。動物を知るということが動物への優越のしるしである。

❷人は自分にふさわしい「話し相手」を探したが、自然界のなかには見つからなかった。それは人が自然界の上にあることを示す。

❸人には神から禁制が与えられた。それは人が倫理的存在であり、おきてを守るか拒絶するか、決断できる存在だからである。（第二章の〃生めよ、ふえよ〃は祝福であって、おきてではない）

❹セム語では精神と息は同一語である。人は動物同様、チリから出来たが、人にのみ神は口から生命を吹きこまれた。

男と女

一章も二章も、人間が相補つ二つの異った性のもとに造られたことを述べている。とくに二章は、助手だけでなく、自分にふさわしいパートナー、いやむしろ自分の不足を補うもの、「話し相手になれる者」を人が必要としたことを語る。「私の骨、私の肉」とは、「私自身」という意味。これはセム語特有の言い方である。サムエル書上にイスラエルの部族がダビド王に「私たちはあなたの骨、あなたの肉です」と言ったとある。（五・1）。「同じ血」と言えば現代風かも知れない。

「ふたりは一体となる」は、かなり後代に加えられたものであるが、これによると男女間の魅力は神の創造のわざに起原をもち、性的な交わりも創造という偉大な出来事のなかに位置づけされている。だからキリストもこの言葉に基いて、結婚の不解消性を断定してやられる。

連載随筆 昨日今日 (8)

私の短歌

河東野菊庵

私が短歌というものをはじめて作ったのは十五歳、高等小学校の二年生のときだった。

家の近所に住んでいた叔父が短歌を作り、雑誌や新聞に発表するのを読んでいたら、短歌が三十一文字の文学だということぐらいは知っていた。たまたま叔父についてもらったことが印象に残ったので、『旅の駅に靴磨く人のありたればはじめてわれも磨かせてみぬ』という歌を作った。これが第一作で、少年倶楽部という雑誌に投書して十円の図書券をもらった。

その後叔父の縁で、大坪草二郎という歌人に師事し、アララギに入会したが、間もなく大坪先生が『あさひこ』という歌誌を出しはじめたので、その方へ移り進同人として迎えられた。この時代に作ったつぎの二首は、改造社の『新万葉集』に応募して入選した。

眼下を泡立ちてゆく湍つ瀬の音は聞えずこの高原に

遠く来て沙り陽の照らふ山を見ぬ帰るべき家に吾は帰るべし

短歌を止めたのは詩をはじめてからで、詩を作っているうちに、だんだん歌が理屈っぽくなり、自分でも短歌が面白くないようになったからだった。

終戦後、思い立って幾度びか短歌を作ってみたが、そのつど失敗してしまった。ところが最近、ある人に短歌の手ほどきをする機会があり、その人の歌を見ているうちに、また歌ごころが出て、立てつづけに二、三十首作ってみた。こんどはすんなりといったような気もするが、あまり自信はない。それはこんな具合いの歌である。

寒蟬の声ながく引きて止みしかば台所に妻の気配ひそけし

寒蟬は声引きて止む食卓をはさみし妻とわれの孤独に

求めきし明光学園は十字架をあげし校舎に雨しぶきをり

雨に濡れ光る石段の突当りわが求めきし修道院見ゆ

笑まひやさしく語れどシスター・ルイジヤも神に仕へ異郷に働く一人

短歌

鈴木美子

慰籍のことばきかざりしことも救いにて霧にしめれる階段のぼる

自らに深くかかわるわが素振り少年は敏く受けとめていつ

おのれ守る構えとなるをさびしめど強風の中さらさらは開く

抹茶に似し散薬をシーツにこぼしつつ夜はひとりのかなしみまもる

ポケットに乾きし草の穂が触るる読みたる葉書しまわむときに

今月おすすめする本

わたしたちは、日々自己の態度を決定する立場にたたされている。戦争・公害・世代の断絶・精神的貧困など、種々雑多な不正や害悪が、人類社会をむしばんでゆく。こうした現実に目をつむることはもう誰にも許されない。

著者は、こうした「深刻急激な人間と社会の変化」を、「新しい時代の始まり」として説明し、揺れ動くきょうという時点の中で、「新しい時代の歴史は、すでこ芽吹いている。この新しい時代の人類のあり方に責任を負うべきはほかでもないわたしたち自身だ」というのである。

混乱した現代の社会にあって、確かにわたしたちは「時のしるし」に敏感でなければならない。著者は、この本の中で、わたしたちにそういう問題を提供してくれる。

（ヴェリタス出版社、一六八ページ、四五〇円）

『新しい時代の始まり』
J・ムルグ著

激動する現代という時の流れの中で、一体わたしたちは何を考え、何をなすべきなのか。人間として、キリスト者として、

11月に福岡公演

広島エリザベト音楽大

広島市のエリザベト音楽大学の合唱団と管弦楽団による演奏会が十一月六日午後六時半から、福岡電気ホールでひらかれる。曲目はイベール作曲、室内管弦楽のためのディヴエルティメント、ショパン作曲、ピアノ協奏曲第一番、カントループ編、オーベルニュの歌、永井主憲作曲、テ・デウムなど。入場料四〇〇円、福岡市教育委員会、福岡双葉学園、福岡カトリック教会の後援。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表　㊷0568

ご存じですか
耳で聞く聖書　カセットテープ
ポニーのカセットテープによる
カトリック大全集
大名町　聖パウロ書院
岩田屋5階　セントポールコーナー

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

王であるキリストのまえで

教区信徒使徒職大会

11月21日　福岡大神でひらく

平田司教が福岡司教就任以来、第一の目標として打ち出されてきた信徒使徒職活動の組織化は、昨年はじめから四地区でそれぞれ準備をすすめてきたが、全教区的組織の結成の機がようやく熟したことから、来る十一月二十一日、王であるキリストの祝日に信徒ら多数参加のもとに、教区信徒使徒職協議会の発会式と使徒職大会がひらかれる運びになった。

この使徒職大会が、王であるキリストの祝日にひらかれることは意義ふかい。教会はこの日のミサで、「神よ、あなたは宇宙万物の王である御子キリストのもとに、すべてを集めるようお定めになりました。この祭たんでささげられる御子キリストが、諸国民に一致と平和のたまものを与えて下さいますように」と祈る。

全信徒が、王であるキリストの生きた手足となって、福音の精神を人間のあらゆる社会、家庭、職場、学校、事業のなかに浸透させるよう、積極的に働きかけることこそ、信徒の使徒職活動の目標であろう。

信徒の責任を自覚しよう

私たちはこの日、王であるキリストの前で、どのような境遇にあっても、この目標のために「勇気と確信にみちた福音の使徒」になることを誓い合う。

式は、司祭養成の本拠ともいえる福岡大神学院内の運動場でおこなわれる（雨天の場合は、福岡聖薬学園講堂で）。

正午から多くの司祭と心をあわせてミサをささげ、神のお助けを願う。協議会の発会式につづいて東京教区の使徒職錬成会委員長の佐藤吉茂氏が「愛の実践こそ真の使徒職」と題して、具体的な、誰にでもできる活動のあり方を提唱する。そのあと教区の四地区の信徒代表が、自分たちの活動の体験をひろうすることになっている。

この大会に参加するため、貸切りバスの予約をした教会もあり、福岡市内の諸教会では、当日午前の主要ミサは行われない模様。この大会の成功のため、ひとりでも多くの信徒が参加して、自分の責任を再認識すること、そのために早くから神のお助けを祈り求めたい。

兄弟的一致めざす

司祭の共同体錬成会

教区邦人司祭のためのキリスト共同体錬成会が、10月18日から23日まで黙想の家であった。指導チームはルシアン神父を筆頭に浜尾東京補佐司教、フロレス神父、ラベル修士、山本修女、畑野氏と新谷夫人ら東京在住の七人。

キリストを世にあらわすための兄弟的一致、それにいたるための真の対話のあり方などを、聖書と公会議の教えによって探求する一方、共同体の中に生きるキリストを実感していった。一日中、共同の祈り、意見の交換、神のいのちの分ち合いに終始し、夜は日ごろのカミシモを脱いで、全員が童心にかえり、リクリエションに興じた。（錬成会の司祭たち）

東パキスタンに救援を

パウロ教皇が呼びかけ

パウロ六世教皇は、インドに避難し、飢餓と死に直面している八百万の東パキスタンの難民の救援を、再三にわたり呼びかけられたが、10月4日、駐日バチカン大使館をとおして一10日、全世界のカトリック信者は善意の人々の賛同を求めて一致団結し、祈りと断食をもって神のおんあわれみを願い義援金を送るよう」要請された。この教皇アッピールは福岡教区の全教会、修道院につたえられ、義援金は司教館に届けられることになった。

教区信徒協の規約承認

十月二十四日午後一時から、大名町教会に福岡、北九州、佐賀地区から信徒協理事六名が集り、教区信徒協の規約案を最終的に検討し、全員一致で承認した。

地区役員選出

熊本地区信徒協

熊本地区では信徒協結成のため十月三日手取教会で、各教会の理事と指導司祭・山田成章神父出席のもとに、規約案の逐条審議をおこない、教区の使徒職大会への参加を申しあわせた。

さらに二十四日には、天草郡の三教会をのぞく全教会の理事二十人と、レジオなど使徒団体の代表各一人が会合して、地区役員を選出したあと、使徒職大会での体験発表者を指名した。

地区役員の顔ぶれは左のとおり（カッコ内所属教会、敬称略）会長＝中野尚夫（手取）、副会長＝西川サヨコ（玉名）源島栄一（八代）、会計＝高木信治（帯山）、書記＝平川秋次（健軍）、監事＝村島チエ子（レジオ会）村上征二（青年会）。

遠藤、三浦両氏の講演

熊本市民クリスマス

熊本市恒例のカトリック・プロテスタント合同の市民クリスマスは、ことし少し趣向をかえ、遠藤周作、三浦朱門両氏を招いて市民会館で講演会をおこなう。これはテレビ・ラジオの「心のともしび運動」の協力によるもので、十二月十七日午後六時開演、女子高校生の合唱、男子高校生のブラスバンド演奏もあり、終りにキャンドル行列をする。両氏は宮崎（十八日）と鹿児島（十九日）でも講演をする。

熊本市の歳末扶け合い募金はインド救ライ事業のため。

司祭異動

福岡聖パウロ会小神学校長の前田俊男神父は、東京都八王寺市に新築移転した聖パウロ学園高等学校長に就任。

修道院めぐり

ウィチタ聖ヨゼフ菊池修道院

熊本県菊池市隈府

熊本市の北東三十キロ、むかしは隈府町の名で知られた菊池市の町なかに、教会とならんで聖母幼稚園を経営する聖ヨゼフ修道院がある。園の一隅を改築したささやかな住まいに、村中院長＝写真＝以下二名のシスターが起居している。

聖ヨゼフ修道会は、約三百年前にフランスで創立、アメリカに渡ってカンサス州のウィチタ支部が独立して別個の修道会になったという。日本に来たのは昭和二十五年。いまでは京都市北区に肢体不自由児施設を、また三重県松阪市に老人ホームを開いている。

京都府綾部（つづき）郡の出身の村中院長（三十九才）は「私たちの幼稚園は菊地市で唯一のものです。公私立の保育所は八つあって、親たちは子どもをただ預けさえすればいいという考えですから、残念ながら幼児教育への熱意はあまり見えません」と、さびしく語る。

現在園児数は一三六人。修院を訪れたときは、ちょうど運動会が終ったばかりで、お父さんたちが後片付けに精出していた。

「子どもを集めるのが大変ですし、布教の効果もかんばしくありませんが、菊池のような小都市で、教会をお助けすること」にも大切な意味があると思います。」

樹々と清流にかこまれた、公害を知らぬ菊池市にも、いつか福音の種子が芽生えることを祈りながら修院を辞した。

「司祭養成に広い意見を」

福岡大神学院評議会の発足準備会は、九月二十八日、九州と琉球の五教区の司祭養成担当司祭らと神学院当局の初顔合わせでひらかれた。福岡教区の担当司祭は山川辰幸師（新田原主任）。この評議会は司祭養成のため広い視野から意見を求めるもので、来年一月十五日の第一回会合には信徒の有識経験者十名も加わってひらかれる予定。

一日のだんらんを楽しむ

行橋市新田原教会で、十月二十四日信者全員参加の運動会があった。お年寄りは魚釣競走、シスターとお母さんは二人三脚、青年と学生の仮装行列、地区別リレーでは走者も応援も興奮と熱狂のウズにつつまれた。

11月のこよみ

すべてこの世の試錬をくぐって、父である神のお顔を、じかに仰ぎ見ている私たちの先輩たちの、しあわせを思う。

茶山教会で堅信

諸使徒職団体合同錬成会（リバス師指導）

9日（火）　ラテラノ聖堂献堂

JOC指導司祭例会

13日（土）　大牟田明光学園創立二十周年記念式（司教臨席）

14日（日）　聖霊降臨後第24主日

典礼の暦は年末に近づき、私たちに人生の終末を考えさせる。終りに近づくにつれて、私たちは力を抜かず、完成へのもうひと頑張をしなければならない。

久留米教会で堅信

17日（水）　福岡大神学院祭

21日（日）　王であるキリストの主日

王であるキリストは、神から離れて互いに分裂した人類を、ふたたび神に引きもどし、真の平和をお与えになる。カルワリオで改心した盗賊は神に立ち帰って、心の平和をうける人類のシンボル的存在だ。

信徒使徒職大会

22日（月）　聖女セシリヤ

伊万里女子トラピスト大修道院で誓願式

23日（火）　勤労感謝の日、熊本コロンバン外国宣教会のお祝い

24日（水）—26日（金）本渡教会信徒黙想会（司教指導）

26日（金）　大江教会でガルニエ神父胸像除幕式

28日（日）　待降節第1主日

私たちはキリストご来臨の準備にとりかかる。現代社会は「キリストによる救い」を必要としている。キリストを与えるのは、私たち自身である。

島栖教会で堅信

戸畑ノートル・ダム修道院で誓願式

2日（火）　死者の記念日

私たちは、生きて旅している人々と兄弟的愛によって結ばれるように、旅を終えて天の栄光をうけている兄弟たち、死後まだ清めをうけている兄弟たちとも、愛をもって交わる。

3日（水）　文化の日、福岡大神学院で少年侍者の集い、熊本市島崎教会新聖堂献堂式（午後3時）

7日（日）　諸聖人の祭日

機械部
オリンピアタイプライター
オリンピア計・加算機
オリンピア卓上電子計算機
シャープ卓上計算機・日本タイプ
湿式・電子複写機・輪転謄写機他
文具スチール部
コクヨスチール製品
トーホー・ライオン紙・文具
（全国銀行の70%がオリンピアです）
福岡県総代理店
（卸）（小売）シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号　筑紫女子短大前
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
（092）52—5327

キリスト教的家庭を築くにはどうすればよいか

十月十日、熊本市の手取教会で『キリスト教的家庭を築くにはどうすればよいか』の研修会がひらかれた。出席したのは男女信徒18名（既婚者15名）とシスター二名。指導講師は平田敬神父（呼子主任）、司会にはライル神父（美野島主任）があたった。

この会合は、コロンバン外国宣教会が日本での司牧活動はどうあるべきかを検討するなかで、『子どもの要理勉強と家庭生活の実際』について、なまの声をききたいと催したもの。ペトロ前書の『あなたたちは選ばれた民族、王の司祭職、聖なる民である』を黙想したあと、『現在、あなたはキリスト教的家庭をどのように築いていますか』『将来、どのように家庭を刷新していけばよいと思いますか』の二点について話し合いに入った。

家庭の祈りと要理の勉強

家庭では祈りをふくめて霊的生活がどのように営まれているのだろうか。発言をいくつかひろってみよう。

Aさん（父親）＝下の子は小学一年になったので、祈りの先きあげをさせ、夕の祈りは食後すぐさせる。上の子は勉強中でも夕の祈りに参加させる。子ども用の聖書を読ませ、説明することもある。

Bさん（父親）＝私は旧信者の家で育ったので、何でも暗記させられた。家族全員で祈ることが一番大切だ。

Cさん（母親）＝私はレジオにいたので、毎日ロザリオを唱える習慣がついた。子どもにもロザリオを唱えさせるように努めている。

Dさん夫婦＝私たちは朝夕の祈りを、みんな一緒にすることはほとんどない。

Eさん（母親）＝うちでは朝の祈りとして、食卓で主祷文と天使祝詞をとなえ、一日の奉献をする。

Fさん（父親）＝私は宗教教育がすべてに優先するという方針だ。神さまへの務めこそ第一ではないか。朝おきてすぐ祈りをする。子どもがおきてこないと枕もとで声を出してロザリオを唱える。夜はテレビを止めてみんなで祈りをする。いまの多くの親は子どもに遠慮しすぎる。私の方針は父から受けついだもので、正しいと信じたことは断固すすめるべきだ。

Gさん（父親）＝うちは子ども六人ですが、ロザリオは必ずみんなで唱えます。私たちの信仰はロザリオで深められていると思っています。

Hさん（母親）＝ロザリオこそ私の信仰の支え。子どもたちが各連の意向を言い先唱します。

Iさん（父親）＝子どもは五人です。うちでは一部屋に宗教的ふんいきを出すようにしている。そこで子どもの先唱でロザリオを唱える。生活そのものが祈りであることも教えたい。長い祈りは無理でしょう。

シスター＝小学五、六年の子に要理を教えているが、朝の祈りをしているのはほとんど皆無。夕の祈りもほんのわずかです。

Jさん（母親）＝私たちの家庭には祈りが少ないと思います。子どもが小さかったころは出来ましたが、高校生になったいまでは一緒にすることはありません。

要理教育についてはどうであろうか。

Aさん（母親）＝教会で何を習ったか、日曜の説教は何であったかを子どもに言わせる。しかし説教のほうはほとんどおぼえていませんね。

Bさん（母親）＝私は自分で子どもに教えを話したことがありません。教会に托せっきりです。

Cさん（父親）＝私は教理そのものを教えずに、子どもが外から聞いてくることや、社会の出来事をとり上げて、キリスト教的な考えを解らせるようにしたいと思っています。

Dさん（父親）＝小学生のころは要理の勉強に喜んでいくが、中学になると学校が忙しくもあってなかなか行けない。

カテキスタ＝実際に小学校五、六年から、土曜日の要理勉強の出席がわるくなっている。

Eさん（父親）＝うちはもう子どもが成人してしまったが、小さかったころには、教会の要理勉強には必ず出席させた。私は自分で教えず神父さまにしてもらうだけでした。

Fさん（母親）＝私は親の信仰心が子どもにとって一番貴いと思う。父は無神論者、母は天理教信者、私は母から信仰のすばらしさを学びました。

これからどう刷新するか

ではキリスト教的家庭を築いてゆくのに、これからどうすればよいのか、もう少しみんなの意見をきいて見よう。

Aさん＝教会は全体的に見て以前にくらべ、やさしくなりすぎたのではないか、最低主義は危険だと思います。

Bさん＝ミサの奉納や告解など典礼に家族そろって参加するようにしたい。教会で子どもに何かの責任をもたせることも、教会に魅力を持たせる方法ではなかろうか。高校生になって教会に興味を持たなくなる一つの原因は、要理勉強が高校生むきに工夫されないからと思う。子どもの時の要理の延長ではいけない。

教理を体系的に教えることは親にとって非常にむづかしい。そのため神父さまが指導してくださるのですが、出席者の少ないのは残念。

Cさん＝祈りの必要を自覚すること、子どもにそれを解らせることが先決。もちろん口先きで唱える祈りではなく、実行をともなう祈だ。子どもの教育については理想論は役に立たない。言って聞かせたから子どもが動くとカンタンに思ったら大間違いだ。教育とはそんなキレイごとではない。

理屈で信仰を教えこむよりも習慣をつけさせ、成長につれて自分でも考えるように仕向けたい。社会問題に直面した子どもには、親も一緒にキリスト教的解決を探していくという方法がいいのではないかと考える。

家庭の宗教教育の重要さ

家庭の実際がのべられたあと、ライル神父は、つぎのような感想を語った。

『家庭内での宗教教育の重要性がよく認識されているのはうれしい。これからも両親に具体的な指導が与えられることが望ましい。そのために通信教育や研修会、家庭会などを重点的に活用することもいいだろう。身近なことがらをとり上げて、教育のきっかけにする訓練をすればどうであろうか。

近ごろ召命の減少が心配されているが、召命の芽を育てるのに、家庭内に宗教感を濃くすることが最良の方法ではないだろうか。

ところが現実は反対の方向をむいているようだ。信者の子どもたちの宗教的関心の低下のしるしであろうが、要理勉強のクラス（日曜・土曜学校）と出席者の減少が統計上あきらかになっている。44年に六六六あったクラスが、45年には四九二に減っており、出席者も四万七千人余から二万九千人余に半減している状態だ。

親に教育能力が欠けていることが問題になっているが、キリスト信者の家庭でこの欠陥をどのように補っていくか、親の責任感をどのように高めるか、みんなで真剣に探していきたい。私としては、キリスト教的家庭を築くことが信徒使徒職活動の第一歩だと思う』。

両親の影響こそ第一

（研修会のまとめから）

平田　敬

子どもの教育の分野では、両親は自分の役割が何であるか、子どもに何をすべきかを考えなければならない。親は教育理論を討議するよりも、教育が自分の神聖な権利であって、学校や国家にかんたんに譲りわたしてはいけないものであることを、自覚してもらいたい。

子どもが心身ともに成長していくなかで、親の及ぼす影響がどれほど大きいものであるか、量り知れないものがある。幼児のときからの人間的しつけと同時に宗教感の養成を始めるべきであって、この二つを別々の独立したものと考えるのは、大きな誤りだと思う。

家庭内に宗教的なふんいきをみなぎらせるように努めよう。家庭祭だんを設けることは、家庭礼拝の出発点となろう。御像を花で飾ったり、そこでロザリオをとなえるなど教会での典礼参加の理解はここから始まる。

土曜日の夜に子ども中心の霊的読書をするのはどうだろう。祈りを暗記させるのは大切だが自分の生活に合った祈りをさせることも忘れてはならない。口先きだけの祈りにならないためにもそれは必要と思う。いわゆる公教要理を順序に従って教えるだけでなく、具体的な日常生活に教えがどう生かされていくのかを考えさせることもいまの子どもは望んでいるのではなかろうか。

参考書は多い。『しつけと宗教心』『暮しのなかのしつけ』『わが子のしつけ』『神と共に生きる』『生きている教会』など、教会関係の出版社から出ている。

宗教感覚の低下をどう防ぐ

召命減少の原因もそこに？

親子そろって祈る習慣こそ私たちの信仰の遺風

大人のカテケジス

（ローマ国際大会決議から）

J・ラベル

去る九月二十日から二十五日まで、ローマでカテケジスの国際大会がひらかれ、私は日本からのただひとりの代表として参加しました。これには枢機卿をはじめ家庭の主婦にいたるまで、あらゆる階層のカテキスタが列席し、まさに教会的・国際的大会の名にふさわしいものでした。

カテケジスというのは、信仰を持っている人、または持ち始めた人に、神の言葉を伝えることで、単に要理を教えるというのではなく、かれらの信仰を深めることをめざすものです。

この大会ではいろいろのことが強調されましたが、その中に『大人のカテケジス』があります。

それは子どものためのカテケジスをおろそかにしないで、大人のためのカテケジスがいっそう重要になってきているということです。

現代社会は、教育の分野においても、また文化の獲得と伝達の過程の中でも、大きな変化をつけています。人間の育成についても、学校の中だけでなく、学校のそとでも、そして終身教育という形で全生涯に及んでいます。他方、マスコミによって研究と教育の方法も大きく変っています。

こういう状況のなかで、子どもの時代のカテケジスで十分だというわけにはいかず、それと同時に信仰の終身教育という意味で、大人のカテケジスが注目されたのです。

大人のカテケジスは大人自身のためばかりでなく、大人の信仰に依存することの多い子どものためでもあります。

子どもの信仰教育の場で、大人とくに両親の占める役割が大きいことは、うたがいの余地はありません。じっさい子どもの信仰は両親にかかっています。

しかし大人や両親は要理書を手にして、教えの内容をわかりやすく説明すればよいというものでもありません。社会のなかに起こるいろいろの出来事、子どもの世界に特有のものをおして、実地で信仰をふかめさせる道もあるはずです。

たしかにこれまで、有にのべたような意味での大人のカテケジスは、おろそかにされてきました。いまから、両親が子どもにたいして、カテキスタとしての役割をよく果たすことができるための、適当な養成が研究されるでしょう。

専門的な研究を待たなくても、家庭で子どもの成長を見守っている人が、まず自分の信仰を深める努力をすること、さらに家庭のふんいきのなかで、子どもの信仰養成に心がけること、これは私たちにいますぐ出来ることではないでしょうか。

（福岡大神学院教授）

辞書は三省堂

昭和47年度
泰星高等学校生徒募集

募集人員　普通科　200名
願書受付　昭和47年2月1日（火）～2月5日（土）
（午前9時～午後5時）

試験の期日と科目

期日＼時刻	9.00～9.40	9.50～10.30	10.40～11.20
2月8日（火）	英語	数学	国語
同日 正午	面接（父兄同伴）・身体検査		

福岡市山荘通3ノ111　郵便番号810
泰星高等学校　TEL ㊸ 0838～0839

フリーマン式視度測定法
べつ甲製品及び修理専門店
学生様一割引
公私立眼科御指定
メガネのべつこうや
福岡市山荘通り一丁目30
平尾サニー側四ツ角
TEL ㊷ 0943

北九州カテキスタ研究会

絵で子どもの宗教心さぐる

第三回北九州カテキスタ研究会は、ガイヤール神父の指導のもとに九月二十四日午前九時から戸畑天使園であった。出席者三十二名。

まず宗教教育センターのロジェ神父は「カナダ北部における親の役割カテキスタの養成について説明した。つづいて分科会では「わたしの日曜日」をテーマに子どもがかいた絵によって、かれらが日曜日についてどんな印象をもっているか、カテキスタとしてどんな点に気づいたか、どの点を改める必要があるかを研究した。これによると、

一年生では、作品は家族が中心になっている。みことばを伝える雰囲気、場を楽しいものにするのが大切。

二年生では、次第に共同体の喜びを経験し、祈ることに興味をもってゆく明るい絵が出てくる。初聖体のすんでいる子どもの絵にはミサでの聖体拝領の様子が多く現われる。

三年生では、家族全部が信者のとき、教会の画き方が明るく、生き生きとしている。

四年生では、友だちと遊ぶ絵は少い。けいこ事に通う絵、テレビの番組の絵などあって、日曜日というイメージはあまり出てこない。

五年生では、ミサ、信徒活動の楽しさをかいたものがある反面、教会か遊びかに迷っている絵もある。またみことばの祭儀の絵もあるので、この年令から聖書への興味と理解をふかめさせてゆくのも大切。絵だけでなく文章で表現させるのもよい。

六年生では、教会をかいたものが多い。この年令の子どもを知るために絵はある程度の資料になるが、低学年ほどの効果はない。客観化された絵が多い。抽象的なかき方もあるので、絵と祈りと説明が一つにならなくては、効果をあげることができない。

黙想の家をもっと利用しよう

福岡市片江の黙想の家（御受難会修道院カール院長）は、黙想会や種々の会合に開放されているが教会関係外の集まりにも、もっと広く利用されるよう望んでいる。

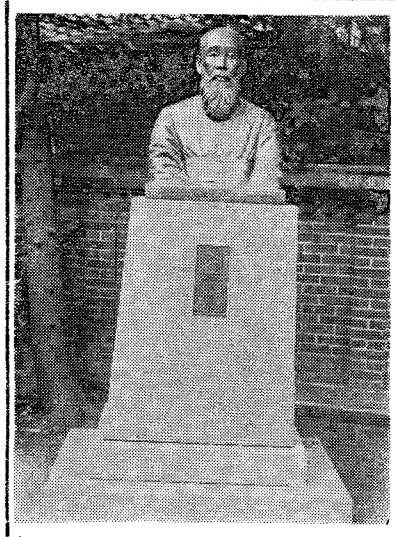
本年初めからの利用状況は、カトリック・グループ（司祭、修道女、SVP、JOC、カルメル第三会など）が三十六回。非カトリック・グループが二十七回。この中でバプチスト（10）キリスト教団（5）YMCA（4）の利用が多く、他に五日間の全九州ルーテル教会牧師研修会や、一般の高校生、大学院学生の合宿もあった。

カトリック信者の黙想会は五回であるのに対し、プロテスタント信者の集会は十一回。

全体的に見てプロテスタントからの利用が急上昇しているのに反し、カトリックの利用が少ないのは奇妙な現象。

故本田神父の胸像

メキシコ在住信者の寄付



明治二十九年から昭和三年までの三十二年間、今村教会の司牧にあたった故パウロ本田神父の胸像が同教会の正門右側に完成、除幕式が九月十二日朝、故人をしたう信徒全員の参加のもとにおこなわれた。

胸像はメキシコ在住の平田栄さん（七十一才）の寄付によるもので、長崎の中田秀和氏の手になり台の下から一・七メートル。

本田神父は安政二年、長崎市浦上の生まれ、明治二十年司祭になり、大正二年今村教会在職中に現在の赤レンガ造りロマネスク式の聖堂を建立。昭和七年長崎で逝去した。

急がなくてよいか納骨堂建設？

熊本では12月完成

十一月は死者の月。私たちはすでに神に召された肉親、友人らをしのび、墓にもって、ミサの功徳をかれらにおくりながら冥福を祈る。この機会に、キリストにたいする信仰をいだいてこの世を去った人が、肉体の復活を待って眠るカトリック墓地の状況を見ることにしたい。

土葬と火葬

教会は長いあいだ死者の土葬を原則としてきたが、現在では火葬でもよいことになっている。じっさい都会地では土葬のできる墓地の確保はますますむづかしく、むしろ火葬のほうが普通になっている現状だ。そこで最近各地に納骨堂が建設されたり、これから計画を進めようとしているところもある。

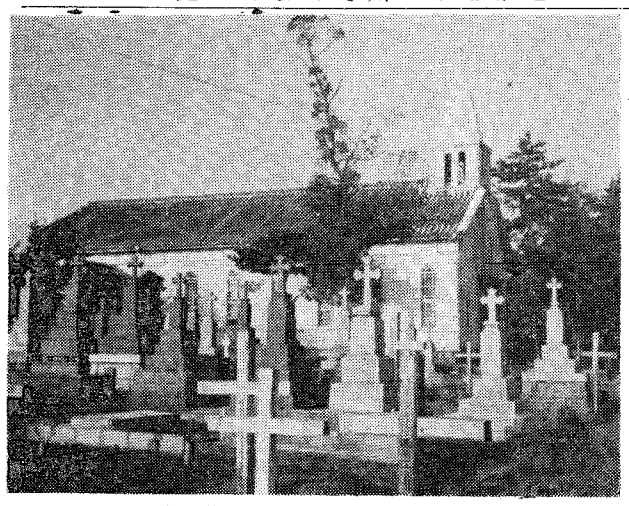
福岡教区全体の様子はどうであろうか、ごくかんたんに紹介すると、福岡市内では、ことしはじめから合同納骨堂建設の話しがおこっている。光カ丘、高宮、東田島などの小教区ではすでに聖堂に隣接して納骨堂をもうけた。久留米教会も昨年完成した。

熊本市内四教会では、立田山のふもとに合同納骨堂の建設工事をはじめて、十二月中には出来あがる。佐賀地区は、佐賀、唐津など手持ちの墓地が広く、土葬をつづける余裕があるので、さしせまった計画はないが、北九州では湯川墓地以外に市内に墓地はなく、それもすでに満員になっているので何らかの手を打たなければなるまい。行橋市の新田原墓地も同じで、もし新聖堂を建てるばあいには、地下を墓地にあててはという意見もあるそうだ。

熊本の納骨堂

熊本市の新しい納骨堂建設は、どのように具体化したのだろうか。そのいきさつを責任者の深堀秀市さんはこう語る。

「せまくなった市内合同の大江墓地を廃止して、納骨堂を建設しようという話しが出たのは五年前です。この案を信徒に示したときに、教会毎に小さな納骨堂を造りたいとか、土葬をやめて火葬だけにするのに難色を示す人もいたのですが、土葬のできる新しい適当な土地を入手するのが事実上不可能だったので、最初の計画どおり納骨堂にふみきりました。設置場所については、菊池郡西合志町の「少年の町」のすぐ近くを考えましたが、住民の一部が反対しました。これはまったく理由のない反対だったのですが、それを強引に退けるのもイヤだったので、別の土地を物色しました。幸い市内の立田山のふもと九四五坪の矩形の土地が手に入りました。総工費は一千万円、一千桝分で各桝にツボ四個入り、使用料は各桝一万二千円ということで工事を始めたわけです」。



ここも土葬の余地はない（新田原墓地）

深堀さんの話しでは、大江墓地の改葬には、まったく予期しなかった苦労があったが、この土地を売却した金が新しい土地の購入と納骨堂建設の一部に当てられた。

福岡は立案中

福岡ではことしに入って平田司教が市内合同の納骨堂建設を提唱された。早速関係小教区の信徒らで委員会が結成され、すでに数回の会合で、設計、場所、資金集めなどが検討されてきたが、去る十月二日、目良氏ら四名の委員は平田司教と会談して、そのご意向や希望をあらためたずねた。

平田司教の話しをまとめるとつぎのとおり。

「市内教会の共同体精神をたかめるためにも、全信徒が協力してりっぱな納骨堂建設にあたってもらいたい。火葬だけにかぎるのかまたは土葬、火葬両方ができるものにするのか、これからよく話し合ってもらいたいが、現在の大橋墓地はもう土葬の余地を残していないし、そうかと言って新しい土地の購入も、値段や距離や市の許可などを考えたばあい、ほとんど不可能と思われる。いまはもう納骨堂建設にふみ切るときではなかろうか」。

これにたいし信徒側は、

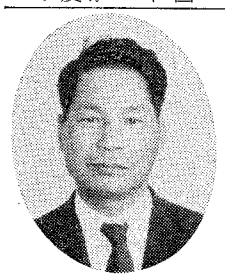
「墓地問題については、信徒全般に他力本願的な、あるいは無関心な風潮がつよい。独身者や土地に特にその傾向がつよいが、どうにかなるだろうと成りゆきまかせにしているわけにいかない。また一方この問題を、上からの指示を待つだけでもいけないと思う。墓地は信徒が率先して考えるべき問題ではないか。私たちが意見を出し、具体的なプランを司教様がたに示して検討してもらう段取をしたい。ただし、あらかじめ想定した一つの計画に、全体の意見をまとめていくことはしたくない。時間はかかるだろうが、信徒の希望や意見を広く聞き、それを十分に討議して、納得してもらえるやり方で、私たちの青写真を作りたい。

資金集めの件などむづかしいことがたくさんあるが、納骨堂建設は遅くならない時期に実現させたい」と前むきの態度を明らかにした。

使徒職群像

平川秋次さん（健軍教会）

祈りと犠牲こそ使徒職の原動力



「信徒の多くはまだまだ使徒職への関心がうすく、それを特殊の人の仕事だと思っているようです。信徒の再教育のために も、研修会のようなものをどしどし開く必要があります」。

熊本市健軍教会所属、レジオの熊本クリアの副会長、マリスト高校では生物の先生。大正十二年生まれ。玉名郡横島町の出身。

この人にはビルマでの戦争体験がしみこんでいる。いまの鹿児島大を出るとすぐ学徒出陣でビルマに送られ、そこで終戦をむかえた。主計少尉だった。「私が生きて帰れたのは、まさに偶然としか言えません。何度か生死の境をさまよい、最後に病院に入院していたおかげで帰還船に乗れたのです。」

終戦後の混乱のなかで、同じ学徒出身の将校らから「これからはカトリシズムと共産主義対決のときだ」と話されたのが、この宗教を耳にした最初であったとか。やはりある友人の手づるで公教要理を手に入れ、「カトリシズムの本質」を読み、二十六年復活祭に手取教会で受洗した。

「神のせつりということを、私は何の抵抗もなしに理解できた。戦場での体験が神のみ手に従う心を準備してくれたのです」。

「いま私たちに欠けているのは祈りときせいの実践ではないか。これがなくては使徒的活動もありえません。学校では生徒たちに強い自信をもって、カトリックの人生観をたたきこみます。はっきりした精神的支えを与えるのが私の使命だと思います」。

柔和な話しぶりのなかに、燃えるような信念があふれている感じだった。三男二女がある。

移住献金（9月12日）

大名町	一二、三〇〇円
浄水通	三、二七〇
地行	四、〇〇〇
光カ丘	五、七一五
西新	四、七〇〇
美野島	一、一〇〇
高宮	六、一〇〇
吉塚	五、〇〇〇
茶山	五、〇〇〇
箱崎	二、六一〇
大楠	三、一五七
東田島	一、三五〇
古賀	五、〇〇〇
二日市	三、三四〇
久留米	二〇、二六五
大牟田	三、五〇〇
吉野	五五〇
今村	二〇、二〇〇
本郷	七、二〇〇
小郡	二、〇〇〇
呼子	三、八八四
馬渡島	三、二〇〇
佐賀	三、六〇〇
唐津	三、〇〇〇
伊万里	二、〇〇〇
鳥栖	一、〇〇〇
武雄	七二〇
鹿島	五〇〇
多久	六六〇
門司港	二、二〇〇
門司	
小倉	二三、〇〇〇
湯川	七、二五〇
戸畑	一九、三〇〇
若松	五、五〇〇
天神町	五、五〇〇
黒崎	一一、〇〇〇
八王寺	七、六〇〇
本城	一、〇〇六
水巻	三、五〇〇
直方	二、〇〇〇
飯塚	一、〇〇〇
田川	二、一〇〇
行橋	
新田原	一三、九六〇
手取	一一、〇〇〇
荒尾	五三〇
人吉	九、一〇〇
本渡	四、五〇〇
健軍	四、三〇〇
帯山	八、〇〇〇
水俣	二、一四〇
大江	二、七〇〇
崎津	三、六五〇
玉名	一、〇一〇
菊池	五、〇〇〇
八代	四、五〇〇
島崎	二一、二〇〇
久留米信愛女学院	一五、〇〇〇
熊本信愛女学院	三〇、〇〇〇
合計	三六二、四六七

カトリックグラフ
11月号は
10月20日発売
定価150円（送料30円）
「沈黙」誌上試写室
この秋最大の話題を呼ぶ芸術大作のすべてを公開
那須高原に秋を穫る
自立を目ざす精薄者教育施設にいま収獲のよろこびが
いのちの電話　初日の相談内容
◆特集／いまベトナムで—
原爆の子戦地を走る
その後のカンボジア難民村
今日の話題、カトリック人国記　新潟教区②

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田1162—29
TEL 87—3099

あるものの見方

杉山龍丸

敗戦後の混乱のある時、友人のバラック小屋で、数学で判断する人に会った。この人は大変な酒呑みで、一カ月以上滞在された友人が閉口して助けを求めたのである。

さて私も初めてのことで、どうしたらよいのかわからぬ。ともかく会ってみようということで、その哲聖閣道人の室に入った。

その道人曰く「すべてのものは数学によって表わされる。その数字によって運命がきまる。たとえば、太陽の周囲を地球が廻り、三百六十五日でもとの所にもどってくる」というのである。

それで私は、もとにはもどってこぬというと、真赤になって怒りどうしてもどってこぬか、理由をいえといった。それで私は「地球が太陽の周囲を廻っているというのは、平面的な見方で、太陽そのものが動かぬと考えるからで、もし太陽が動き、宇宙が太陽をふくめて動いたら、地球は太陽を廻りながらラセン状に動いていることになる。

太陽や宇宙が動いていないという断定は、今のところ何の確証もないから、もとの所にもどってくるという確証もないことになるがどうだ」というと、その人はあっけにとられたように、ポカンと口をあけて、マジマジと私の顔を見ていた。

私は少し気の毒になったので、「何かを動かしたり、少し見方を変えると、妙に気分が変ったり、ものの見方が変って、行きづまりが解けて、新しい生き方や苦しみをのぞくことが出来るというのでしょう」というと、哲聖閣道人、急にショボショボした声で、

「そうです。人はうまいものを喰いたい、ぜいたくがしたい、人からよく思われたいといった、欲ばっかりです。それが私の飯の種で、あたしのところにくる奴は、みな欲の深い奴ばかりでしてなあ。はっはっはっ」と大笑いした。

それならおたがい様だとかれの手を握り私は家に帰った。

しかし翌朝起きて、私もちょっと心配になり、友人を訪れ玄関に入ったら、奥さんが走り出てきて「まあ、杉山さん、あなたの地球ばラセン状に廻されたのが、よう効きました。お陰で哲聖閣さんが逃げてゆきよりました」ということである。

それから友人と座敷で会うと、大笑いしながら、

「おい杉山、あいつ逃げるとき貴様に、あの杉山という奴は神経衰弱か狂人に違いない。しかし神経衰弱や狂人に負けては、俺の修業も不充分だと気がついたので、もう一度山にこもって来るから、宜しくといっていたよ」ということであった。

インドを歩いていたとき、ある学校の会合で、学者の人々から、「日本の大学ではなぜ学生が騒くのか」と聞かれた。私は「米ソが、月にロケットを打ち上げて、スポットをつけたので、日本の若い人々が、新しいハネムーンが欲しいと要求出したが、大学の教授には、新しいムーンが与えられないので、騒いでいるのです」と答えたので大笑いになった。

人間というものは、何か変らないものを求め、それに自分の生涯を托すものであるらしい。

ところがこの世は、常に変り、人間自身も常に変っているということを、認めることが出来ぬ言点があるらしい。

すべて変るということに、その相対性の中に、変らせる真理と、神の御心が変らないであるということなのであろうか。

聖書や経典の中にある言葉は、それを人の言葉で表現してあるので、人の考え、ものの見方は、妙に言点をもつことになるのではあるいまかと思われる。それで大変だ、大変だとなるのであろう。

（すぎやま・りゅうがん、国際文化福祉協会理事長）

放とう息子をむかえる父　アフリカ芸術

世界は神に造られた ③

人間存在の不条理　このなぞをのり越えるもの

集会の書

集会の書は、旧約時代の後期作品の一つ。紀元前一九〇年ごろに書かれ、エジプトでギリシヤ語に訳された。五世紀以後に確立した古典的ユダヤ教全体を要約する。

著者のシラは伝統を重んでる人。創造のわざと世界のなかでの人間の位置についてかれが教えるところは、創世記の第一、二章を十分に反映している。そして神と世界と人間を、信仰の目で見るようにすすめる。そうすればおのづから神を礼拝し、契約を尊び、忠実に生きることができると考えている。

本書の特色の一つは、人のいのちのはかなさに対する心静かな諦観であろう。ヨブ記に感じられるあの暗さに比べると、はるかに明るさをただよわせている。しかも子どもっぽい楽観主義ではなく、人間の運命と神の愛という矛盾しているかのように見える現実を、見落してはいない。

世界（42・15―43・27）

著者は自分が感じていることを語る。『いま、あなたに私の見たことを話そう』（42・15）。かれの信仰の目には造られたものはみな優秀で、うたないものはない（42・25）。しかし神はこの世界は偉大であり、そのみ業すべてを超えるもの。恐るべき主、偉大の極致、その感嘆すべき偉大な主にふさわしい光学をささげうる者がどこにあろうか」（43・27―37）。

神は変化する世界を超える方。そして同時に万物に内在する方。神によって造られた世界はまた神なしには存在できない（42・21、23）。聖パウロはこの啓示をうけて「私たちは神の中に生き、動き存在する」（使17・28）と表現する。

詩篇の中にも見られるが、ここでも、神はことばによって世界を造ったという断言がある。「主はことばによって業は行われ、創造界はそのみ旨に従う」（42・15）

シラの目は普遍主義者の目である。神の仁慈は例外なくすべてのものに注がれる。また神はすべてを知っている。「主は深淵と人の心の深みをさぐり、そのひそかな計画をも知る」（42・18）。

人間（16・24―17・21）

「人間とは何者か、何の役に立つのか」（18・8）。この永遠の課題にシラは答えようとする。かれは造られた世界の中で人間は自らを知り、位置を知るようになると考える。人間は、自分を造った神が与えたその使命に、全力をあげて答えねばならないのだ。創世記を手本に書かれた十七章の最初の数節は、人間の偉大さ、その役割と地位を明らかにする。

人は神にかたどって造られ、感覚と心（知恵）を具え、神を知り、神と語り、礼拝し、律法をうけ、掟を守ることができるものなのだ。

シラは人間条件の不条理、信仰者にとっての問題を、回避していない。人間は偉大であると同時に死すべきものなのだ。なぜか、それは旧約時代の賢者にも解明できぬなぞであった。シラはこのみじめさを直視する。「人間の年数かそれはせいぜい百歳にすぎない。海水の一滴、砂の一粒、永遠と比べれば、人間の年数とは、こんなものだ」（18・9―10）。

人間のみじめさ、しかしそれにまさる神のやさしさ。私たちは信仰によってしか、この不条理をのり越えられないのだ。

連載随筆　明日今日（9）

教会と現実

河東野菊庵

朝、起きぬけに、昨夜貰ってきたばかりの『カトリック生活』をひらいて、バルバロ神父の〝聖なる教会〟の、つぎのような言葉に目を引かれた。

『教会は、パウロのいうようにキリストの神秘体であり、そのかしらは聖なるキリスト、その体は聖徳に召されている者によって成立っている。教会の危機が叫ばれている今も、祈りと苦難と沈黙のうちにキリストの聖性を生かそうとする人はまだ多くある』。

私はそれから間もなく、所用のために街へ出た。そしてそのついでという訳でもないが、かねて〝ミニコミ〟と呼ばれている小雑誌を集めている、と聞いていた本屋に足を運んだ。

それは裏通りにあって、狭い、いかにもうす汚ない本屋で、店にはかなりの数の小雑誌が並んでいた。私はそこで、何気なく手にとった小雑誌に、学生運動で検挙された息子の裁判について書いた、母親の手記を発見したが、その手記には、裁判する測の、非人間的な横暴に対する怒りと、息子への愛情がきめ細かく書き込まれていて、ひどく胸を打たれた。そのへんの小雑誌をかきまわすと、ほとんどが三里塚や水俣病のような、社会的な事件の裁判報告と闘争記録で、あらためて、その種類の多いことに驚いたのだった。

店を出てと、隣りの喫茶店に入り、コーヒーをすすりながら、ふと、朝読んだバルバロ神父の言葉と、この小雑誌が表現する現実の間に、大きな断絶が横たわっていることに気付いた。それは、バルバロ神父のいう教会が、小雑誌の表現する現実、ないしは人の中に入ってゆくことができるかということだが、私にはまったく不可能なことのように思われた。

ではどうすればよいのか、解答が出ないまま、雑踏の中に入っていくと、そばを通りぬけていく人々の背中が、ひどく冷たいものに感じられた。

（文化福祉協会理事長）

今月おすすめする本

『麦の穂は陽を浴びて』マリー・テレーズ・ド・スビランの生涯とその手記（援助マリア会編）

現代、自己放棄とか犠牲ということばは、あまり歓迎されないようである。わたしたちはややもすると、キリストと共にパンをさくところまでは喜んで従っていくがカルワリオが近づくにつれて逃げごしになる。しかし、キリストと十字架はきり離せないはずだ。彼に従いたい者は、必ずその身に十字架のしるしをおびねばならない。

一九四六年、教皇ピオ十二世によって福者にあげられた援助マリア会の創立者、マリー・テレーズ・ド・スビランの生涯は、まさにキリスト共に苦しみぬいた五五年といえるだろう。彼女は、その手記の中でこう書いている。「一日の業のうち、最も確実に神のために残るもの、それは、苦しんだということです。神とそのご光栄のために苦しんだということ、それは大きな宝、大きな仕合わせです。成功するかしないか、それがどうしたというのでしょう。苦しんだということが残るのです。それは、私にとって純粋なプラスであって、そこには錯覚の危険がありません」。

彼女に朽ちることのない栄光の冠を勝ち得させた秘訣。それが何であったか、読者はこの本から容易にみいだすにちがいない。苦難を通じて栄光へ、というキリストの道を共に歩んだ、この福者の生涯と手記は、現代のキリスト者にとって一読にあたいする本だと思う。（ヴェリタス出版社、六百円一八九ページ）

『沈黙』の映画化

映画『沈黙』が十二月中旬公開される。シナリオは原作者の遠藤周作と監督の篠田正浩の共同執筆になる。小説と映画のちがいを感じさせられると同時に、原作にたいする著者自身の解釈が出てくるのが興味ぶかい。映画を見にいく前に、カトリック新聞10月31日号『篠田監督にインタビュー』の一読をぜひ。

短歌

丸き輪　鬼木保之

なすことの多く有りて　なさざるに
パイプのけむり　丸き輪のたのしみ。
木もれ日は　山一面のくま笹にくるめき
かえるただよう光。
若きとき来し　宿同じ部屋に入る
窓の景色を　思い出しおり。
遠山はかすみに消えて　ひたすらの
波野の原の　道一すじに。
とうきびの葉末は　枯れてすず風の
吹き立つ原に　幅広き道。

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長　ルカ　吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表　㊷0568

馬小屋セット
12点セット
¥1500～4500まで
各種
イタリープリント
スペインプリント
和風手がき
各種入荷
Xマス・カード
大名町　聖パウロ書院
岩田屋5階　セント・ポール・コーナー

カトリック
平田司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価一部　十五円

使徒職活動に奮起

教区信徒協の発会を期して

福岡大神で 1300 人の集会

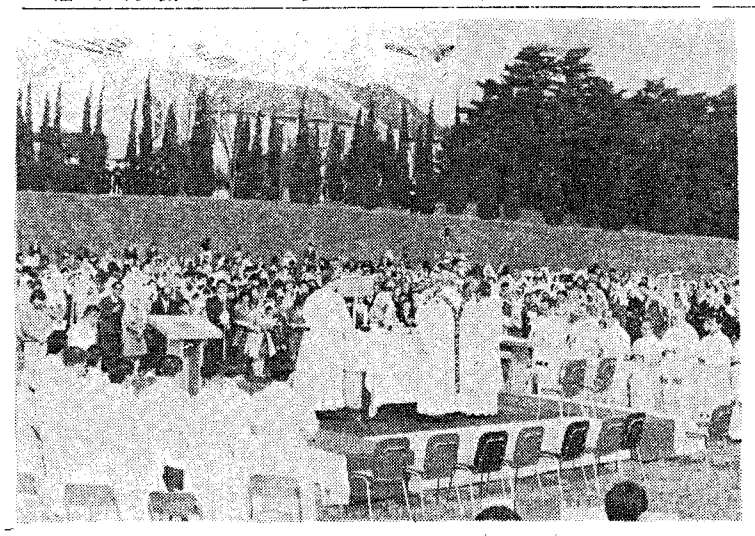
福岡教区の信徒使徒職協議会の発会式と、信徒による使徒職活動の高まりをめざす大会は、十一月二十一日、王であるキリストの大祝日を期し、福岡大神学院のひろびろした校庭に、教区各地から約千三百人の信徒を集めてひらかれた。

晩秋とは思えない絶好の天気にめぐまれ、なだらかな陵線の油山を望みながら、正午から平田司教以下二十五名の司祭によるミサがはじまった。この祭壇をかこむ信者の姿はまさに「天の御父が、キリストをとおして民を一つにお集めになった」との典礼文そのままであった。

小憩のあとは村松氏の司会で発会式にうつり、まず松尾氏が会の結成までの経過を報告、会長以下全役員が壇上で紹介された。米湊氏が「私たち信徒は神から托された責任を自覚して、兄弟的一致のときと使徒職にまい進したい」とあいさつ。平田司教も、全信徒の一致を強調しながら、こん後の歩みを激励した（別項）

つづいて大神学生による楽しいコーラスをはさんで使徒職大会にうつり、四地区から一人ずつ活動体験を発表。福岡の吉川信雄さんは「庶民のなかにとびこみ、その悩みと喜びを共にしながら、復活のキリストを見えたい」と語り、熊本の今村邦正さはん「心のともしび運動」のパンフレット配布による布教から得た体験と反省をひれき。佐賀の江口文好さんは青年の立場から、教会が青少年の信仰活動に暖かい目をそそぎ、育成してくれるよう訴え、最後に北九州を代表して上田ヨシノさんが、教会における婦人の活動の重要性と具体的な姿を語った。

このあと東京大司教区で戦前から、いろいろの使徒活動に指導的役割をはたしてきた、佐藤吉茂氏が演壇に立ち、愛の実践によって信徒はどのようにキリストを世の人々に証しするかを、約四十分間説いて、この日の大集会に消すことのできない感銘を残した。



（写真は大神学院校庭での使徒職大会野外ミサ、うしろは大神の聖堂）

「一致のための愛の実 行こそ使徒職の魂」

平田司教のおことば

平田司教は使徒職大会で、信徒の一致を強調して、大要つぎのように述べられた。

キリストは最後の晩さんで聖体の秘跡をお定めになったのち、御父に向って「私を信じる人が全くひとつになりますように。それはあなたが世につかわされたことと、あなたが私を愛されたように、かれらを愛されたことを世が悟るため です」とお祈りになった。

私たちは神のうちにおける一致と私たち相互の一致を実現するためにここに集ってきた。この一致はしかしまだ完成しておらず、私たちは教会の内外で一致の業を続けておられるキリストの心を心とし、その手足となって、個人的にも小教区共同体としても、また教区共同体としても、積極的にこの一致の完成に協力しなければならない。それこそ信徒使徒職にほかならない。

一致はまだ実現していないばかりか、神と人間との断絶、世俗化がひどく、さらには家庭、社会、国家間においても対立と分裂が目だっている。この傾向は、世に一致の手本を示すべき教会の中においてさえも見られる。交通機関とマスコミの発達によって、共同体をつくる道はひらけているはずなのに、対立は、かえってますます深くなってゆくように見える。

私たちは対立し分離したものを和解させ、一つにするように大きな努力と犠牲をはらわなければならない。「平和のために働く人は幸いである」と主は言われたが、これは「一つになるために働く人は幸いである」という意味である。

対立を解き一致を作り出すには愛が必要である。一つになるための愛の実行、愛のあかし、これこそ信徒使徒職の魂であり、これなくしてはあらゆる使徒的活動もぬけがらに等しい。家庭、小教区、一般社会環境の中で、一つになるための愛のあかしを立てるよう努めなければならない。

しかし一致のための愛の実行は困難なことである。自分から離脱し、個人的。集団的エゴイズムを捨て、他者の立場に立ってその心に入ってゆかねばならないからです。そんなことは私にはできないと考えないでください。私たちは洗礼、堅信の秘跡をとおして愛の力をいただいている。この力をどのように自覚するか、そして実行に移すか、信徒使徒職の集りや研修会や、このような大集会においてではないか。恩寵は働いてくださる。

さてことしの使徒職の目標は、教会が一つになること、自分の家庭内で夫と妻が親と子が、子ども同志が一つになること。

福岡地区で募金運動

福岡地区の教会と学校の協力で昨年同様、12月5日から24日までクリスマス・歳末街頭募金運動がおこなわれる。

貧困家庭と社会事業の諸施設の援助のため、目標額は一五〇万円。募金の場所は、福岡市、大牟田市、久留米市、吉賀町、春日町小郡町、大刀洗町など。援助対象は福岡市香椎の原病院、和白の青松園、大牟田市のりんどう学園とあけぼの学園。三井郡大刀洗町の清心慈愛園、今村聖母園、聖ヨゼフの園と一般貧困家庭。

終生誓願式

十一月二十八日午後三時半から北九州市戸畑区のコングレガシオン・ド・ノートル修道院で、テレジア都成（となり）芳枝修女の終生誓願式があった。平田司教の司式で、いとこの都成日出人神父（サレジオ会、大阪星光学園校長）も参列した。シスター都成は宮崎市出身。

修道院めぐり

聖心会天草支部

熊本県本渡市大浜町

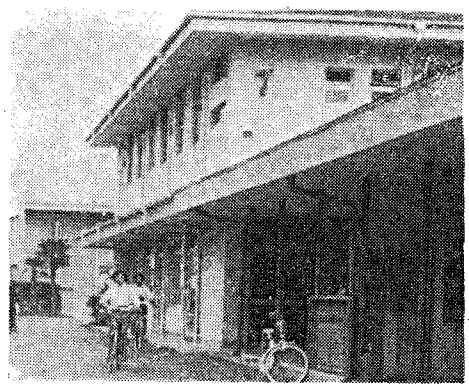
草の木渡の教会のそばに支部をもったのは昭和四十二年の春。

「聖心会が東京から天草に」ときいてびっくりした向きもあったが、こんどの訪問でこの点を確かめると、必ずしも農村へき地だから来たわけではなく、地元からの強い要請があったからとのこと。もちろん公会議以来の修道生活の刷新、社会との接触をもっと緊密にしたいとの方針、そのために少人数メンバーの修道院のあり方を試みたいとの考えもあったようだ。

「ことし九月には名古屋市内にも小さな修院が生まれました。長崎地方からの移住信者さんのお世話をするためです」とは村上英子院長（58才・東京都出身）＝写真円内＝のお話し。

この院長さん自身、三十六年から七年間、独立したばかりのアフリカベルギー領コンゴで邦人修道女の養成にあたった。天草へは昨年きたばかり。

「シスターは六人で、四人は教会付属の幼稚園で保母をしています。そのうちの一人は、ここの市立の中学校で三年間、他の先生と同じように奉職したことがあります。私たちとしては、まずこの土地の人々にとけこむのが第一だと思っています。」



本渡市はキリシタンで有名な天草島の中心だが、先祖代々の信者はいない、しかし十数年の教会の努力がようやく実を結び、教会はもうヨソ者でなくなっている。

「町を歩いていますと誰でもおじぎします。ほんとうに親切な人ばかりです。私たちは主任神父様のお伴をし、遠い信者のうちを巡回して、ミサや要理勉強のお手伝いもします」

聖心会は一七〇年前に大革命直後のフランスに創立され、女子の教育に専念した。日本創立は明治四十二年。神戸、札幌、裾野にも修道院と学校がある。

聖心会といえば、東京で聖心女子大学を経営している修道会だと知らぬ人はあるまい。この会が天

購読料値上げ

みなさま、福岡教区報「カトリック」も値上げムードに便乗というわけでもありませんが、一部十五円では赤字ピンチになりました。一月号から二十円にさせていただきますので、よろしくお願いします。

カトリック編集部

12月のこよみ

3日（金）　聖フランシスコ・ザベリオ

移住司教委員会々議

4日（土）　**豐葉小学校付属幼稚園増築祝別式**

5日（日）　待降節第2主日

パウロは「キリストがあなたがたを受け入れたように、たがいに受け入れなさい」と勧める。受け入れるとは、人をありのままに認める、こちらの尺度で相手をはからない、寛容にひとと接すること。これが人となられた神の御子のお心であった。さて私たちは……。

箱崎教会で堅信

7日（火）—9日（木）

日本司教協議会臨時総会（長崎で）

8日（水）　無原罪の聖マリアの祭日

マリアこそすべての選まれた者のなかで第一に、キリストによってっ聖とされた方。

12日（日）　待降節第3主日

キリストの福音伝導開始に先だって、救いの道を準備させ、人々にイエスを紹介した洗者ヨハネは、使命に殉じる日の近いことを悟ってもう一度、イエスを待望のメシアであると紹介する。

17日（金）　熊本市民クリスマス

19日（日）　待降節第4主日

私たちの救い主はエンマヌエルと呼ばれる。私たちと共におられる神という意味。そのとおり神の御子はご自分のほうから私たちに近づいてこられた。相手が回心するのを待たず、私のほうがまず回心すること。それが共に生きる第一の条件。

24日（金）　**大名町司教座聖堂で司教ミサ**（22時より）

25日（土）　**主の降誕の祭日**

「きょう、私たちのために、救い主が生まれた」。私たちはこん夜、このことばを深く黙想したい。そして神の御子は本当に私にとって救い主であられるのか。私は本当に救いの必要を実感しているかも反省したい。

26日（日）　聖家族の主日

私たちの家庭をナザレトの聖家族にならって再健しよう。家庭こそは私の成長と向上の力の源。人間らしい気高さと愛の養成の場。神を知り、神を体験し、神と生きることを学ぶ学校。家庭にとって代りうるものはない。

機械部……文具スチール部

オリンピアタイプライター
オリンピア計・加算機
オリンピア卓上電子計算機
シャープ卓上計算機・日本タイプ
湿式・電子複写機・輪転謄写機他

コクヨスチール製品
トーホー・ライオン紙・文具

（全国銀行の70%がオリンピアです）
福岡県総代理店
（卸）（小売）シオタ事務機
福岡市大楠2丁目13番21号　筑紫女子短大前
代表取締役　カシミロ　塩田五郎
（092）52—5327

使徒職実践の意義

隣人愛の正しい理解が使徒職の基礎

近ごろ強調されている我々信徒の使徒職とは、一体どういうことなのでしょう。パンフレットを人々に配布することでしょうか。友達を教会に引っぱって来ることでしょうか。病院を訪問し患者を慰めることでしょうか。こうした布教活動はもちろん使徒職です。しかしこうしたことだけが使徒職だったら、それの出来ない立場の人にはどうなるのでしょうか。使徒職とは特別の人にだけ出来るものでなく、信者だれでもその立場立場で充分に出来るはずのものです。

それを一口に言うと「隣人に対する愛の実践」ということです。

この愛の実践において最も大切なのは、キリストの教えた隣人愛についての正しい理解です。それが使徒職の大切な基礎です。

自己中心的で、自分の救いの手段としての隣人愛は、偽善的な愛であって、大いに反省しなければなりません。

受洗前の苦悩を省みて、今の喜びをわかつ心

つぎに我々は、どういう動機でこの使徒職をするのかを考えましょう。

使徒職の本当の姿は、自分の持っている信仰の喜びを、まず自ら深く味い噛みしめて、その喜びと神の恵みを、周囲の人々にも分けてあげたいという愛の心から出るものです。

私は学生時代の終りまで、キリスト教は何一つ知りませんでしたし、全く虚無的思想におちいっていました。誰ひとり人生の意味、死後のことについて教えてくれず本当に苦しみました。ところがキリストの教えによってこうした一切の問題が明るく解決し、あふれる喜びで生活できる今日、フト目を自分の周囲に向けると、そこには、かっての自分の悩める姿そっくりの人々が多勢おられるのです。

これに気づいたとき、その人に「私も同じように苦しみました。しかしこのように解決しました」と話しかけないでいられません。そしてその話しは、その人にとって一番分り易い理解の出来る話しとなり、幸福の糸口となることでしょう。

信徒の一致協力の必要

隣人に支えられている我々の日常生活

ここで教区内の信徒が心を一つにして事に当ることの必要性を考えて見たいと思います。

今日の社会では何一つ、自分一人だけで出来るものはありません。必ず隣人の隠れた力に支えられているのです。他人との協力なしには何一つ成り立ちません。

近ごろ急速に進んでいる産業界の合併、また目ごろは反目している社会党、共産党、公明党までも政府攻撃のためには、いっせいに野党連合体制をとっています。これは力強く目的を達成するためには、どうしても他との協力一致が必要だという、何よりの現われであります。

ところでカトリックはどうでしょうか。信仰するドグマは全世界一つであり、りっぱな一致を保っていますが、行動面となると一致協力が残念ですが乱れています。これでは、言うこととする事が正反対で、誠に恥かしいことと言わざるを得ません。

我々はキリストを頭とする共同体の一員

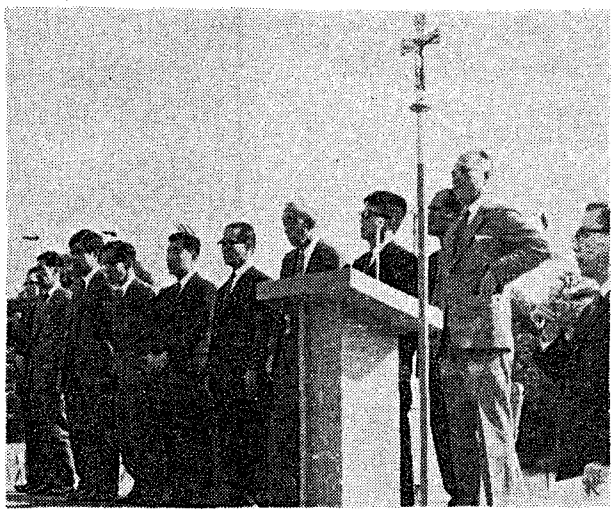
我々キリスト者は、キリストを頭とする共同体の一員であることを、はっきり再認識しましょう。

自分が楽しい生活の出来るのも自分一人だけの力ではない、他の多くの人の支えによっているのだということを理解して、自分もまた、他の多くの兄弟達の支えとなろうと努めることです。

の信徒協に参加したら、どんなにすばらしい効果をあげることでしょう。こうした信徒協の生み出す

愛の実践こそ真の使徒職

佐藤氏（東京教区）が使徒職大会で講演



福岡教区信徒協の役員は左のとおり

（敬称略）

会長　米湊　潔（光ケ丘）
副会長　松尾　光敏（若松）
　塚原堅太郎（佐賀）
　中野　尚夫（手取）
会計　平田　房刀（箱崎）
監査　源島　栄一（八代）
　北島　治慶（多久）
書記　山田　耕司（光ケ丘）
役員　平木　直親（久留米）
　鬼木　保之（高宮）
　白石　鉄也（湯川）
　牧山　満安（佐賀）
　平川　秋次（健軍）
　頭島　勇（八王寺）

以上十四名、任期は二年
（写真は信徒協役員）

我々は多くの人々の不幸の中で自分だけ幸福な生活をすることは出来ません。コリント前書十二章にも「体は一つの肢体ではなく、多くの肢体で成立っている。だから一つの肢体が苦しめば、すべての肢体は共に苦しみ、一つの肢体が尊ばれれば、すべての肢体が共に喜ぶ」とあります。

使徒職協議会の生み出すものは

ところが何かの集会とか協議会がある場合「私一人ぐらい出席しなくても、他に大勢いるのだろか…」というようなことをよく聞きます。我々はたとい他の九十九人が出席できなくても、せめて自分一人でも出ていって仕事をしようという人間になりましょう。

このような心構えで、我々のこのものは、お互いの協力と理解と励ましであります。そしてキリスト者の親密なこの一致が、地上に神の国を示す証しとなるでしょう。

我々の少教区は主任司祭を中心に、我々の教区全体は司教を中心に、話し合い、助け合い、何が失敗の原因か、何が成功のカギかなど、互いに経験交流の場とすることが出来るわけです。

使徒職協議会という組織を作る理由も、実にここにあるのであって、教区の信徒全員が信者生活を充実し、隣人愛の実践がよりしやすくなるよう、援助することにあるのです。

この点から考えても信徒協は、全信徒に対する命令機関ではなくむしろ奉仕機関であってほしいと願うものであります。

使徒職活動の目標

社会とは家庭、職場　全日本、全世界

最後に使徒職のねらいとする目的について考えて見ます。

それは端的に言えば「全社会がキリストの教えた愛と正義に生きるよう、その実現をめざして働くこと」にあると思います。

そしてこの社会とはまず第一に私どもの小さな家庭であります。この最も身近にある社会に、愛と正義がキリストのお望みの形で行われているか。それがまだ不充分だと気づいたら、どのようにすればいいか。信徒協の集りでは、そうした家庭の聖化の問題もとり上げて、どんな家庭でも実践できるような方法を相談するのです。

たとえばいま全国各教区でとり上げている家庭集会の実行指導とか、また若き男女の結婚の問題については、カナの会を結成して解決するとか、具体的な方法を協議するでしょう。

第二の社会は、我々の働いている職場です。自分の働きの場に問題はないか。目標の間に苦しみ悩み事はないか。もし生活に疲れ、希望を失っている人がいたら、この人に生きる力と必要な助けをいたしましょう。

キリストはそうした友を見つけた時、どうなさるかを考えるならば、手段方法はおのずからわかると思います。

こうした問題ではJOCが豊富な経験を持っていますので、そうした人々の働きを信徒協全員でバックアップして成功させましょう。

社会の大改革はぜひとも必要だ

第三の社会は我々の住むこの全日本です。現在の日本社会機構には多くの欠陥があって、まだまだキリストの愛と正義に程遠いものがあります。不正、不義を是正してこの社会に神のみ国の実現をめざすためには、思い切った改革が必要であり、それだけの勇気をもち合わせなければなりません。

このようなことこそ我々キリスト者が率先して行つべき使徒職であって、こうしたことの解決に無関心であってはならないし、また臆病は愛の欠除であります。

いわゆる進歩的な人とか革新政党の人たちが、どんどん社会の欠陥を摘発して被害を食い止め、よりよい社会にしようとしているとき、本当の愛を持っていると自負するキリスト者が、手をこまぬいているようでは話しになりません。あくまでもしいたげられている人々の味方、悩み苦しんでいる人々の立場に立って、世の改革に努力しなければならないと思います。

東京で大あばれして全日本を驚かしたあの全学連の幹部十数名は今、沖縄のへき地に入りこみ、そこの村人と苦労を共にして開こん作業に従事していると聞きました。かれらはゲバやデモ、社会秩序の破壊だけでは世の改革はできないと分ったのでしょう。今そのやり方の再検討をめざしてやっているのだそうです。考え方の相違はともかくとして、社会をよりよくしようと働いているその熱意と勇気には感心させられます。

キリスト者こそ世の指導者

幸い我々信者はキリストの福音を知っています。福音を知っている者こそ、正しい目標を持つ世の指導者であります。

よき指導者とは、徹底した愛の奉仕者であります。そして隣人に対しては、神から与えられた、その人特有の恵まれたタレントに気づかせ、それを引き出してあげる人であります。どんな人でも神からよい賜物をうけているのだからそれを有効に発揮できるようにしてあげましょう。その人々の力を結集してキリストの愛と正義の実現に努めましょう。

最後にお願いしたいことは、以上申しあげた私の考えのなかから何か自分の立場で、おできになることを選んで、これからの一年間、使徒職に生かしてみてください。それで私はここに三つの行動目標をかかげて見ます。

❶ 前よりどの程度、自分の家庭が暖いものに成長したか。

❷ どのように自分の職場の人々の幸いをはかったか。

❸ どの程度、他の人々と協力して、社会環境をキリストに方向づけたか。

みなさま頑張りましょう。これをもって信徒使徒職協議会発足を祝う私の花束といたします。

JOCの本年度運動方針きまる

JOCの全国委員会は、十一月二十一日から三日間、東京大神学院でひらかれ、男子部は「余暇の開発」、女子部は「健康」を活動方針に、こん後一年間全国的に運動をすすめることになった。福岡地連からは下崎男子会長と下田女子会長らが出席した。

佐賀地区青年の一泊研修

佐賀地区ではさきほど、現代社会における青年の役割を自覚するため、男女青年三十数名が一泊研修会をひらいた。米湊潔氏が招かれて講師をつとめたが、信仰の根本と使徒職の姿について二回の講演をおこない、それを材料に全員でじっくり話し合いをし、ガザルディ神父が全体をしめくくった。おわりにリクリエションで親睦をふかめ、午後四時散会した。

辞書は三省堂

昭和47年度
泰星高等学校生徒募集

募集人員　普通科　200名
願書受付　昭和47年2月1日（火）～2月5日（土）
（午前9時～午後5時）

試験の期日と科目

期日＼時刻	9.00～9.40	9.50～10.30	10.40～11.20
2月8日（火）	英語	数学	国語
同日 正午	面接（父兄同伴）・身体検査		

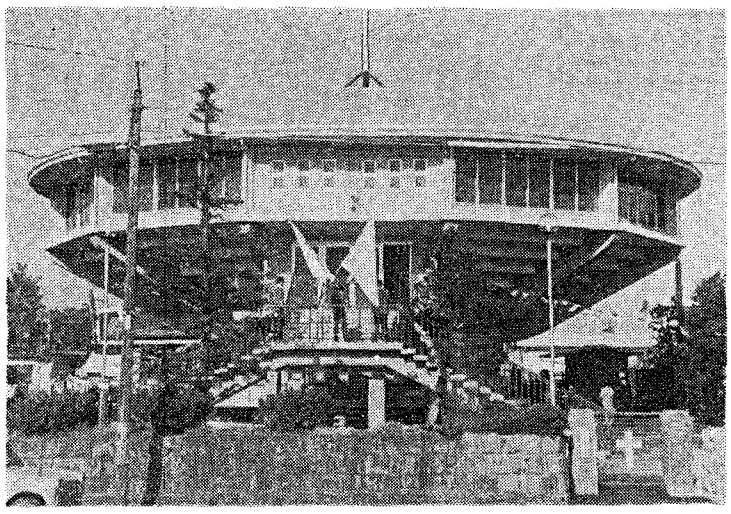
福岡市山荘通3ノ111　郵便番号810
泰星高等学校　TEL ⑤③ 0838～0839

フリーマン式視度測定法
べつ甲製品及び修理専門店
学生様一割引
メガネの
べつこうや
公私立眼科御指定
福岡市山荘通り一丁目30
平尾サニー側四ツ角
TEL ⑤② 0943

空とぶ円盤型の聖堂

熊本・島崎教会竣工

ことし四月に着工した熊本市の島崎カトリック教会（主任ガラハ神父）が完成、十一月三日の文化の日に、午後三時からよろこびの献堂式をおこなった。



幼きイエズスの聖テレジアにささげられた島崎教会は、昭和二十五年コロンバン外国宣教会が、熊本地区の司牧をはじめた当初に創立された。その後信者の増加にともなって仮聖堂が手ぜまになり、三十六年から新聖堂建設の計画が進められたが、「私たちの教会を建てよう」の合言葉のもとに、資金準備に力をあわせたのは、信徒マリアの宣教者フランシスコ修道院、養老院など施設の人たちだった。

献堂式には平田司教はじめ深堀司教、コロンバン全日本管区長スカリー神父ら、司祭多数、県下からは信徒が参加。ミサにつづいて落成式があり、信徒を代表して高木慶一氏が謝辞をのべた。

新聖堂は教会建築としてはまったくざん新なもので、「茶碗型」とも「空とぶ円盤型」とも形容されるが、階下は四十六平方米余で香部屋など三室。階上は三六八平方米の完全な円型。中央の祭壇をとりかこんで階段式の信者席（座席数三二二）。一部はガラス張りの部屋で、幼児同伴の信者はそこからミサにあずかれる。設計は福岡の菅種雄氏、施工は地元の岩永組。総工費三千二百万円。（写真は島崎教会全景）

長崎からなど五百人

少年侍者の集いに

司祭・修道者の召命促進のための「少年侍者の集い」が、ことしも十一月三日の佳日に、福岡大神学院の主催でひらかれた。

地元福岡をはじめ、長崎県の平戸や生月島など北松地区から、また山口県下関市からも、貸切バスで殺到してきた子ども達は四百人を越え、それにことし特別呼びかけで百余名の父兄も姿を見せ、神学院は空前の子どもの世界と化した。平田司教や三十数名の司祭たちも汗だくでチビッ子たちのお相手。

「僕も神父になりたいな」のスライド、小神学生の劇、競技もあったが、父兄は岩村神父をかこんで「家庭における召命への関心」について話し合った。おわりに野外の降福式にあずかり、来年の再会を約して三時すぎ解散した。

生きた信仰を学ぶ

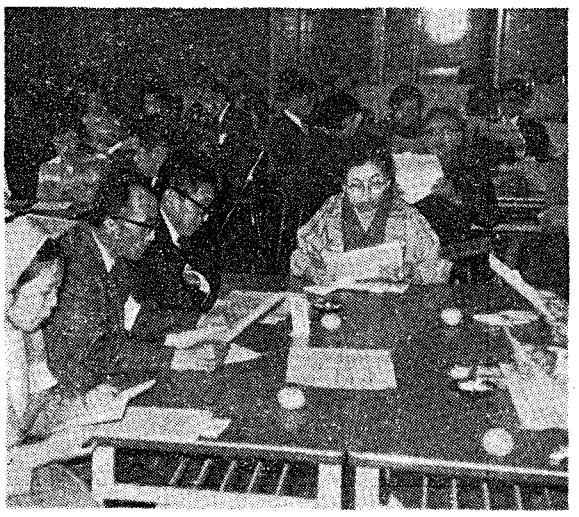
リバス神父の指導で

レジオ会員、クルシリスタ、教会諮問団体のリーダーら百余名を集めての使徒職研修会は、十一月七日午前十時から福岡聖葉学園でひらかれた。

指導にあたったのは東京のCLCのリバス神父（イエズス会員）。参加者は提起された問題について十人ずつのテーブルに分れて、約一時間話し合うという形式で会は進められたが、午前中の問題は、「あなたが布教活動をする上で一番困ることは何か、一番大切と思うことは何か」。話し合いにつづいて各テーブルから発表があったが、それを受けてリバス神父が、「現実と合わないお仕着せの信仰、現場を無視した教会中心のキリスト教自分の体験を大事にしない信者、深みのない、祈りを忘れた信仰、お互いの交流のない信者」についてユーモアたっぷりに反省をうながした。

午後の部では、「私にとって信仰とは何か」をとり上げ、午前にまさる熱心な意見交換があったが、リバス神父は「信仰とは私のすべてを支えてくれるもの、復活の希望はキリスト教に独特のもの、失敗と苦しみこそ復活への道である信仰こそ人と人を信頼のうちに結び合わせるもの」であることを強調した。

最後に全員で祭壇をかこみ、共同ミサに参加して四時すぎ散会した。



（写真は研修会）

使徒職群像

米湊潔さん（光ケ丘教会）

経験ゆたかな指導者

「教区信徒協は信徒のなまの声を司教、司祭がたに伝えるパイプ役になりたい。生まれたばかりのこの協議会をどう育ててゆくかが私たちの責任です」。

こんど発足した教区信徒協の会長に推された米湊（こみなと）潔さんは控え目にこう語る。目もとにいつも笑みをたたえた明朗な人という感じ。かなり老けて見られるが、昭和五年生まれの四十一歳福岡県糸島郡宇美町出身、二十九年に大名町教会で受洗した。

「私たちが協議会という組織のなかにあぐらをかいたらおしまいですね。小教区を廻って活動について信徒たちとひざを交えて話し合う労を、惜しんではならないと思います」。

しかしそれは大変な仕事だ。時間的な余裕をみつけるのもむづかしいし、使徒職という不慣れな食べ物を、まだ消化しきれないでいる多くの信徒に、問題意識をもたせ、活動にかりたてていくのは、気の遠くなるような話しだ。

「でもそれをやり始めるのが協議会の仕事だと思います。上から天降り式に引っぱるのではなく、共に考えヒントを探すようにしたい」。

信徒錬成会（クルシリヨ）の指導者としての経験もゆたかなこの人に、信徒の推進役としての期待がかけられている。

「それにしても信者が既成の型にはまり、固い殻にこもっているので、お互いの人間的ふれ合いさえ乏しいのが残念。それに各教会の神父様がたは、超小教区的に行動していただきたいというのが私の願いです」。農林省福岡食糧事務所勤務。一男一女。

リバス神父の講演と研修

「新しい布教運動」の推進者リバス神父は、十一月三日来福、七日の使徒職研修会のほかに、各地で講演会をひらき大活躍した。四日に福岡市内のカトリック幼稚園の先生を集めて「子どもの宗教心を育てるため」の研修会。田島幼稚園や薬小学校の父親に「子どもとの対話」について。また美野島の福岡幼稚園の母の会と先生たちに「家庭としつけ」の共同研修会。その他、高校生や青年会のグループとも交歓した。

九州の司教が合同会議

神学校問題を中心に

十月三十日福岡大神学院に九州地区の四司教が集まって、神学校にかんする問題を討議した。同会議は今後の運営を大分教区の平山司教に委託したが、なおこれとは別に、広い視野から司祭養成に協力する信徒をふくめた九州地区司祭養成評議会が、来る一月十五日にひらかれる予定で、この地区の司祭召命にかんする問題全般を評議して、司教団に助言することになる。

JOC指導司祭の集会

JOCカトリック青年労働者連盟の福岡地連・指導司祭の十一月集会は福岡市大名町教会でひらかれ、平田司教や来日中の国際書記長マーガレット・ベーコンさんも出席した。

本渡で殉教祭

熊本県本渡市の「天草キリシタン殉教祭」は多数の市民が参加して、十一月十四日おこなわれた。十三日の前夜祭では本渡カトリック教会から千人塚公園まで、約三百人がローソク行列をつくり、また聖体降福式のあとにはデイキン神父が平和の祈りをささげた。十四日には神道、仏教とともに合同慰霊祭を催し、信者たちは霊前に聖歌、聖書朗読、共同の祈りをささげた。

学園創立二十周年

大牟田明光で

大牟田明光学園（山崎トミヨ校長）の創立二十周年の記念式が十一月十三日午前十時からおこなわれた。

新しい卓球場を平田司教が祝別したあと、体育館で記念式がありひき続き同学園の創立から十数年間主事をつとめて引退した、山崎忠雄先生が「律動に乗って展開する人生と社会」と題して記念講演をした。

修院祝別

福岡市老司で、福岡海星女子学院を経営しているマリアの宣教者フランシスコ会の修道院の新築がおわり、十一月十三日、深堀司教による祝別式があった。鉄筋コンクリート三階建、最上階は学生の寮。

田川金次郎（馬渡島主任・田川清美神父の父）。十一月十三日、長崎県北松浦郡田平町の自宅で死去、七十三歳、葬儀は十四日午後二時から南田平教会で平田司教司式の共同ミサでおこなわれた。

☆　☆　☆

布教献金（24日10月）

大名町	一〇、〇〇〇
浄水通	三、五二五
地行	三、〇〇〇
西新	五、七〇〇
美野島	二、〇〇〇
高宮	八、〇〇〇
茶山	三、五〇〇
大楠	三、二六〇
吉塚	六、〇〇〇
光ケ丘	五、〇〇〇
箱崎	一、六五五
東田島	一、八五〇
古賀	五、〇〇〇
二日市	五、七〇〇
小郡	一、五四五
久留米	一五、五〇〇
今村	四〇、〇〇〇
本郷	四、九〇三
吉野	四、〇〇〇
大牟田	二、八〇七
呼子	三、〇〇〇
馬渡島	五、〇〇〇
佐賀	二、〇〇〇
唐津	一、五〇〇
伊万里	九一〇
武雄	五、〇〇〇
鳥栖	三、〇〇〇
鹿島	一、〇〇〇
多久	一、七九三
門司港	一二、〇五〇
小倉	二三、七〇〇
湯川	八、七八五
戸畑	二一、五四七
若松	六、〇〇〇
天神町	五、〇〇〇
黒崎	一七、〇〇〇
八王寺	四、五〇〇
本城	四四〇
水巻	三、一〇〇
直方	一、三〇〇
飯塚	一、二〇〇
田川	一、五二〇
行橋	四、七一六
新田原	一四、八二三
手取	一二、〇〇〇
健軍	三、五一五
帯山	三、五〇〇
島崎	二五、〇〇〇
荒尾	二、〇〇〇
玉名	一二、〇〇〇
菊地	六、五〇〇
八代	二、五〇〇
水俣	七、九〇〇
人吉	四、〇〇〇
本渡	三、五〇〇
崎津	一二、〇〇〇
大江	三七三、二四三
合計	三七三、二四三

カトリックグラフ
12月号は
11月20日発売です
定価150円（送料30円）
これが現代の聖者コルベだ
クリスマス特集第1弾　初めてミサに出る人に
御子誕生の夜盲人夫婦の誓い
〔オラショ長崎〕16番館の赤レンガ壁
〔カトリック人国記〕新潟教区
〔特集〕71年10大ニュース
〔ステンドグラス物語〕サイゴン教会
〔ホームギャラリー〕カトリック画伯

カラーテレビ・クーラー・ステレオ
販売と修理
信用と技術の　河野電気
ミカエル　河野三千夫
福岡市田　1162—29
TEL　87—3099

開発と救い
―ジョシストの使命―

小川拓郎

開発をめざして

世の中はたしかに進歩しています。しかし進歩、進歩といって手ばなしで喜んでよいものでしょうか。便利な機械が発明され、すぐれた商品が店頭に並び、豊かな社会ができあがったとしても、この経済発展が、ひとりの人間の幸せと完成に役立つものではないならば、何の価値があるでしょうか。経済生活は進歩しても、人間はみじめになっていくというのでは、そのような開発は真の開発とは言えないのです。現代世界憲章の63番は、経済は人間に奉仕するものであって、人間は経済に支配されてはならないと指摘しています。

「開発」という言葉は「経済生活の発展」と受けとられることがあります。未開発国はこの意味においてしきりに開発国にあこがれていますが、しかし開発国といわれるところに、必ずしも真の開発は見られないのです。

一部の人にだけ利益を与えるような発展ではなく、すべての人に人間らしい生活をもたらすような発展、互いに信じ合い尊敬し合えるような発展、労働者の権利をみとめ、かれら同志が連帯性にめざめるように助けてくれる発展、人間としての完成にみちびいてくれる発展、このようなものこそ真の開発ではないでしょうか。

この開発の働らきのなかで、人は受動的であってはなりません。どんなに下積みの人にでもこの開発を進めてゆく権利と義務が与えられています。ところが現実には多くの人が開発に積極的に協力しないで、ただ開発を手をこまぬいて待っているという現状です。

労働者は、この社会、とくに労働者社会のなかで、開発を推進する責任とその能力をもっていることを、強く自覚しなければなりません。自由と責任をもって生きる人になること。他人から搾取されず、他人を搾取しない、他人を愛し、友情のなかで自分を育て、人々との交わりのなかにも、出来事のなかにも神を見出すことのできる人になること。そのような人たちによって新しい社会を作る努力が望まれます。

しかし、キリストを信じる労働者は、右に述べた意味での社会と人間の開発で満足してよいのでしょうか。

救いをめざして

なるほど人間（ペルソナ）に奉仕する社会をつくることは神のお望みです。しかしそれ以上に神は「み旨の天に行わるごとく」地上に神の国をたてることを命じておられます。

社会にキリストの精神が侵透するだけではなく、社会がキリストによって生きることを望んでおられます。社会開発は第一段階であり、救いは最後の目的です。

救いとつながりのない開発は神なき開発で、完全な開発とは言えず、キリストの生命によって生かされた開発こそ、真の開発なのです。

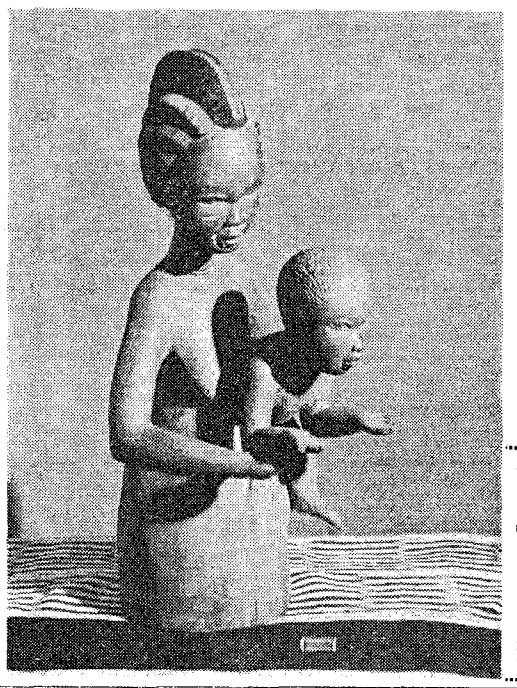
カトリック青年労働者（ジョシスト）は、このような目標をめざして活動するわけですが、そこではやはりむづかしい問題に直面します。

それは善を追い求めているなかで、悪の力に毒されるという人間のよわさそのものです。私たちの活動は高慢と誤った自己愛によって危険にさらされ、不正とたたかい、貧しさからの解放をめざしていても、自分と自分の集団の利益を越えることができない場合が多いのです。

だからジョシストは、自分の活動を毒する悪の力と戦う覚悟がいりますが、この戦いはキリストの十字架と復活の力によらなければ勝利にいたることはできません。

ですから、真の開発をめざす活動をとおして、人間に生きることの意義を教えるのはキリストだけであることを人々に知らせ（宣教活動）、さらにこのキリストとの交わりをもつことをすすめ（洗礼）、正しい活動の力の源泉であるキリストの生命（ミサと聖体拝領）にまで導いていかねばなりません。

ジョシストは労働者の世界の開発に満足してはならず、またそれ以上のものをめざさない人にキリストを紹介し、キリストによって生きるように働きかけるべきです。労働者のなかでキリストによる神の国の建設をめざして、開発に努めていくこと、これがジョシストの使命です。（おがわ・てつお、JOC全国総指導司祭）



母子像【アフリカ芸術】

教養

世界は神に造られた ④

詩篇に多い創造賛美
〝天は神の栄光を語る〟

宗教心の吐露

一五〇篇を数える詩篇は、ダビト王（十世紀）からマカベ兄弟の迫害（二世紀）までの数世紀にわたって作られたものである。いくつかの詩篇は、はっきりダビトの作となっているが、文体や用語などを検討すると、全部がそうではなくて、言いならわしのなかから生まれたものであることが解る。ダビト自身が詩の愛好者であり、詩人は王宮に集まっていたので、そうなったのであろう。

詩篇のなかには王政時代のものがあるが、バビロン流謫からの帰還後の状況のもとで解釈することができ、従って王権をたたえる詩篇もメシア的意味をおびてくる。また再建された神殿の典礼との関連のなかで解釈することもできる。

いずれにせよ詩篇は、唯一神にたいするイスラエル人の信仰を表明し、律法の教えと預言者の警告の秩序（法則）をたたえ、ついでイスラエルに啓示された神の法を賞賛する。自然界の法にも神の法にも共通して見られるのは、そのみごとな調和であろう。

自然界は声にならない言葉を発し、それを聞き分けうる者にとっては、その言葉は世界のはてにまで及んでいる。

詩篇 19（18）

『天は神の栄光を語り…』ではじまるこの詩篇は、前半は抒情的後半は智性的である。まず自然界をふくんでおり、そこには生活と歴史のいろいろな体験のなかでの民の感情が吐露されている。旧約聖書全体の要約ともいえる。

啓示された法は、神から与えられ、それを忠実に守るものは、そこに慰めと智恵と喜びと平安を見出す。この法に従うものはどれいではなく、神に親しい者になる。もっとも完全な法はキリストの与える法であり、これを守るものは「どれいではなく、神の子である」（ガラチア4・7）

詩篇 8

まず神の偉大さが宇宙のなかに輝いていること、さらに乳飲み子にも現われていることに感嘆する。これらみどり児の口から出る言葉は、真の神に刃向うものをも退かせる。

それにしてもこの大きな天を造り、かれをすべてのもの上に立てられた」（エフェゾエ・20）。

詩篇 33（32）

作者は世界と人間の歴史、各個人の存在のなかに、創造主の正しさと真理と仁慈を見る。

創世紀第一章と同じように、ここでも神の創造のわざの精神的性格が強調される。「天はヤーウェのことばによって造られた…ヤーウェが仰せになるとそのとおりになり、ヤーウェが命じると出来あがる」。

神は、戦士のように力づくで世界を支配なさらない。しかし神を除外して企てられた計画は失敗し「み心の思いは代々に続く」。

正しい人は神から幸いをうけることができる。キリスト者はここに約束された幸福よりもさらに価値あるものを、神から受けられることを知っている。福音書はその約束に満ちている。

「天は神の栄光を語り…」ではいどれいではなく、神の子である」（ガラチア4・7）

万物の支配はキリストによって名実ともに達成される。「神は絶大な力をキリストのうちにあらわし…また万物をかれの足の下におき、かれをすべてのもの上に立てられた」（エフェゾエ・20）。

詩篇 33（32）

作者は世界と人間の歴史、各個人の存在のなかに、創造主の正しさと真理と仁慈を見る。

創世紀第一章と同じように、ここでも神の創造のわざの精神的性格が強調される。「天はヤーウェのことばによって造られた…ヤーウェが仰せになるとそのとおりになり、ヤーウェが命じると出来あがる」。

神は、戦士のように力づくで世界を支配なさらない。しかし神を除外して企てられた計画は失敗し「み心の思いは代々に続く」。

正しい人は神から幸いをうけることができる。キリスト者はここに約束された幸福よりもさらに価値あるものを、神から受けられることを知っている。福音書はその約束に満ちている。

俳句
菊の香

小池末吉

今朝のミサ菊大輪の薫りけり
さわやかに鉦の音澄みて
獄の朝
祭壇の菊の香りや今朝のミサ
秋晴や点訳を置く窓の上
秋晴や点字打ちつつ窓仰ぐ

連載随筆

昨日今日 (11)

ギョロリと目をむく人

河東野菊庵

私がまだ会社に勤めていたとき、ある上司の奥さんに、

「うちの人はあんなにしていますが、ギョロリと目をむくと、もうその人とはつきあいませんよ」

ということを聞いたことがある。

私も若いころ、そういう経験をしたことがあって、世の中に、そんな意味で警戒をしなければならない人がいることは知っていたがその上司は人さわりのよい、いかにも善人といった感じの人だったので、改めて人の見かけによらないことを痛感したのであった。

私の経験というのは、復員して間もなく、仕事がないままに、これも復員したばかりの日本画家の掛軸を売って回ったことがあった。知人に紹介されたある会社の社長を訪ね、絵を買って貰ったあとで、知人の指示に従って「どなたかご存知の方を紹介していただけませんか」と頼むと、その社長はギョロリとした目で私を見ると買った絵を投げるように私に返して、そのまま声も掛けずに引っ込んでしまった。

そんな経験ははじめてだったし知人の指示をそのまま言っただけの私は、割り切れない思いで帰ったが、あとで考えるとそれは「なめたことをいうな」ということだったようだ。

こういう態度に出るのは社会的に地位の高い人で、それはあるときは「二度と来るな」であり、あるときは「お前とはこれまでだ」ということである。会社にいるときは、それほどのこととも思わなかったが、最近そういう態度を、自分の地位に思いあがった、非常にごう慢なことだと思うようになった。

過ちは誰にもあり、言ってならないことをふっということも誰にもあることだ。それは考え方によっては、当人の信用にかかわり、また、とり返しのつかないこともあるかも知れないが、そういうことで、自分の部下、あるいは目下の知人との人間関係を打ち切ってよいものであろうか。私は若いころ、女に幾度となく裏切られながら、最後まで、その女の世話をして死んで行く男を描いた映画を見て、非常に感動したことがある。ヒューマニズム、あるいはカトリックでいう愛とはそういうものではあるまいか。それにくらべるとギョロリと目をむいて、人を見捨てるという人は、他人に対して全く愛情を感じない人、ことばを変えると、心に神を持たない動物的な人間だ。私はそういう人種が巾をきかせている現代社会に、大きないきどおりを覚えるが、またそんな社会だから、カトリックを広めなければならないとも考えるのである。（おわり）

今月おすすめする本

『出番だよとうさん』
室谷幸吉著

「ここ数年、男性の価値は急テンポに下落したかに見えます」。男性喪失時代とは、ちょっといいすぎかもしれませんが、きょうも巷には、男性とも女性ともつかない若者たちがうろついています。この変に女性化した男性が、やがては家庭をもち父親になっていくとき、子どもの教育は一体どのようになるのでしょうか。考えると心細くなります。それでなくても戦後、父権は目に見えて低下し、時代の変調と共にますます地におちていくからです。かっては家長としての絶対的な権威をふりかざしていた父親族だったのですが……。まさにゆらぐ「父の座」です。

子どもにとって父親とは何なのか。家庭におけるその地位は。著者はこの本の中で、こうした質問をあらためて考えなおしながら、読者にその解答を見いださせようとしています。著者はまた、教師としての体験を通して、あるいは多くの子どもたちの胸の底にある声をききながら、世の母親族にこう訴えています。「人間を、家族を、たくましい文化のにない手として、上へ上へと押し上げ引きあげるところの父性エネルギーを、わたしたちは再認識し、その再生をはからねばなりません」。結局「家庭とは、父親を中心とした母と子どもの運命共同体なのです。」権威のない父親のもとでは、母親もいい役割をはたすことができませんし、それ以上に子どもにとっては不幸なことといえるでしょう。

世のおとうさん、とりわけおかあさん方には、ぜひとも読んでいただきたい本です。

（三三八ページ、五八〇円）

内科・胃腸科・循環器科
吉川病院
院長ルカ吉川東陽
福岡市平尾四ツ角（山荘通）
電話代表 ㊷0568

馬小屋セット
12点セット
¥1500～4500まで
各種
Xマス・カード
イタリープリント
スペインプリント
和風手がき
各種入荷
大名町 聖パウロ書院
岩田屋5階 セント・ポール・コーナー